平成27年度 文部科学省補助事業

学校•家庭•地域連携協力推進事業

実践事例集

地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進

- ◆ 学校支援地域本部 ◆ 放課後子ども教室 ◆ 家庭教育支援活動
- ◆ 土曜日の教育支援活動(体制構築型・「学ぶ力」学習支援型)



学校支援地域本部



家庭教育支援



放課後子ども教室



土曜日の教育支援

滋賀県教育委員会

ーはじめにー

近年、価値観の多様化、地域社会のつながりや支えあいの希薄化などによる、地域の教育力低下やインターネットやスマートフォンの急速な普及などによる、基本的な生活習慣の乱れや規範意識の低下など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、子どもたちの成長や子育て中の保護者にも大きく影響を及ぼしています。さらに、こうした変化に伴い、学校が直面する課題は複雑化・困難化する状況にあります。

このような時代だからこそ、各人が自己を高めるとともに、困難にも協力して取り組むことができるよう、子どもを軸として、その基礎となる「主体性」と「社会性」を学校・家庭・地域が連携・協働して育てる教育が求められています。

このような中、この3月に県が策定した「滋賀の生涯学習づくりに関する基本的な考え方」では、「社会の力で市民性を育み、活力ある地域を創生」することを基本目標とし、対話と共生により、社会に貢献する人づくりを目指しており、また、「第2期滋賀県教育振興基本計画」においては、地域の力を学校に生かす仕組みづくりや、学校・家庭・地域が一体となり、社会全体で子どもを育てる環境づくりを推進することとしています。

こうした方向性を踏まえ、従来の「学校支援地域本部」、「放課後子ども教室」、「家庭教育支援活動」「土曜日の教育支援体制等構築事業」に加え、今年度より新たに本県の独自の取組として、「学ぶ力を育てる土曜学習支援事業」をスタートさせたところです。

さらに、新たな視点として、地域住民等の参画による学校運営協議会を設置するという「コミュニティ・スクール」の取組は、中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた、学校と地域の連携・協働体制の在り方と今後の推進方策について」(平成 27 年 12 月 21 日付公表)においても、本事業と相互に補完し高め合う存在として、一体的、効果的な推進が必要とされています。

さて、本実践事例集は、地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、各市町の工夫や努力によって取り組まれたことをまとめたものです。これからの取組の参考にしていただき、新たな視点から事業の拡充を図っていただければと思います。また、今後、取り組んでみたいとお考えの市町におかれましては、本実践事例集を参考の上、"先輩"市町の取組をまずは"見本"にお進めいただければと存じます。

最後になりましたが、平素より地域において本事業をはじめ、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」に献身的に取り組んでいただいている関係の皆様に対して、心より感謝申し上げるとともに、今後も引き続き御支援をお願いいたします。

加えて、本事例集の編集に際し、貴重な情報を御提供いただきました関係の皆様に心より感謝申し上げます。

平成 28 年 (2016 年) 3 月

滋賀県教育委員会事務局 生涯学習課長 山 﨑 薫

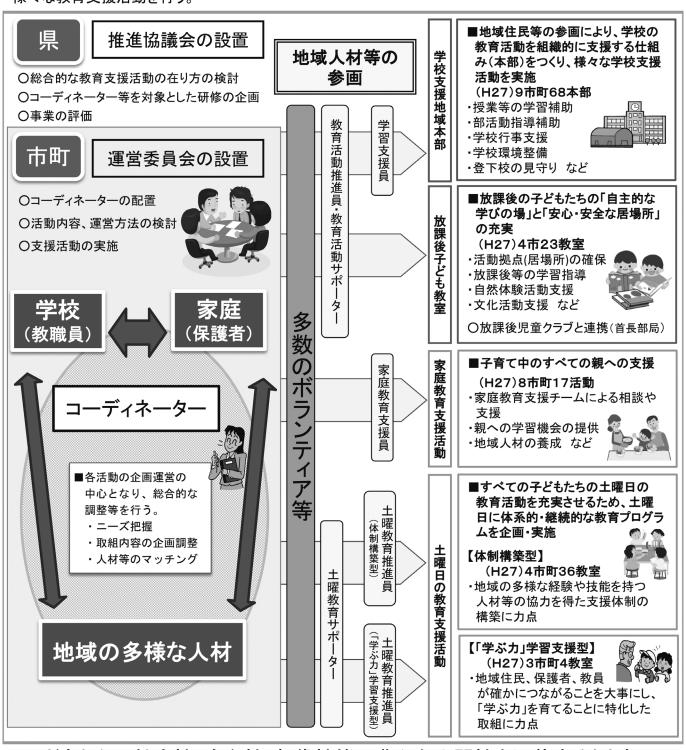
〔目 次〕

\	事業の概要・・・・・・・・・・・・・・	• •	•	•	•	•	•	1
I	推進協議会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		•		•	•	•	8
	(Ⅰ)推進協議会の概要・・・・・・・・・							8
	(Ⅱ)各研修会の概要・・・・・・・・・・・		•	•	•	•	•	1 0
	◇第1回合同研修会(四事業)	•	•	•	•		1 0	``
	◇第2回合同研修会(連携・協働体制推進フォー	ーラム	<u>ل</u> ے)	•	•		1 1	
	◇第3回合同研修会(四事業)	•	•	•	•		1 2	
	◇第4回合同研修会(連携・協働体制推進フォー	ーラム	<u>ل</u> ا)	•	•		1 3	
	◇第5回合同研修会(四事業)	•	•	•	•		1 4	أريا
Π	学校支援地域本部の実践事例・・・・・・・・		•	•	•	•	•	15
	◆平成27年度学校支援地域本部一覧	•					1 5	
	◇彦根市		•	•	•		1 7	
	◇近江八幡市	•	•	•	•		4 2	
	◇草津市		•	•	•		6 6	
	◇栗東市			•			7 4	
	◇湖南市						7 6	
	◇東近江市						8 9	
	◇米原市					1	0 5	i
	◇竜王町					1	0 9	
	◇多賀町		•	•	•	1	1 1	
Ш	放課後子ども教室の実践事例・・・・・・・・	• •	•	•	•	•	• 1	13
	◆平成27年度放課後子ども教室一覧				•	1	1 3	
	◇栗東市	•	•	•	•	1	1 4	
	◇野洲市	•	•	•	•	1 :	2 2	i
	◇湖南市	•	•	•	•	1 :	3 0	
	◇米原市		•	•	•	1 :	3 4	
	◆放課後児童クラブの現状調査	•	•	•	•	1 :	3 9	
	`							

IV	家庭教育支援活動の実践事例・・・・・・・・・	•	•	•	•	•	•	1	4 1
	◆平成27年度家庭教育支援活動一覧	•	•	•	•	1	4	1	\
	◇近江八幡市					1	4	2	
	◇草津市					1	4	4	
	◇甲賀市		•	•		1	4	6	
	◇湖南市			•		1	4	8	
	◇高島市	•		•		1	5	0	
	◇東近江市	•	•	•		1	5	2	
	◇日野町	•	•	•		1	5	4	
	◇竜王町	•	•	•	•	1	5	6	
V	土曜日の教育支援活動の実践事例・・・・・・・	•	•	•	•	•	•	1	5 8
	◆平成27年度土曜日の教育支援活動一覧					1	5	8	
	◇彦根市(「学ぶカ」学習支援型)	•	•	•	•	1	5	9	
	◇甲賀市(体制構築型)	•	•	•	•	1	6	1	
	◇湖南市(「学ぶ力」学習支援型・体制構築型)	-	•	•	•	1	7	0	
	◇東近江市(体制構築型)	•	•	•	•	1	8	1	
	◇竜王町(体制構築型)	•	•	•	•	1	9	1	
	◇多賀町(「学ぶカ」学習支援型)	•	•	•	•	1	9	9	
VI	アンケート調査 結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					•	- ;	2 (0 1
	◆アンケート実施要領					2	0	1	\
	◇学校支援地域本部						0		
	◇ケヤスな地域や砂						0		
	◇						0		
	◇ 本庭教育文張石勤 ◇ 土曜日の教育支援活動	•					1		
	````								

# 滋賀県「学校・家庭・地域連携協力推進事業」

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭および地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民等の参画による地域の実情に応じた以下の取組を有機的に組み合わせて、様々な教育支援活動を行う。



子どもたちの社会性・自主性・想像性等の豊かな人間性を涵養するとともに、 地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮 らせる環境づくりを推進する。

# 学校支援地域本部

地域住民等の参画により、学校の教育活動を 支援する仕組み(本部)をつくり、様々な学校 支援活動を実施

〈H27年度実施状況〉 9市町 68本部 (小学校73校 中学校20校(全公立小・中学校の約32%)) 【補助率】国1/3 県 1/3 市町 1/3 学校支援地域本部 学校 支援内容や方針等についての合意形成(関係者により構成される協議会など) 地域コーディネーター 学校と地域を結ぶ コーディネート担当者 ■ 退職教職員、PTA経験者など 支援·協力依頼 ■ 学校側の窓口 (※) 学校と地域の現状をよく理解 している人 ※・校内において地域と (活動の企画、学校・地域との連絡・調整) の連携に関することを 担当する教員。 ・各小・中学校の校務 分掌に位置付けられた 学校支援活動 教員。 【活動の例】 学校の 〇授業補助 学校支援ボランティア 〇放課後の学習支援 教育活動 ■ 学校支援活動に参加する意欲 〇部活動支援 のある地域住民等が協力 (部活動の指導補助) 〇環境整備 (図書室や校庭などの 校内環境整備) 〇学校行事支援 (会場設営や運営等の 画 〇子どもの安全確保 (登下校時の見守り等) 地域住民等 教員 地域住民や児童生徒の保護者、学生、 社会教育団体、NPO、企業など地域全体で活動に参画・協力

子どもたちの学びを支援するだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に 資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の 向上を図る。

# 放課後子ども教室 ~放課後子ども総合プランの推進~

【補助率】国1/3 県1/3 市町1/3

「放課後子ども教室」は、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠 点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の 機会を提供する取組を推進している。厚生労働省所管の「放課後児童クラブ」と一体的あるいは連携しながら、 「放課後総合プラン」として推進する。

# 放課後子ども教室

# 『放課後子ども総合プラン』 として実施 (H26.7月策定)

# 放課後児童クラブ

# ディネータ-

連携

協力

# 双方で情報共有 〈学校区毎の協議会などで取組を促進〉

取組の企画、担い手確保、全体調整 放課後児童クラブに登録している児童の参加を促進

# 放課後児童クラブ指導員

放課後児童クラブは参加している 子どもが放課後子ども教室の 共通プログラムに参加

# 教育活動推進員

【共通のプログラム】 ○室内での活動

·学習支援(宿題の指導、予習·復習、補充学習等)

・多様な体験プログラム(実験・工作教室、英会話、文化・ 芸術教室)等 ○校庭・体育館での活動

・スポーツ活動(野球、サッカー、一輪車)など

教育活動サポータ・

参画

大学生・企業OB、地域の高齢者、 民間教育事業者、

文化・芸術団体等の様々な人材

# 小学校など

- ・余裕教室等を提供
- ・学校敷地内の専用施設を利用
- 体育館などの一時利用の促進

県の取組

# 放課後子ども総合プラン指導者等研修会(学校・家庭・地域連携協力推進事業研修会)

コーディネーター、運営委員会委員、教育活動推進員、教育活動サポーター、ボランティア、 専任指導員、関係職員等が一堂に会し、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組

# 放課後子ども総合プラン運営委員会

多様な

の提供

安全管理

プログラム

- ・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策
- ・ボランティア等の人材確保・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

#### 放課後子ども教室 連携 放課後児童クラブ(学童保育) つすべての子ども ○共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童 象位 ○生活の場 ⊃学び・体験・遊び・交流の場 地域の大人が、スポーツや学習、文化活動、地域住民 専任指導員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対 内容 や異年齢の子どもとの交流活動を行う。 する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動 の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。 ○遊び、学習(宿題)、スポーツ、文化活動など ○遊び、学習(宿題) 主な活動 教育活動推進員:学習支援・体験・交流活動等のプログラムを中心的に実施する。 教育活動サポーター:様々なプログラムの実施のサポートや子どもたちの安全を管理する。 専任指導員 遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成 スタッフ を図り、安全確保に努める。 ○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館 ○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設 実施場所 〇平日の放課後、土曜(クラブにより異なる) ○平日の放課後・週末(教室により異なる) 開催日 ○無料(教室により保険、材料費などの徴収あり) **利用者負担**○月額5,000円~10000円程度(施設により異なる) 〇4市21教室 (平成27年度) 県内数 ○19市町298クラブ13,370人(平成27年5月1日現在)



# 家庭教育支援活動

【補助率】国1/3 県1/3 市町1/3

# 背景

# ○家庭の教育力の低下

都市化、核家族化および地域における地縁的なつながりの希薄化等により、家庭の教育力の低下が指摘されるなど、社会全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。また、育児に自信を持てない保護者が増えている。

- ○教育基本法の改正(平成18年12月「家庭教育」に関する独立規定の新設)
- 第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な 習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。
- 2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

# ■県の事業

- ・総合的な在り方の検討
- 事業関係者の資質向上や 情報交換等の研修会の実施

# 県推進協議会の開催

家庭教育に関する研修会の実施



# ■市町の事業(市町運営委員会等)

# 各地域における子育て経験者など多様な人材の参画

# 持続可能な支援のための 地域人材の養成

•子育てサポーターリーダー 等の養成

# 【養成講座例】

家庭教育の重要性と支援者の 果たす役割、関係機関・地域と の連携方法 等

平成27年度5市町で実施

# 家庭教育支援チームの 組織化

・家庭教育支援チームによる相談対応や保護者支援

# 【チーム構成員例】

子育てサポーターリーダー、民生委員、児童委員、元教員、保健師、N PO関係者等

平成27年度4市町で実施

# 学習機会の 効果的な提供

・保護者への学習機会や親子参加行事の企画、提供

# 【講座例】

小学校入学時講座、思春期理解 講座、父親講座、企業出前講座 等

平成27年度8市町で実施











家庭教育や子育でに無関心、孤立化している親

# 子育て中のすべての親への支援

仕事などで学習会 に参加できない親

身近な地域において、家庭教育に関する学習や相談ができる体制を整え、地域 全体で家庭教育を支援する。

# 土曜日の教育支援体制等構築事業

【補助率】国1/3 県1/3 市町1/3

地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力を得て、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する学校・市町等の取組を支援することにより、教育支援に取り組む体制を構築し、地域の活性化を図る。

地域の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、 **土曜日ならではの生きたプログラムを実現** 



# 土曜日の教育支援体制の仕組み

油市

- **運営委員会を設置**(学校・経済団体・商工会・PTA・社会教育団体等で構成)
- ●土曜日の教育活動全体の方針を検討

企画•参画



・体系的・継続的な教育プログラムの企画

: 実際に支援を行う講師の例

- ・内容に応じた多様な支援人材の発掘・依頼
- ・具体的なプログラムの検討

等

農林・

漁業者

元スポーツ

企業人 研究者 経験者 外国人

教育支援活動の実施

社会を生き抜く力を培う土曜日ならではのプログラムの実践

# ~土曜学習例~

- ●体験活動…自然体験、書道、茶道、囲碁、工作、料理、和太鼓、楽器演奏等
- ●学力補充・・・作文教室、科学実験教室、基礎学力の向上、中学生の学力向上、 在外経験者による外国語教室等

土曜日の教育支援体制等の構築によりすべての子どもたちの教育活動の充実を図る

# 学ぶ力を育てる土曜学習支援事業

「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」活用

【補助率】国1/3 県1/3 市町1/3

- ●学校週5日制が完全実施され10年あまりが経過したが、土曜日に様々な経験を積んでいる子どもたちが存在する一方で、必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちも少なからず存在するとの指摘がある。 (文部科学省「土曜日授業に関する検討チーム」最終まとめH25.9.30)
- ●滋賀県の6年生児童の5人に1人は「土曜日に家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりして過ごしている」という状況がある。 (文部科学省「H25全国学力・学習状況調査」 [児童質問用紙] 回答集計結果)
- ●小学生等を対象として、「学ぶ力」を育むため、体系的・継続的な学習プログラムを実施する土曜学 習支援事業の推進を図る。
- [「学ぶ力」: 子どもたちが自分の将来を真剣に考え、仲間とともに力を合わせ、自ら進んで学ぼうとする力] ●地域の子どもを中心に据え、地域(地域人材)・家庭(保護者)・学校(教員)が確かにつながり、それぞれの立場から教育の営みに関わることを大切にする。

# 学ぶ力を育てる土曜学習支援体制の仕組み

県

- ●「学校・家庭・地域連携推進事業」推進協議会を設置
- ●土曜教育コーディネーター・土曜教育推進員等の研修会実施
- ●事業の評価および報告書の作成



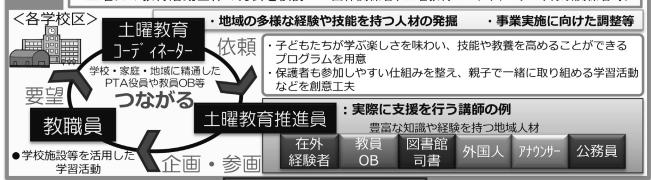
油市

# ●運営委員会を設置

※構成委員例(公民館、学校関係者、保護者·青少年育成

土曜日の教育活動全体の方針を検討

団体関係者、土曜教育コーディネーター、行政関係者等)



学習支援活動の実施

- ●子どもたちを主体と捉え、子どもたち自身の学習意欲や参画を重視する。
- ●その場限りのイベントにとどまることなく、一定期間を通じて、学ぶ力を育てるプログラムを企画。
- ●「わかって」「できて」「楽しい」という子どもの喜びや満足感が積み上げられ、子どもに自信をも たせる学習プログラムを工夫。

# 土曜教育推進員が進める学習プログラム(具体例)

- ○学校の教育課程と結びつけた補充的・発展的学習活動
- 〇文化体験教室【内容】書道や絵画、音楽活動等
- 〇親子読書教室【内容】日本語の美しい響きやリズムを楽しむ朗読会、 みんなで声を出して群読を楽しむ活動等
- 【学習形態】
- ・異学年や小グループによる学習活動、自学自習に取り組む子どもへの個別指導(机間指導)

等

- 〇外国語(英語)教室【内容】親子で学ぶ外国語学習、国際理解につながる学習活動等
- ●教室を設置する当該校の学校規模(児童数・生徒数)や学習プログラムの内容に応じて、対象学年を 限定したり、対象とする児童・生徒数を設定することも可能

原則年間24回程度の実施 複数プログラムを組み合わせて実施することも可能

地域の子どもを中心に据え、教員・保護者・地域人材が 確かにつながることにより、学ぶ力を育てる

# 平成27年度 学校·家庭·地域連携協力推進事業 市町別事業実施状況一覧表

	学校支援地域本部	家庭教育支援	放課後子ども教室	土曜日の	教育支援
	従来型 実施数	実施数	実施数	体制構築型 実施数	「学ぶ力」学習支 援型 実施数
大津市	(6本部)				
彦根市	7本部				1教室
長浜市					
近江八幡市	23本部	支援チーム・講座実施・ 人材育成の3活動			
草津市	7本部	講座実施の1活動			
守山市					
栗東市	1本部		7教室		
甲賀市		支援チーム・講座実施・ 人材育成の3活動		10教室	
野洲市			7教室		
湖南市	12本部	支援チーム・講座実施・ 人材育成の3活動	3教室	9教室	1教室
高島市		支援チーム・講座実施・ 人材育成の3活動			
東近江市	13本部	講座実施の1活動		9教室	
米原市	3本部		4教室		
日野町		講座実施・人材育成の2活動			
竜王町	1本部	講座実施の1活動		7教室	
愛荘町					
豊郷町					
甲良町					
多賀町	1本部				1教室
合 計	9市町68本部 (昨年は9市町62本部) ※大津市含むと10市町74本部	8市町17活動 (昨年は9市町18活動)	4市21教室 (昨年は2市町11教室)	4市町35教室 (昨年は8市町 83教室)	3市町3教室

# (I) 推進協議会の概要

# ◆ 推進協議会委員(敬称略)

No.	氏	名	所 属	No.	氏 名	所 属
1	髙木	和久	びわこ学院大学 准教授 文部科学省コミュニティ・スクール推進員	4	佐々木 保孝	天理大学 准教授
2	谷口	久美子	NPO法人CASN 理事長	5	池本 忠好	湖南市立日枝中学校 校長
3	武井	哲郎	びわこ成蹊スポーツ大学 助教	6	佐敷 恵威子	滋賀県教育委員会事務局 学校教育課 主席参事

# ◆第1回推進協議会

# 1 協議会概要

期 日: 平成27年6月5日(木)

会 場:県庁北新館5C会議室

出席者: 髙木座長、谷口副座長、武井委員、池本委員、佐々木委員、学校教育課・森主査(佐敷委員代理)

事務局:県生涯学習課(6名)子ども・青少年局(1名)

(1) 開 会 ・県生涯学習課長 挨拶

(2) 座長、副座長選出

(3) 協議

①事業全体および家庭教育支援、放課後子ども教室、土曜日の教育支援について

②学校支援地域本部とコミュニティ・スクールについて

# 2 協議要旨

# ○学校支援地域本部事業からコミュニティ・スクールへ

- ・学校支援地域本部は、その名のとおり「学校支援」が目的。コミュニティ・スクール(以下「CS」という)となることによって、学校を支援するというより、むしろ、学校の中で地域の人も子どもを支えていく、あるいは、地域の中の子どもたちを、学校も関わりながら、地域の人たちが支えていく、そうしたツールとなる可能性を感じている。
- ・CSとなり、学校運営協議会が設置された場合、本部事業における協議会との関わりが出てくるが、できる限り、意思決定とボランティアを動かす活動は密接である方が効率はよい。
- ・本部事業の課題は、学校と地域が一緒になって子どもを育てていこうとする状況の熟議に至っていない現状をいかに打破するか、そこにCSを導入するとしても、人事や予算上の問題に対する行政側の否定感をどうするか。また、地域コミュニティの再生という意味合いもCSには含まれているので、子どもを中心に据えて、地域と学校が寄り合って熟議していく体制を整えるとともに、コンダクトする立場の学校管理職の資質向上を進めていくことが大事である。学校教育課との連携により進めていけるとよい。

# ○地域の実情に応じた横断的・総合的推進を

- ・学校と地域の連携・協働体制の推進が大きな幹とすると、放課後子ども教室、家庭教育支援、土曜日の教育支援は、枝の部分である。どの事業を選択し、どう組み合わせていくか、地域の実情によると思われる。
- ・保護者も参加する方式であれば進めやすい面がある一方で、豊かな家庭の子しか参加しない。こ うした事業を進める中で、家庭教育支援をどういう位置に置くべきか、大きな意味を持つ。

# ◆第2回推進協議会

# 1 協議会概要

期 日 : 平成 27 年 1 月 15 日 (金) 会 場 : 県庁北新館 5 – C 会議室

出席者: 高木座長、谷口副座長、

池本委員、佐々木委員、武井委員(5名)

事務局: 県生涯学習課(5名)、子ども・青少年局(1名)

(1) 開 会 ・高木座長 挨拶

# (2)協議

①平成27年度「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の成果と課題、今後の方向性について

ア 県実施事業について

イ 市町実施事業について

・学校支援地域本部、家庭教育支援活動、放課後子ども教室、土曜日の教育支援

②今後の学校と地域の連携・協働体制の推進の在り方について

ア 【情報提供1】地域学校協働本部

イ 【情報提供2】「滋賀モデル」コミュニティ・スクール推進事業

# 2 協議要旨

# 〇県実施事業について

- ・各研修会は講師の選定、内容ともによく考えられていてよいと思うが、全5回の研修会を通じて深めていきたい点や方向性が見えにくい。
- ・今年度、学校教職員の参加が増えた点は、良かった。総合教育センターにおいて、CSや地域 連携協働の重要性に関する研修内容を管理職やミドルリーダー対象の研修会に組み込んでも らえるよう今後も働きかけを続けていくことが重要である。

# ○事業の推進について

- ・コーディネーターの発掘、育成等、人を育てる研修会や参加してもらえない方への働きかけが重要。
- ・将来の姿をイメージして事業を推進していくことが大切であり、そのためには、学校教育や社会教育、福祉部門などが連携し、ネットワーク化を図り、地域全体で取り組む体制づくりが求められている。
- ・各市町で行われている子どもに関する様々な取組の情報をまずはしっかり学校へ周知し、学校と地域が効率的な連携を図れるようにしていく。

# ○今後の学校と地域の連携・協働体制の推進の在り方について

- ・今後、「学校支援地域本部」から、「地域学校協働本部」へと変わっていくのは、地域と学校 がフラットな立場で、共に汗をかいて地域の子どもを育て、ひいては地域創生にもつながる というところまで、生涯学習課としては強調していくべきである。
- ・CSの要件について、国は柔軟な運用をしてよいと言っている。ただ、取組に対する市町の主張を しっかりと受けとめた上で進めていくことが大切である。
- ・みんなの願いは、「子どもの育ちの環境がよくなるためのもの」であるという根幹の部分を忘れず進めていくことが重要である。



# (Ⅱ) 各研修会の概要

# ◆第1回合同研修会

- 1.目 的 県内で実施される「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援活動」「土曜日の教育支援体制等構築」「学ぶ力を育てる土曜学習支援」に関わる市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。
- 2. 主 催 滋賀県教育委員会
- 3. 参加対象 (1)「学校・家庭・地域連携協力推進事業」実施市町担当者
  - (2) 上記事業の未実施市町における参加希望者
- **4. 日** 時 平成 27 年 5 月 29 日 (金) 13:45~17:05
- 5. 日 程
  - ・行政説明 ○各事業の概要・趣旨
    - ○本年度のスケジュール
    - ○事業推進に当たっての留意点
  - ・講演:「事業担当者に期待したい視点」〜学校と地域が協働で子どもを育てるシステムのあり方を考える〜

講師: 髙木 和久 氏 (滋賀県「学校・家庭・地域連携協力推進事業」推進協議会委員、 びわこ学院大学准教授、文部科学省コミュニティ・スクール推進員)

- **6. 場 所** 県庁北新館 5 A 会議室
- **7. 参加者数** 25名
- 8. 概 要

行政説明では、県担当者より、「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の概要・趣旨等の説明後、補助金事務の流れや本年度年間研修計画等のスケジュール、コーディネーター等の謝金単価や補助対象外経費等の取扱い、事業実施にあたっての留意点等について、質疑応答も含めて説明を行った。

講演では、講師が実際に、地域においてCSの立ち上げや運営に携わった経験や、文部科学省のコミュニティ・スクール推進員として関わった全国各地の様々な事例を踏まえ、今後の「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の実施・運営や、CSの導入促進に向けた取組において、大切にすべきことや期待したい視点等について、具体例を示しながら説明いただいた。



# ○参加者のアンケートより

- ・担当者として考えさせられることがたくさんあり、非常に有意義な時間になった。今後の市町を担 う子どもたちを育てていくためには、学校と行政と地域の熟議が重要であることを改めて実感した。
- ・主役は子どもたちであり、目標はその地域をこれから支えていく子どもたちの育成であることを、 例を提示しながら伝えてくださり、非常にわかりやすかった。
- ・「子どもをお客さんにしない」という考えがとても素晴らしいと思った。子ども対象の事業をして も、いつも大人がお膳立てしてきたなと反省した。今後の計画における改善点になると思った。

# ◆第2回合同研修会(「第1回学校と地域の連携・協働体制推進フォーラム」として開催)

- **1 目 的** 学校支援地域本部やCSをはじめとした、学校と地域の連携・協働体制の構築を一層推進するため、具体の方策等について、関係者一同がともに考える機会として、フォーラムを開催する。
- 2 主 催 滋賀県教育委員会

- 3 参加対象 (1) 各市町担当職員(2) 公立小・中学校教職員、県立学校教職員
  - (3) 学校支援地域本部関係者(4) 学校運営協議会関係者
  - (5) 学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民 等
- **4 日 時** 平成 27 年 6 月 17 日 (水) 13:00~16:55
- 5 日 程
  - 事例発表「長浜市立速水小学校運営協議会の取組」 発表者 川瀬 晃氏(長浜市立速水小学校長)
  - ・パネルディスカッション「学校と地域の持続可能な連携・協働体制のあり方について」

パネラー:田中 諭 氏(彦根市教育委員会事務局生涯学習課・主幹)

久松 浩佐代氏(栗東市立栗東中学校・地域コーディネーター)

川瀬 晃氏(長浜市立速水小学校・校長)

コーディネーター: 武井 哲郎 氏(びわこ成蹊スポーツ大学・助教)

・講演「湖南市における学校と地域の連携・協働体制の取組」

講師:谷口 茂雄 氏(湖南市教育委員会・教育長)

- 6 場 所 県庁東館7階大会議室
- **7 参加者数** 1114
- 8 概 要

事例発表では、長浜市立速水小学校の川瀬校長より、CSとしての6年間の歩みについて、発表いただいた。組織や活動内容、成果等、具体的な内容であったため、参加者がCSの取組イメージを広げることができた。

パネルディスカッションでは、びわこ成蹊スポーツ大学の武井助教によるコーディネートにより、学校と地域の連携体制を一過性のものに終わらせることなく、地域の中に根付かせるためには、どうすればよいか、主に「人と経費の確保」という点について、各パネラーから様々な立場の意見を出していただき、ディスカッションを行った。

湖南市教育委員会の谷口教育長による講演では、CSと学校支援 地域本部の特徴や湖南市の取組の方向性などを、わかりやすく説明 をいただいた。

また、子どもを中心に据えて、一人ひとりの子どもを伸ばすには どうすればよいのかということを常に考えながら、広い視野に立っ て取り組む姿勢は、参加者の心に響くものであり、多くの示唆を与 えていただいた。







# 〇参加者のアンケートより

- ・(事例発表) 学校と地域の連携において、実際にどのような委員会が必要か、というしくみを知る ことができた。学校が開かれて、地域と一丸となって子どもを育てていくためには、学校の力だけ でなく、様々な視点からの協力の上に成り立っていく必要があると思った。
- ・(パネルディスカッション) 持続可能な取組になるように、それぞれの立場で、しっかりと意見を 持って、何ができるのかを考えていきたい。
- ・(講演) 学校と地域が連携していくことは、子どもの成長が最大の目的であり、そのためには、子どもの成長の姿を共有して、そして子どもを中心にして活動していくことが大切だと感じた。地域と学校の連携の目的、その後の成果が、一つの目指すべき姿をして学ぶことができた。

# ◆第3回合同研修会

- 1 **目 的** 県内で実施される「学校・家庭・地域連携協力推進事業」に関わるコーディネーター や放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、家庭教育支援員、教育活動サポーター、行政担当者等の事業関係者が一堂に会し、資質向上に向けた研修会を実施 することで、県内における各事業の効果的な推進を図る。
- 2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 **参加対象** 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動関係者・子育 て支援機関関係者・土曜日の教育支援活動関係者・学校支援地域本部関係者・各市町 行政関係者 等
- **4 日 時** 平成 27 年 8 月 21 日 (金) 9:30~12:00
- 5 日 程
  - ・講演「気になる子ども」の理解と支援 ~子どもや保護者への関わり方と大切にしたいこと~ 講師: 桂田 総司 氏(元守山市立小津小学校長)
- 6 場 所 県庁東館7階大会議室
- **7 参加者数** 41名
- 8 概 要

講師の桂田先生は、現役教員時代から特別支援教育を専門として活躍されてこられ、様々な特性を持ったお子さんへの関わり方について、実践事例や相談事例を挙げながら御講演をいただいた。気になる子どものニーズに応じて、「あたまごなしはダメ、@いかかわりはいっぱいある、③まいささえ(そう、その調子、それで良いよ等の②の付く言葉の声かけ)、②がおと余裕を持って、母こるひまあれば教える、わかりやすく」という「あいうえお」を語頭にした覚えやすい子どもへの関わり方の基本や、その子を「わかる」→「かわる」→「かわる」→「かかわる」ということなどについて具体例をもとに学んだ。





# 〇参加者のアンケートより

- ・障害を持つ子への対応の仕方などについて、非常に参考になった。今後も機会があれば、今回と 同様の研修会をお願いしたい。
- ・校内に気になる児童が増えてきたように思う。直接、詳しく学ぶこともなく対応してきたが、今日の研修会で具体的に分かりやすく話してもらい、実行する際の参考になった。

# ◆第4回合同研修会(「第2回学校と地域の連携・協働体制推進フォーラム」として開催)

1 **目 的** 学校と地域の連携・協働体制の構築を一層推進するための具体の方策等について、関係者がともに考える機会として、文部科学省コミュニティ・スクール推進員による講演などから、保護者や地域住民等との協働による学校づくりの推進に資する現行の制度や学校と地域の連携・協働体制による効果などについて、理解を深める。

- 2 主 催 滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 (1) 各市町担当職員(2) 公立小・中学校教職員、県立学校教職員
  - (3) 学校支援地域本部関係者(4) 学校運営協議会関係者
  - (5) 学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民 等
- **4 日 時** 平成 27 年 10 月 30 日 (金) 13:00~16:45
- 5 日 程
  - ・講演「学校と地域でともにつくりあげるコミュニティ・スクール」 講師:文部科学省コミュニティ・スクール推進員 [CSマイスター] 岐阜県白川村教育委員会 社会教育主事 新谷 さゆり氏
  - グループワーク:熟議「地域で子どもを支える大人の役割」
- 6 場 所 県庁東館7階大会議室
- **7 参加者数** 72名
- 8 概 要

講演では、御自身の経験をもとに、CS導入による学校や子どもへの効果や、学校を核とした地域づくりの有効性、CS導入の実際の流れなどを、わかりやすく説明いただいた。実務に則し、地域との連携について示唆に富んだお話をしていただいた。

また、グループワークでは、「地域で子どもを支える大人の役割」というテーマで熟議の場を設定した。はじめに、「現代の社会状況、教育環境などにおいて、子どもたちにとって、足りないと思われることは何か。」をグループで出し合い、解決策について話し合っていただいた。その中で、個々の立場での手立ては限界があるが、連携することで質や量が充実するといった「連携の重要性」や、今の子どもに欠けているものは、今の大人にも欠けているものと共通するのでは、といった「大人が変わる必要性」など、様々な「気づき」が生まれた。最後には、グループの発表を聞き合い、それぞれの学びを共有した。

# ○参加者のアンケートより

- ・地域との連携について、たくさんのヒント、そして何よりも、そこ に賭ける情熱をいただいた。学校に帰って活かしていきたい。
- ・小・中学校で推進されていくCSを、高校でも引き継いでいくことが必要であると感じた。
- ・「地域と学校がつながる」とは「行事でつながる」だけではない、という言葉が大変印象的であった。

# ◆第5回合同研修会

1 **目 的** 県内で実施される「学校・家庭・地域連携協力推進事業」に関わるコーディネーターや教育活動推進員等の事業関係者、学校教職員、行政職員等に対して、実施市町における各取組を発信するとともに、地域社会全体で子どもの育ちを支える体制づくりを推進し、地域の教育力の向上を図るため、これからの在り方について研修を深める機会とする。







- 2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 **参加対象** (1) 各市町担当職員(2) 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者
  - (3) 学校支援地域本部関係者(4) 土曜日の教育支援活動関係者
  - (5) 家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者
  - (6) 公立小・中学校教職員、県立学校教職員
  - (7) 学校運営協議会(コミュニティ・スクール) 関係者
  - (8) その他 学校と地域の連携・協働に関する事業関係者 等
- **4 日 時** 平成 28 年 1 月 26 日 (火) 13:20~16:40
- 5 日 程
  - 事例発表

「学校支援地域本部」の報告 竜王町公民館 関川 雅之 氏

竜王町統括コーディネーター 長岡 道子 氏

「放課後子ども教室」の報告 野洲市教育委員会事務局生涯学習スポーツ課 橋本 百代 氏 野洲市篠原学区地域子ども教室 苗村 明夫 氏

「家庭教育支援活動」の報告 甲賀市教育委員会事務局こども未来課 中森 久弥 氏 「土曜日の教育支援」の報告 彦根市教育委員会事務局生涯学習課 川添 義夫 氏

- ・講演「学校·家庭·地域の連携·協働による新しい豊かさの創造 子ども育ちの『縁』を結ぶ」 講師:昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンター長 興梠 寛氏
- 6 場 所 県庁東館7階大会議室
- **7 参加者数** 96名
- 8 概 要

# ○事例発表の概要

各事業の事例発表の後、講師から以下の講評をいただいた。

[学校支援地域本部] 統括マネージャー配置の意義。市民も等しく教育責任を負うことが必要。 行政担当者と対等な関係が大切。

[**放課後子ども教室**] 地域の大人に意識的にアプローチし、大人同士のつながりが生まれている。 「誰もが興味を持てる事業の展開」「子ども本位の取組」がプログラム作りのポイント。

[家庭教育支援] 保護者自身が気づき、考え、行動するための機会を提供する。『いきいき孫育て 講座』は先進的取組事例。

[土曜日の教育支援]『土曜学習教室てみる』の実践は、まさにコミュニティサービスラーニング。 子どものチャレンジ精神を引き出す取組。高・大生の学びの場(青年期教育)としても重要。

# ○講演の概要

社会教育の3つの課題として、①ライフスタイルを変える(人や社会とつながる暮らしを提案する)ボランタリーライフ、②学びを変える(課題解決的な学びを提供する)シチズンシップ学習、③コミュニティを変える(責任ある市民を育む拠点をつくる)マッチング拠点整備の必要性について説明いただいた。また、共生社会の『縁結人(えんむすびと)』としてのコーディネーターの役割や重要性、人と人、人と社会を繋いでいく仕組みづくり、知の循環型社会の形成をめざすことの大切さについて学んだ。

#### 〇参加者のアンケートより

- ・ボランティアの捉え方や、これからの社会への生かし方の方向がよくわかった。
- ・ボランティアをどう生かすと良いのかヒントをいただいた。



No.	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
			東中学校			
		東中学校区支援地域本部	城東小学校 佐和山小学校			
			旭森小学校			
		西中学校区支援地域本部	西中学校			
		四十十枚四文版地域本印	城西小学校 城北小学校			
			中央中学校			
		中央中学校区支援地域本部 (中央中学校区支援地域協議会)	平田小学校 金城小学校			
			平田幼稚園 金城幼稚園			
		南中学校 南中学校 日本				
1	│ 彦根市		城南小学校 城陽小学校	6	17	7
•	15/12/13		若葉小学校 亀山小学校		.,	,
		彦根中学校区支援地域本部	彦根中学校			
		(彦根中学校区支援地域協議会)	高宮小学校 河瀬小学校			
		鳥居本中学校区支援地域本部	鳥居本中学校			
		(鳥居本中学校区支援地域協議会)	鳥居本小学校			
			稲枝中学校			
		稲枝中学校区支援地域本部	稲枝東小学校 稲枝西小学校			
	個校中学校区文後地域本部					
			稲枝東幼稚園 みづほ保育園			
			ふたば保育園 ことぶき保育園			
		八幡小学校支援地域本部	八幡小学校			
		島小学校支援地域本部	島小学校	_		
		沖島小学校支援地域本部	沖島小学校	_		
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校	_		
		金田小学校支援地域本部	金田小学校	_		
		桐原小学校支援地域本部	桐原小学校			
		桐原東小学校支援地域本部	桐原東小学校	_		
		馬淵小学校支援地域本部	馬淵小学校	_		
		北里小学校支援地域本部	北里小学校	-		
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校	-		
•	>r> - 11 ±117 <del>- 1</del> -	安土小学校支援地域本部	安土小学校	<b>⊣</b>	40	•
2	近江八幡市	老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校	8	12	3
		八幡中学校支援地域本部	八幡中学校	_		
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校	-		
		安土中学校支援地域本部武佐こども園支援地域本部	安土中学校 武佐こども園	-		
		八幡幼稚園支援地域本部	八幡幼稚園	-		
		八幡幼稚園文援地域本部 岡山幼稚園支援地域本部	八幡幼稚園   岡山幼稚園	-		
		金田幼稚園支援地域本部	金田幼稚園	-		
		並四切作國文張地域本部 桐原幼稚園支援地域本部	桐原幼稚園	_		
		北里幼稚園支援地域本部	北里幼稚園	-		
		安土幼稚園支援地域本部	安土幼稚園	$\dashv$		
		老蘇幼稚園支援地域本部	老蘇幼稚園	-		
		志津小学校地域協働合校	志津小学校	+		
		草津小学校地域協働合校	草津小学校	1		
3		草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校	┨		
	_	渋川小学校地域協働合校	渋川小学校	0	7	0
3	草津市	2017 120 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 2	<b>⊣</b> ັ		1	
3	算津市 	<b>笠縫小学校地域協働合校</b>	笠縫小学校			
3	草津市   	笠縫小学校地域協働合校 笠縫東小学校地域協働合校	笠縫小学校 笠縫東小学校			

No.	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
4	栗東市	栗東中学校支援地域本部 「栗中サポーターズクラブ」	栗東中学校	0	0	1
		石部小学校応援団	石部小学校			
		みなみっこ応援団	石部南小学校	1		
		みくもっ子支援委員会	三雲小学校	1		
		東っ子応援団	三雲東小学校	1		
		岩根小学校支援地域本部	岩根小学校	1		
-	*** <b>±</b> +	菩提寺小学校支援地域本部	菩提寺小学校		•	0
5	湖南市	あすなろ応援団	菩提寺北小学校	0	9	3
		下田小学校支援地域本部	下田小学校	1		
		みとっ子応援団	水戸小学校	1		
		石部中学校支援地域本部	石部中学校			
		甲西北中学校支援地域本部	甲西北中学校			
		日枝中学校支援地域本部	日枝中学校	1		
			朝桜中学校			
		蒲生地区学校支援地域本部	蒲生東小学校 蒲生西小学校			
			蒲生北小学校			
				1		
		船岡中学校区学校支援地域本部	八日市西小学校			
		玉緒小学校支援地域本部	玉緒小学校	1		
		八日市南小学校支援地域本部	八日市南小学校			
		湖東第一小学校支援地域本部	湖東第一小学校			
6	東近江市	湖東第二小学校支援地域本部	湖東第二小学校	0	15	2
		湖東第三小学校支援地域本部	湖東第三小学校	1		
		上 箕作小学校支援地域本部	箕作小学校	1		
		市原小学校支援地域本部	市原小学校			
		五個荘小学校支援地域本部	五個荘小学校			
		要東北小学校支援地域本部	要東北小学校 変東北小学校			
		能登川東小学校支援地域本部	能登川東小学校			
		能登川南小学校支援地域本部	能登川南小学校			
			伊吹小学校			
			春照小学校	1		
			大原小学校			
		米原市読書活動学校支援地域本部	山東小学校			
			息長小学校			
7	米原市		坂田小学校	0	9	2
			米原小学校	1		
			柏原中学校	1		
		柏原学区学校支援地域本部 	柏原小学校			
		, _ + ^ + _ + _ + _ + _ + _ + _ + _ + _ +	河南中学校	1		
		河南学区学校支援地域本部	河南小学校			
			竜王中学校			
8	竜王町	竜王町学校支援地域本部	竜王小学校 竜王西小学校	2	2	1
			竜王幼稚園 竜王西幼稚園			
			多賀中学校			
	& ⊅□ m-	<b>♂加叶丝++++</b> +₩+++++	多賀小学校 大滝小学校		•	
9	9 多賀町	多賀町学校支援地域本部 	多賀幼稚園 大滝幼稚園	4	2	1
			多賀ささゆり保育園 たきのみや保育園			

# |彦根市における学校支援地域本部の取組

|持続発展教育(ESD)持続可能な社会・次代を担う彦根の子どもを地域のみんなで守り育てます。

# ■めざす姿

○教員が子どもと向き合う時間の確保など、多様な形態の教員支援を可能とするため、地域全体での学校教育の支援、および学校と地域との連携体制の構築を推進する。さらに、地域住民が自らの経験や知識を活かす場として自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化と地域づくりにつなぐ。

# ■本年度の活動

- 〇学校支援地域本部:市内7中学校区地域教育協議会(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝) 全小中学校24校(17小学校・7中学校)保育園幼稚園6園(3保育園3幼稚園)で実施する。
- 〇平成 27 年度の取組重点 (継続) 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- 〇実行委員会の開催(年3回) 構成委員:16名(各中学校長、地域コーディネーター、土曜学習コーディネーター、彦根PTA連絡協議会会長)

事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)

8月4日(火)事業説明・実践交流 11月30日(月)研修会・実践交流 3月 実践報告会

- ○学校訪問 11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- 〇特色ある活動内容
- ・小学校での登下校見守り、安全指導 ・小中学校での読み聞かせと図書室環境の整備
- ・夏季休業中の希望する児童生徒への学習補助支援 ・放課後の学習支援
- 土曜日の学習支援(中央中学校)
- ・課題のある児童生徒や別室(登校)児童生徒に対する授業の補助 ・中学校の部活動支援
- ・地域へ広報紙を発行、学校支援の啓発 ・その他学校のニーズに応じた支援活動

# ■本年度の成果

- 〇全小中学校で取り組むことで、地域住民が学校内外で子どもと接する機会、会話が多くなり、豊かなかかわりができた。
- ○地域コーディネーターが中心になり、子どもの様子、学校支援の取組内容が、地域へ発信できた。 周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。
- 〇地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。
- 〇土曜学習について、個別指導を中心に、学習支援活動が継続できた。

# ■今後の課題

- 〇地域コーディネーターと学校関係者が連携を図り、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発
- 〇事業を支える支援ボランティアの確保(学習支援に係る学生ボランティア等)人材バンクの整備

# ■その他

〇彦根市では、ESD(持続発展教育)教育、持続可能な社会を担う 人づくりを進めている。さらに「地域とともにある学校」の創造に も力を入れている。今後、コミュニティ・スクールとの一体化を視 野に入れた取組・地域で学校を支える仕組みづくりについて、さら に整備・検討していきたい。



【地域の方とサツマイモ掘り】

# ■ 子どもたちの笑顔のために~できる人が できるときに できることを~ (東中学校)

■ 彦根市	
■ 活動名	
東中学校区支援地域本部・東中学校	
■ 関係する学校	
東中学校・城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校	

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	48 人
開始年度	平成20年度

# ■ 活動の概要

平成20年9月から東中学区が彦根市で初めてその指定を受け、事業を推進している。今年度も2名のコーディネーターにより、積み上げてきた活動をさらに推進している。本校では、「生徒に寄り添う学習支援」や「読み聞かせ・図書館整備活動」に重点をおきながら、「地域と学校の安心安全推進活動」にも力を入れていきたいと考えている。

#### ■ 特徴的な活動内容

# 〇図書活動

朝読書の時間に地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。この活動は今年度で12年目を迎える。毎週木曜日に1学年4クラスずつ実施している。昨年度からリストも作成していただいているため、今まで読んでくださった作品が重複することなく、幅広い作品を選んでいただいている。

また、本の登録作業や図書室の整理などの支援もしていただいている。今年度から給食が始まったため、昼休みの時間帯に余裕がないので、朝の時間帯にも開館している。パソコンを早くに立ち上げていただくなどして、時間が有効に使えるようご協力いただいている。

#### O放課後学習支援

受験を控えた3年生を対象に、11 月~3月、週2回放課後学習支援を行っている。本年度は16 名が参加し、希望進路の実現をめざして学習に励んでいる。特に基礎的な学力の向上をめざし、問題集を使って学習を進めている。学習支援として地域の方を募集している。毎年支援いただいている方もおられ、2、3名に1人は付いていただいていて、丁寧に指導していただいている。学力の向上はもちろん、共に学習する中で、生徒とのつながりも深まり、地域の中に寄り添ってくださる方がいるという安心感が感じられ、大人や社会への信頼感につながっている。

# 〇ゲストティーチャーによる授業

1年生では、家庭科の「ゆかた体験」の授業で、数名の着付けの先生に来ていただいて、着物を着る機会を得られただけでなく、日本の伝統文化のすばらしさを実感する体験となった。また、2年生の職場体験では、職業講座として、元Jリーガーの方や「たねや」の方においでいただき、働くことの意義や生きがいについて講話いただいた。また、マナー講座として、琵琶湖ホテルの方においでいただき、心のこもった挨拶や作法を学ぶことができた。

# 〇部活動の指導補助

部活動では、卓球部、吹奏楽部、書道部、水泳部、飛び込み部、サッカー部において、 活動を支援していただき、放課後や休日の活動時に専門的な指導をしていただいている。



【職業講座「たねや」の方の講話】

# ■ 実施に当たっての工夫

年度当初に地域コーディネーターの方から、昨年度の活動や今年度の事業計画について説明をしていただいたため、全職員がその活動を共通理解したうえで、本年度がスタートした。10 年来続けられている活動もあり、どの活動も定着しており、支援してくださっているメンバーの方も安定している。そのため連携が取りやすく、急な変更にも素早く対応してくださり助かっている。校内に本部の部屋があるため、いつでも地域コーディネーターの方と話ができる環境にあることも、大変ありがたい。

#### ■ 事業の成果

「放課後学習支援」がスタートし、意欲的に問題に取り組む3年生の姿が見られる。共に問題を解くことにより、支援の方と生徒のつながりも深まってきている。日常の様々な活動を通して、中学生と地域の方とのつながりができ、教師とは違う支援のあり方が生かされている場面が見られた。

#### ■ 事業実施上の課題

従来から続けられている活動は、引き続き発展させていく必要があるが、どのように改善していくのかが課題である。特に図書室の開館については、本年度から学校給食が始まり、昼休みの開館時間時間をどう確保していくかが課題となっている。日常の生徒の生活は慌ただしく、落ち着いて本に親しむ時間や習慣を確立できるように、どのような形で支援していくべきかを十分に検討し、支援内容も吟味し、改善していく必要がある。

また、ボランティア登録をしていてくださる方の多様な技能や知識を、より効果的に生徒とつないでいくために地域コーディネーターの方と学校がどうつながって活動を発展させていくのかも課題である。

# ■ 伝統を引き継ごう ~マーチングバンド活動の充実に向けて~ (城東小学校)

■ 彦根市	
■ 活動名	
東中学校区支援地域本部・城東小学校	
■ 関係する学校	
城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校・東中学校	

コーディネーター数	3 人
ボランティア登録数	2 人
開始年度	平成20年度

#### ■ 活動の概要

# ○活動のねらい

- ・マーチングバンドの演奏を通して、豊かな情操を養うとともに、5・6年生が交流することを通して学校の伝統を大切にしていこ うとする気持ちをはぐくむ。
- ・マーチングバンドの演奏を通して、演奏技能の上達を図りながら、みんなでよい音楽発表を創り出そうという課題をもち、音の出し方や演奏の仕方などを工夫して活動することができる。
- ・日々の練習や学校行事、地域行事への参加などの活動を通して、学校の伝統を誇りにする気持ちをはぐくみ、学校への愛着を深める。

#### 〇編成と指導体制

- ・マーチングバンドは、6年生(後期は5年生)児童で編成し、管楽器・打楽器・カラーガードに分かれて毎週金曜日の6校時に練習を行っている。
- ・教職員が分担して指導(前期9名、後期9名)にあたり、年間30時間程度活動している。
- ・外部から、非常勤講師(社会人活用)1名、ボランティア2名の方に演奏指導に来ていただいている。



【指導ボランティア・中学生による指導】

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・各パートの練習(毎週金曜日6校時)
- ・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
- ・市民運動会、城まつりパレードなどの地域行事への参加
- 東中学校吹奏楽部との連携

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・指導者確保のため、ボランティアとしてトランペットの指導をしていただいていた方に社会人講師をお願いし、毎年来ていただけるようにした。また、学校支援地域本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集をお願いしたところ、2名の方がトロンボーンや打楽器の指導に来ていただけることになり、指導体制が充実した。
- ・12 月上旬から 1 月下旬にかけて、6 年生から 5 年生への引き継ぎ期間を設定している。指導ボランティアの指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏 (演技) 技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を大切に守っていこうとする心も受け継げるようにしている。
- ・毎年5月下旬頃(中体連の期間中)に東中学校吹奏楽部の演奏による音楽鑑賞会を開催し、後半に吹奏楽部員にマーチングバンド の演奏指導をお願いしている。

# ■ 事業の成果

- ・学校支援地域本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実 させることができた。
- ・指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が著しく向上した。

#### ■ 事業実施上の課題

・学校支援地域本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。



【城まつりパレードへの参加】

# ■ その他

# マーチング活動を終えた子どもの感想

指導ボランティアの先生に、バジングや音の出し方、曲の演奏の仕方などたくさんのことを教えていただいたおかげで、本番でも自信をもって演奏することができました。練習が大変で苦しい時もあったけれど、いろいろな思い出をつくることができて、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

運動会や城まつりパレードでは、地域の人に応援していただいたり、たくさんの温かい拍手をいただいたりしてうれしかったです。1年間熱心にご指導いただいた指導ボランティアの先生や城東小学校の先生、家族、地域のみなさんなど、たくさんの方に支えられているマーチング活動。しっかり5年生に引き継いでいきたいです。

# ■ 地域に開き、地域に応える学校の創造(佐和山小学校)

■ 彦根市	
■ 活動名	
東中学校区支援地域本部・佐和山小学校	
■ 関係する学校	
佐和山小学校・城東小学校・旭森小学校・東中学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	134 人
開始年度	平成20年度

#### ■ 活動の概要

本校教育の推進にあたっては、多くのボランティアの方の協力を得ている。そのほとんどが地域の方である。主な内容としては、地域学習の安全見守り・夏季休業中の算数学力補充教室・読み聞かせと図書館整備・サツマイモの苗植え指導・ふれあいルームの日 (お年寄りと遊ぶ日)、登下校の安全見守り指導等がある。こういった地域の方の温かい支えに応えるべく、本校では、本校教育の公開とともに地域の方との呼応のある教育活動の展開を推進している。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### <本校教育の公開>

本校でも、10月の学習参観日に、全校一斉の「道徳の授業公開」を実施している。 本年度は、参観日に「心のノート」を子どもたちに持ち帰らせ、授業内容と関わる内容 のページを家庭でも読んでいただくことを促した。従来より、長期休業中には家庭に持 ち帰り、家庭での活用を依頼しているところであるが、この日は、本校の心の教育の推 進について理解いただくとともに、実際に授業を参観して具体的に子どもたちの心の育 ちを考えていただく契機になったものと考える。

また、11 月には、2日間のオープンスクールを実施した。休み時間や給食・清掃時間を含む時間帯の公開で、学校内の生の姿を参観いただいた。アンケートをとり、改善を図ることで「地域に応える学校づくり」に取り組んでいる。

# <地域の方との呼応のある教育活動>

2年生では、生活科学習の1つとしてサツマイモの栽培を実施している。サツマイモの 苗植えの時にボランティアとして植え方をご指導いただいた地域の方を、収穫後のサツマ イモパーティに招待した。他にも挨拶や礼状等、地域の方との関わりを大切にしている。

3年生では、社会科学習で地域の量販店見学時に、保護者に安全ボランティアを依頼した。往復路だけでなく、店内での引率もお願いした。当初は一般客の多さも予想されたため、店に迷惑をかけないようにと考えてのことであったが、ボランティアの方に買い物をする様子を子どもたちのニーズに応じて話していただくことで、学習のねらいである商品の並べ方等の店内の工夫について考える手がかりになった。子どもたちは現地で現物を目にし、生の言葉で学習を深められた。店の工夫とそれらの受け止め方の双方を現地で学べたことは、子どもたちの学びにとって大きい。また、店内で子どもたちとボランティアの方との双方向の関わりが深くなったことは、今後の家庭・地域教育の高まりと、学校・家庭・地域の連携強化につながるものと考える。



【全校公開の道徳の授業の様子】



【3年生 校外学習の様子】

# ■ 実施に当たっての工夫

彦根市立東中学校区学校支援地域本部のボランティアリストを職員に配布し、依頼時の参考資料としている。本校職員の独自のルートで開発された人材は、全職員が共有できるようにしている。また同本部発行の「学校支援ボランティアだより」で東中学校ブロック内の他校の実践を知ることで、地域の方が活躍していただける視点や取組に、広がりがもてている。ボランティアとして協力依頼した後は、さらに担当者が詳細な打ち合わせを行い、教育活動のねらいやボランティアとしてお願いしたいことを明確に知らせている。このことが、地域と学校がともに手を取り佐和山っ子を健全に育成するベースとなっている。

# ■ 事業の成果

地域の方から、子どもたちや学校への声かけが増えてきた。特に登下校時の挨拶は増えた。また、各学年が昨年度の実践を参考にしてボランティアが活躍いただける機会を考えることから、以前お世話になった方が来校されることに子どもたちは親しみを感じ、 挨拶や会話を進んでしている。学校外の所で出会っても挨拶をしている。このように、子どもたちと地域の方との心のつながりが少しずつ深まり、形になってきていると考える。

## ■ 事業実施上の課題

年間を通して、効果的なボランティアの活動内容や時期は大まかに見通せているが、実際に時期が確定するのは1ヶ月程度前で、 授業や学校行事・天候等で、当初の計画を変更・延期することがある。こういった時期や時間帯等、学校のニーズと一致しにくいことがあり、今後は、柔軟性をもつ新たな仕組みを開発していくことが必要になってくるものと考える。  $\prod$ 

# ■ 地域の人材を活かした旭森教育をつくる(旭森小学校)

■ 彦根市	
■ 活動名	
東中学校区支援地域本部・旭森小学校	
■ 関係する学校	
旭森小学校・城東小学校・佐和山小学校・東中学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	56 人
開始年度	平成20年度

#### ■ 活動の概要

#### 〇子どもたちの教育活動に地域の教育力を活かす

本校では、低学年の生活科、中高学年の総合的な学習の時間の学習に、ゲストティーチャーや学習支援者として多くの地域の方々の協力を得ている。また、全校に関わる読書活動や、本校の伝統的な活動であるマーチングバンドの楽器指導にも、多くの支援をいただいている。夏季休業中に実施している学力補充教室には、地域におられる教員OBのみなさんの力を借り、少しでも勉強がわかるようになりたいと願う子どもたちの学習支援を実施している。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### ○図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動していただいている。毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施し、それぞれの学年相応の本や季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。

また、図書室の環境整備にもご協力をいただいている。本校の子どもたちは、本を読むのが大好きなのだが、本の扱いが悪かったり図書室の使い方がよくなかったりする場合がある。そのため、火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業など、様々なお手伝いをしていただき、いつも子どもたちが気持ちよく本にふれることができるよう環境整備に協力していただいている。

#### ○家庭科の「ミシン」指導支援

毎年地域の方にお手伝いいただいているのが、家庭科でのミシンの学習の支援である。指導する教師は1人であることがほとんどのため、子どもたちへの細かな指導にはなかなか手が回らないのが現実である。子どもにとっては糸が絡まってしまった場合の直し方やその後の糸の付け方など、すぐそばで実際にやって見せてもらえることが何よりもわかりやすいのである。家庭科でミシンを使う場合は、事前に連絡を取り、家庭科の学習時間に合わせて来校いただいている。

# ○マーチングバンドの演奏指導ボランティア

本校では5・6年生でマーチングバンドを実施している。伝統的な活動であり、子どもたちもこれまで先輩から順に託され、旭森のマーチングバンドを受け継いできている。運動会に始まり11月のお城祭りパレードを最後に5年生へバトンが引き継がれ、全教員が指導に当たっている。楽器演奏という専門的な領域の指導であるため、教員だけでは難しい部分もあり、地域に居住されているボランティアの方に楽器指導をご協力いただいている。

# 〇ゲストティーチャーとしての協力

各学年で実施する様々なESD教育の一つである地域学習に、ゲストティーチャーとして地域の方々にご協力をいただいている。 1年生では、生活科「むかしからのあそび」に地域のお年寄りに来校していただき、子どもたちにお手玉やコマ回し、剣玉など、昔からの遊びを教えてもらい、一緒に遊ぶ楽しい時間をつくっている。また、3年生や6年生では、地域の歴史や文化など様々な子どもたちの疑問に答える講師として、地域のみなさんにご協力をいただいている。

# ■ 実施に当たっての工夫

- ・4月当初の職員会議等の場に、コーディネーターの方や支援地域本部事務局担当の方に来ていただき、事業内容について説明をしていただいた。どんな協力ができるのか、 また人材を探す場合の窓口はどこであるかなど、実務的な話をしてもらい、各教員が 本事業を知り、活用しやすいようにした。
- ・ゲストティーチャーや講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教師と打合せをして実施している。

【家庭科の「ミシン」指導支援】

# ■ 事業の成果

- ・図書館教育部が、今年度1人年間50冊を読む取組を始めたが、図書室がいつも本にふれやすく、親しみやすい環境になっているおかげで、達成していく子どもがどんどん増えている。
- ・本事業の内容を教員が理解することで、必要とする人材の確保のため、どこに相談したらよいかなど、基本的な情報を共有することができた。

# ■ 事業実施上の課題

- ・学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がる一方だが、今後は常時学校教育活動にご協力いただける体制をつくっていきたい。そのためには、学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて発信していくことが大事である。
- ・学習指導における支援ボランティアの活用を促進するため、ボランティアのみなさんにさらに協力をお願いしていきたい。

# **■ 地域人材を生かした学校支援と地域の生徒理解をめざした活動 (西中学校)**

	彦根市
	活動名
团	西中学校区支援地域本部・西中学校
	関係する学校
团	5中学校・城西小学校・城北小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	約30 人
開始年度	平成21年度

- 活動の概要(それぞれの活動を以下のA~Dで示し、その掲載順に内容を記載した)
  - A 「校地の環境整備」

校地の樹木の多様さや運動場の広さにより、地域・生徒・PTAによる共働の環境 整備活動。

B「地域・生徒相互の美術作品の交流」 地域の文化祭に生徒の作品を展示し、学校にも地域の作品を提供いただくといった相互交流の実現。

C「地域貢献活動の支援」

生徒の自主性を尊重した地域貢献活動を通して、生徒が地域で存在感を実感できるよう、地域・生徒の相互理解を目指して。

D「支援ボランティアとの交流」

支援ボランティアとの望ましい交流こそが当事業の重要課題。

# ■ 特徴的な活動内容

- A 地域・生徒・PTAの交流を目指す環境整備。
- B 地域との作品交流を通して、地域が生徒の作品に興味・関心を寄せていただき、 地域の作品も学校で、年間を通して展示。
- C 地域の生徒理解や受け入れ体制ができ、活動が円滑に進められた。
- D 当事業成功のカギは、支援ボランティアの方々との相互理解にある。



【市民運動会における地域貢献活動】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- A 今年度は地域・生徒・PTAの三者が多く参加してくださり、特に生徒は部活動単位で参加し、非常に熱心に作業をしてくれた。中でも生徒会の代表に、終わりの挨拶をしてくれるよう要請した。
- B 昨年度は2名の方々に美術作品の提供を願ったが、今年度はさらに2名の方々からの作品提供が実現でき、提供していただいた方々に学校にも来ていただき交流することができた。
- C 生徒の地域貢献活動に際して、地域の生徒受け入れに対する事前打ち合わせや、当日の中学生への説明などをしていただき、中学生が気持ちよく地域の方と活動できる体制ができるようになってきた。
- D 支援くださっているボランティアの方々には電話や文書だけでなく、家庭訪問や支援事業終了後のコミュニケーションこそが 大切であることを意識して活動に当たった。

# ■ 事業の成果

- A 地域の参加も定着しつつあり、学校環境整備に地域の力の必要性を感じていただいた。また学校サイドも地域の力のありがたさを強く認識しておられた。特に今年は生徒の参加が部活動単位であったためか非常に多く、しかも生徒代表の挨拶も地域の方々には突然でもあり、ほほえましくもあったのか大きな拍手で歓迎されたことも大きな成果であった。
- B 地域の2つの文化祭を契機に、数年前から生徒の作品を地域に展示していただき、その交流の結果学校内に地域の方々の美術作品を展示、今年が2年目となり今まで4名の方々の作品を校内に展示することができた。
- C 地域貢献を通して、生徒と地域の方々との会話もその場その場で生まれつつあり、中学生にとって地域との壁が取り払われたり、安心できる居場所として、地域も様々に動いていただけた。
- D その都度、ボランティアの方々がお感じになっていることをお聞きしたり、いろいろな場所で誠実な応対をしていこうと心がけてきた。そうした姿勢がボランティアの方々との「絆」となり、定着していただけているのではなかろうか。

# ■ 事業実施上の課題

- A 地域・PTA・学校(生徒)の三者がともに環境整備に汗を流すことを通して、 地域や学校の環境整備を継承し、地域と生徒やPTAが同じ作業をしながら交流 し、作業の仕方や技術を伝承することで、有意義な活動になると思っている。
- B 生徒たちに、地域には様々な技術や特技をもっておられる方々がおられることを 作品などを通しても知ってもらい、そうした交流を重ね、地域での存在感を認識 してもらいたい。今後は地域と連携しながら、地域人材が授業などにも関わって もらえる機会をつくっていき、生徒たちの意欲付けになれば幸いである。
- C 中学生になると急に、自分の生まれた町の行事に顔を出すことが少なくなり、地域との壁を益々広げてしまう傾向がある。地域もそうした中学生にそれほど理解があるとは思えない面も見られ、今後の大きな課題である。
- D ボランティアとの絆を深めるために、学校にボランティアの居場所を設置したり、 支援後に語り合えるようなコミュニケーションの場も必要である。



【夏の環境整備活動】

 $\prod$ 

# **■ 地域の人たちと共に、豊かな学びをめざして(城西小学校)**

■ 彦根市
■活動名
西中学校区支援地域本部・城西小学校
■ 関係する学校
城西小学校・城北小学校・西中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	60 人
開始年度	平成21年度

#### ■ 活動の概要

本校では、以前から地域とのつながりを大切にし、地域を学習の場にしたり、地域の方々にボランティアとして学習支援をお願いしたりして、子どもたちと地域の人・ものとの関わりをもてるようにしてきている。今年度は、特に子どもたちの学びを豊かなものにする学習支援・豊かな情操を育む読書支援・安全な登下校のための見守り活動の3つを柱として、地域コーディネーターと連携を図りながら活動を進めてきた。

#### ■ 特徴的な活動内容

# (1)世代間交流の充実

本校では、1・2年生児童を中心に、地域のお年寄りで作られている「子どもらと楽しもう会」の会員の方々との交流を進めている。新入児童の交通安全を意識させるための「キューピット人形渡し」や「七夕集会」「昔の遊び体験(生活科)」などにゲストティーチャーとして快く来てくださり、子どもたちへ昔からの行事や伝承遊びにかかわる話をしていただいている。

## (2) 地域学習の充実

本校の総合的な学習の時間では、地域に出かけ、地域の人とともに学ぶ活動を推進している。

3年生では、地域にある昔ながらの町並みを再現した「夢京橋キャッスルロード商店街」を題材に、その歴史やよさ、さらには地域の人々の思いを調査し、自分たちにできることはないかと学習を進めている。その際には、実際に商店街に出かけ、それぞれのお店にインタビューをさせていただいたり、商店街の役員の方にゲストティーチャーとして来ていただき、お話を聞いたりして、地域の方とともにこれからの町づくりについて考えを深めている。

4年生では、校区にある彦根城を題材に、彦根城のよさを観光客に伝えるちびっこガイドをしたり、城下町である校区のよさを追究したりする活動を行っている。特に校区の旧町名調べでは、コーディネーターの方に人選をしていただき、実際に各町を見学しながら、旧町名の由来や現在残っている様子についてガイドをしていただいた。

5年生では地域の環境学習に視点をおき、琵琶湖の環境学習や、校区にある彦根城の城山の植物調べ、芹川の環境調べなどに取り組んでいる。学習のなかでは、植物に詳しい方にゲストティーチャーとして来ていただき、実際の植物を見ながらその特徴やよさについて学びを深め、学んだことをもとに、さらに地域の方々に発信している。

6年生では、文化・伝統に視点をおき、地域の偉人である「井伊直弼公」を取り上げ、湖東焼き体験・茶道体験・華道体験・狂言体験等に取り組んでいる。地域にはこのような昔ながらの伝統文化に精通しておられる方々がたくさんおられ、様々な方にゲストティーチャーとしてお世話になっている。



【彦根城のよさを伝えるガイド】

# (3) 国際理解教育の推進

本校はユネスコスクールとして、国際理解教育の充実を図る取組を進めている。今年度は、昨年度姉妹校提携を結んだオーストラリア・アデレードにあるローズパーク・プライマリースクールの児童との交流会を行った。19 名の児童が3 日間本校に来校し、子どもたちと共に各学級で生活を送った。その際にはよりよい意思疎通が図れるように、コーディネーターの方に依頼をして、地域におられる英語に精通した方を探していただき、通訳をお願いした。

# ■ 実施に当たっての工夫

- ・地域コーディネーターが中心になって、「学校支援ボランティア通信」を発行していただき、広く地域に様々なボランティアの募集 を図ることができた。
- ・地域コーディネーターと学校職員が連絡会を開き、学校側として必要なボランティアについて意見交流を行った。それに基づいて、地域コーディネーターが地域に声をかけていただき、学習内容に合ったボランティアを集めていただくことができた。

## ■ 事業の成果

いろいろな活動で、地域の方をはじめ、保護者の方にも支援をいただいている。このことは、本校が重視している地域のなかで、 地域の人々と共に学ぶ活動の推進には、とても重要である。特に地域について専門的な知識や、地域に対する愛情・誇りといった面 は、やはり地域の方々本人から聞くことが効果的である。今後も、この地域との関係を継続できるようにしていきたい。

### ■ 事業実施上の課題

本校は、今までの積み重ねの関係で、各学年が支援していただく方と連絡をとり、打合せを行っている。そのため学校全体として、年間を通してどのような内容で、どのような人材が必要になるのか、また担任する学年が変わると、前担任に確認をしないとうまく分からない面が見られる。今までの地域のつながりがよく分かるように、年間を通しての支援計画表を作成する必要がある。

# ■ 縦割り班で地域から学ぼうとする郷土への愛着心を育てる『ふるさと探訪オリエンテーリング』(城北小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校区支援地域本部・城北小学校
■ 関係する学校
城北小学校・城西小学校・西中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	25 人
開始年度	平成21年度

# ■ 活動の概要

8:50~9:00 出発式

9:00~ ウォークラリー(各班並んで4分ごとに出発)

(船着き場→大洞弁財天→井伊神社→清涼寺→佐和山城跡)

12:10~終わりの式

児童会の縦割りグループ毎に、地図を参考にして訪ね、6年児童や地域・施設の方から説明を受けて学習する。その交通見守りや安全のサポートを行う。

# ■ 特徴的な活動内容

今年度は佐和山城跡や大洞弁財天などを縦割り班ごとにウォークラリーをしながら巡り歩き、総合的な学習の時間で学んできたことをもとに、6年生が下級生に説明する。全校を24 グループに分け、それぞれのグループにボランティアがついて活動を共にする。6年生は、事前に歴史ボランティアのお話を聞きながら、グループ毎に課題をもって調べ、下級生に対してどのように伝えるかを考え、準備を進めた。

当日は、縦割り班のリーダーとしてだけではなく、歴史学習のガイドとしての役割を担っており、歴史ボランティアのアドバイスをもとに、各班が工夫した資料や説明で、班のメンバー(1年生~5年生)に説明を行った。



【 説明をする6年生 】

# ■ 実施に当たっての工夫

事前に職員で下見を行い、危険箇所の点検やチェックポイントの確認を行った。その内容を、学校支援地域本部の地域コーディネーターに伝えた。当日は、学校支援地域本部の地域コーディネーターから、子どもたちの活動内容と注意事項をスタート前に説明していただき、教師とボランティアと連携して安全確保ができるようにした。

また、ボランティアには安全旗と安全キャップを渡し、子どもたちから見ても視覚的にわかるようにした。

## ■ 事業の成果

20 名以上の方々が参加していただき、子どもたちの安全への目配りが大変よくできた。ポイント毎での子どもの説明にボランティアの方も頷いたりメモをとったり、子どもに寄り添っていただいた。また、休憩場所では子どもと会話したり一緒に景色を眺めたりする中で自然と交流する姿が見られた。

学校から、見学場所までの安全配慮が十分行えた。ボランティアの人数がしっかり 確保できているため、子どもたちへの目配りや気配りが十分に行き届き、活動そのものがスムーズにいく大きな要因となった。



【 ボランティアと頂上で 】

# ■ 事業実施上の課題

グループ数も多く、時間差をつけて活動を行うため、活動時間や待ち時間などに大きな幅が生じてしまう。ガイド場所での班の回転がゆっくりしていたために、さらに時間の幅ができてしまった。職員の中にも時間の意識が足りなかった部分もあるが、ガイドポイントを絞ったり、終わりの時間をはっきりさせたりすることで、次の活動にスムーズに移行できるような配慮が必要であった。ボランティアの人数も多いので、コースを逆からのコースを設定することも可能である。逆コースを設定することで時間的な余裕が生まれる。

# ■ その他

子どもたちは、話を聴く姿勢や、ルールを守ることなど、よく頑張れていた。山登りであるので、虫さされの薬の準備なども必要であった。また、当日は天候がよかったので水分補給としてスポーツドリンクを準備しておき、チェックポイントで配った。これが子どもたちやボランティアにも大変好評であった。

 $\prod$ 

# ■ 学校と地域を結ぶSCHOOL SUPPORT (中央中学校)

■ 彦根市
■ 活動名
中央中学校区支援地域協議会・中央中学校
■ 関係する学校
中央中学校・平田小学校・金城小学校
平田幼稚園・金城幼稚園

コーディネーター数	3 人
ボランティア登録数	約40人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

本校は現在、比較的落ち着いて学校生活が送れるようになってきており、 学習や部活動にも意欲的に取り組む生徒が増えてきた。一方、情報化や生 活スタイルの変化など多様な要因により、人間関係構築力の脆弱化や生活 体験の不足などが問題になっており、また、低学力やいじめ、虐待など多 様な問題がある。子どもたちを健やかに育むためには、学校と地域、家庭 が連携を図り地域ぐるみで子育ての体制を整えることが大切である。

本事業は、今年度6年目を迎える。学校と地域が連携し、地域の多彩な人材を学校教育に活用することで、児童・生徒の学力向上や体験的な学習で成果をあげてきている。また、環境整備作業等を行うことで教育環境の充実が図られてきている。



【稲作体験学習の支援】

# ■ 特徴的な活動内容

- ・本校区は、人権教育地域ネット事業の指定のもと幼小中連携に取り組んでおり、本事業も金城小学校と平田 小学校、金城幼稚園、平田幼稚園とともに協議し、協力して事業を進めている。
- ・事業の充実を図るため、従前より地域住民へちらしを配布するなどの周知を図ってきた。
- ・昨年までの「いじめ対応型」の考え方を継承し、より充実した教育支援活動を目指している。
- ・コーディネーターと各校の担当者会を隔月に設定し各校地域の実態把握、事業の計画、予算配分などを話し合い、進捗状態や予算の執行状態、問題点などを話し合って進めている。

#### 【学校】

- ・体験的な学習を支援するためボランティアによる授業の補助やゲストティーチャー (総合的な学習の時間の職業講話の講師、美術科の作陶体験・和菓子デザイン・茶道体験)
- ・生徒会活動、部活動の支援(生徒会の花壇整備、美術部の額縁制作補助など) 活動を通して地域のボランティアの方々とふれあい、見守りをしていただいている。
- ・開かれた学校づくり・・・授業参観日を増やし、参観時間を2時間連続にする日を設定。フリー参観日を毎月初めに1週間設けるなど地域の方に中学校に来てもらいやすい環境をつくっている。
- ・PTAでは清掃活動を行いながら校内巡回をする見守り活動「愛のパトロール」を行っている。
- ・中央中生徒の作品展を中地区公民館で行う。小学校の作品も合わせて出品。

# 【地域】

- ・小学生下校時の交通指導の際、中学生に対しても同様に声かけや挨拶により、安心・安全の確保。
- ・「学び育ち教室(Learning Links (学びの絆) 教室)」

平成25年3月スタート。対象は学びたい気持ちはあるが機会に恵まれない生徒。

運営は滋賀大学生、聖泉大学生、県立大学生など。中地区公民館で月曜日 19:00~21:00 に開催している。

# ■ 実施に当たっての工夫

- ・学校側のニーズの掘り起こし
- ・ねらいに適したボランティアの確保のため本事業の認知度を高める広報活動・・幼・小・中の連携

#### ■ 事業の成果

- 〇コーディネーターと校区内の幼・小・中の担当者の定期的な調整会の設定で事業が充実してきている。
- 〇体験的な学習の支援の充実

(総合的な学習の時間の支援(中)、家庭科調理実習の講師・補助(中)、稲作体験学習の支援(小)、ふれあい 遠足の交通指導(小)、職業講話の講師、ウォークラリーの支援(小)、美術部の額縁制作補助など)

〇安心 ·安全パトロール

登下校時に子どもへの声かけ、および見守りをし、挨拶を交わせる児童・生徒が増えてきた。

#### 〇環境整備

(残土処理、除草作業、体験農園の手入れ、ウサギ小屋の修理、樹木の手入れ・剪定など)

#### ■ 事業実施上の課題

- 〇今後、さらに本事業に対する教職員の意識の向上を図ることとニーズの掘り起こし。 (授業や行事への計画的な導入)
- 〇地域の方々に本事業をもっと知ってもらい、協力者を増やし活性化を図っていく。
- 〇図書室の常時開館に向けての図書館ボランティアの常駐や、放課後学習会のための学習支援ボランティアの 人材確保等がボランティアの輪を広げることが課題である。

# ■ 心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり(平田小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
中央中学校区支援地域協議会・平田小学校
■ 関係する学校
平田小学校・金城小学校・中央中学校
平田幼稚園・金城幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	40 人
開始年度	平成23年度

# ■ 活動の概要

学校を中心として地域、保護者相互の連携を大切にし、心豊かな子を育むことをめざして本事業に取り組んでいる。本事業も5年目を迎えるが、学校の環境整備を中心としながらも、その年によって取り組み方も少しずつ変わってきている。今年度は下記のような活動を行った。

- ①校内外の環境整備(中庭、運動場の剪定作業、プール周辺ペンキ塗り、一人一鉢栽培用棚の整備、図書室整備)毎月第2水曜日
- ②朝読書の時間の読み聞かせ
- ③生活科、総合的な学習の時間、社会科のゲストティーチャー
- ④全校ふれあい遠足の引率、立哨指導
- ⑤音楽会の伴奏補助

# ■ 特徴的な活動内容

#### ①環境整備ボランティア

毎月第2水曜日の活動日には、総会で計画した活動を中心に2時間程度活動していただいている。今年度は前庭、中庭の剪定、プール周りのペンキ塗り、昇降口みざらのシート張り替え、一人一鉢の棚板の塗装等行っていただいた。昇降口みざらのシート張り替えについては、夏休み中に活動日を追加して張り替えをしてくださった。子どもたちが安全に過ごせるように細かな配慮をしてくださっている。



【昇降口みざらシート張り替え】

#### ②朝読書の読み聞かせ

毎週水曜日の朝、各学級に読み聞かせに来てくださっている。登録していただいているボランティアは現在7名である。図書室で 教職員と一緒に選んだ児童の興味関心に沿った絵本や、各ボランティアが子どもたちに伝えたい内容の絵本を読んでくださっている。 子どもたちの反応を直接見ながら、次週によかったところや反省点を交流しながら進めていただいている。

#### ③ゲストティーチャー

多才な方が多いため、各教科等で教えていただきたいことがあると、すぐに声をかけるようにしている。学習に応じてゲストティーチャーとして招き、学習に協力していただいている。

# ④全校ふれあい遠足の引率、立哨

今年度は残念ながら雨天のため中止となったが、引率や、立哨の募集をしたところ、22名の方に引き受けていただいた。ふれあい 遠足も5年目を迎え、ボランティアに担っていただく内容もよく理解していただいている。子どもたちとふれあっていただくよい機 会であるので、来年度も継続していきたい。

# ⑤音楽会の伴奏

単学級が増え、音楽会に向けた指導体制が組みにくくなったため、今年度よりピアノ伴奏のボランティアを募集した。保護者の方が2名登録してくださり、1年生と3年生の伴奏をしていただいた。

## ■ 実施に当たっての工夫

5月に学校支援地域本部事業の総会を開いている。年間を通して、どのような活動をするのかを年度初めに話し合っておくことで、いつ、どのような活動をするのか見通しをもつことができる。また、ボランティア同士の話し合いの中で、学校だけではなかなか改善できていない点などを指摘していただいている。学校全体を見ていただく機会にするとともに、各ボランティアの交流の場としても活用している。

平成25年度よりボランティアが外の活動を終えて、休憩していただく部屋(支援室)を用意した。そのまま外から入ることができ、 子どもたちも入れる部屋である。ボランティアにとって子どもたちとの交流もできるよい場になっている。

#### ■ 事業の成果

地域のいろいろな団体に所属されている方が多く、様々な場面で子どもたちにかかわってくださっている。特に気になる子たちの 地域での様子を知ることができ、次の指導に生かすことができる。また地域の方が学校に入っていろいろな活動をしてくださること が、子どもたちから保護者へと広がり、地域と保護者とのつながりもできてきている。活動の様子は学校だより等をとおして保護者 へお知らせしている。ボランティアへの連絡も、子ども達が直接お家を訪問してお手紙を渡す形であり、子どもたちが地域を知ると いうことにつながっている。

## ■ 事業実施上の課題

高齢化に伴い、学校支援地域本部事業に登録していただく方を増やしていくことが必要であるが、今年度地域の方への登録募集をかけたことで、5名の方に登録していただいた。登録をやめられた方が2名あったため3名増となった。各地域の回覧板を利用しての募集であったが、引き続き事業内容等を地域に知っていただく機会を設けていきたい。

# ■ 学校と地域の「豊かなつながり」(金城小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
中央中学校区支援地域協議会・金城小学校
■ 関係する学校
金城小学校・平田小学校・中央中学校
平田幼稚園・金城幼稚園

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	113 人
開始年度	平成23年度

# ■ 活動の概要

子どもと地域、学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの教育活動の充実と人権が守られ安全で安心な学校づくりをめざして本事業に取り組んできている。

本事業が開始される以前より、金城学区では、「健やか金城の会」が結成され、子どもたちの健全育成や防犯 見廻りなどで、地域の方々に学校を支援していただいてきた経緯がある。その活動を本事業につなげて、継続 発展して、今日まで取り組んできている。

# ■ 特徴的な活動内容

#### ①登下校の安全パトロールとあいさつ

金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、登下校の安全を見守り、「おはよう」「おかえり」と声をかけてくださっている。ボランティアの方々との関わりのなかで、挨拶ができる子どもの育成にもつなげている。また、登下校中の子どもの様子を逐一知らせていただき迅速な子どもの実態把握に役立てている。

# ②学習支援

例年、特別支援学級の大藪かぶらの栽培、3年生の昔のあそびと昔のくらしの学習について、ゲストティーチャーとして学習の支援をしていただいている。5年生の米づくりでは、田植えから稲刈りまで田んぼの管理を



【稲刈り体験】

していただき、収穫したお米を使った、おにぎりパーティに招待した。また、4年生の野外活動時(オリエンテーリング)の安全確保のためにも力を借りた。

# ③読み聞かせ、影絵

年間を通して、読み聞かせボランティアの方に、水〜金曜日に絵本の読み聞かせを、10月の全校集会では影絵を行っていただいている。豊かな情操の育成につなげるとともに、11月には人権週間にちなんだ絵本を選んでいただき、子どもたちの人権意識の向上といじめ防止に役立てている。

#### ④学習環境の整備

学校花壇の世話、校庭の樹木の剪定を毎年実施していただいている。本年度は、教材園周囲のレンガ積みや図工室作業机の天板の張り替えを行っていただくなど、子どもたちが学習しやすい環境整備に取り組んでもらっている。

# ■ 実施に当たっての工夫

毎月、第3水曜日に定例会を開催し、活動内容の計画と確認を行っている。また、活動内容を学校通信「金城小だより」やボランティアの活動の様子の写真掲示を通して、子どもたちや保護者に伝えるようにしている。ボランティアの方々へ、6年生児童が暑中見舞いのはがきを出したり、PTA行事とタイアップして5、6年生児童が感謝の気持ちをメッセージカードで伝えたりしている。また、PTAとしても音楽会やもちつき大会にボランティアの方を招待し、日頃の活動に対する感謝の意を表している。



【PTA行事への招待】

子どもの様子で気になることがあれば、ボランティアの方からすぐに連絡をいただいた。互いに連携をとることで、校内では気づかない子どもの情報を得て、児童理解と指導に役立てることができた。

また、子どもたちは、地域のさまざまな人たちによって守り育てられていることを感じ取っている。活動を通して、人の温かさや親切に対して感謝する心を育てるひとつのよい機会とすることができている。

# ■ 事業実施上の課題

■ 事業の成果

本事業の取組が、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知されていないことが課題である。今後も、 取組の広報活動を行っていく必要がある。そのことを通して、ボランティアの方のやりがいを高めるとともに、 子どもたちが、さまざまな人に支えられ大切にされていることに気づいていくようにしたい。

また、子どもたちとボランティアの方のつながりをより一層深めていく取組を行うことも課題である。子どもたちが、ボランティアの方に気軽に話すことができ、悩みごとを聞いてもらえる関係を築くことができれば、いじめ防止対策のひとつの手だてとなると考える。

# ■ 彦根南サポートオフィス5年目の取り組み ~継続は力~(南中学校)

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・南中学校
■ 関係する学校
南中学校・城南小学校・城陽小学校・若葉小学校・亀山小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	13 人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

今年で事業に取り組んで5年目を迎える。校区内の中学校と4小学校の各地域支援コーディネーターとご担当の先生方で定期的に会議を持ち、情報交換と運営について話し合っている。また地域への啓発とボランティアの人材確保を目的とした「ボランティア便り」を発行し、保護者への配布と地域回覧を行っている。

中学校においては、①放課後学習支援②環境整備③家庭科ミシン学習支援を中心に活動を行っている。

# ■ 特徴的な活動内容

#### ①放課後学習支援

毎週水曜日の放課後1時間、「水曜ゼミ」の名で3年生を対象に数学・英語・漢字の基礎プリントの学習をしている。昨年まで県立 大学の学生にお手伝いいただいていたが、今年は就活や講義の時間の関係で十分な協力が得られていない。

#### 2環境整備

今年度は夏に校舎正面に作られたグリーンカーテンのパイプの撤去作業を実施した。生徒の地域貢献活動と合わせて、保護者8名と生徒20名が集まって作業を行った。次年度のグリーンカーテン設置を考え、パイプと金具・ネットをグループ分けし、中庭の倉庫まで運搬していただいた。 ③家庭科学習支援

昨年の3学期に担当の先生からの依頼で行ったミシン実習の補助を、今年度も継続して支援の 予定をしている。昨年は延べ10日間、授業時間20時間を超えたが、必ずボランティアの方が授業に入ってくださり、製作をスムーズに進めることができた。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・環境整備のグリーンカーテンのパイプ撤去については、高所での作業を行う危険があるため、 大人の人数を増やしたいということから、PTAの本部役員会の折にお願いに行き、快くご協力の返事をいただくことができた。
- ・「ボランティア便り」発行に関して、担当の先生方と連絡を取り合い、できる限り各小学校へ 出掛けて、活動の様子を直接取材させていただくようにしている。



【 環境整備 】

# ■ 事業の成果

- ・グリーンカーテンの最初のパイプ設置に関して、昨年彦根中学校の「緑のカーテン作り」で活躍されたボランティアの方々に来校いただき、暑い中、機材など全てを持ち込んで、校区を越えてお手伝いをしていただいた。また、リーダーの方にはパイプの撤去に関しても、事前の相談・当日の指導もしていただき、次年度より自校区内で自立して活動できるよう、たくさんのアドバイズをいただくことができた。
- ・保護者の方を中心にボランティアの呼びかけをその都度行っているが、毎回熱心に参加してくださる方が増え、活動の大きな力となっている。
- ・家庭科学習支援に関しては、保護者ボランティアが声掛けくださった近所の方も参加してくださり、地域の方にご協力いただくことができた。

#### ■ 事業実施上の課題

- ・放課後学習支援のボランティア確保に苦労している。中学生の学習支援ということで 難しく思われ、保護者からの協力がなかなか得られない。また学生も忙しく、長期間 にわたって協力を得ることの難しさがある。
- ・校区が広く、中学校に対しては地域の意識が薄いように感じられる。また、協議会も コーディネーターと担当の先生のみで運営しているため、地域の団体の方とのつなが りが薄く、連携を図ることができていない。
- ・保護者が中心のボランティアのため、お子さんの卒業と共に終わってしまい、人数が増えなかったり、減少してしまったり、せっかく継続してきた活動が止まってしまっている。保護者が子どもの卒業後、地域住民になられた時もチャンスと考え、ボランティアの継続をお願いしていかなければならない。



【 放課後学習支援 】

# ■ 学校と地域で作る子どもの学び (城南小学校)

	彦根市
	活動名
彦	5根南サポートオフィス・城南小学校
	関係する学校
功	ば南小学校・城陽小学校・若葉小学校・亀山小学校
南	可中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	86 人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

本校では、主に読書ボランティア、スクールガード(子ども見守り)、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動の充実を図っている。

### ■ 特徴的な活動内容

#### O読書ボランティア

- 朝のさわやかタイムの読み語り
- 図書室の本の整理・環境づくり

#### 〇スクールガード活動

- ・登下校時の通学路の見回り(安全指導)
- 下校時の公園等の見回り(不審者対応)





【地域の方に遺跡の話を聞く】

【地域の方とさつまいも堀り】

#### 〇学習支援

特別支援学級

「絆を深めよう」 「花を育てよう」 「地域に方とふれ合おう」

- ・1年 生活科 「つながりあおう園児と仲良く」「おじいちゃん、おばあちゃんとなかよく」
- ・2年 生活科 「生き物とふれ合おう、育てよう」 【写真右】 「町の人と仲よしになろう」
- ・3年 社会科 「もっと知りたい!大好きな私の町」 【写真左】 「地域の伝統文化を未来に伝えよう」
- ・4年 社会科・総合的な学習の時間 「地域の住みよい町かんきょう」 「いつまでも住み続けたいやさしい町づくり」
- ・5年 社会科・理科・総合的な学習の時間

「米作りから見える食環境」 「大切なびわ湖を守り続けよう」 「地域の安全マップを作ろう」

・6年 社会科・総合的な学習の時間 「平和な世界をめざして」 「今の私、未来のわたし」

- ・全校 行事 「ふるさとのよさ再発見 城南学区の今と昔」
- ・委員会 「花いっぱいの住みよい町づくり」

# ■ 実施に当たっての工夫

どの活動においても支援してくださる地域の方や団体との事前の打ち合わせを行い、学校の要望や地域の方の思いを双方で出し合い意思疎通を図ることで、活動を値打ちのあるものにしていけるよう心がけた。

# ■ 事業の成果

# O読書ボランティア

朝のさわやかタイムでは、週2回割当ての学級へ読み語りに来ていただいた。紙芝居や絵本など、発達段階に合わせた内容のものを選んでいただいている。また、環境づくりとして、本の整理や掲示物の工夫などを心がけ、子どもたちが少しでも本に親しめるように心がけてもらっている。とりわけ掲示物は、季節に合わせた内容のものを作成いただき、子どもたちも毎回楽しみにしている。今年の生活アンケートからも、読書を好む子の数が今年はさらに増えていることがわかった。

#### 〇スクールガード活動

毎日登下校時に見守り活動をしていただいており、子どもたちは安心して学校生活を送ることができている。

# ○学習支援

学校と地域コーディネーターが連絡をとりあい、学習内容に合わせて支援者を探していただいたり進め方を相談したりして活動を 進めている。地域の方にさつまいもや花の育て方を教わり、一緒に苗植えをしてもらったり、地域の施設や遺跡、伝統行事について 丁寧に教わったり、戦争時の地域や学校の様子を説明してもらったりと、地域の方とふれあい、地域への愛着の心を育む大切な活動 になっている。

# ■ 事業実施上の課題

学校支援地域本部の活動は、学校にも地域にも定着しつつあり、学習の時期が近づくと地域の方から声をかけていただくこともある。学習内容や活動は年間計画にも位置づけているが、その分、新しい内容や活動を取り入れるなどの活性化が図りにくい面がある。

# **■ つなげよう 子どもを育む 地域の力 ~ゲストティーチャーから実感を伴った学習を~(城陽小学校)**

	彦根市
	活動名
ß	き根南サポートオフィス・城陽小学校
	関係する学校
ij	成陽小学校・城南小学校・若葉小学校・亀山小学校
Ē	有中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	75 人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方々や、専門的な技術をもった方々から、ご指導していただく機会を積極的に設け、地域の方とのふれあいを深めるとともに、本事業による活動を本校の教育活動の特色の一つとして位置づけている。ゲストティーチャーとして子どもの学習に携わっていただいき、図書ボランティア、水泳の指導、夏休みの算数教室、スキー教室、校外学習の引率補助などにもご協力いただいている。

#### ■ 特徴的な活動内容

# 〇第2学年 生活科

「どきどきわくわく まちたんけん」

校区のまちたんけんの学習の時には、地域からボランティアを募り、道中の交通安全や目的地での活動の補助をしていただいた。

イチゴ農家の方からはイチゴを育てる上での苦労や工夫についてお話を伺ったり、できたてのイチゴをいただいたりした。老人福祉施設では入所されているお年寄りと一緒にゲームをしたりして、地域の人と交流を深めることができた。保育園を訪れたときには、園児と交流することができた。県立大学では、学生と一緒に水生生物の観察をしてふれ合うことができた。地域の様々な方とのふれあいを通して、自分の住む地域を見つめ直す機会とすることができた。

# 〇第6学年 総合的な学習の時間

「みんなと共に生きる町~さぐろう城陽未来遺産~」

地域の歴史や自然を調べる学習の中で、子どもたちが抱いた疑問について 地域の方からお話を伺った。また、貴重な写真や資料等を効果的に使って、 自分たちの住むふるさとの各町や寺院・神社、犬上川、荒神山等の歴史に ついて説明していただいた。活動を通して、先人の思いや自分たちの住む 地域を大切にしようとする人々の思いを考えることができた。

また、城陽子どもまつりでは、地域の方を招いて自分たちの学習の成果を 発表し、さらに学びを深めることができた。



【どきどきわくわく まちたんけん】



【さぐろう城陽未来遺産】

# 〇全学年 夏休み算数科補充学習

毎年夏休みには、希望者を対象に、3日間算数科の補充学習を行っているが、この時に地域の方にゲストティーチャーとして採点や、個別指導に当たっていただいている。また、近くの県立大学の学生もボランティアでゲストティーチャーをお願いし、補充学習の成果を高めている。

# ■ 実施に当たっての工夫

効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打ち合わせを行った。また、事後の学習の様子を知らせ、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。

また、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ発信をしている。

# ■ 事業の成果

本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話いただくことで、子どもたちは実感を伴った 学習をすることができた。また、地域の方々が子どもの指導のために何度か学校を訪問していただくことで、 学校とのつながりをより深めることができた。

# ■ 事業実施上の課題

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

# **■ 共に手をとり 共に高まり合う学校支援をめざして (若葉小学校)**

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・若葉小学校
■ 関係する学校
若葉小学校・城南小学校・城陽小学校・亀山小学校
南中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	43 人
開始年度	平成23年度

# ■ 活動の概要

本校では、主に以下のような学校支援の活動をしていただいている。

- ① 子どもたちが読書に対して興味関心をもつための読み聞かせ活動やオープンスペースにある図書室の環境整理。
- ② 学年栽培活動等の支援を行う花壇・畑の整備活動。
- ③ 昔の遊び(生活科)やミシン・調理実習補助(家庭科)、町探検(社会科)等の支援を行う学習支援活動。
- ④ 校地内の除草作業、枝打ち等の環境整備。子どもたちの登下校を見守るための、スクールガードの皆さんによる安全指導。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・本校では読書活動を推進している。その学習活動の支えとなっているのが、読書ボランティアによる読み聞かせと図書ボランティアによる図書室の整理である。 読書ボランティアは、毎週金曜日朝自習の時間を中心に活動いただいている。今年度よりボランティアの数が7人に増え、さらに活動的に取り組んでいただいている。1年生から6年生まで、それぞれの発達段階のあった本を、毎回読み聞かせしていただき、どの学年の子どもたちも食い入るように話を聞いている。図書ボランティアは、図書室の整理整頓を週2回していただいている。本を指定の場所に返却したり、傷んだ図書を修復したりする等、環境整備に尽力いただいている。
- ・学習支援については、ミシンや調理実習、畑の土おこしから大根の栽培等、学習支援の場が広がった。何回か来ていただくことで、子ども達との親睦が深まり、来ていただいている方もより積極的に支援に取り組む姿が見られた。



【6年生ミシンの実習支援】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・これまでいくつかの学校支援活動はしていただいていたが、支援をいただいている 方同士の横のつながりがないままであった。また、ボランティアの数についても、 しっかりと把握できていなかった。そこで今年度は、地域コーディネーターを中心 とした組織作りを行い、ボランティアについても、学区全戸に募集用紙を配布し、 その数を把握することにした。
- ・組織作りにあたっては、何度かリーダーになる方に集まっていただき、話し合いを 深めた。組織を再構築し各活動を明確化する等有意義な話し合いがなされた。また、 ボランティアについては「チームわかバンク」と銘打ち、より多くの方に参加して いただく土台作りができた。
- ・学校内に、「チームわかバンク」の教室を設置し、自由に学校に来ていただき子ど もたちを見守っていただいたり、学習支援に参画していただいたりするようにした。



【「チームわかバンク」の教室での話し合い】

「チームわかバンク」の教室には、地域の方の手作りの作品を展示し、子ども達にとっても憩いの場となるよう工夫いただいた。

# ■ 事業の成果

・今年度は学校支援本部事業の組織作りを行い、各活動のチーフを決定し、チーフによる話し合いの場も計画的に設けることができた。その結果、それぞれがどんな活動を行い、どんなところに課題があるか等情報交換ができ横とのつながりができた。また、今後の方向性等も話し合えたことも有意義であった。組織作りとともにボランティアを募集したことでその数も増加した。学校側も、学習支援等の依頼を一本化できたことで、連携がスムーズとなり学校支援活動がより効果的に実施できるようになった。

#### ■ 事業実施上の課題

・本校は開校以来 20 年目の新しい学校であり、新興住宅が多い等の事情もあって、地域や保護者の教育力が弱い。そのため、本事業のねらいを理解してもらいボランティアの人数を増やしていくこと、特に若い世代の方に積極的に学校支援に関わってもらうよう今後進めていく必要がある。

# ■その他

・同じ中学校内でも、学区ごとに学校支援に対する意識や取組に差が見られる。互いの実践を日頃から交流し、中学校ブロック全体が盛り上がっていけるよう、さらに連携を深めていければと思う。

# ■ 地域が支える教育活動の充実 (亀山小学校)

	彦根市	
	活動名	
盾	き根南サポートオフィス・亀山小学校	
■ 関係する学校		
	有中学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

学校地域支援本部地域コーディネーターに、様々な地域学習や教育活動の支援に必要なボランティアを見つけ依頼していただいている。教員のニーズに応じた人材を見つけていただき、教育活動の充実につながっている。

# ■ 特徴的な活動内容

## ①ふるさと学習への支援

本校の子どもたちに、「亀山大好き」というふるさとへの思いをもたせるために地域 学習の充実を図っている。

本年度は5月 13 日に、全校で「茂賀山学習」を行った。学校の裏側にある小さな山で、 学習や遊びなどで子どもたちが登り、利用している茂賀山の歴史について、地域コーディ ネーターやボランティアから話を聞いた。いつも慣れ親しんでいる山の話に子どもたちは 興味津々に耳を傾けていた。

3年の地域学習や2年の生活科などでも、ボランティアの方々から地域のことについて詳しく話を聞き、ふるさとへの思いを深めることができている。

年度末には、亀山っこ発表会を学校で開催し、お世話になったボランティアの方々を招き、1年間のふるさと学習の成果を披露している。

# ②家庭科学習への支援

家庭科のミシン学習や調理実習に、ボランティアをお願いした。子ども一人一人へ の支援が充実し、満足のいく活動となっている。

#### ③学力向上への支援

夏休みに、3年生以上の希望者を対象に学力補充教室 (算数教室) を開催している。 今年度は、地域の教員OB10名に入っていただき、個別指導に当たっていただいた。 ④クラブ活動支援



【ふるさと学習・地域学習への支援】



【クラブ活動支援・華道】

クラブ活動への支援として、茶道や華道について教えていただいている。ボランティアの方の熱心な指導のもと子どもたちは生き 生きと活動に取り組むことができている。

# ■ 実施に当たっての工夫

- ・本校では、地域コーディネーターを退職教員にお願いしている。学校の事情に精通し、ニーズについてもよく理解していただいている。
- ・担当教職員と地域コーディネーターとの打合せを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらうかなどについて十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。
- ・毎週金曜日の放課後に定期的に地域コーディネーターに来校していただき、学校との連絡がスムーズに行えるようにしている。
- ・校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの支援の様子を子どもや保護者、地域に発信している。

#### ■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターに学校のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。
- ・小規模校であるため、教職員の数も限られているが、ボランティアのおかげで安全に行事を実施することができている。
- ・ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感する ことができた。
- ・地域とのつながりが希薄になりがちだが、支援を受けることで子どもたちは地域でもボランティアに挨拶をするなど、かかわりを 深めることができている。

## ■ 事業実施上の課題

- ・現在の地域コーディネーターには、大変よく動いていただいている。しかしながら、次年度は辞退される予定であり、今後同じように動いてくださる方が見つかるか心配である。
- ・地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待 したいところであるが、難しい面もある。

■ 地域と学校・生徒で創る地域活動・・・地	域の	お役に立てる彦中生	!(彦根中学校)
■ 彦根市 ■ 活動名		コーディネーター数	4 人
彦根中学校区支援地域協議会・彦根中学校		ボランティア登録数	32 人
■ 関係する学校 彦根中学校・高宮小学校・河瀬小学校		開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

#### ①緑のカーテンプロジェクト

昨年度から取り組み始め、2年目。3教室分のゴーヤのカーテンに取り組む。

#### ②学校行事などに参加・協力

地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集。

- ・長距離遠足の交通指導・給水活動など ・合唱コン、体育大会など大きな行事時の駐車場案内
- ・校地内の環境整備・・・葉刈り、除草作業など

#### ③地域貢献活動への参加協力

自治会長さんに中学生が参加できる行事を報告依頼。全校生徒に活動を案内し、ボランティアを募る。

#### ④ゲストティーチャーによる特別講義

・助産師による性教育(1年)・職場体験前のマナー講座(2年)・蘭の栽培講習(特別支援学級)

#### ■ 特徴的な活動内容

#### ☆緑のカーテンプロジェクト

取り組み2年目。「今年は、特選をねらおう!」を合い言葉に生徒と地域の方と力を合わせて取り組む。

5月上旬:3年生の学年集会で取り組み説明

近隣のビニールハウスで種まき・ポットに移植(ボランティア生徒19名・地域の方6名)

中旬:支柱立て・ネット張り・プランターに移植(ボランティア18名・地域の方20名)

中旬~ 生徒会環境委員による水やり。休日は、活動中の部活動による水やり

6月以降:地域コーディネーターによる追肥 夏休み : 部活動で水やりを分担

10月中旬: ゴーヤの撤去作業 (ボランティア20名・地域の方15名)

昨年以上に地域・学校・生徒が協力でき、今年度は特選を受賞した。

#### ☆地域貢献活動への参加

「地域にお役に立てる彦中生!」を目指して、地域貢献活動に積極的に参加できる生徒の育成に力を注いだ。

- (1) 年度初めに自治会長さんに年間行事やボランティア活動で中学生が参加できるものを報告依頼する。
- (2) 報告された活動・行事を生徒に知らせ、ボランティアを募る。
- (3)参加希望の生徒は申込用紙を提出する。
- (4) 希望者をまとめて活動団体に参加者名簿報告する。
- (5)参加要項を聞き、希望生徒に配布する。
- (6)参加生徒は、活動後に報告書を提出する。
- (7) 年度末に活動参加の多い生徒を表彰する。

#### ■ 事業の成果

- ・緑のカーテンプロジェクトについては2年目でもあり、スムーズに取り組む ことができた。また、移植や水やり、撤去作業など委員会や部活動、ボラン ティアなど多くの生徒の参加が得られた。
- ティアなど多くの生徒の参加が得られた。 ・本校の伝統行事である長距離遠足については、地域の理解も深まり支援して



【ゴーヤの栽培】

くださる地域の方々も多く、当日中学生に声をかけてくださるなど学校支援の輪も広がってきている。また、生徒たちも地域に守られていることを実感できた。

- ・生徒の地域行事への積極的な参加により地域の中学生の見方が変わり、がんばる中学生の姿を肯定的に見ていただけるようになった。一部の地域行事においては、中学生の協力が不可欠となっているものもあり、地域の一員として活動の場が広がってきている。中学生自身も成就感や自己存在感を感じることにつながっていると思われる。
- ・ゲストティーチャーについては、小学校・中学校ともに来ていただいている人もあり、生徒や小中でのつながりを知った上での講話をしていただけるのでよかった。

- ・地域ボランティアの方々の仕事との関係から日程調整が難しい面がある。
- ・まだまだ、担当者と地域コーディネーター中心の活動になっており、全職員の関心事にはなっていない。
- ・学習支援をしていただける人を探していたが、なかなか地域の方で協力していただける人が見つからない。中学校の学習となると壁を感じられるようである。
- ・地域にはさまざまな技術や職種の支援者がおられることがわかり、今後、さらなる事業の充実が図れるような取り組みを進めていきたい。

### ■ 町の先生は遊び名人 ~わくわく交流会でいっしょに遊ぼう~ (高宮小学校)

	彦根市
	活動名
彦	5根中学校区支援地域協議会・高宮小学校
	関係する学校
喜	宮小学校・河瀬小学校・彦根中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	80人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

- 〇地域の高齢者の会「和楽会」の方と高宮文化協会の方、合わせて約50人に学校へ来ていただき、昔の遊びなど、様々な遊びを教えていただいたり、一緒に体験したりしている。
- 〇今年度も6月19日と11月17日の2日、13:30~14:15の時間帯に来ていただいた。遊びの内容は、彦根・高宮カルタ、カロム、 将棋、すごろく、トランプ、お手玉・めんこ、けん玉・おはじき、こま、あやとり、石けり、ゴムとび、カンぽっくり、まりつき、 紙飛行機、おどって遊ぼう の15の遊びである。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ○「おどって遊ぼう」では、「地域のおどり『高宮音頭』を子どもたちに伝えたい。これ からも残していきたい。」という高宮文化協会の方の強い思いから、高宮音頭を取り上 げていただいた。振り付けをていねいに教えてもらい、みんなで心を一つにしておど ることができた。
- ○3年生の総合的な学習「たんけん!発見!わたしたちの高宮」では、約20年前に作成された高宮カルタを利用して、高宮の歴史を学ぶきっかけをつくっている。そのカルタをわくわく交流会でも取り上げ、遊びを通して地域に親しむ活動としている。子どもたちが札を取った後に、読み札にまつわる話を聞きながら進めていただいた。子どもたちは、何気なく読んでいた高宮の場所で「昔こんなことがあったのか」「だからこういう名前がついているのか」等再発見しながら、カルタを楽しむことができた。



【紙飛行機づくり】

○「紙飛行機」では、「折り方一覧」のプリントを全員分用意してきて、ていねいに折り方 を教えてくださった。誰の紙飛行機が一番よく飛ぶか、長く飛ぶか、きれいに飛ぶか等判定をしてくださったり、うまく飛ばない 時は改めて作り方を教えてくださったりした。そして、子どもたちは自分が満足する紙飛行機を完成させ、大事に教室に持ち帰り、 他の子に飛ばして見せる姿も見られた。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- 〇交流会終了後、各教室で一人ひとりが活動を振り返り、一緒に活動してくださった方へのお礼状を書いている。各クラス数点の手紙をまとめてお渡しし、手紙を通しての交流も図っている。
- 〇交流会の進行や準備、後片付けはわくわく委員会の子どもたちが行った。控え室となった会議室からそれぞれの活動場所への案内、 交流会終了後に再び会議室に案内して、お茶を出しお礼の気持ちを伝えるところまでを子どもたちが行った。

#### ■ 事業の成果

- 〇カロム以外は人数の制限がないため、子どもたちは自分がやりたい遊びを自由に選んで、異学年の友だち・町の先生と一緒に楽しい時間を過ごすことができた。その遊びが上手にできるこつを教えていただいたり、町の先生と直接対戦したりして、交流会終了後は、とても満足そうに各教室に戻って来る子どもたちの姿が見られた。
- 〇和楽会とは年2回のわくわく交流会の他に、町の先生として来校いただき、3年生が「昔の遊びやおやつ作り」を教えていただく機会をもったり、6年生が「三世代交流 ~餅つき大会~」で交流したりしている。ふれあいが日常化することにより、子どもたちと和楽会会員との間には、親和な関係が築かれてきている。



【和楽会・あやとり】

- 〇町の先生による月2回の読み聞かせ、安全ボランティアによる毎日の登下校時の見守りをはじめとして、本校の子どもたちは地域 の方々の大きな支えをいただいて、日々生活をしている。わくわく交流会に来てくださった人をはじめ地域の方に対する「ありが とうございます」の気持ちが、学校以外の場でも自然と表れ、伝えられるように、活動を継続していく。
- 〇学校から和楽会の役員へ「こんな内容でお話しをしてほしい。こんなことで協力をしてほしい。」と伝えると、喜んで手伝いをしていただいている状況である。今後、6年生の「平和学習」で戦争体験の話を聞かせていただく等、新しい分野でも協力をお願いしていく。
- ○教師一人ひとりがこの事業の意義を理解し、自らがコーディネートできる力をもつことが必要である。そのためには、教師が進んで地域に出かけ、先ずは地域を知り、情報を収集・教材化していかなければならない。

### ■ 地域の力を学校に〜地域に根ざす豊かな体験〜 (河瀬小学校)

	彦根市
	活動名
彦	を根中学校区支援地域協議会・河瀬小学校
	関係する学校
35	T.插小学校。 享宜小学校。 彦根山学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	78 人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

子どもたちが、地域の先生から体験を通して学んだ学びを地域へ還元することで、よりよい地域・学校づくりを目指して、「地域の力を学校に~地域に根ざす豊かな体験~」を合言葉に、数年来、学校支援地域本部事業を展開している。

本年度も、5月の「田植え体験」「緑のカーテン作り体験」からはじまり、年間を通じて様々な学校の体験教育活動に支援をしていただいた。毎日の交通指導にも各地域で多くのボランティアに児童が安全に登下校できるよう支援していただいている。

本校で実施しているどの活動も子どもたちの学習活動を充実させることに役立っている。ご協力いただく方々の専門性を活かした活動や、学校職員が時間的な制約があってなかなか取り組めないような活動への支援が多く、学校教育の助けにもなっている。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 「まちたんけん」

3年生の社会科「わたしのまち みんなのまち」で東西南北、4方向に4回、学校のまわりの町探検に出かけている。それぞれの地域で、歴史や地域のよさ、特徴的な地域の取組などをボランティアの方にお話ししていただいた。特別支援学級の児童も地域の学習として町に出かけた時には、お話を聞かせていただいた。

実際にその場所で、地域に住み、地域を守り育てている方からお話を聞くことは、自分 たちの地域を知るだけでなく、自慢や誇りに思えるよい活動となった。



【 3年生 まちたんけん

### 「学習支援」

本年度は、書写の学習支援に数名の方が登録してくださり、毛筆の指導を中心に、年間を通して授業の支援に来てくださっている。また、音楽科の合奏、合唱の指導や家庭科のミシンの指導など実技面での支援にも来ていただいた。個別に、すぐ近くで、または手を取ってふれあいながらの指導を受けられた。専門的な知識や技能をもった方の指導は、子どもたちの学習の意欲の向上にもつながっている。

### 「米作り 緑のカーテン」

5年生の「米作り」4年生の「緑のカーテン作り」のそれぞれの取組も数年来続けている。「米作り」では、「田植え」「稲刈り」「脱穀」といった活動を指導、体験させていただいた。「緑のカーテン作り」では、一緒にゴーヤやヘチマの苗を植え、蔓が広がるようにする摘心の仕方を教えていただいた。

「米作り」「緑のカーテン作り」ともに、知識や技能、また、子どもたちが体験するためには道具や機械準備が必要となる。また、植えた後の長い生育期間には順調に育つように様々な支援もしていただき、活動が成り立っている。



5年生 米作り 稲刈り

#### ■ 実施に当たっての工夫

毎年続けて取り組んでいる活動については、ボランティアの方も続けて取り組んでくださっている方が多く、前年の成果や課題を 踏まえながら、少しずつ変化を加えている。米作りでは、本年度新たにかかしの制作にも取り組んだ。また、まちたんけんのお話は、 地域コーディネーターの方に連絡を取り、人材を紹介していただいた。

#### ■ 事業の成果

ボランティアの方は、毎年続けて、また、年間を通して何度も指導に来てくださることで子どもたちも慣れ親しみ、気軽に話しかけアドバイスをもらえるよい関係となっている。それぞれの得意な分野で保護者の方のみならず、地域の方が身近な先生となって教えてくださり、子どもたちはより興味を持ち、個別に指導を受ける機会も増え学習の成果が上がっている。

#### ■ 事業実施上の課題

数年前より、河瀬学区全戸に「各種学校支援ボランティア」の募集をかけ、人材バンクの充実を図っている。本年度も保護者の方のみでなく、地域の方数名が新たに登録してくださり、授業の支援等に活躍していただいている。本年度は3年生の地域探検で地域コーディネーターを通じて人材の紹介をしていただいた。しかし、ボランティアの固定化や高齢化は大きな課題で、その確保は喫緊の課題である。今までのような地域コーディネーター個人の人脈だけで確保するのではなく、公民館などの社会教育施設やブロック内の小中学校の連携・連絡によるネットワークの構築・拡大がその糸口になるのではないかと考える。

### ■ 鳥居本学校サポートオフィスの取り組み (鳥居本中学校)

■ 彦根市
■ 活動名
鳥居本中学校区支援地域協議会・鳥居本中学校
■ 関係する学校
鳥居本中学校・鳥居本小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	200 人
開始年度	平成21年度

#### ■ 活動の概要

#### 〇学習支援

実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校していただき授業支援を行った。今年度は、技術・家庭科(家庭)、保健体育科、美術科、理科、総合的な学習の時間、道徳、朝読書、夏・冬休みの補充学習の支援で実施した。

☆1・2年家庭科(1・2年ゆかたの着付け、2年和菓子づくり、2年郷土料理について:3学期実施予定) ☆3年理科(天体:3学期実施予定)☆3年人権学習(部落問題学習) ☆各学年絵本の読み聞かせ ☆総合的な学習の時間(3年卒業研究)

☆3年美術(茶道体験:1月実施予定) ☆夏・冬休みの補充学習

☆1~3年保健体育科(剣道:1月実施予定)

#### ○環境支援

☆グラウンドの芝生の草刈り作業や水やり

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 〇男鬼森林学習

学区有林(財産区共有山林)の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを 実際に体験することで、森林の保全と有効な活用との調和について理解する。

☆1年・・・植樹 2年・・・間伐 3年・・・活用する

#### 〇地域との連携

地域の行事に生徒が参加し、地域活性化の一翼を担っている。

☆宿場祭り・・・鳥中ソーランの披露

☆学区の運動会・・・吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏・・中学生が役員として活動

☆学区の文化祭・・・鳥中ソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表、卒業研究の発表

#### Oさんあかレンジャー

鳥居本中学校のキャラクターとして3年前に生徒より考案された、さんあかレンジャーが、地域の支援により今年着ぐるみが完成し、さっそくあいさつ運動で小学校に行って活躍している。

#### ■ 実施に当たっての工夫

鳥居本地区地域教育協議会を年3回持つことにし、1学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。2学期には中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。また、3学期には年度末総括を行い、次年度につないでいく。

#### ■ 事業の成果

- 〇地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらうということが、生徒の励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。
- 〇学校支援地域本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老壮会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待もかねた取り組みや、3学期には、1年生のお年寄り交流活動を行う予定である。
- 〇今年度も、校外へ出て、茶道体験をする(1月実施予定)ことが大きな収穫であった。地域の教育力を活用できた点が評価できる。
- ○3年前より、補充学習に学習支援として地域の方が教えに来てくださっている。3年前は、冬休みだけであったが、一昨年度から 夏休みと冬休みに来ていただくことができた。このことは大きな収穫と考えている。地域の人材を活用できたということ、地域の 方と生徒とのつながりができたということなどの観点からもよかったと考えている。
- ○地域行事への中学生の参加が、地域の活性化につながっている。

#### ■ 事業実施上の課題

〇学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。



【宿場祭り・鳥中ソーラン】



【さんあかレンジャー・あいさつ運動】

## ■ 「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援 (鳥居本小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
鳥居本中学校区支援地域協議会・鳥居本小学校
■ 関係する学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成21年度

#### ■ 活動の概要

本校では、教育活動を四つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜び」があり、地域の人・もの・自然を教材にした学習活動を行っている。

1・2年生の生活科のまち探検、自然や生き物との触れ合い、3年生社会科の地域探検、地場産業、3年生以上の総合的な学習の時間の活動、5年生のたんぼのこ体験事業、全校縦割り活動で行うウォークラリー、読書ボランティアによる読み聞かせ(通年)など様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 〇1・2年 生活科 「川遊び」

鳥居本小学校・鳥居本中学校

例年5月に1・2年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行っており、本年度も実施した。青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々が、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりや、当日の児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬まで配慮してくださる。多年度に渡り地域の協力を得て実施している学習であり、児童が鳥居本の豊かな自然や人々の温かな思いに触れる機会として定着している。



【生活科「川遊び」】

#### 〇3年 総合 「鳥居本お仕事名人」

10月・11月、3年生児童が、もの作りをしておられる工場や工房に見学に行く活動を実施した。醤油を製造・販売されている仕事、消火栓を製造・販売されている仕事、また地域の森林生産組合の組合長さんから話を伺う活動を通して、この道一筋でがんばっておられる地域の方の生き方に触れ、その素晴らしさに気づくことができた。

#### 〇4年 総合 「矢倉川調査隊」

6月、鳥居本在住の彦根市環境保全員さん3名の協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。きれいな川に棲む水生生物が多く見つかり、身近な川に対する見方を新たにする児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かり、児童はその思いをより強くした。



【総合「鳥居本お仕事名人」】

#### 〇5年 総合 「米づくり」

小野町在住の方の支援を得て、5年生は米づくりを行った。支援者の計らいで環境こだわり米「みずかがみ」を育てることとなり、 児童は地域の産業である稲作を体験するとともに、環境への配慮についても考える機会となった。また、自然の恵みや地域の方々の 尽力に感謝する気持ちをもつことができた。

### 〇6年 総合 「ふるさと鳥居本」

5月、6年生は地域の方から鳥居本の歴史について話を聞いた。中山道を中心に歴史的建造物がたくさんあることを改めて知る児童も多く、地域に対する新たな見方ができるようになった。

#### ■ 実施に当たっての工夫

活動の事前に担任が協力してくださる地域の方を訪ね、綿密に打合せを行っている。地域の方の思いを大切にしながら、学習のねらいを担任から明確に伝えることが大切である。

### ■ 事業の成果

地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを深めることができた。

### ■ 事業実施上の課題

地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域の教材開発を行っていきたい。また、児童から地域への発信を充実し、より児童の主体的な学びを推進したい。

#### 全校園一致した学校支援の広報活動 (稲枝中学校)

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝中学校
■ 関係する学校
稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ふたば保育園・ことぶき保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	8 人
開始年度	平成20年度

#### ■ 活動の概要

稲枝中学校区支援地域本部事業は、8年目になり各校園の支援活動は充実・深化してきているところである。支援組織においても 連合自治会をはじめ各種団体で組織する「学校支援協議会」が中心となり、学校・園支援活動の輪が確立している。 現在 96 名の登録ボ ランティアの皆さんが、学校や園の要望に沿いながら、「読み聞かせ」をはじめ、登下校見守り、校地内の環境整備、地域学習の講師、 野菜花づくりの指導、学習の補助支援など、校園の特色に合わせてさまざまな活動を展開している。また、本事業は、一昨年度から「い じめ対応」の視点による支援として、校・園内はもちろん登下校中や地域での児童・生徒に対してきめ細やかな寄り添い支援を続けて

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 《広報活動》

これまで学校支援事業を実施していくのに、年2回の協議会と6回の委員会を開催して活動の内容や運営の方法などを協議してき たが、常に課題としてあがっていることは、次の3点である。

- ①いかにボランティアの輪を広げていくか
- ②後継者をいかに見つけ育てていくか
- ③持続可能な事業としての活動や組織はどうあるべきか

「子どもは地域(家)の宝だ」だからきちんと育ってほしいと願うのは、地域(保護者)の共通の思いである。 学校任せでなく家庭 や地域が協力支援をして子どもを育てていかねばならない。その一環としての学校支援事業であるが、上記3点のような課題が挙が っている。それには、本事業の趣旨や意義、活動の様子を地域のみなさんや保護者の方に知ってもらうことが大切だということで、 稲枝中学校区支援地域本部では、次の2点の広報活動を実施している。

1、広報紙「いなっ子」の発行(事業発足当初からの取り組み)

年4回、稲枝地区全戸(約4500戸)に自治会長さんを通して配布している。内容は次の通りである。

- 学校支援の意義
- ・ボランティアのお願い(募集要項)
- ボランティアの活動の様子
- ・ボランティアの活動後の感想
- ・読み聞かせの様子と子どもの感想
- 学校からの声

本年度末で32号を発行することに なるが、今後も紙面を工夫しながら 継続して発行しなければと考えている。



今年度発行の「いなっ子」



#### 2、学校掲示板(今年度の重点的な取り組み)

学校支援活動を知ってもらい理解してもらうのに、目に見える形で伝えることが効果的だという 意見が第1回評議員会で出た。現在、3小学校、1中学校、1幼稚園、1保育園で、玄関や職員室前廊下などに活動の写真を中心 に掲示されている。それぞれの校園では工夫した掲示が見られる。稲枝北小学校では、読み聞かせの後に読んだ本の表紙とボラン ティアの名札をデジカメに撮り、読み聞かせ日程一覧表に掲示され、本選びにとても役立っている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・広報「いなっ子」では、校園に偏りなく満遍に掲載していくことと、誌面構成で写真なども多く取り入れ読みやすい物となるよう 努力している。
- ・学校掲示板では、学校支援担当の先生に負担のならないよう校園なりの掲示にしていただいている。

#### ■ 事業の成果

- ・広報「いなっこ」を見て新たにボランティアに参画していただいたり、「稲中生、よう頑張ってるな。」との声を聞いたりすると「いな っ子」を発行してよかったなと感じる。
- ・ボランティア活動を「いなっ子」に掲載したり廊下掲示することにより、学校支援活動を理解してもらうと同時にボランティアの輪 を広げたりボランティア活動の励みにもなっている。

#### ■ 事業実施上の課題

広報活動では、誌面の都合や発行費用の面で全てを掲載するわけにいかない。毎年同じような支援活動をしている中で、どこにスポ ットを当て、いかにインパクトのある誌面や掲示にするかが課題である。また、読者が広報を手にとった時、学校を身近に感じたり、 学校を支援していこうとする気持ちになってもらうことも大事だと考えている。

### ■ 子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動 (稲枝東小学校)

	彦根市
	活動名
稲	枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝東小学校
	関係する学校
稲枝	東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝中学校

稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	19 人
開始年度	平成20年度

#### ■活動の概要

本校区にはJR稲枝駅があり、近年、駅周辺の開発が進み、新興住宅地が増えつつある。それでも校区全体から見れば、二世代・ 三世代家族があったり、スポーツ大会や祭りが開催されたりするなど、地域住民同士の関わり合いが多い校区と言える。そのような 校区で子どもたちは生活をしているが、地域と繋がり合いの深い子どもは、大人のそれと比較するとあまり多くない。習い事やスポーツ少年団などで休日を過ごす子どもが多く、あまり参加できていないのが現状である。

本校では、地域の自然や歴史、または人々を題材として、豊かな自然や生活環境、そこに生きる人々から学び、大切に考える教育活動を「地域の力」をお借りしながら推進している。様々な形で地域と関わり合いをもち、子どもたちの学びが豊かになることをめざしている。

### ■特徴的な活動内容

本校では、「トイレの神様」と称して、校内のトイレ清掃の補助をボランティアの方々からお世話になっている。日ごろから校内の清掃をしている子どもたちだが、水を大量に使うなど教室清掃とは仕方が変わるため戸惑う子どもが多い。そこで、ボランティアの方々の力をお借りして、手際よく美しく清掃する仕方を教えていただいている。子どもたちは



【掃除に取り組む様子】

仕方を教わるとともに、ボランティアの方々とのふれあいを通して、敬語をはじめとする人との気持ちのよい関わり方を学ぶことができている。

また、地域の温かいまなざしにふれることで「わたしたちのために来てくださっている」と感じ、感謝の気持ちや「自分も学校を 大切にしたい」という愛校心を育てることにも繋がっている。

#### ■ 実施にあたっての工夫

日々、お世話になっている「トイレの神様」だが、トイレの掃除のみならず他の面においても支援や配慮をいただいる。ボランティアの方々が1年を通して継続的に関わってくださるので、子どもたちの人間関係にまで留意いただくケースがある。日々、コミュニケーションをはかり、学校との間の風通しをよくしておくことが、活動を活性化させていく上で大切であると感じている。

#### ■ 事業の成果

- 〇ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介してくださることも多く、学校支援への熱い思いがボランティア の方々の間で受け継がれている。
- 〇従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄ってくださっている。
- 〇年間を通して関わってくださる活動が多く、子どもたちの人間関係にまで留意いただくことも多い。子どもたちの気になる言動に ついては直ぐさま学校へ情報を伝えてくださり役立たせてもらっている。

#### ■ 事業実施上の課題

栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、まだまだ活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、新たな活動を模索していきたい。

### ■ 地域とともに 学びの充実をめざして (稲枝西小学校)

	彦根市	
	活動名	
看	<b>稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝西小学校</b>	
	関係する学校	
稲枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝中学校		
稲枕	支東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	35 人
開始年度	平成20年度

#### ■ 活動の概要

新入生が毎年20名を下回るようになり、全校児童数が年々減少している。今までどおり、活動を続けていきたいことがたくさんあるのだが、子どもたちや職員だけでは無理が生じてきた。また、子どもたちの視野を広めたり、いろいろな経験や体験をさせたりして心豊かな子どもに育ってほしいと願っているが、交通機関が不便な地でどこへ出かけるのにも時間がかかり、あきらめざるを得ないことも多い。

本事業では、地域の方々のたくさんの力をお借りしながらいろいろな経験や体験を通し、子どもたちを心豊かに育てたいと願っている。そして、地域の方とふれ合うことで、ふるさとやそこに住む人たちを愛する心を育てたいと願い、活動を行っている。

#### ■ 特徴的な活動内容

- 〇地域をあげての花づくり…毎年、春と秋に学校や地域にたくさんの花を咲かせている。 特に、学校のメイン花壇やサブ花壇、中庭には、フラワー委員が中心となって育てた 花が咲き誇る。その準備としての種まきや土おこし、植えかえ、草刈りなど子どもた ちの活動時間に合わせて地域の方に協力いただいている。
- ○読み聞かせ…10名の方がいてくださり、各学年の発達段階にあった本を選び、読み聞かせをしていただいている。
- ○クラブ活動…昨年度に引き続き、子どもたちにいろいろな経験や体験をさせたいと考え、地域の方にお願いをした。ホッケークラブ・ダンスクラブ(聖泉大学)・工作クラブ・茶道クラブ(それぞれ地域の方)を立ち上げることができた。運動会や音楽会などでその成果を披露することもできた。
- ○学習・・・「総合的な学習の時間」では、各学年で地域学習を組み込んでいる。3年では「地域の名人・達人」「昔のくらし」、4年では「地域に残るわき水」、5年では「米作り」「人にやさしい町づくり」、6年では「町のお宝」「平和学習」である。それぞれの活動の中で、たくさんの地域の方に来ていただき、話をしていただいたり、現地で説明をしていただいたりしている。

毎年、学習でもお世話になっているので、子どもたちが、地域の方やふるさと を愛する気持ちを膨らませていることを感じている。



【楽しみにしている読み聞かせ】



【はえみの会の方と一緒に田植え体験】

#### ■ 実施に当たっての工夫

子どもたちと一緒に活動していただくことを大切にしている。そのため、まず始めに、地域コーディネーターさんに活動内容を事前に話しておき、実際に活動する日が決まったら、また、連絡を取らせていただくというようにしている。その間に、コーディネーターさんが人材を集めていただいてくださっている。当日は、希望どおり、たくさんの方が来てくださり充実した学習ができている。また、私たちをサポートしてくださる地域のボランティアさんがいてくださることや、どんなことをサポートしていてくださっているのかを全学年の子どもたちが知っているべきだと考える。そこで、1学期に、全校児童と地域ボランティアさんとの顔合わせを行った。いろいろなところで、私たちや私たちの学校を支えてくださっていることを知り、感謝の気持ちを持つ機会としている。

#### ■ 事業の成果

何度か来ていただく内に、顔見知りになり、親しみを感じるようになる子どもたち。安心して話しかけたり活動したりすることができた。また、新しいことに挑戦できる機会が増え、生き生きと活動する姿も見られた。支援していただく内容も様々、年齢層も様々。こうした幅の広い支援者の方がいてくさださることもよかった。また、子どもたちと活動を共にしていただくことで、子どもたちの日常の姿を知っていただけることも大きな成果である。

### ■ 事業実施上の課題

たくさんの方にお世話になっているにもかかわらず、子どもたちにとっては一部の方や短い交流で終わってしまっている。もう少し、じっくりふれ合う機会を増やし、お世話になった方に気持ちを伝える場も持ちたいと願う。

また、学校・地域・家庭の交流が深まり、相互の信頼関係が深まり、地域ぐるみで子育てができるように、今後の活動も充実させていきたい。

### ■ ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして(稲枝北小学校)

	彦根市
	活動名
Ŧ	福枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝北小学校
	関係する学校
_	関係する学校 支北小学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	45人
開始年度	平成20年度

#### ■ 活動の概要

本校は小規模校で、地域は少子高齢化が進み、どのように地域を活性化していくかも課題となっている。この地域には、すばらしい歴史や伝統があり、また、それを支える堅実で温かな地域の人々が存在する。そんな地域性を生かし、子どもたちには、地域のよさを知り、この地域に生まれ育ったことに誇りや自信をもち、さらに、地域を支える一人として行動できる人に育ってほしいという願いをもち、教育活動を行っている。このことは、地域の活性化にもつながるのではないかと考える。その地域のよさを学ぶことを、各教科や総合的な学習の時間に各学年で進めており、その学習は地域の方の協力により成立している。また、行事等でも小規模校の悩みである教職員数の少なさをカバーしていただき、学習、環境整備、行事など様々な場で、学校と連携しながら適切なサポートをしてくださっている。また、これらの活動はボランティアと子どもたちが互いに理解し合う機会にもなっている。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ①おはなしタイム (隔週木曜朝 8:15~8:30 各教室で読み聞かせ)
  - ・おはなしボランティア7名。絵本等の読み聞かせや紙芝居など。
  - ・学期末に行うお話ボランティアの交流会では本の選び方などを交流している。

#### 2環境整備活動

- ・ひょうたん栽培、米作り、農園づくり、花壇づくりなどの支援。
- ・まちづくり協議会の方々による校内の環境整備・・・池の掃除、運動場や砂場の 整備、植え込みの刈り込みなど。

#### ③各教科学習活動(ゲストティーチャー)

・焼きいも体験(1・2年)・米作り・縄ない体験(3年)・曽根沼干拓について学ぶ(4年)・琵琶湖の昔と今(5年)・未来に残したい地域のよさを見つけよう・



【環境整備作業:池掃除】

戦争中のお話を聞こう(6年)・ミシン学習補助・書き初め指導・栽培環境委員会への苗作り指導(高学年)など、様々な場で支援していただいている。

### ④登下校見守り (スクールガードボランティア)

- ・下学年、上学年の下校時に共に歩いてくださる。スクールガード講習会にも多数参加してくださり、子どもの安全を守る活動に 多くの方が協力してくださっている。
- ⑤「稲村かるたオリエンテーリング」(平成27年5月22日実施)
  - ・今年度で26年目の本校恒例の行事。豊かな自然につつまれ、文化財を巡りながら、郷土のよさを知り、自然や文化を愛し、郷土を愛する心を育むことをねらいとしている。縦割り班グループでオリエンテーリングを行うことで、異学年の児童間の協力と信頼の気持ちを育てることができる。今年度は、上西川・上岡部・田原・出路方面の「稲村かるた」に詠まれた地点を巡った。各班には、支援ボランティアの方が複数名ついてくださり、安全も確保できた。各ポイントでは、地域の学習支援ボランティアの方による説明を熱心に聞いたり、問題に答えたり、お寺の鐘をつく体験をしたりと有意義な活動となった。



【稲村かるたオリエンテーリング出発前】

#### ■ 実施に当たっての工夫

年度当初に学校からボランティア募集をする際、具体的にどんなことが可能かを選 ぶ様式に変えたところ、新たにボランティアとして登録してくださる方もあった。また、ボランティアとして活動してくださってい る方の様子が分かるよう玄関前に掲示コーナーを作ったり、全校集会で子どもたちとの顔合わせ会を行ったり、行事の折にボランティアを紹介する場をもったりし、感謝の気持ちを表せるようにしている。

#### ■ 事業の成果

地域の宝、よさを実感でき、自分のふるさとに誇りをもつことができた。また地域の大人の皆さんと交流することで、つながりが 生まれ、他の場で出会ったときに挨拶ができるようになった。地域の方が子どもたちと密接に関わる中で、気になる言動や、1人で 登校する児童の存在など、家庭環境、人間関係の変化などに気づき、学校へ情報をいただくことで、早めの対応につながった。

#### ■ 事業実施上の課題

ボランティアを直前にお願いすることもあり、無理が生じることもあるため、見通しをもち、適切な時期に余裕をもってお願いできるようにしていきたい。また、現在多くの方に支援していただいているが、十分なお礼の気持ちを表せていないように感じる。学校全体で意識を高め、ボランティアの方々にとってのやりがいにつながるよう、感謝の気持ちを表したり、交流したりする場を大切にしながら進めていきたい。

# 近江八幡市における学校支援地域本部の取組

#### ■めざす姿

各学校園に学校支援地域コーディネーターを配属し、地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する。そのために各学校園に「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりの確立をめざし、次の3点を柱に事業を展開する。

- ①地域の教育力の活性化
- ②地域の人が社会教育で学んだ成果を活かす場づくり
- ③教員が子どもと向き合う時間の拡充

#### ■本年度の活動

- 4月28日(火)事務局会議(学校担当者対象)[安土支所]
- 4月30日(木)事務局会議(コーディネーター対象)及び委嘱式、情報交換会[安土支所]
- 5月29日(金)コーディネーター研修会(通信の作り方講座)[ひまわり館]
- 7月27日(月)学校支援メニューフェア in 近江八幡〔金田小学校〕
- 10月 2日(金)滋賀県社会教育研究会(安土幼稚園の取組発表)[ピアザ淡海]
- 2月18日(木)成果発表会〔老蘇コミュニティセンター〕

#### ■本年度の成果

本事業を継続して進めてきた結果、地域の中での理解者が増え、コーディネーター間の連携や情報交換によってボランティアとして協力してくださる方々の活動の範囲が広がりを見せている。また、夏休みに開催した「学校支援メニューフェア in 近江八幡」においては、市の社会教育関係団体の研修も兼ねて参加者を募り、より多くの人に認知されることとなった。出展いただいた各企業の団体や企業の模擬授業や展示ブースは学校にとって具体的にイメージしやすいため好評であった。

#### ■今後の課題

学校園が必要としているボランティアの発掘が大切なため、他校園のコーディネーターの取組や 他市の活動などの情報を収集しながら、それぞれの校園の状況に合わせた活動の広がりと深まりを 探っていきたい。

学校支援メニューフェアについては、出展者も参加者もともに納得と満足ができ、生き生きとした子ども達の姿に結びつくようなものとなるよう、さらなる内容の工夫を加えていきたい。

#### ■その他

平成23年度から人生の先輩として地域住民のもつ生き方・知恵や技術を伝承していくために、 学校・園にゲスト講師を派遣できる「近江八幡人生伝承塾」を組織し活用している。「人生伝承 塾」に登録していただいた講師陣のリストを作成し、小中学校に講師として出向いていただいて いる。



【メニューフェアの様子】



【メニューフェアの様子】

### ■ 地域の宝を学校に!(八幡小学校)

■ 近江八幡	<b>请</b> 市
■ 活動名	
八幡小学校	支援地域本部
■ 関係する	学校
八幡小学校	ξ

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	117 人
開始年度	平成24年度

#### ■ 活動の概要

「地域の宝を学校に!」をテーマに本事業を展開して4年目になる。コーディネーターをつなぎ役として、豊かな体験活動や地域 資源を生かした特色のある学習の創造を実現するため、ボランティアの方々の協力を得て実践を深めている。その中で、学校と地域、 家庭の連携が一層強まり、地域ぐるみで子どもを育てる風土をつくることを目指している。

#### ■ 特徴的な活動内容

今年度、新たにボランティア登録をしていただいた方が8名あり、4年目は117名となった。活動は大きく分けて次の6分野にわたっている。

- ①環境整備・・・花壇整備、花の植え替え、樹木剪定、生け花、図書事務、テント設営・撤収
- ②絵本の読み語り…1、2年は毎週、3年は隔週、4年は1ヶ月に1回、朝10分間
- ③学習支援・・・水泳補助、合唱伴奏、ミシン補助、ソーイング補助、ヨモギ団子作り、ピザ作り補助、さつまいも調理補助、 おでん作り補助、八幡堀学習、デイキャンプ指導補助、組み体操補助など
- ④児童引率補助・・・校区たんけん、町巡り、八幡山引率など
- ⑤クラブ活動支援…家庭科クラブ、日本伝統文化クラブ、卓球クラブなど
- ⑥栽培活動支援・・・さつまいも栽培、夏野菜作り、へちまの棚作り、大根作り、 北之庄菜作りなど

#### ■ 実施に当たっての工夫

今年度は、1階ホール横にボランティアルームを設置した。ボランティアの方と打ち合わせをしたり、活動前後にボランティアの方々に休憩をしていただいたりできる部屋である。これにより、ボランティア活動を通して地域の方々自身がお互いにつながりを深めてくださることもできると考えた。また、活動内容を幅広く知ってもらうため、校内の掲示板を活用して実施内容を紹介した。同時に地域の方にはコミュニティセンターの掲示板を使って活動の様子を発信した。



【育てた野菜を使ったピザ作り(2年)】

ボランティアの方々と教職員には「ボランティア通信」を発行することで、他学年の実施内容を互いに知ったり、ボランティアの 輪が広がったりすることを目指した。自治会へは、年度の終わりに本事業の活動の報告とお礼を兼ねて文書回覧をしている。 年度末にボランティア交流会をもち、6年生を送る会を参観するとともに1年を振り返っての成果や課題を確認し合っている。

#### ■ 事業の成果

- ・ボランティアの方々に学習支援をしていただく中で、教職員が豊かな体験活動や地域資源を生かした特色のある学習を創り出すことが比較的容易になった。
- ・子どもたちは、地域のボランティアの方々から学んだり、支えていただいたりする 中で様々な人とのふれあいやつながりができ、地域に生活する一人としての自覚が 芽生え、地域への愛着が深まった。
- ・ボランティアの方々は支援してくださる中で、子どもとかかわる楽しさを味わったり、得意なことが発揮できた達成感を感じたりして、充実した時間を持つことができた。



【地元野菜北之庄菜栽培(3年)】

・コーディネーターがきめ細かく動いてくださることで、教職員が打ち合わせにかける 時間を短縮できた。また、コーディネーターの声かけにより、ボランティアの方々が来校しやすい雰囲気を作ってくださった。

#### ■ 事業実施上の課題

- ・新たに取り組む学習については、該当学年の担任がそのねらいを明確にした上で、ボランティアの方々を迎えることになるが、数年間継続している学習の場合、担任が十分ねらいを把握できずにコーディネーターやボランティアの方に頼ってしまうことがあり、体験後の学習の深まりが見られない場面もうかがえる。
- ・毎年、ボランティアの数や活動時間数が増加しているが、さらに教科における日常の学習支援も視野に入れながら、活動の幅を広げるための呼びかけを行う必要がある。

#### ■ その他

・子どもたち自身が地域の一員としてボランティア活動を行う体験を模索していくことで、さらに地域との一体化が期待できる。

### **■ 地域とともに豊かな学びをめざして(島小学校)**

■ 近江八幡市
■ 活動名
島小学校支援地域本部
■ 関係する学校
島小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	487 人
開始年度	2 3 年度

#### ■ 活動の概要

本校区は「重要文化的景観」の第一号に選ばれた水郷など、豊かな自然や史跡に恵まれた地域であるとともに、「ほんがら松明」や ヨシ原の保存に地域を挙げて努めるなど、伝統の継承にも熱心な地域である。また、昔ながらのコミュニティーの特徴を色濃く残し、 学校に対する期待も大きく、学校への支援にも非常に協力的である。そこで、本校教育目標である「ふるさとに誇りをもち、瞳輝く 島の子」のもと、地域コーディネーターを中心に、コミュニティー・センターとも連携を図りながら本事業を展開してきた。子ども たちの学びをより豊かなものにするための学習活動の支援、学習を効果的に進めるための環境整備、安全な下校のための見守り活動 の3つの柱で実施している。

#### ■ 特徴的な活動内容

校区内には、琵琶湖、西の湖、ヨシ原、里山、水田、大規模干拓地等や、由緒・歴史のある寺社仏閣があり、自然環境と人々の生活が深く結びついた地域である。そこで、校区内の恵まれた自然・歴史・文化等の環境を大いに生かし学習活動を進めてきた。

特に「菜の花エコプロジェクト」は、3年生の9月から5年生の4月まで、学年を越えて1年半以上の長いスパンで取り組んでいる。地域の祭で松明を作るときに菜種ガラが必要なため、学校周辺の田畑では菜の花が栽培されており春には黄色のじゅうたんが広がる。そのように慣れ親しんだ菜種を題材に地域学習と環境学習を兼ねて取り組んでいる。地域学習においては地域のボランティアの方に年間を通して支援していただき、環境学習においては専門的な機関や地元の高校と連携し進めている。

5 - 1 10 3 C		
学 年	実施時期	学習内容
3年生	9月	菜種の種まき 菜種の話(ゲストティーチャー)
	10 月	菜種の植え替え 栽培 → 6月
4年生	4月	菜種の観察(理科) 菜種の風景スケッチ(図工)
	5月	菜種の刈り取り 菜種の種落とし体験
	10 月	菜種の搾油体験
		バイオ燃料実験 バイオ燃料でカートを走らせる。
	11月	エネルギー・資源の循環学習 (他学年へ発表)
		絞った油を使った調理 廃油を利用したキャンドル作り
	2月	松明作り
5 年生	4月	春の地域の祭で燃やしていただく。



【4年生 菜種の種落とし】

#### ■ 実施に当たっての工夫

刈り取り、種落とし、菜の花植え、松明作り、祭については地域の方々に指導や支援をいただき、搾油やキャンドル作りは専門的な機関の方に、バイオ燃料作り、カートの試乗は、八幡工業高等学校の先生や生徒の方々と連携し実施してきた。また、校舎内の花壇にも菜種を栽培し、理科等の学習とも関連させながら菜種を栽培できるよう工夫している。

また、学習支援においては、授業者(担任)が学習のねらいや計画をしっかりコーディネーターや地域のボランティアに伝えることを心がけ、担任自らも積極的に地域に関わっていくようにした。

上記の「菜の花エコプロジェクト」の他にも、2年生の「権座(内湖に浮かぶ島)での野菜の栽培と収穫」、3年「ヨシと私たちのくらし」、5年「ゆりかご水田」など地域のくらしや自然環境と深く結びついた学習を年間通して実施している。その際、できるだけ

年間を通し同じ方々に支援いただくことで、担任と意思疎通を図りながら学習のねら いに沿った活動が展開できるよう工夫している。



【3年生 ヨシ原でのヨシ刈り】

### ■ 事業の成果

実際に地域の方と出会い、実体験をもとにしたお話を聞いたり、松明づくりなどを実際に経験したりすることで、地域の豊かな自然、風習やくらし、先人の知恵にも触れることができる。人を通しての地域学習は、理解のみだけでなく、携わる人の思い、その思いが受け継がれていること(伝統や風習)を感じ取ることができ、子どもの豊かな学びにつながっていると感じている。

さらに、子どもたちの地域や地域の伝統文化への知識や関心が高まり、自分たち の故郷への愛着や誇りが育めると考えている。

#### ■ 事業実施上の課題

本事業の支援体制が定着し、地域学習の充実が図れるようになってきたが、学習活動の時間数には限りがあり活動を精選する必要もある。教科や学習のねらい、学年間の系統性を明確し年間指導計画を見直し、次年度の学習の更なる充実を目指したい。

### **■ 地域の自然や人と共存した教育の充実をめざす(沖島小学校)**

■ 近江八幡市
■ 活動名
沖島小学校支援地域本部
■ 関係する学校
沖島小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	約10人
開始年度	平成25年度

#### ■ 活動の概要

本校では、めざす子ども像として、「**お**もいやりのある子」「**き**たえあう子」「**し**まを愛する子」「**ま**なび合う子」を掲げている。沖島の自然や伝統にふれたり地域の人々とふれあったりすることで、郷土を愛する心情を育み、また、交流やたてわり活動を通して、学び合いの経験を積み重ねていきたいと考えている。

その活動の一つとして、地域の方に教えていただいて、沖島の自然を生かした昔ながらの食べ物を作るという取組を行っている。 地域の方から児童へ、高学年から次の学年へと、伝統的な食べ物やその作り方が受け継がれている。また、漁業(島民の7割の方が 漁業組合に関わっている)といった地域の産業についても、地域の方に協力していただいて、計画的に学習している。他にも、年間 を通して野菜作りに関わっていただいている。沖島小学校においては、地域の方の協力が必要不可欠であり、地域と家庭、教師なら びに児童が密接に関わり合いながら、学習活動を行っている。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 【食育に関した学習活動】

〇イバラの葉団子作り・・・ 学校の裏手にあるケンケン山に自生するサルトリイバラの葉を採集し、柏餅のようにして食べる。沖島

には柏が自生していないため、その代わりとしてサルトリイバラの葉を用いたことに始まる。島内でも お年寄りの方しか作り方が分からなかったため、お招きして教えていただいた。それ以降、毎年 自分たちで作っている。他にも、冬イチゴジャムやサクラの塩漬けなども作っている。

〇お米作り・・・・・・・・・・今年度、幼稚園が休園になったことから、幼児用のプールで米作りをした。苗を提供してもらい、田植え稲刈りなどを、教えてもらいながらおこなった。稲の束ね方やもみすりなどを老喜の里のお年寄りに

手伝っていただいた。

#### 【産業に関した学習活動】

〇沖島の漁について・・・・ 漁についてインタビューをしたり、実際に漁船に乗せていただいたりして、学習を深めている。今年度

は、刺し網漁を見せていただいた。

〇フナ寿司作り・・・・・・総合的な学習の時間に、沖島の漁や漁師について学習したことをきっかけに、その発展として4年前か

ら始めた。地元の漁師の方にニゴロブナを調達していただき、4月にうろこをふくなどして塩切りをし、 2月に出荷している。漬けたフナ寿司は学校で保管し、児童が交代で水替えを行っている。



高学年が鱗を落とし、エ ラを取り除く作業を手際 よく行った。

2人だけだったので昨年 より数は少なかった。



漁船に乗せても らい、漁の実際 を目の当たりに した。

【フナ寿司作り】

【漁業体験】

#### 【感謝の気持ちを表す学習活動】

○なかよし会・・・・・・・自分たちで育てた野菜を使って、全児童が協力をしてカレーなどを作り、お世話になった方にふるまう。 低学年の児童も、野菜を洗ったり食器を拭いたりするなど、できる仕事を積極的にしている。

〇ふるさと集会・・・・・・・地域の方をお招きして、学習発表会を行う。その際に、地域のお年寄りの方と一緒に、おやつを作って食べるなどして、交流を深めている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

・前年度に引き続き、地域への発信に力を入れた。学校便りは、地域に配布するだけでなく、食育担当者が作成している食育だより とともに、通船の中や漁港の掲示板、待合室などにも掲示して、地域の方以外の目にもふれるようにしている。

#### ■ 事業の成果

- ・他の学校ではできない体験活動を経験することができた。
- ・沖島の自然と積極的にふれあい、それぞれの学習に意欲的に取り組むことができた。
- ・島外から通う児童にとって、地域の方とふれあったり、沖島の良さを知ったりする良い機会になっている。

- ・地域の方の高齢化が進んでいるため、それぞれの体験の人材確保が年々難しくなる。
- ・年ごとに学年の人数が大きく変化するために、前年度と同じ取り組みができにくいことがある。
- ・島内の児童の減少により、地域と学校とのパイプが細くなっていく可能性がある。

### ■ 地域とともに学びの充実をめざして(岡山小学校)

■ 近江八幡市	コーディネーター数	1 1
■ 活動名	コーティネーダー数	1 人
岡山小学校支援地域本部	ボランティア登録数	約180名(※登録制はとっていない)
■ 関係する学校 岡山小学校	開始年度	平成22年度

#### ■ 活動の概要

本校では、平成22年度より本事業に取り組んでいるが、この事業が始まる以前から地域が学校に対したいへん協力的であり、ボランティアや外部講師の方が、多くの学習に関わっていただいている。こうした地域の特性から、ボランティアの登録制はとらなくても、学校が要望する人材等を地域コーディネーターに依頼することで、環境整備や学習支援など学校と地域が連携したさまざまな学習を展開している。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### (1)「田んぼの学校」、野菜づくり支援

2年生と5年生の異年齢交流として、営農組合、農業委員さんたちやJAの方の支援・協力を得ながら田植え、稲刈りの体験活動に取り組んでいる。また、米作りの他に野菜づくりにも取り組んでいる。地域の野菜づくり名人に来ていただき、土作りから世話の仕方などを教えてもらい、夏野菜・冬野菜を育て収穫する。地域コーディネーターの企画で、2年生の校区探検のコースの一つに、地域の方に呼びかけ、野菜畑で作業をしてもらい、見学やお話を聞かせてもらった。また、11月には、米作りや野菜づくりでお世話になった方を招待して収穫祭を開き、五平餅をいっしょに作って食べながら、地域の人や自然食に感謝する活動を行った。

#### (2) 福祉学習

中学年を中心に取り組んでいる障がい者理解の学習では、視覚障がい者の方や車椅子 生活をされている方に来ていただいて、生活や思いなどを聞くとともに、その前向きな 生き方を学んだ。また、車椅子やアイマスク体験の学習をした。4年生では、学校の前に ある共同作業所の所長さんに来ていただいて、作業所の仕事内容や仕事をされている人 について話を聞いたり、後日作業所に出かけ、その様子を見学したりした。

### (3) 校外学習等の引率・活動補助

地域の方には、校外学習(安土での歴史学習や校区探検、フィールドワークなど)で、 自転車等での移動の際、交差点などに立っていただいたり、いっしょに引率していただ くなど子どもの安全確保に協力していただいている。また、1年生の河辺生きものの森 での活動では、どんぐり工作の補助にたくさんのボランティアの方が協力していただき、 限られた時間内で有意義な活動をすることができた。3学期には、4年生が「琵琶湖ー 周鉄道の旅」を実施する。本校では、湖西・湖北の地域から、班ごとに調べたい場所や



【2・5年 収穫祭 五平餅作り】



【1年 どんぐり工作】

見学場所等を決め、見学依頼の交渉も子どもたちがして班別に活動するため、引率者がたくさん必要である。そのため、地域のボ ランティアの協力を得て実施している。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・学校支援の実施にあたっては、学校と地域コーディネーターの役割を概ね分けている。地域コーディネーターは、主に地域のボランティアとのコーディネートをしていただき、学校は、外部講師の依頼をしている。
- ・図書ボランティアとは、年度当初に打合せ会議や学期始めに計画の作成している。また各学年と地域コーディネーターとの日程調整や学習内容などの打合せをしている。
- ・本校は、学校だよりを学区全戸配布しているため、支援活動等を適時掲載して地域に発信している。

#### ■ 事業の成果

- ・ボランティアの方が学校に来ていただいたり、子どもたちが地域に出かけたりした時に、たくさんの方が、教育活動に支援してくださることで、子どもたちとのつながりが広がってきた。また、そのお礼に手紙を送ったり、収穫祭など学校に招待したりして、 感謝の気持ちをあらわす取組などを通して、社会性や感謝・思いやりの心が少しずつ育ってきている。とりわけ、いろいろな教育活動の中で、地域の同じ方が何度も支援に来ていただくと、子どもたちも顔見知りになり安心感が生まれてきている。
- ・教育活動が充実し、教職員や子どもたちも、地域のたくさんの方に支えられていることを感じることができた。

- ・継続して何度も支援に来ていただける方は、安心してお願いできるが、今後、地域の人材をさらに広げ、学校との連携、交流の充 実を図る必要がある。
- ・2学期は、同じ日に複数の学年で、ゲストティーチャーやボランティアが来られる日が何度かあり、全校的な活動計画、日程調整が必要である。

## ■ 金田のいいところみつけ~地域の力で教育活動の活性化(金田小学校)

■ 近江八幡市	コーディネーター数
■ 活動名	コーティネーター
金田小学校支援地域本部	   ボランティア登録数 
■ 関係する学校 金田小学校	開始年度

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	2 5 年度

#### ■ 活動の概要

本校の学校支援地域本部事業は、校区の方を委員として「金田学区地域教育協議会」を組織するとともに、学校支援地域コーディネーターを配置して一昨年度からスタートした。本校では、以前から教育活動に地域の方々の力を得て教育の充実に努めてきたが、コーディネーターが「金田学区まちづくり協議会」や「金田コミュニティセンター」とのパイプ役、関係機関との調整役を担い、より一層学校・家庭・地域が連携協力し、授業等の学習補助や教員の業務補助などの学校支援を行うことを中心活動とした。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・1年「昔遊び・お正月遊び」「音楽鑑賞」
- ・2年「おでんを作ろう」
- ・3年「金田学区のいいところ」「昔のくらし」「畑ではたらく人々」
- ・4年「地域を守る消防団」「蛇砂川の話と現地見学」「紙すき体験~はがきづくり」「福祉体験」
- ・5年「「田植え・稲刈り」「環境学習」「ミシンの使い方」
- ・6年「国際理解~青年海外協力隊」「ナップザックづくり」「落語に親しもう」「平和学習」



【3年「金田学区のいいところ ~スクールガード」】



【3年「金田学区のいいところ ~田んぼ・畑」】

### ■ 実施に当たっての工夫

実際に見たり、聞いたり、触れたり、話だけでなく体験を中心とした活動を多く取り入れていただいた。また、コーディネーターを中心に依頼や連絡調整をし、教員の業務補助をしていただいた。

#### ■ 事業の成果

日頃気にかけていなかった地域のことや環境・歴史のことなど見たり聞いたりし、すばらしい技術をもった方から直接指導を受けることにより、子どもにとって、地域、技術、人が身近なものに感じられるようになった。地域に親しみを感じ、自分が住んでいる地域や人に誇りをもつようになった。

また、ゲストティーチャーやボランティアの方々は、子どもたちに優しく接し丁寧にわかりやすく話したり、説明したりしてくださるので、子どもたちにとって、地域に対する思いや願いを実感するとともに、学習内容の理解がより深く、印象に残るものになった。指導者一人ではできにくい対応やきめ細やかな対応によって、子どもたちは作業等に自信をもって取り組み、最後までしっかりやり遂げる姿が見られた。事後も地域やボランティアの方との交流がより一層ひろがっていった。

#### ■ 事業実施上の課題

コーディネーターを中心に年度当初に計画はするが、子どもの様子や担任団の希望で急きょ活動がふえたりするので、縦のつながりを考えた活動計画が必要である。大規模校ということもあり、ゲストティーチャーやボランティアの人数を確保し、日程調整をすることが難しい。児童数が多いので2回や3回にわけているため、ボランティアの負担も大きいと感じる。また年度当初に地域の方々は好意で快く引き受けていただいているが、できることならほんの少しでもお礼ができるとよい。

### ■子どもたちにとって居心地の良い学校環境作りのために(桐原小学校)

	近江八幡市
	活動名
<b>†</b>	同原小学校支援地域本部
	関係する学校
ŧ	同原小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	125 人
開始年度	平成24年度

#### ■ 活動の概要

- 1 登下校時・昼休み・掃除時間を中心とし「見守り活動」の継続
- 2 図書室・多目的ホール等を活用した「子どもの居場所づくり活動」、子どもたちにとって「居心地のよい空間つくり活動」
- 3 学習に関する技術支援や講話、資料提供

#### ■ 特徴的な活動内容

・掃除時間や昼休みなどに子どもたちに声をかけながら校舎を巡回していただいたり気 軽に話したりしながら、子どもたちの居場所作りに関わってくださっていること。



【学習支援 5年家庭科】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- 1 「いつ、誰が、どんな支援で来られ、準備物は何か、事前の打ち合わせ方法はどうするのか」などをボードに示すことで計画的に進められるよう配慮した。
- 2 地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニセンターだよりに学校地域支援の様子の紹介や支援募集を行った。
- 3 学期ごとに学校支援地域本部事業の様子を紹介する壁新聞を作成し、学校支援の輪を広げる取組を進めてきた。

#### ■ 事業の成果

1 昼休み・掃除時間の見守り活動

毎日昼休み、居場所作りとして地域ボランティアの皆様に、学校内や校庭を見守っていただきながら子どもたちへの声かけ活動を継続・展開していただいている。また、掃除の時間にも校舎内を巡回し、声かけをしていただいたりしている。見ていただいた子どもたちの様子を職員室にたすきを返却するとともに職員に伝えてくださっている。

2 登下校時の見守り活動と交通量の調査

子どもたちの安全・安心の登下校のため、スクールガードの皆様に、毎日活動を展開していただいている。また、来年度の 校舎移転にかかわる通学路の変更に伴い、交通量を独自に調査しながら立ち位置を考えてくださっている。

3 校外学習での見守り・支援活動

6年生の野洲・奈良への歴史学習、4年生の日野川フィールドワーク、3年生のまち探検、2年生の駅探検と校外学習などの際に、子どもたちの安全と見学の様子を見守っていただいた。

4 図書室、多目的ホールを活用した「子どもの居場所づくり」「居心地のよい空間づくり」活動

地域の方々が子どもたちと気軽にふれあい、一人になりがちな子どもの相談相手・遊び相手として校舎のいろいろな場所を 有効に活用しながら、子どもたちにとって居心地のよい空間づくりに努めていただいている。

図書館教育主任(司書教諭)と連携しながら、図書ボランティアの皆さんが、図書室の環境を整えたり、修理や廃棄手続きの支援をしていただいたりした。また、新校舎への移転作業の支援も計画的にしていただいている。

多目的ホールでは、毎月1~2回昼休みに、地域の方が自作の木工パズルやゲームを用意していただき、子どもたちにワクワクした楽しい時間を提供していただいている。さらに、毎学期昼休みに、ザ・ミッションの皆様によるすてきな演奏会を開催し、歌と演奏が多目的ホールに響き、心地よい時間をプレゼントしていただいた。

5 家庭科やクラブ活動など様々な学習に関わった支援活動

5年生では、家庭科の裁縫やミシンを使う活動にミシンボランティアとして支援していただいている。また、コンピュータ

クラブでは、毎回技術指導のため、その操作に堪能な方が指導のため補助をしていただいている。他にも子どもたちの活動には多くのボランティアの支援をいただき、ふれあいの中で子どもたちの健やかな成長を支えていただいている。

- ・職員とボランティアの皆さんとの子どもへの指導の線引きが難しいところであると感じている。昼休み・掃除時間等の見守り活動の中で、子どもたちのちょっとしたトラブルなどでの指導の場面で、その場での対応が求められるときがあるからである。
- ・また、ボランティアによっては、活動の輪を広げるという思いから、記録画像の扱い 方やお知らせの方法等についても、しっかりと協議する必要性を強く感じた。



【昼休み・掃除 見守り隊】

### ■ 地域の人に支えられ、価値ある体験を継続する(桐原東小学校)

	近江八幡市
	活動名
桐	司原東小学校支援地域本部
	関係する学校
桐	司原東小 <del>学</del> 校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	152 人
開始年度	平成24年度

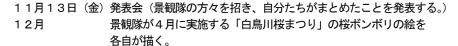
#### ■ 活動の概要

4年目を迎え、「教科等への学習支援」「朝の時間や休み時間の充実のための支援」「学校環境を整える支援」を中心に活動を行ってきた。「教科等への学習支援」では、生活科、総合的な学習の時間、家庭科等において学習ボランティアを招き、授業の支援をしてきた。また、「朝の時間や休み時間の充実のための支援」では、月に2~4回、朝読書の時間における読み聞かせや昼休みの手作りおもちゃ広場等を実施した。「学校環境を整える支援」としては、継続的にボランティアの方に来ていただき、図書室の飾りつけや前庭の花の世話、剪定等行っていただいた。

#### ■ 特徴的な活動内容

5年生では、「白鳥川の景観を良くする会(略称 景観隊)」の方々の支援をいただき、総合的な学習の時間において以下の日程で環境学習を実施した。

- 10月15日 (木) 白鳥川事前学習 (景観隊の方々と出会う。白鳥川の様子や特徴に ついて知る。)
  - 19日(月)現地学習(白鳥川に行き、景観隊の方々に説明を聞きながら、川に入り、自然や生き物などを観察する。白鳥川の様子や特徴をつかむ。
  - 20日(火)~11月12日(木)体験したことをもとに白鳥川の環境について まとめる。





- ・ボランティアの方々と事前に目標や内容について詳細に打ち合わせを行い、支援のポイントを明らかにした。
- ・ボランティアの方々が生き生きと活動していただけるように支援の場の設定を工夫した。
- ・実施したことの啓発のため、地域コーディネーターが校長室前のコーナーに掲示物を貼っ たり、広報紙を発行したりしてきた。



【白鳥川の生き物観察と水質調査】



【景観隊のみなさんによる 活動概要説明】

#### ■ 事業の成果

- ・ボランティアの方々との学習やふれあいを通して、人との関わりの大切さやすばらしさを子どもたちが感じることができた。
- ・身近でありながら知らなかった地元地域の様子を知ることができ、活動の場が大いに広がった。
- ・子どもたちとのふれあいを通して、ボランティアの方々も大きな充実感を味わい、今後の活動に対してより意欲的になられたよう であった。

#### ■ 事業実施上の課題

- 新しいボランティアの人材発掘が必要である。
- ・取組内容のマンネリ化が見られるので、新しい題材の開発が必要である。
- ・各学年が価値ある体験活動を行い、学習を深めているので、取組内容を他学年や全校に向けて発表する機会を増やすことが必要である。

#### ■ その他

・学校ホームページのブログ集で、学校支援の様子を紹介しています。 (URL http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~kirihiga/)

### ■ 地域でともに育てる馬淵っ子(馬淵小学校)

	近江八幡市
	活動名
馬	馬淵小学校支援地域本部
	関係する学校
馬	馬淵小 <del>学</del> 校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	70 人
開始年度	平成24年度

#### ■ 活動の概要

本校では、「まごころのある子、ふかく考える子、ちからいっぱいがんばる子」をめざす子ども像として、地域と協働で取り組んで4年目となる。以前から地域の方々の力を借りて教育活動の充実に努めてきたこともあり、今年度は新しい地域コーディネーターのもと、さらにボランティア活動の充実と新しい支援の方法を考えていくことを中心に取り組んだ。新しい支援の方法をさぐり、新しい人材を発掘し、支援内容の充実が広がることをめざした。

【読み聞かせ】

#### ■ 特徴的な活動内容

#### (1) 年間を通した図書支援とクラブ活動支援

図書支援では、「居心地の良い図書室作り」をめざして、本を読む・調べる・ほっとす る場という3点を基本にボランティアが、月2回、読み聞かせ・工作教室・整理・廃棄作業などに取り組んだ。

読み聞かせの活動日には、図書委員の子どもたちと一緒にカードにハンコを押して取り組んだ。また、工作教室では、簡単な楽しい工作を本の中から選んで教えた。さらに、廃棄作業では教師と協力して本を選別し、ボランティアが廃棄作業を行うという連携で取り組んだ。その結果、棚がすっきりして新しい本の置き場所を確保することができた。

クラブ活動支援の「家庭科クラブ」では、夏休みにボランティアが教師と一緒に作品の試作をして、子どもたちが取り組みやすい作品を決め、手順を検討する時間を作った。「昔遊びクラブ」では、竹を削って竹とんぼ作り、けん玉、コマ回し等の指導を受けた。また、「囲碁クラブ」では、年間をとおして囲碁の楽しみを教えてもらった。

#### (2) 各種団体や個人など幅広い人たちの連携による植物栽培支援

4年生の植物を育てる学習では、ひょうたんを育てるための土作りから、支柱立て、ネット張り、収穫、作品作りなどの一連の作業を実施した。この支援には、老人会、民生委員や地域の様々な方々の支援を受けて連携して取り組んだ。地域の方の熟練した技術を見せていただきながら、力を借りて学習への支援を続けている。

#### (3) 地域と連携した体験活動支援

1学期に6年生で地域のボランティアの方4名に来ていただき茶道体験を馬淵コミュニティセンターの茶室を借りて実施した。室町時代から続く伝統的な日本の文化に触れ、茶道の奥深さから児童は大きな感動を得た。また、田んぼの学校では、地域の農業委員さんや地主さんからお米作りの工夫と苦労を教えていただき、2年生と5年生で協力して、田植えと稲刈り体験を経験した。さらに、田んぼの日常の管理を教えてもらい、2年生ではおにぎりパーティをひびきあい活動で実施し、5年生は家庭科の学習でお米を炊く調理実習を実施した。

地域の方から直接教えていただき、学んだことを実践することで子どもたちは自信を持ち、感謝する気持ちを学ぶ大変良い機会となった。



【ひょうたん栽培】

#### (4) その他の支援

水泳、書道、家庭科学習、ハザードマップ作り、障害のある方の学習(福祉学習)、ビニールハウス見学、干し柿作り、しめ縄作り、 獣医師会出前授業などの学習支援活動を実施した。

#### ■ 実施に当たっての工夫

高齢化を理由に活動を辞退されるボランティアがおられたので、新しいボランティアの発掘のため横の繋がりを広めながら実施した。また、ボランティアの活動日には掲示ボードでお知らせをして、来校される方や先生方にも認識してもらえるように配慮した。

#### ■ 事業の成里

事業も4年目をむかえ、校内でも地域でも周知されてきたのでスムーズに取り組みが進められるようになった。その結果、自宅で教室を開いておられる方が支援してくださったり、退職後の時間をボランティア活動に充ててくださったりする方があり、専門的な内容での支援が可能となった。また、教師は専門的な内容に自ら知識を深めることができ、子どもたちは顔馴染みのボランティアの来校を楽しみにするようになってきている。さらに、ボランティア自身は、継続することにやりがいと楽しみを感じてもらえるようにもなってきて、それぞれが充実した取組となってきた。

- ・本校は、ほぼ単級なので新年度に担任が変わると前年度の引継ぎが十分なされない場合がある。
- ・顔馴染みのボランティアが支援をしすぎると、子どもたちが頼りすぎる場面が出てきて、子ども自身の力にならないことがある。
- ・専門知識のあるボランティアが増えすぎると、一般の方が遠慮される場合がある。

## **■ 学校と地域が一体となった『地域循環型』の活動に(北里小学校)**

■ 近江八幡市	
■ 活動名	
北里小学校支援地域本部	
■ 関係する学校	
北里小学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	400 人
開始年度	平成21年度

#### ■ 活動の概要

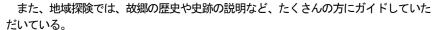
#### (1) 地域ぐるみのボランティア活動

これまで同様、本年度も北里商業協同組合のご協力を得て、小学校・保育園・幼稚園などへボランティアに来てくださった方々に、北里商店街の買い物補助券(ボランティアポイント)をお渡ししている。学校へ来ていただいた方へのお礼と共に地域商店街の活性化につながる取り組みとしてかなり定着してきたように感じている。

#### (2) コーディネーターを核として広がるボランティアの輪

北里小学校区を基盤としながら、ボランティア登録はしていないが、本年度も300名を超える方にお世話になった。

本校児童の一部が自転車通学をしており、地域の自転車屋さんを中心に無料点検を実施してくださったり、昼休みに手作りおもちゃを運び込んでのおもちゃランドを開いたりして子どもたちのために活動してくださっている。





【3年 地域探検】

教科の学習支援としても、家庭科のミシン補助や調理実習補助、福祉体験教育のための講師など、これもまた多くの方に来校いただいている。

#### ■ 特徴的な活動内容

〇ボランティアグループ [ほんわか]による読み語り

落ち着いた朝のスタートと学力向上を目指して、全校で朝 10 分間読書に取り組んでいる。また、木曜日には読書ボランティアグループ[ほんわか]による「読み語り」を継続している。

12 月の人権週間には学校からの要望で、人権に関する内容の読み語りを、学年に応じた本の選定も含めて実施していただいた。読書ボランティアは在校生の保護者が中心となって活動してもらっている。読み語り終了後、図書室の整備をしてくださる方もおられる。また、図書館に勤務されていた専門家が、多いときには週3回図書室の整備をしてくださっている。新刊本の登録作業や、データの定期的なバックアップも担当してくださり、図書館主任と連携しながら、子どもたちを暖かく支えてくださっている。その方の姿を見てか、徐々にできる範囲で図書室の整備をしてくださる方の輪が広がってきている。

### ■ 実施に当たっての工夫

〇地域商店街(商業協同組合)との連携をはかるなかで、ボランティアポイントを発行し、地域商店街の活性化に繋がる事業展開を実施していること。

〇地域を基盤とした豊富で多方面にわたる人材を確保することができたこと。

〇人材バンク的なものにとらわれず、適宜必要なボランティアに依頼していること。

○保護者のみならず、学区全体に情報発信していること。

#### ■ 事業の成果

#### (1) 地域との連携

教育活動に協力いただいた方々に、お礼の手紙や成果物、ボランティアポイントを渡した。ボランティアポイントについては、現 保護者は対象外とし、それ以外のボランティアの方々に渡した。このポイントは北里商店街のみに有効ではあるが、大変好評であった。地域の活性化にも貢献している。

### (2) まちづくり協議会との連携

まちづくり協議会の組織の中に、学区の子どもたちに多様な体験活動を仕組んでくださる方々がおられる。もちろん、ここにもたくさんの地域の方々が関わってくださっている。この「子ども体験活動部」と学校の支援事業が昨年度から連携を始めることとなった。

- ・今後まちづくり協議会との連携が、より結びつきの強く深くなるよう、組織の面からも連動することが必要であると考える。
- ・活動が多岐にわたり関わってくださるボランティアの数が多いため、コーディネーターの負担がどんどん大きくなっている。

### ■ボランティアの方々の特徴を生かし、学校のニーズに合わせてつなぐ(武佐小学校)

	近江八幡市
	活動名
正	代佐小学校支援地域本部
	関係する学校
正	t.佐小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	75 人
開始年度	平成21年度

#### ■ 活動の概要

〇地域の方にボランティア登録をお願いし、学校の授業や行事で必要な時に来ていただく。

○ボランティアの特徴は登録時に確認し、学校のニーズに合わせてコーディネーターがつないでいく。

#### ■ 特徴的な活動内容

- 〇プールやクラブ活動、家庭科等、少数の教員だけでは一人ひとりに十分に支援できない授業に定期的に参加してもらう。
- ○体験的学習で、華道や茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらう。
- ○地域の文化遺産の紹介や歴史等について、現地での説明を行ってもらう。
- ○警察や郵便局等、官公庁や企業で学校に協力をしていただける所を探し学習に活用する。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ○学年や学級の実態に合った支援になるように、先生の思いをじっくりと聞き取る。
- 〇ボランティアの思いや意欲を理解するために、できるだけ直接出会うようにし、自宅を訪問して打合せを行ったり、学校に来られたときには顔を合わせたりするようにしている。
- 〇ボランティアどうしもお互いに話ができるように、ボランティア室を設けて打合せや休憩に使ってもらっている。
- 〇ボランティア便りを作成し、活動の様子を伝え理解が得られるように、ボランティアに送っている。

#### ■ 事業の成果

- 〇地域のボランティアの方に学校に来て、児童の支援を行っていただくことで、学校や児童の様子をよく知っていただくことにつながった。
- 〇地域のボランティアの方と児童が顔見知りや仲良くなることで、地域であいさつしたり声を掛け合ったり、また、地域行事に参加 しやすくなるなど関わりが増えた。
- 〇授業や行事で教員の力だけではできない専門的な支援を行ってもらえる。また、担任以外にボランティアの方が支援に入っていただけるので、児童一人ひとりによりきめ細やかな支援ができた。
- ○教室内の教科書を中心とした授業だけにならずに、実際に見たり触れたりできる体験的な学習を多く取り入れられた。

- 〇企業やボランティアのできることと学校の要望が合わずに、たくさんの方に登録いただき、それぞれのボランティアが良い特徴を 持っておられるにもかかわらず、うまく活用し切れていないことがある。
- 〇コーディネーターの勤務時間に限りがあるので、ボランティアや先生との打合せや聞き取りが不十分になることがある。



【1年と6年のたけのこ掘り】



【さつまいもパーティ】

## ■ 学校・保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動(安土小学校)

	近江八幡市
	活動名
茎	7土小学校支援地域本部
	関係する学校
萝	<del>2</del> 土小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	135 人
開始年度	平成25年度

#### ■ 活動の概要

教職員が地域コーディネーターと意思疎通を図りつつ、保護者や地域住民と連携を深めながら、地域の人材を学校に招いたり、児童が地域に出向いたりして効果的な学習をしている。地域ボランティアの協力を得ながら、地域のよさを学ぶ体験学習に多く取り組んでいる。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・3年「物づくり体験」… 信長ねぎ収穫、ちまき作り、せんべい作りの各体験の地域 学習を行った。
- ・4年「西の湖学習」… 地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りを 行い、環境について学習した。
- ・5年「米作り体験」… 田植え、除草、稲刈り、調理という米作りの一連の活動を、 ボランティアの方々の協力を得て行った。
- ・6年「茶道体験」… 地域の施設の和室で、茶道教室の先生の指導により本格的な茶 道体験をさせてもらった。
- ・全校「見守り、あいさつ運動」… 日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしてもらった。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんとともに6年や児童会の子どもたちも参加して、校門であいさつ運動が行われた。
- ・全校「朝の読み聞かせ」… 毎週木曜日、朝読書の時間に、読書ボランティア「にょきにょきさん」に来てもらって、各学級で読み聞かせをしてもらった。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・教職員が地域コーディネーターと日常的に関わり、気軽に話せる関係を作っている。 そうして、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域コーディ ネーターから、多くの有益な情報を得ている。
- ・あいさつ運動には、大人だけでなく、6年生を中心に児童会の子どもたちが参加して 活動を盛り上げている。
- ・読書ボランティア「にょきにょきさん」と教職員や地域コーディネーターが日常的に 情報交換しながら、子どもが本に親しむ活動を推進している。



【 3年体験学習(ちまき作り) 】



【読書ボランティアの読み聞かせ】

#### ■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターが教職員と連携を密にし、担任の思いや要望を把握することで、適時、適材の地域ボランティアの方々を講師として招いたり、地域での学習に協力いただいたりすることができた。
- ・地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを 愛する子どもの育成につなげることができた。
- ・子どもたちがボランティアの方々とふれあう機会が多くなることにより、コミュニケーションが取れるとともに、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。ボランティアの方々も、子どもたちと関わることで、生きがいを感じていただいている。

#### ■ 事業実施上の課題

- ・地域の人材を発掘し、いかに学校支援をしていただける方々の登録を増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を通信やホームページ等で発信するとともに、情報収集に努める必要がある。
- ・地域ボランティアの方々の思いを聞いたり、ボランティア同士が交流したりする場を設定することも大切である。
- ・コミュニティセンターやPTAとの連携を深め、広く地域住民を巻き込んだ取組を進めていく必要がある。

#### ■ その他

安土小学校(URL)http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~adusyo/

### ┃ 「地域の人々の思い」「ものづくりの力」に出会いながら育つ老蘇っ子(老蘇小学校)

	近江八幡市
	活動名
老	<b>於蘇小学校支援地域本部</b>
	関係する学校
老	<b>萨林小学校</b>

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	19 人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

水田での稲作の学習をはじめ、菜種栽培やれんこんの栽培、蜂蜜の採取など、地域の様々な生産活動にふれ、それに携わる方々の思いにふれながら、本校児童は働く人々へのあこがれやふるさとに対する愛着を深めている。また、年間を通じての読み聞かせ活動や、まちづくり協議会、営農組合さんの協力を得ながら、餅つきや地域の伝統文化を学ぶ「オープンスクールデー」も実施している。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 〔農業に学ぶ〕

- ・もみまきから収穫までの餅米栽培体験(5年)
- 蜂蜜採取、いちご狩り、(4年)
- ・れんこん栽培、(3年) ・たけのこ掘り、野菜栽培(2年)

#### [歴史・伝統文化を学ぶ]

- ・安土考古博物館見学、お茶碗製作、お茶会、戦争体験の聞き取り(6年)
- ・シーサー作り(5年)・しめなわ作り(5・6年)
- ・ふるさと絵屏風や養蚕の学習(4年)
- ・むかしのくらし聞き取り(3年)

#### 〔環境を学ぶ〕

- ・ニゴロブナ稚魚の放流、水生生物調べ、びわ湖揚水機場見学(5年)
- ・西の湖学習からよし灯り作り(4年)
- ・ビオトープでの学習活動(全学年)
- ・菜の花栽培から油作り、調理、廃油のBDF化(3・4年)

#### 〔様々な人々の生きざまに学ぶ〕

アイヌ文化を学ぶ(5年) ・盲導犬とのくらし(3年)

#### 〔学びをささえていただく〕

- ・くすくすさん読み聞かせ(全校) ・ミシンボランティア(5・6年)
- ・マラソン大会立哨(全校)

#### [地域の人々と過ごす]

- ・オープンスクールデー(全校)・デイサービスセンター訪問(2年)
- ・むかしの遊び体験(1年)・ビオトープコンサート(全学年)



【西の湖学習(4年生)】



【茶道体験(6年生)】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・様々な農業生産活動や自然環境が豊かに存在することをいかし、児童の発達段階に合った学習素材を取り上げ、教材化すること
- ・実施に際して、コーディネーターが本校での経験が豊かであることをいかし、先々の見通しをもつこと
- ・担任が事前にゲストティーチャーと顔を合わせ、体験の狙いや内容について十分相談して当日を迎えること
- ・学習体験を「地域支援だより」や「校長通信」で地域に発信し、感謝の意を伝える。

### ■ 事業の成果

- ・児童が校外に学習に出かけることが当たり前の学習活動として定着し、あたたかく見守ったり、声をかけていただいたりしている。 また、自分の仕事について児童に話したり、田畑の様子を見せてやりたいと考えてくださる方が多くなり、特に低学年の生活科、 中学年の地域学習が主体的に学べるようになってきた。
- ・ゲストティーチャーとの出会いで学ぶことの意味を担任が考え、出会いに至るまでの学習、出会いの後の学びについて考え、単元 として構成するようになってきた。
- ・授業での出会いや、お礼の手紙を書く活動などを通して、普段の地域生活の中でもコミュニケーションが深まっている。
- ・日時設定や内容の概略についてコーディネーターにゆだね、進めておいてもらえる部分が多く、担任の労力が軽減されている。

- ・小規模校なので、各学年の体験活動の日程を調整しないと指導者、引率者不足になりやすい。
- ・前年踏襲の発想に陥るとせっかくの貴重な体験が身をもっての学びの獲得まで高まらない。
- ・地域の方が大きな労力をはらって学習に協力してくださっていることへの感謝と尊敬の念を忘れずに、児童がこの地域で学べてよかったと思える内容にするよう努力しなければならない。

### ■ 地域とのふれあいのなかで、人とのつながり方を学ぶ(八幡中学校)

	近江八幡市
	活動名
,	八幡中学校支援地域本部
	関係する学校
J	<b>、幡中学校</b>

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成25年度

#### ■ 活動の概要

地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することで、地域全体で学校を支援するシステムを地域・家庭・学校が連携して構築するとともに、地域の教育力の向上を目的とし、地域より学校支援ボランティアを募り、学校の諸活動を支援するシステムを構築しようとしている。主に授業などへの支援活動と人生伝承塾を実施している。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 【授業支援ボランティア】

1年被服実習支援(12月~2月)2年調理実習支援(6月~7月) 全学年水泳実習支援(6月~7月) 全学年書道(毛筆)実習支援(10月) 全学年剣道実習支援(11月~12月)

#### 【総合学習支援ボランティア】

- 1年八幡フィールドワーク支援(10月)
- 2年職場体験学習交通安全指導支援(11月)
- 3年牧水泳場清掃活動交通安全指導支援(8月)

#### 【学習支援ボランティア】

全学年夏・冬休みの補充教室・質問教室学習支援(7月~8月・12月~1月) 【人生伝承塾】・・1年生

目的を近江八幡に根づく伝統工芸や物産、現代社会を形成する新技術など、近江八幡での「ものづくり」の見聞、体験を深め、「ものづくり」の楽しさ、難しさ、人間が生み出した技術のすばらしさを知る。加えて、生徒が自分の将来や身近な職業について考える機会とし、以下の場所で1月下旬に活動をする。

伝統工芸…数珠玉加工(株式会社カワサキ)、瓦細工(瓦ミュージアム) 畳制作(西川畳店)、布団制作(愛善ふとん店)、看板製作(美十)、 皮革製品(コトワ)、金箔細工(五十子仏壇)、葦細工(西六商店)、 パン作り(お菓子司にしかわ)網修繕(川田商店)、巻きずし(ひょう たんや)、陶芸(吉川さん)、竹細工(竹松商店)

現代の新技術…工業製品(八幡工業高等学校)、工業製品(ポリテクカレッジ)



【調理実習の様子】



【書道実習の様子】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- 〇各コミュニティセンターと連携を密にとり、地域から広くボランティアを募った。
- 〇地域担当の職員を各学年1名配置し、時間割上に会議ができる時間を設定する。職員室に地域コーディネーターの座席を設け、常に交流がもてるように配慮した。
- 〇調理実習・水泳実習・書道実習・剣道実習・フィールドワーク引率ガイドでは、授業中の活動なのでボランティアの方がどこまで 生徒に接していいのか事前の確認が必要であったため、特に事前の打ち合わせを重視した。

#### ■ 事業の成果

- 〇実技教科の実習では、教師一人では目が届きにくい(指導が徹底しない)場面が多々ある。しかし各授業に平均3~4人の学習支援ボランティアの方が来ていただいている。生徒はわからない事などをすぐ聞くことができる環境で実習に取り組むことができており、生徒にとってとても有益である。
- 〇校外での活動では、交通立ち番をしていただくなど、生徒の安全確保に成果をあげている。

### ■ 事業実施上の課題

- ○100 名近くの支援ボランティアがおられるため、案内配布や事前打ち合わせの諸準備などで、地域コーディネーターの負担が大きくなっている。
- ○諸事情により時間割が急に変更になることがありボランティアの方に迷惑をかけたときもあった。

#### ■ その他

Oめざす地域連携の形として【学校を支援する地域】⇔【地域に貢献する学校】を目指している。八中太鼓の地域での演奏や生徒個々も各学区のイベントにボランティアとして積極的に参加している。また、職員も一人5回の数値目標を立て地域の行事(懇談会・お祭り等)に進んで参加するなど「地域に貢献する学校づくり」を目指している。

### ■ 地域とともに子どもを育てる学校支援地域本部事業(八幡西中学校)

	近江八幡市
	活動名
)	八幡西中学校支援地域本部
	関係する学校
1	\幡西中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	16 人
開始年度	平成21年度

#### ■ 活動の概要

本校は「美しく生きる」を教訓にして、思いやりのある生徒、たくましさのある生徒、きびしさのある生徒の育成をめざした教育活動に取り組んでいます。その実現のために地域の人々に協力を願った結果、学校支援コーディネーターを中心にいろいろな分野での学校支援活動の輪が広がっている。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### (1)部活動支援

部活動については、毎年、大きな支援をいただいている。現在、ソフトボール部、テニス部、バレーボール部・軟式野球部で、ほぼ1年をとおしてお世話になっている。これらの部活動の支援員は練習試合、公式試合にも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。また、技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

#### (2)学習支援

地域学習(郷土学習)で聞き取りや体験活動の講師として、また人権学習では体験や活動を語っていただく講師として、さらに今年度は、放課後の補充学習(質問教室)の学習支援者としてボランティアの方にお世話になった。



【八幡堀について現地での 聞き取り(地域学習)】

#### (3)学校行事の支援

今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影を支援員にお願いしている。ホームページの更新作業も、支援員により定期的にお願いしている。行事等があった場合は時間を空けず、その日のうちに情報を提供していただいている。昨年度からの修学旅行での情報提供に加えて今年度は、緊急時の連絡などの「お知らせ」をホームページ上に構築し、保護者が利用しやすいように変更していただいた。

#### (4)環境整備支援

支援員とPTAによる環境整備事業を計画的に取り組んでいただいた。夏休みの一斉除草作業や卒業式の花道に使うパンジーのプランターへの花植えなどの活動などである。

また、プランターへの花植え活動は桐原学区コミュニティセンターの事業である「地域花いっぱい運動」と協同で行い、幼稚園や小学校、子どもセンターなど地域施設へのお裾分けを行った。

#### ■ 実施に当たっての工夫

今までは定期テスト前の放課後に質問教室を教員が指導者となり行ってきたが、今年度は、本校卒業生の大学生を指導者として依頼し協力してもらった。公募等で大学生のボランティアを探すことは困難ではないかと考え、今年度本校で教育実習を行った大学生にボランティア登録をしてもらった。

また、専門的な知識や技能が必要となる部活指導の支援として昨年度まで本校に勤務され退職された教員にコーチを依頼した。

#### ■ 事業の成果

- ・部活動の指導においては、長年の経験や専門性を生かした指導をしていただき、子どもたちはプレーに集中しやすくなり、部活動 を休んだり遅刻したりする数が減った部もある。
- ・部活動では、社会で必要な礼儀やあいさつなど人として基本的で大切なことがらを指導していただき、あいさつができるようになった。さらに、支援員への感謝の気持ちが持てるようになってきた。
- ・部活動の技術指導においては、教師ができない専門的な指導がしてもらえ、技術の向上が見られた。
- ・環境整備事業で中庭の校長室に面した花壇にチューリップ、ストック、桜草等を植えてもらい、卒業式や入学式を含め、校長室を訪れたお客様はもちろん生徒、教師の心を豊かにしてもらっている。

- ・地域には子どもの健全育成に対して熱心に取り組んでこられた方もたくさんおられ、 学校教育に協力の意思を示してくださっている方もあるが、「学校の考えるニーズと 地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという実態がある。また、 支援員の高齢化が進み、新たな人材の確保が急務である。
- ・今年度は、教育実習生を支援員として取り組んだが、今後も継続的な支援が期待できるように教職経験者や本校卒業の大学生や保護者の協力、さらには、候補者の新規掘り起こしなどを行いたいと考えている。
- ・今後は、日常の授業支援、行事の際の業務支援等で子どもの学習や活動を支えていた だけるような取組を進めていきたい。



【プランターの花植作業 (環境整備支援)】

### **■ 地域の力を学校に!! 学校支援ボランティア(安土中学校)**

■ 近	江八幡市
■活	動名
安土	中学校支援地域本部
■ 関	係する学校
安土	:中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	60 人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

本校は学校教育目標として「自律・鍛錬」を掲げ、その実現のための1つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくり」を進めている。以前から本校では、「安土の子は安土で」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で地域の方々の協力をお願いしてきた。本事業でも学校支援コーディネーターを核として多くの学校支援ボランティアの方々の協力を得て、地域の特色を生かした教育活動を展開している。茶道体験活動、読書活動、環境整備活動等、地域の方々の協力を得て多くの体験活動を実施する中で、生徒たちはいろいろなことを学んでいる。

このように、この事業を通じて地域の方々の目を学校に向け、地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することで、家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくりが更に進むことを期待する。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### ①茶道体験活動

安土町は織田信長ゆかりの地として知られ、その信長は茶道をこよなく愛したと言われている。また、信長が茶を点てるのに使ったといわれる湧き水が現在も残っている。そこで、本校では地域学習を兼ねた特色ある教育活動の一つとして、茶道体験を行っている。今年度も1年生全員を対象とした茶道体験教室や希望する生徒を対象とした茶道体験クラブ(三井古流煎茶・裏千家)を実施した。また、文化祭「天正祭」には、保護者や地域の方々向けの茶道教室を実施している。茶道体験は、年数も重ね安土中学校の伝統となりつつある。



【茶道体験クラブ】

#### ②読書活動

本校では朝に10分間の「こつこつタイム」があり、1、2年生は朝読書に取り組んでいる。校区の2小学校でも読書活動が盛んで、小学校からの積み上げの効果もあり、ほとんどの生徒が10分間の読書活動に静かに取り組めている。そのような中、月に一度の読みきかせを読書ボランティアに依頼して全学年で実施している。

#### 3環境整備活動

本校には、植栽豊富な中庭があり、またその中には県下唯一の茶室「天正庵」がある。また、校舎周辺には6月頃に見頃を迎える千数百本もの紫陽花が植えられている。これらの植栽の剪定・除草作業の支援をいただいている。さらに、学校菜園での野菜等の栽培の支援もお願いしている。



【環境整備活動】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- 各活動が長続きするためにも、活動内容や活動スタイルをあまり変えることなく、毎年同じ事を確実に実施している。
- ・各活動で、学校支援ボランティアの方ができる範囲の中で準備から後始末までお願いして実施しているため、学校の準備などの負担は少なくて済んでいる。
- ・各活動の企画・運営すべてを学校支援コーディネーターにお願いするとともに、学校支援ボランティアの手配等もすべて担当していただいている。

### ■ 事業の成果

- ・環境整備活動や図書室の整備活動などで学校支援ボランティアの方の中には、活動日以外にも日常的に関わってくださるボランティアの方も出てきた。
- ・茶道体験活動では、生徒も一生懸命学ぶことで充実感を感じており、教える側のボランティアの方々も生徒が一生懸命に取り組む 姿勢を見て、喜びを感じていただいている。お互いが良い相乗関係を生み出している。
- ・同じ活動内容であっても「継続は力なり」で、毎年繰り返すことによって一つの伝統を生み出してきていると感じる。

#### ■ 事業実施上の課題

・学校支援コーディネーター、学校支援ボランティアの方々が同じメンバーでいつまでも活動していただけるわけではないので、事業を継続するためにも後継者をしっかり発掘しておく必要がある。

### | " にこ、キラ、武佐っ子 "を育むあったか支援の力(武佐こども園)

	近江八幡市
	活動名
正	代佐こども園支援地域本部
	関係する学校
正	は佐こども園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	21 人
開始年度	平成27年度

#### ■ 活動の概要

- ・こども園の保育・教育に地域の人材を生かし豊かな経験ができるようにする。
- ・人との温かいかかわりや地域の自然・行事に触れ、郷土への愛着心を育てる。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### ①絵本の読み聞かせ

毎月2回、クラスごとに絵本の読み聞かせをする。いろいろな人に絵本を読んでもらい、ほっこりした時間を過ごす。読み聞かせ研修として、元図書館司書の実演とワンポイントアドバイスを行う。

#### ②栽培活動

園畑で幼児が季節に応じた野菜を栽培している。畑を耕す時に肥料の混ぜ方や畝の作り方を学んだり、野菜の種まきや苗植えの方法を教えてもらったりした。さつまいもの収穫時には一緒に芋掘りをしてたくさんの芋が収穫でき、共に収穫の喜びを味わうことが出来た。

【 夏野菜の苗植え 】

#### ③行事支援

やきいもや餅つき、食育活動などの行事に協力いただき、それぞれの活動について 話 を聞いたり、手本を見せてもらったりしながら活動を楽しめるようにしている。

#### (4)保育教材作り(布製おもちゃ)

人形の服やままごとのエプロン、乳児の布製おもちゃ等の修理や作成などをする。布製のおもちゃは温かみもあり乳児の手にもやさしく扱いやすい。人形の服をたくさん作っていただいたことで、着せ替えをしたくて人形に触れる機会も増え、以前よりも大切に扱う姿が見られる。



【 人形の服 】

#### ⑤あいさつ運動

毎月1日、15日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って、あいさつをしながら迎える。5歳児もあいさつ運動に参加するようになり、保護者への啓発になっている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・絵本の読み聞かせと手芸など、ボランティアが重なる人もいるので、出来るだけ同じ日に設定して参加しやすくした。
- ・子どもと直接かかわることが少ない活動(手芸)は、活動の場を園児が見学したりお礼を言う場を作ったりしながら、ボランティアの支援の力に気付ける機会を持った。

### ■ 事業の成果

- ・地域の人、様々な世代の人とかかわることを楽しむ姿が見られ、人間関係が豊かになり、あいさつをしたりお礼を言ったり社会のマナーを自然と覚え身につけることができた。
- ・栽培活動など、経験豊富な方からの指導を受けることで、職員も学ぶことができ、より関心を持って活動に取り組むようになった。
- ・園に来ていただくことで職員とは違った視点でアドバイスを受けたり、環境整備に協力をしていただいたりし、園内環境がよくなった。
- ・おもちゃ作りや栽培活動など、職員だけではなかなかできないことに協力してもらえ、園児の活動がより充実する。

- ・協力ボランティアとの日程調整や参加人数把握が難しい。
- ・空き教室がないためおもちゃ作り等の場所の確保ができず職員室での活動となるので、活動の拠点となる部屋が必要である。
- ・ボランティア登録人数が少なく、一部のボランティアが重複していくつもの活動に参加している。支援活動に無関心な保護者も多い。なかなか保護者に広がっていかないので、子どもの姿などをボランティアだより「武佐っ子クラブだより」などで知らせ、協力者を増やしたい。

### ■ 創立 110 周年に向けた取組(八幡幼稚園)

	近江八幡市
	活動名
八	幡幼稚園支援地域本部
	関係する学校
八	幡幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	24 人
開始年度	平成27年度

#### ■ 活動の概要

本園では、今年度から学校支援地域本部事業に取り組む。地域の力、専門的な立場の方のノウハウを生かし、保育に取り入れることで、子どもたちの経験の幅を広げ、より楽しい幼稚園生活が送れるようにしていく。

#### 具体的には、

- ①3歳児保育支援
- ②栽培活動支援
- ③歌唱指導
- 4江州音頭指導
- 5書道体験
- ⑥フラワーアレンジ体験等の活動に取り組む。

#### ■ 特徴的な活動内容

書道の先生を講師に招き、書道体験として、墨を使って、大筆で字を書く体験、墨汁の手形体験を行う。

#### ■ 実施に当たっての工夫

全園児がリズム室に集まって、大きな紙に大筆で「110 さいおめでとう」の文字を書く。全員は体験できないので、代表の子どもが、書道の先生と一緒に書き、その様子をみんなで見守る。また、墨汁を使った手形を全園児が経験する。4、5歳児は、リズム室で行い、3歳児は各保育室で行う。それぞれの年齢に応じて、墨汁の手形を楽しむことができた。

#### ■ 事業の成果

今年度、八幡幼稚園は創立 110 周年を迎え、11 月 28 日に記念式典を行う。子どもたちと共に体験した「110 さいおめでとう」の書と、墨汁の手形をリズム室壁面に飾り、盛大に 110 周年を祝うことができた。なかなか、書道に触れる機会がない子どもたちにとって貴重な体験となった。

#### ■ その他

書道体験の他に、「フラワーアレンジ体験」「江州音頭指導」「歌唱指導」など、それぞれのプロから専門的な指導を受けることができ、創立 110 周年記念行事に花を添えることができた。職員だけの力では出来にくいことも、学校支援地域本部事業を活用することで、さらに素晴らしい取り組みを展開することができた。



【書道体験】



【リズム室壁面に飾られた手形と書】

### ■ 地域の子どもは地域みんなで育てる(岡山幼稚園)

■ 近江八幡市	
■ 活動名	
岡山幼稚園支援地域本部	
■ 関係する学校	
岡山幼稚園	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	33 人
開始年度	平成25年度

#### ■ 活動の概要

・「地域の子どもは地域で育てる」という岡山学区民の思いを大切ににしながら、幼稚園・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子 どもを育てていこうという目的で事業を進めている。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・幼児教育の充実のために地域の方々の力が発揮できるような活動を中心に計画し取り組んだ。
- ①保育支援・・・3歳児の入園当初の生活支援・プール遊び、給食時の見守り支援
- ②環境整備・・・プランターの花苗植え、植え方指導・樹木の剪定・野菜栽培指導
- ③託児支援・・・保育参観や保護者が参加する園行事の時の託児
- ④保育参加・・・地域の方をゲストティーチャーとして迎え、特技披露と指導

#### ■ 実施に当たっての工夫

・地域の会議で活動を周知し、コミュニティーセンターだより、園だより、クラスだよりで活動の報告をしている。

#### ■ 事業の成果

- ・「地域の子どもは地域で育てる」という岡山学区民の思いがあり、とても協力的で、幼稚園事業を進めることができる。
- ・初めての集団生活を送る3歳児にとって地域の人たちにも関わってもらうことで安心して幼稚園生活を過ごすことができた。
- ・地域に人材が豊富で、こままわし教室等いろいろな特技を持っておられる方々に丁寧に子どもたちに関わっていただくことで子ど もたちもあこがれたり活動への意欲をもったりすることができた。
- ・地域の方々に幼稚園に来ていただくことで子どもの姿を知っていただくことができた。また地域の方々の子育てへの思いや地域での子どもの様子を知る機会となっている。

#### ■ 事業実施上の課題

・今年度は地域の大工さんと交流する機会があり、大工さんの仕事や道具の使い方等を知ることができ、保育の中に計画的に地域の方に参加してもらうことができた。今後はさらに人材を発掘しいろいろな方に参加していただき子どもたちの興味関心が高まり人とのかかわりを育んでいきたいと思う。



【5歳児 大工さんの仕事を知ろう!】



【3歳児 たまねぎ苗をうえよう!】

### ■ 保護者・地域の豊かな人材を保育活動のなかに・・・(金田幼稚園)

■ 近江八幡市 ■ 活動名	コーディネーター数	1 人
金田幼稚園支援地域本部	ボランティア登録数	25 人
■ 関係する学校 金田幼稚園	開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

- 年度当初にボランティアを募り、支援の内容を登録する。
- ・昨年度より、引き続きのところは、コーディネーターが連携をとり、園の活動に合わせてつないでいく。
- ・手作りのオモチャや服をつくるなど、子ども達の喜ぶ笑顔、個性、感性を育て、物の大切さを学習するきっかけにし、幼稚園でより楽しく安全に過ごすお手伝いをする。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 【 保護者ボランティアの協力 】

- ①手 芸・・・使用しなくなったたくさんの生地でいろいろなものを作ってきた。代表的なものは、ピアノカバーで、11 クラスほぼ渡し終え、次にバレリーナのようなチュチュや、ごっこ遊びに使えるマントを作成中。
- ②絵本の読み聞かせ・・毎週1回、1学年ごとの読み聞かせ。子ども達も楽しみにしており、保護者に読んでもらう良さを感じる。
- ③畑の活動・・さつまいも、玉ねぎ、大根、いちごなどの苗植えや種まき・収穫など、一年を通して畑づくりや作物の世話など支援していただいた。子ども達は、やり方を教えてもらったり、一緒に収穫を喜び合ったりすることで、友だちのおじいちゃんに親しみをもち、交流も広がった。
- ④その他・・日本舞踊・文化琴(日本文化)などに触れる活動。

#### 【 地域ボランティアの協力 】

- ①木工の活動・・廊下に洋服等をかけるコロコロ付きのハンガーが置いてあり、園児たちが歩行する度に洋服が落ちたり、つまずいたりして危ないことから壁にフックの設置をお願いした。子ども達が気持ちよく安全に過ごせる環境づくりの 一助となっている。
- ②栗林での栗拾い・・毎年のご厚意で、園の近くで栗ひろいをさせていただいている。「おじいさんのくりばたけ」という紙芝居も出来、地域の人との温かい関わりが、子ども達を豊かに育てることにつながっている。
- ③園外保育・・・篠田神社(花火の話を聞く)、コスモス畑など

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・手芸活動を通して・・大量にある生地で何が作れるのか、ボランティアと会議を行い、先生方とも相談しながら試作品をつくり、 安全面でクリアしているかどうか確認してから作業に入った。
- ・木工活動を通して・・フック取り付けは、毎年少しずつしてもらっている。ボランティアからも「今年はどこをしますか?」と声をかけていただき、地域の力が活かされているのを感じる。

### ■ 事業の成果

- ・ボランティアから園児達へ直接受け取ることにより、感謝の気持ちや大事に使っていこうという優しい気持ちが芽生えた。ボランティアにとっては、園児達、先生方からの感謝の言葉が励みと自信につながり、得意分野ではあるがさらなる向上と、もっと頑張ろうという意欲がわいてくる。
- ・地域に出かけることで、家庭からも行くきっかけとなり、地域の良さを子どもも保護者も知る機会になった。

#### ■ 事業実施上の課題

ボランティアに参加してくださる方は、得意分野以外にも積極的で、何でもお手伝いをしてくださる。その気持ちとは反対に負担になっていないか心配に感じることがある。

今までボランティアに参加したことがない保護者の方や地域住民の方の人材発掘と、得意とすることを活かしていただける場の工夫などがもう少し必要である。



【手作りのチュチュ】



【フック取り付け】

### **■ 地域とともに・・・子どもたちに豊かな体験を(桐原幼稚園)**

	近江八幡市
	活動名
村	同原幼稚園支援地域本部
	関係する学校
札	同原幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	40 人
開始年度	平成25年度

#### ■ 活動の概要

本園での事業も3年目に入り少しずつ浸透してきたが、より多くの方に活動を知ってもらえるように月に一度、活動内容や成果を「ボランティア通信」としてお便りを配布している。主な活動として、子どもたちが野菜を育てる園庭の畑の下準備(土を耕す・畝を作る・マルチをかける)、プランターへの花苗植えの環境整備、保育室のピアノカバーや子どもたちの遊びを広げる布おもちゃを作成する手芸、PTA総会・講演会・運動会前日準備の託児支援、絵本の読み聞かせ、入園直後の子どもたちへの保育支援活動を実施している。

#### ■ 特徴的な活動内容

絵本の読み聞かせでは、ボランティアの方々が季節にそった絵本や子どもたちの興味をそそる絵本、科学の絵本などを2~4冊選んで、4・5歳児は給食が終わって一息ついた時間に、3歳児は午前中に来て読んでくださる。ボランティアの方々も子どもたちの喜んで一生懸命聞いてくれる姿や子どもたちとのやりとりを楽しみに、喜んで読みに来てくださっている。絵本だけでなく子どもたちの聞く力が育つように、素話(すばなし)も取り入れてくださり、読み聞かせの時間は子どもたちにとって楽しみな時間でもあり、先生や保護者以外の方に絵本を読んでもらうという良い経験ができているのではないかと思う。

地域の方が「地域の子どもは地域で育てる」という趣旨の元、「学校応援団」を立ち上げてくださった。園・コーディネーターと連携し、保護者ボランティアが参加出来ないPTA 総会や講演会の際の託児支援などの時に、地域ボランティアの方々に支援をお願いしている。



【絵本の読み聞かせ】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティア活動の内容・成果をまとめたお便りを月一回作成、配布し、ボランティアの興味のあることから参加してもらえるようにした。
- ・活動の時間を「子どもを送った後から」という形で伝え、保護者ボランティアが気軽に参加しやすい時間に設定した。
- ・布おもちゃを作る手芸の活動の際は、ボランティアの思いを尊重し、子どもたちに作ってあげたいものを作成するようにした。

### ■ 事業の成果

- ・園の畑で子どもたちが種を蒔く、苗を植える、水をあげるなどお世話をすることにより野菜が生長するのを体験し、それを収穫し食べることの喜びを味わうことができた。
- ・本園にボランティアに来てくださる地域の方々は、スクールガードや小学校のボランティアとして子どもたちと関わってくださる方も多いので、小学校に入学してからも知った人がいることで、子どもたちの安心感につながっていると思われる。子どもたちにとっても、保護者や祖父母以外の地域の方と関わることが良い経験になっている。
- ・PTA総会・講演会の際の未就園児の託児は、普段ゆっくりお話を聴けなかった保護者も集中して聴くことができたと喜んでいた。
- ・地域ボランティアの方を中心にして、環境整備の畑の準備をすることで、農作業の経験のない保護者ボランティアもやり方などを教えてもらいながら、作業を進めることができた。また、保護者と地域の方の異世代交流にもつながった。



【焼きいもパーティ】

#### ■ 事業実施上の課題

活動においてボランティアが固定化してきている。特に保護者のボランティアは参加してくださる方が偏ってしまうので、ボランティアの負担にならないように、支援ボランティアの参加拡大をどのように図っていくかが課題となってきている。今、活動してくださっているボランティアの方々を中心にしながら、より地域や学校応援団、保護者に活動状況を情報発信していきたい。

### 「えほん見て(読んで)くれて ありがとう」「よう覚えているね うれしいよ」(北里幼稚園)

■ 近江八幡市	
■ 活動名	
北里幼稚園支援地域本部	
■ 関係する学校	
北里幼稚園	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	21 人
開始年度	平成25年度

#### ■ 活動の概要

#### (1) 読み聞かせや紙芝居を中心に

・事業の中心として大事にしているのは、地域の方や保護者(うさぎさんサークル) が中心となって行っている読み聞かせである。月4回くらい来ていただいているが、 それぞれに特徴があり、良い機会となっている。回を重ねるごとにお話の世界に入 り込み、聞き入っている姿がある。他に「英語で遊ぼう」の中でも、英語の絵本の 読み聞かせをしていただいている。

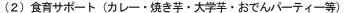
#### (2) ボランティアポイントの取組

- ・北里商業協同組合のご協力を頂き、ボランティアしていただいた方に商店街の買い 物補助となるポイント券を渡し、お礼のひとつとしている。(PRの意味でポイント 券を広めてほしいということで使わせていただいている。)
- (3) 園の年間計画と事業をかみあわせての実施
  - ・どの行事や事業にボランティアに来ていただくと良いのか、保育展開の中にどのよ うに生かしていけば良いのか等を考え合わせながら活動を展開させた。

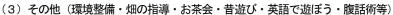
#### ■ 特徴的な活動内容

#### (1) 紙芝居・絵本の読み聞かせ

・毎月第1火曜は紙芝居、第2木曜は保護者による読み聞かせ、第3火曜はボランテ ィアの読み聞かせとして年間計画を立て、実施した。内容については、その都度、 相談を受けたり季節や行事にちなんだものをお願いしたり、時には子どもたちのリ クエストを入れたりしながら、進めていった。



・園で栽培し収穫した野菜を使ってのクッキングを手伝っていただいたり、子どもで はできない大学芋をつくっていただいたりして、収穫した物を食すという経験からその喜びを大いに感じ、感動することができ た。また、ボランティアにそばで見守ってもらったり包丁の持ち方を教えてもらったりすることで自信と関心が持て、その後家 庭で料理する姿が増えたようである。



・園の行事に合わせて指導に来ていただいたり(お茶会・腹話術)、子どもと共に作業しながら教えていただいたり(畑などの作業) した。昔遊びや英語で遊ぼうでは、子どもたちの興味や関心、親しみを広げることにつながった。

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・昨年度の良かった点、反省課題も考えながら今年度の活動内容を検討し、募集チラシを作成、全戸配布してボランティアを募った。
- ・学期ごとに活動内容がわかるような掲示物を作成し、みんなの目に触れるところへ展示して、見ていただいた。写真やイラストを 入れるなどの工夫を凝らし、保護者はもちろんのこと、来園者や子どもたちにも関心を持ってもらえることができた。
- ・幼稚園から発行している便り(地域向け・保護者向け)に記事を掲載し、保護者や地域への情報発信に努めた。
- ・活動毎に実施記録を作成し、参加者や内容、感想、反省、課題等を記録に残し、次回の活動に役立てた。

#### 事業の成果

- ・事業毎にいろいろな方が来てくださり、子どもと触れ合い関わっていただけたことは、子どもの経験を広げる意味でも成果があっ た。また、いろいろな人と挨拶を交わす機会が多くなり習慣となっていったことで、ボランティアの方にも喜んでいただけた。
- ・「英語であそぼう」は2年目の取組であり、今年度は八幡西中のALTベン先生を迎えて、外国の人に触れながら本物の英語にも触 れ親しむという目的で行った。いろいろと課題も見えてきたが、親しみを持って遊んだり話したりできたことでは成果があった。
- ・畑作業のサポートボランティアでは、畝づくりや肥料のやり方、時期など教えていただくことができ、特に若い職員には良い経験 と学びになった。
- ・絵本の読み聞かせや食育活動などに新たなボランティアが加わってくださり、「子どもからパワーがもらえる」「私自身が楽しんで いる」など、生きがいを感じていただくご意見もいただき、双方にとってプラスとなった。
- ・絵本修理を自ら申し出ていただき、丁寧で愛情が感じられる修理をしていただき、改めて大事に使おうという気持ちが強くなった。
- ・事業毎に反省会をもったことで、ボランティア同士の親睦を深めることにもなり、新たなアイデアも生まれ、事業の広がりにつな がった。

#### ■ 事業実施上の課題

・園の行事と支援していただける事業をうまく合わせながら、有効な人材活用ができるようにする。また、行事が増えすぎないよう、 精選していく。より健やかな子どもの育成につながるような事業内容を検討していく。



【紙芝居】



【大学ポテトづくり】

### ■ つながる・ひろがる、ボランティアの輪(安土幼稚園)

	近江八幡市
	活動名
5	安土幼稚園支援地域本部
	関係する学校
5	安土幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	平成24年度

#### ■ 活動の概要

本園でのボランティア活動は4年目となり、園の活動の流れに自然と位置づけられるようになってきた。ボランティアは、保護者、地域の方々を始め、専門的な分野で活動しておられるグループの方々など、コーディネーターが核となりネットワークを広げている。活動としては、「託児」・「図書」・「環境」の3つの柱を中心に、園のニーズに応じて地域の方のもっておられる力を園の活動の中にいれて保育をより充実させていっている。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ①託児・・・参観日等、保護者が参加する園行事に、就園前の子どもの託児をする活動で、ボランティアは女性に限らず、男性の方も一緒に託児をしてくださっている。それぞれの持ち味を生かしながら、子どもたちにかかわってくださることで、家庭とは違う人との関わりが持てる場にもなっている。
- ②図書・・・主に読み聞かせを計画・実施する部門と、絵本の修繕、絵本室の環境構成の部門に分かれている。昨年度末に、読み聞かせグループ『まんまる』を発足し、月1回の子どもたちへの読み聞かせをしている。加えて今年度は、なつまつりの一つのコーナーに読み聞かせの場を設け、普段は子どもたちだけに行っている読み聞かせを親子を対象にすることで、親子で楽しんでもらい、活動をより知って理解してもらうきっかけの場となった。



【参観日の託児の様子】

また、子どもたちにより絵本を好きになってほしいという思いから、園側と相談しながらアイディアを、絵本室の環境を変えていった。その中で、壁面に飾るものを作成するのが得意な方が、絵本室の壁面等を飾ってくださり、温かく居心地のよい雰囲気になった。また、子どもたちが読みたい絵本を選びやすく、返しやすくなった。

③環境・・・今年度は、芝生植栽という大きな事業があり、それに向けて計画をしていく中、例年とは違う作業の必要性が出てきた。 準備段階の園庭の草刈りは、数日間かけて保護者ボランティア、地域の方と作業をした。しかし、あまりにも表面の土が硬いことが分かり、コーディネーター会議で話を出したところ、他地域のコーディネーターの方が表面の土を耕してくださったり、植栽準備に地域の方を始め、関わりのあるボランティア、コーディネーターの方も一緒に作業をしてくださったりして、たくさんの方のつながりの中で無事に終えることができた。現在は、園庭一面に芝生が広がり、よい環境となった。

### ■ 実施に当たっての工夫

ボランティアの方々が活動していることを園側がしっかりと把握し、園のため、子どもたちのために尽力してくださっていることを心に留めながら、可能な限り園側も一緒になって活動したり、子どもたちにもしっかり伝えて感謝の気持ちをもったりして、コーディネーターを介しながら、つながっていくように心がけていった。

また、誰もができる、できる時にできる人が参加するボランティア活動ということを ベースに、かかわっていく中で見えてくる個々のキラッと光る持ち味や特技を生かせる 場を模索していくことで、さらにボランティア自身がよりやりがいを感じながら活動できるようにしていった。



【新しくなった絵本室の壁面

#### ■ 事業の成果

園、コーディネーター、ボランティア、それぞれがもっている"幼稚園をよくしたい""子どもたちのために"という思いを出し合って話し合う機会をもちながら進めていくことで、互いに気持ちよく活動ができ、よりよい成果に結びついていった。

#### ■ 事業実施上の課題

現在位置付けられている活動だけでなく、地域の方の人材を少しずつ保育の中に取り入れていっている。地域にどんな力を持った方がおられるのかをより知っていく中で、保育にどう活かしていけるかを探っていきたい。

### **■ 地域の方と共につながる園教育を!(老蘇幼稚園)**

■ 近江八幡市
■ 活動名
老蘇幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校
老蘇幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	34 人
開始年度	平成25年度

#### ■ 活動の概要

本園での学校支援地域本部事業の取組は3年目を迎え、地域や保護者の中に浸透しつつある。①子どもたちが気持ちよく過ごせる環境づくり(栽培活動・除草作業・木々の剪定作業など)②絵本の読み聞かせ(月2回~4回)③託児支援(保育参観・学級懇談会・PTA研修会など園の行事の間)④水遊び支援(3歳児の水遊び時の着替え支援)を中心に教育活動を支援する。今年度も支援ボランティアを募集し、できる方ができる時に活動に参加してくださるように、コーディネーターの連携のもと事業を進める。

#### ■ 特徴的な活動内容

栽培活動

畑作りからサツマイモの苗植え、収穫を一緒にする。(3・4・5歳児と一緒に) 夏の花苗植えをする。(4・5歳児と一緒に)

• 園庭整備

運動会に向けて、保護者と共に園庭の環境整備をする。

絵本の読み聞かせ

給食後・・絵本室で子どもたちの選んだ好きな本を読む。

降園前・・保育室で3・4・5歳児それぞれのクラスで、ボランティアが選んだ本を 子どもたちに読み聞かせをする。

水遊び支援

3歳児の水遊びの時に、水着への着替えや衣服の着脱支援をする。

託児支援

保育参観・学級懇談会・給食試食会・PTA研修会など園の行事に、託児をする。

園外保育付添い

安土山や観音正寺の山登りなど一緒に登っていただき、子ども達に地域のよさを伝えていく。

【託児支援の様子】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・老蘇コミュニティセンターに協力していただき、保護者や地域の方に昨年の成果や事業内容を知ってもらえるよう、手紙を老蘇学 区の全戸に配布し、昨年度より参加されている方は継続してそして更に人数が増えるようボランティアを募った。
- ・絵本の読み聞かせにおいて、外国ルーツをもつ方に外国の絵本を読んでいただいたり、外国語に親しんだりする機会をもった。また、活動の様子の写真やコメント・絵本紹介を掲示することで、保護者にも興味や関心をもってもらえるようにした。

### ■ 事業の成果

- ・地域のボランティアの方が園のために活動してくださっていることを、保護者が知ることで、"自分たちも手伝おう" "何かできることはないか" と意欲的に協力する保護者が増えた。
- ・栽培活動では、畑作りから苗植え収穫まで指導していただき子どもたちと一緒に作業をしていただいた。子どもたちも水やりなど 頑張ったり、おいもパーティーをひらいたりして、収穫の喜びを一緒に味わうことができた。
- ・運動会前に園庭の除草作業の手伝いを募ったところ今年度はより保護者の参加が増え、ボランティアの方と一緒になって作業を進めることができた。
- ・絵本の読み聞かせは、外国籍ルーツをもつ方に、外国の絵本や言語を紹介してもらい、多文化共生のきっかけづくりとなった。パネルシアターを作ってくださったり、CDに合わせた歌を取り入れたり、動いたりと子どもたちがお話の世界を楽しむ機会がもてた。また、家庭にも絵本の紹介をすることで保護者が興味や関心をもつようになってきた。
- ・保育参観や学級懇談会・PTA研修会など園の行事に、託児をしていただいたことで、 下の子を気にせず、保護者は安心して我が子の様子を見たり関わったり研修に参加す ることができた。
- ・支援ボランティアの方も子どもたちの名前を覚えて親しみをもって関わってくださり 「一緒に遊んで楽しかった。」「元気をもらった。」 喜んで参加してくださる姿が見られた。

### ■ 事業実施上の課題

・充実した事業を進めるためには、豊かな人材の発掘が必要であり、より多くの方に地域ボランテイアとして気軽に参加していただけるように努めていきたい。地域の事を教えてもらったり、特技を生かしてもらったりするなど、今後も地域の方とのつながりを大切にしたい。園教育の理解をしていただきながら、園と地域がともに子どもたちを育てていけるようにしていきたい。



【環境整備支援の様子】

# 草津市における学校支援地域本部の取組

#### ■めざす姿

草津市では平成10年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域のそれぞれがもつ教育機能を生かしながら、子どもと大人が学び合い・かかわり合い・よろこび合い・認め合う協働の積み重ねを通して、輝く人づくり・まちづくりを目指している。

今年度から、7つの小学校をモデル校として、地域コーディネーターを導入し、学校支援地域本部の制度を有効的に取り入れることで、人材や事業のさらなる拡充を図り、「地域の子どもは地域で守り育てる」という意識の定着と、つながりを大切にした豊かな学びづくりを進めている。

#### ■本年度の活動

4月17日(金)学校支援地域本部事業説明会 学校支援地域本部事業の趣旨説明および地域コーディネーター導入について

<u>5月1日(金)地域コーディネーター研修会</u> 地域コーディネーターの機能と業務について

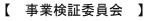
8月18日(火)第1回運営委員会(地域協働合校事業検証委員会) 実践事例検討および情報交換

12月2日(水)地域協働合校全体研修会

講演「斜めに交わる場所づくり~地域創生と協働~」

講師 滋賀県立大学 地域共生センター助教 上田 洋平 氏

### 2月~3月 第2回運営委員会



○事業の円滑な実施に向けて、学校訪問を通して、子どもたちや地域の方の活動の様子や地域コーディネーター、学校担当者との懇談から成果と課題を随時把握集積し、「中間報告」という形でまとめ、 各本部に還元した。

- ○市全体で取り組むという意識を醸成するため、広報活動の一環として掲示コーナーの作成や通信の発行に着手し、庁内他課に対して、 事業理念や学習支援の姿を広く周知した。
- ○事業拡充に向けて、年度末には実践事例集やリーフレットを作成し 来年度につなげていく。



#### ■本年度の成果

【 広報誌「協働通心」

- ・地域や保護者にネットワークを持った地域コーディネーターからの発信は、学校窓口担当者と地域の 直接的なラインと比べて、複数のラインとなることが多く、事業の沿革に関わる地域人材とも学校が 結びつき、結果的に学校支援ボランティアの組織化や「地域が学校を支えている」という当事者意識 の向上につながっている。
- ・子どもたちが、様々な場面で地域の方と接することで、学習の充実化とともに、自分たちも地域の一 員であるという自覚が育まれている。

#### ■今後の課題

・学習内容だけでなく体験や活動を通じて「どんな力をつけたいのか」というねらいを学校、地域コーディネーター、学校支援ボランティアが共有するための時間的な確保も含めた工夫が必要である。

# ■「地域の人に学び、地域で生きるわたしたち」(志津小学校)

■ 草津市	
■ 活動名	
志津小学校地域協働合校	
■ 関係する学校	
志津小学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	400 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

#### ■ 活動の概要

「人に学び、地域で生きるわたしたち」をテーマに

「人・もの・地域」との出会いを大切にした『志』の教育活動に取り組んでいます。

- ①志津小学校区の「地域資源」を生かした授業づくりに取り組んでいます。
- ②志津小学校地域協働合校推進事業の地域への啓発に取り組んでいます。

#### ■ 特徴的な活動内容

①田畑つくりへの支援と交流

・さつまいも作り さつまいもの苗を植えよう さつまいも掘り いもパーティー(1年) 【地域老人クラブの方】

・米作り 田植えをしよう 稲刈り体験 収穫祭 (5年) 【地域の方】

#### ②校内での学習支援

・クラブ活動支援 (4・5・6年) 【お茶・手芸・料理クラブボランティア】

・本大好き会(全校) 【読書ボランティア】

・ホタルの生態を知ろう (3年) 【地域の方】・ビオラ演奏体験 (5年) 【地域の方】

・書写の学習支援 (3年) 【地域の方・保護者ボランティア】

・昔遊びを楽しもう (1年) 【地域老人クラブの方】・昔の道具を知ろう (3年) 【地域老人クラブの方】

・3世代ふれあい人権集会 (全校) 【地域の方】



【 昔遊びを楽しもう 】

#### ③校外における学習支援

・校外学習の引率支援 乗り物にのってでかけよう (2年) 【保護者ボランティア】

・まち探検 (2年・3年) 【地域の施設】

・志津お宝発見 カーネーション栽培のお話 (3年)【地域の方】

#### ④学校安全·環境支援

・あいさつ運動 【地域・保護者の方】・環境整備 【地域・保護者の方】

#### ■ 実施に当たっての工夫

学年の要望を簡潔にまとめ、コーディネーターによる綿密な計画を立てている。 学校の要望を地域の方に伝え、地域の方の得意とされることを活かせるようにしている。 打ち合わせ準備・当日・振り返りなど、単発ではなく話し合いを重ねている。



【 あいさつ運動 】

### ■ 事業の成果

地域の方に、本校の特色や目指している姿を理解していただき、支えていただけた。 児童が地域の方と接することで、顔見知りとなり、挨拶ができ、地域の中の一員であることを理解するようになった。 児童は、地域の特色や伝統、地域の方の意気込みを知り、自らも続こうとする姿がみられた。 今年度よりコーディネーターが間に入ることにより地域の方の声を取り入れやすくなり、クラブボランティアの組織化や 書写ボランティアという新しい支援を得ることができた。

#### ■ 事業実施上の課題

ボランティアの活動希望日時と学校側が求める活動日時が異なることが多く調整が難しい。

#### ■ その他

志津小学校のホームページに「That's my 地域協働合校 report」のバナーをつくり、地域協働合校事業の取り組みを写真などで紹介している。

http://www.shizu-p.skc.ed.jp/report.html

### ■ ふれあい、学び合い、心をひびかせる 草津っ子(草津小学校)

	草津市
	活動名
Ī	草津小学校地域協働合校
	関係する学校
1	草津小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	139 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

#### ■ 活動の概要

歴史と伝統のある草津小学校では、温かい地域の方の支えにより、「ふれあい、学び合い、心をひびかせる草津っ子」を合い言葉に、自分のよさ、学校のよさ、地域のよさを共に高め合おうと取り組みを続けてきた。草津市の市街地の中にある本校だが、校地内に作っていただいた学校田や畑で、毎年米作りやサツマイモ作りを続けている。また、ボランティアの方を招いて毎年「お米パーティー」や「おいもパーティー」を開き、親交を深めている。子どもたちとの交流だけでなく、ボランティア同士の交流や親睦が深まり、自主的に参加してくださる方が少しずつ増えてきて、地域との関わりが高まってきている。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 〇「はなややさいをそだてよう」

1年生の生活科で、環境ボランティアの方に指導していただきながら、サツマイモを植え、植物のいのちを感じながら水やりをして育てている。秋には収穫したサツマイモを使って「おいもパーティー」を開き、ボランティアの方を招待して共に収穫の喜びを味わい、交流を深めている。

#### 〇「水のめぐみ、米作り大作戦」

5年生の総合的な学習で、冬の土作り、代掻きから1年間に渡って「米作り」について学び、学校田で米を栽培している。特に田植え、稲刈りの時は一人ひとりの手を取って丁寧に指導していただき、米作りにかける思いや願いを感じながら学習することができた。秋には「お米パーティー」にボランティアの方を招いて学んだことを発表し、収穫した米をおにぎりにして共にいただき、交流を深めている。

#### 〇「名人に学ぼう」

4年生の総合的な学習で、日本の伝統的な文化(茶道、日本舞踊、謡曲、和太鼓)に関して、地域や草津市内におられる名人さんに話を聞いたり、実技を指導していただいたりして、学んだことを互いに発表しあった。子どもたちが日本の伝統文化にふれるよい機会となり、発表会に指導していただいた名人さんを招待して交流を深めている。

#### ○読書ボランティア「にじ」による読み聞かせ

読書ボランティア「にじ」のみなさんが、朝のはげみタイム(10分間)に絵本や紙芝居の読み聞かせを各学級の教室で行っている。 また、「おひるのお話会」として、昼休みに紙芝居やパネルシアター、絵本の読み聞かせなどを行っている。何度も来ていただいているうちに、ボランティアの方とも顔なじみになり、子どもたちは来てくださることを楽しみにしている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

高齢化や体調により、活動を辞退されるボランティアの方がおられたので、ボランティア同士でも声かけをしていただき、新しい参加者が増えた。また、ボランティア同士の交流や親睦が深まるように、活動後に必ずミーティングや懇談の時間を持ち、「来てよか

った、また来たくなる」ボランティア活動を目指した。ミーティングの場では意見交流を 行い、次の活動に生かすようにしている。また、子どもたちとの交流がそのとき限りにな らないよう、学習後も発表会などでふれあいや関わりを深め、次年度へとつながるように 心がけている。

#### ■ 事業の成果

何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、担任が交代しても、ボランティアの方が活動の流れを把握していただいており、毎年、主だった活動にスムーズに取り組めている。また、継続して取り組んでいることが、ボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という生き甲斐や誇りにつながっている。学習のまとめである「おいもパーティー」、「お米パーティー」、運動会や歌声集会にも積極的に参加していただき、交流や関わりが深まり、子どもたちの豊かな学びにつながっている。

### ■ 事業実施上の課題

ボランティアの方の熱心な支援で、子どもたち一人ひとりに丁寧に指導していただいている。おかげで、学習は予定通りスムーズに進んでいくが、「子どもたちが立ち止まって考えたり、試行錯誤をしながら自力解決したりする力が育つ機会を減らしているのかもしれない」という危惧の念を抱くことがある。事前の打ち合わせなどで、学習内容だけでなく、体験を通じてどんな力をつけたいのかという学習のねらいや、役割分担について、学級担任やボランティア同士の連携を密にし、十分に共通理解しておくことが大切である。



【仲良くサツマイモ植え】



【学校田で田植え】

 $\prod$ 

# ■ 『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう!(草津第二小学校)

■ 草津市
■ 活動名
草津第二小学校地域協働合校
■ 関係する学校
草津市立草津第二小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	107 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

### ■ 活動の概要

草津市では、17 年前から、子どもと大人の協働を通して『輝く人づくり』を進めるため、地域に開かれた学校を目指すとともに、子どもの学びを学校と地域で連携して支援することを目的にして『地域協働合校』事業を進めてきた。今年度から、学校支援地域本部事業と連携し、「地域コーディネーター」を配置して新たな取組を始めた。本校では、「『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう! ~地域と協働し活力のある学校をめざして~」をスローガンに、地域や保護者と協働でさまざまな活動に取り組んだ。

### ■ 特徴的な活動内容

- (1) 各学年での特徴的な学習支援
- □1年生「昔遊びにチャレンジ」

友だちと群れて遊ぶことが少なくなった子どもたちに、地域の高齢者の方々から、めんこ、だるま落とし、あやとり、けん玉、 コマ回し、お手玉、おはじきなどの遊びを教えていただき、伝承遊びに興味をもち、意欲的に遊ぼうとする子どもたちを育てる。 □2年生「赤ちゃん先生プロジェクト」

NPOと地域の企業との協働により、O歳児の「赤ちゃん先生」との5回のふれあいを通して、命の大切さ、成長の喜びを感じる体験をする。自分にも赤ちゃんの時期があり見守られながら成長していること、かけがえのない存在であることを感じていく。

□3年生「ふれあいお店体験」

草津駅前の商店街で、3年生児童がお店体験をすることにより、地域の方々と積極的に関わり、交流しようとする態度を育てる。 また、どのような思いや願いをもって働いておられるかに気づき、働くことの大切さについて体験を通して学ぶ。

□4年生「バリアフリーってなあに」

実際に車いすを体験したり、車いすを利用している方(車いすテニスプレーヤー)のお話を聞いたりすることで、利用している 人の視点で介助を行うことや、バリアフリーについて学ぶ。

□5年生「田んぼのこ」

学区内に唯一残っている田んぼを学習田としてお借りし、田植えから稲刈り、そしてお世話になった地域の方々(田んぼのこ応援団)を招待して開催する「収穫感謝の会」を実施して、農業について体験的に学ぶ。

□6年生「マイドリーム」

地域の方や卒業生をゲストティーチャーに招き、今の仕事に就こうと思ったきっかけや努力したこと、仕事をする上で困ったことややりがいなどについて話をしていただく。自分の将来に夢を描き、その実現に向けて努力していこうとする意欲を高める。 (ゲストティーチャー:アナウンサー、救命救急士、パティシエ、カメラマン、他。計7回)

- (2) 図書室支援
- □図書館ボランティア「よもとライブラリー」の皆さんが、読み聞かせや図書室の整理、図書の貸し出し支援、図書の修繕や廃棄 等、熱心に活動されている。
- (3) クラブ活動支援
- ロクラブ活動(野球、陸上、ニュースポーツ、書道)の指導や準備・後片付けなど、子どもたちの活動を支援してくださっている。 (4) その他
- □運動会前に、運動場の芝生の雑草抜きをボランティアの皆さんが集まってしてくださっている。

# ■ 実施に当たっての工夫

年間計画を年度末に見直し、新年度初めに新たに作成することで、一年間の活動に 見通しを持つとともに、地域コーディネーターと連携して、地域の方へ早めに連絡・ 予約をとり、スムーズに実施できるようにした。

また、保護者や地域へ取組を周知するために、積極的に情報を記者提供した。

# ■ 事業の成果

地域協働合校からの積み上げがあるうえに、地域コーディネーターが意欲的に動いていただいたので、ボランティアの人数や分野が増え、子どもたちの学習が一層充実 した。



【駅前商店街でのふれあいお店体験】

# ■ 事業実施上の課題

今年度から配置された地域コーディネーターが一層活躍できるように、学校内の役割分担や教員との連携を高めていきたい。

# ■ いいなあ いいなあ ともに学んで ふれ合うまち 渋川(渋川小学校)

	草津市
	活動名
洪	川小学校地域協働合校
	関係する学校
洪	川小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	80 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

### ■ 活動の概要

地域に開かれた学校として開校し 13 年目を迎えた本校では「いいなあ いいなあ ともに学んで ふれ合う町 渋川」をスローガンに、地域と共に活動を展開している。子どもたちが地域の様々な人や物と出会い、人と人とのつながりを深めていけるような場を作れるように取り組んだ。

### ■ 特徴的な活動内容

## (1) 地域の伝統文化「渋川の花踊り」継承事業

地域の人々が受け継いできた「渋川の花踊り」を保存継承するための努力を理解し、渋川という自分が住んでいる町にほこりと愛情を持つ気持ちを育てる機会を持とうと3年生の子どもたちのために「渋川の花踊り」保存会の方に来ていただき学び体験する機会を作った。学んだことからポスターを制作し町内会の掲示板に掲示させていただいた。そして「学区ふれあいまつり」では、地域のみなさんと全校児童の前で「渋川の花踊り」を披露し会場を盛りあげた。

### (2) 近隣高校生との交流事業

本校の隣に滋賀県立草津東高等学校があり、高校生から運動の楽しさを学ぼうと、体育科の生徒に来てもらい5年生・6年生を対象に自分の課題を持ち、記録を伸ばすために助言をもらいながら交流を深めることができた。

### (3) 図書室支援と読書支援

本校では図書ボランティアサークル「アトム文庫」による支援を継続している。主な内容は、図書室支援では、図書室での昼休み貸し出しの手伝いや新着本配架準備等を、読書支援では、絵本読み聞かせ、ペープサート劇(年2回)、「おすすめ本バトル」企画等を行い、その他には夏休み工作教室や「お話キャラバン隊」を開催し好評だった。

### (4) ビオトープ管理支援

開校時に、一年がかりで地域の方々と子どもたちの手で作られたビオトープを、子どもたちが学習の場、憩いの場となるよう地域の方々とPTAの方々により年に3回整備作業が行われている。

# (5) 「渋川・風景の記憶絵」活用支援

6年生が地域で5年前に制作された「渋川・風景の記憶絵」を見ながら、地域の方に当時の様子や思い出を話してもらい渋川の歴史を学ぶ機会をもつことができた。その後「渋川かみしばい」制作に発展し地域に披露する展開となった。



【学区ふれあいまつり】



【渋川・風景の記憶絵】

## ■ 実施に当たっての工夫

地域の方々とコミュニケーションをとり、実施にあたって早めにお願いし、実施内容をしっかり説明できるように準備を進めた。

# ■ 事業の成果

地域の方々に様々な形で支援してもらうことができて、渋川ならではの事業を行うことができた。子どもたちは、今まで知らなかったことを知り、自分たちの住む渋川を今までより愛する気持ちを持つ機会となった。

# ■ 事業実施上の課題

支援してくださる地域の方々が、学校と関わりやすい環境をつくり、気軽に学校に来てもらえる雰囲気づくりを大切にしたい。

# ■ 協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢そだて(笠縫小学校)

	草津市
	活動名
<u> </u>	在縫小学校地域協働合校
	関係する学校
솦	<b>笠縫小学校</b>

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

### ■ 活動の概要

本校では、「夢いっぱい 生き生き学ぶ 笠縫の子」をめざす子ども像として、地域との協働による活動を推進している。本校の活動では、「栽培体験合校」、「地域の人と学ぶ合校」、「読書推進合校」を活動の窓口として、計画を進めている。

以前から地域の方々の協力を得て教育活動の充実に努めてきたこともあり、さらに、今年はコーディネーターの協力も得て、様々な活動に地域の人材をもとめて活動している。

### ■ 特徴的な活動内容

- ①「栽培体験合校」では、子どもたちのサツマイモの栽培活動、アオバナ栽培、米作り体験などの学習の場で、地域の方々に「畑の 先生」、「アオバナの先生」「田んぼの先生」、ボランティアなど、多様な形で支援してもらいながら協働している。
- ②「地域の人と学ぶ合校」では、昔遊びの先生、町の名人先生、故郷の歴史の先生をはじめ、子どもたちの福祉体験の先生、ミシンや調理の先生など、多くの学習活動の場で地域の方々と協働している。
- ③「読書推進合校」では、読書ボランティア「お話の森」さんによる毎月のお話会をはじめ、子どもたちが楽しく何度も行きたくなるような図書室づくりや、読書活動推進への取り組みなどについて協働している。
- ④「地域安全・学校安全合校」では、見守り隊による登下校の見守り、保護者による校内巡視なども支援していただき、安心安全な 地域・学校の環境づくりに協働している。

### ■ 実施に当たっての工夫

本校の事業の実施に当たっては、できるだけ地域に根差した教育活動でありたいと考えている。自分の住む地域の良さに気付いたり、自分の学校や校区の事を詳しく調べたり、校区の人たちの生き方や温かさに触れたりすることで、自分の住む地域の良さに気付けるような活動も大事にしたいと考えている。

一例として、「アオバナ博士になろう」の取り組みがある。草津市の花でもある『アオバナ』が、校区内で今も栽培されていて、アオバナ生産の伝統を受け継ぐ名人がいて、その技が生き続けている校区である。例年、3年生児童は、総合的な学習の時間で、「アオバナ博士になろう」という学習に取り組み、地域のアオバナ名人の話を聞き、アオバナの栽培を指導してもらって、花摘み体験をしたり、アオバナで染物をしたりして、アオバナのことや地域の伝統、名人の生き方や願いなどを学んでいる。その中で大事にしているのは、

- ・校区のアオバナ名人に、アオバナの先生として子どもたちと関わっていただくこと。
- ・アオバナの苗を学校の学年園に植えて栽培体験をして、アオバナについても学ぶこと。
- ・植え方、育て方などもアオバナ名人に教えていただく中で、名人の生き方や願いに触れること。などである。

また、6年生では「ふるさと歴史探訪」として、地域に伝わる文化遺産ともいえる伝統 行事を窓口に保存会の方たちを先生として学んだり、地域の先人ともいえる著名な画家の 人生や業績についてよく知る人や、その子孫の方たちを先生に学んだりしている。

すべてが地域に根差すものばかりではないが、地域に学び、地域の人と触れ合いながら 学びを深める部分は、今後も大切にしていきたいと考えている。

# ■ 事業の成果

「栽培体験合校」や「地域の人から学ぶ合校」、「読書推進合校」「地域学校安全合校」という窓口から、様々な取り組みを進めることは、活動の方向性が分かりやすく、計画・立案やその実践の改善・充実に役立っている。そして、それらの学びや活動に取り組むことで、地域の人と出会い、生活の場が学びの場になり、自分のふるさとである笠縫の地域についても多様な観点からの理解へとつながっている。

# ■ 事業実施上の課題

子どもたちは、年々進級していくが、その学年でそれぞれの学習や活動に出合うので、 毎年改善や修正をしながら積み上げをするようにしている。課題としては、「〇〇の先生」 の裾野を広げていくことと、スムーズなバトンタッチをしていくための人材発掘をコーディネーターと連携して進めていくことが課題といえるだろう。



【 アオバナの先生 】



【 ふるさと歴史探訪 】

# ■ ふるさとの「いのち」とふれあう東っ子(笠縫東小学校)

	草津市
	活動名
쏲	<b>笠縫東小学校地域協働合校</b>
	関係する学校
な	5. 经全额

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	80人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

### ■ 活動の概要

本校は、「葉山川」をはじめとする豊かな自然環境と、学校教育に協力的な地域住民が多いという人的環境とに恵まれた学校であり、これまでから、たくさんの地域の方々の力を借りて教育活動の充実に努めてきた。今年度はコーディネーターの活躍により、今まで以上に学習ボランティアへのサポートがきめ細かにでき、学習活動をスムーズに推進することができた。

### ■ 特徴的な活動内容

### (1) 全学年が行う「葉山川学習」(環境学習)

地域の葉山川を素材として、1年生から6年生までの系統的なカリキュラムのもと、地域の学習ボランティアとともに環境の学習を行い、その成果を11月の地域ふれあいまつりの場で「ふるさと葉山川博物館」として、地域住民や保護者に向けて発表する。

- ・1年生・・・葉山川の土手で、春と秋の虫さがしをしたり植物に親しんで遊んだりする。
- ・2年生・・・春に葉山川付近の水路で生き物さがし。秋には、葉山川周辺を探索し、特徴的な生き物・草花のマップ作り。
- ・3年生・・・理科の昆虫の学習とリンク。春と秋に葉山川土手に出かけ、各季節の昆虫の様子を比較する。
- ・4年生・・・葉山川の魚調べ。昔の葉山川の歴史や様子を知り、現在と比較し川と人々の生活とのつながりを考える。
- ・5年生・・・川と琵琶湖の関係やプランクトンの様子を調べ、琵琶湖の環境保全を考える。
- ・6年生・・・地域の環境保全に取り組む方々の話を聞き、その活動や思いを知り、自分には何ができるかを考える。
- これらの取り組みを、学年ごとにブースに分かれて、「ふるさと葉山川博物館」で発表することが定着している。

# (2)「民生委員さんとの交流」

3年生と地域の民生委員・児童委員の方々とが、地域安全マップを作ったり、交流活動(百人一首や楽しいゲームなど)をするなかで、地域の人たちに守られて成長してきたことに気付く。

### (3)「夢・未来教室」~ようこそ先輩・ただいま授業中~

各界で活躍する本校卒業生等が4年生から6年生に授業をし、子どもたちが夢や憧れをもって頑張ろうとする意欲を喚起する。 (司法書士、ヨット選手、医者、カメラマン、翻訳家、救急救命士、新聞記者など)

# (4) その他

朝の読み聞かせ(全学年)、米作り体験(5年生:「種もみの話」から「収穫感謝集会」まで)、茶道体験(6年生:茶器制作から「感謝のお茶会」まで)、「昔の遊びを楽しもう」 (1年生)、着衣泳体験(6年生)など多数の活動への支援がある。

### ■ 実施に当たっての工夫

協力してもらった学習ボランティアには、子どもたちがお礼の手紙や学習の感想を 書いて渡したり感謝集会を開いたりして、感謝の気持ちを伝え、活動後も地域などで お互いの交流が図れるようにしている。

# ■ 事業の成果

本校の中心事業である「葉山川学習」は、校外でのフィールドワークが中心となるため 児童の安全確保と活動支援に多数の学習ボランティアが力を貸してくださっている。また、 学習ボランティアの植物や昆虫・魚に対する専門知識と、事前の川の水量確認や土手の草 刈りなどの準備もなくてはならない支援になっている。コーディネーターの存在により、 学習ボランティアとのさらなるきめ細かな連絡が図れたことにより、学習活動の充実につ ながった。

# ■ 事業実施上の課題

各学年での活動が定着すればするほど、マンネリ化する傾向がある。その年度の子どもの実態に合わせて、教師が活動の工夫をすることが求められる。

また、学習ボランティアも固定化されがちなので、新しい人材発掘のため、教師が地域の活動に関心をもつことも大切である。



【 葉山川土手での昆虫採集 】



【 葉山川での魚採りの様子 】

 $\prod$ 

# ■ ふるさと だいすき 常盤っ子(常盤小学校)

	草津市
	活動名
常	盤小学校地域協働合校
	関係する学校
常	盤小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	300 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

### ■ 活動の概要

子どもたちを、学校と家庭、地域が、一体となり、見守り、支えていくことを目標に活動を展開している。子どもたちが、地域の方との交流を通して、自分の生まれ育った場所に愛着と誇りを持てるように取り組んだ。

### ■ 特徴的な活動内容

## 〇「ときわ探検」

3年生の総合学習で、学区内の歴史的建造物を訪れたり、産業の現場を見学したりすることで、地域の良さをあらためて知ることができた。特に、志那町で行われている淡水真珠の養殖の見学時には、養殖されている方の全面的な協力のもと、見るだけではなく、実際に貝にさわり、真珠を取り出す作業まで体験することができた。地域の方とのふれあいを通して、子どもたちの記憶に深く残った活動となった。

### 〇「米作りと環境学習」

5年生の総合学習で、米作りを通して命のありがたさや環境の大切について学んだ。地域の農家の協力を得ることで、身近な場所で稲を見守り、成長の喜びを感じながら米作りをすることができた。また、田んぼにつながる水路の生態系を、地域の方とともに探索する活動を通して、食と環境のつながりや環境を守る大切さについて実感をもって学ぶことができた。

### 〇「ふなずし作り」

5年生の総合学習で、ふなずし作りを通して、滋賀の食文化を知り、伝統文化を守っていくことの大切さを学んだ。

常盤学区には、伝統的なふなきり神事や家庭でふなずしを作る文化が、受け継がれている。実際に伝統を受け継いできた方に、思いを聞いたり、一緒にふなずしを作ったりする中で、地域に一層愛着を持ち、ふなずしなどの伝統的な食文化をより身近に感じることができた。



【ときわ探検】



【ふなずし作り】

# ■ 実施に当たっての工夫

学校のコーディネーター担当者や担任が、人材の発掘で大きな役割を担う地域コーディネーターと打ち合わせの時間をとり、活動の趣旨を十分に理解してもらえるように心がけた。

# ■ 事業の成果

地域の方に協力をしてもらうことで、子どもたちとって印象深い体験的な活動を多く行うことができた。また、活動の中で子どもたちと地域の方が交流することで、子どもたちには地元に対する愛着を、地域の方には、自分たちが学校を支えていくのだという当事者意識を育むことができた。

# ■ 事業実施上の課題

地域の方に多く関わってもらえばもらうほど、綿密な打ち合わせや連絡が必要になる。地域コーディネーターのおかげで、教師負担が軽減されてきたが、子どもの実態にあわせた対応を打ち合わせる十分な時間を確保することが難しい。また、学校ボランティアに参加したいという気持ちはあっても、機会がなく、活動できていない地域の人材をどのように活用していくかも課題である。

# **■ 栗東市における学校支援地域本部の取組**

# ■めざす姿

地域の方々の理解、協力を得ながら、とりわけ学校での活動における健全な青少年育成を進めたいと考えている。本市は9小学校、3中学校を有しているが、そのうち1中学校において、学校支援地域本部を設置している。もとより、地域のボランティアの方々によって生徒指導面における学校支援を目的として組織された団体が基幹となって活動を進められており、地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組み、学校や家庭での教育活動支援を進めている。

当該校における活動が青少年の育成に良い影響をもたらし、他校へと広まっていくことによって、市 全体の青少年育成の推進、地域教育力の向上、学校との連携を深め、広げていくことをめざしている。

# ■本年度の活動

1 校において学校支援地域本部を設置している。サポーター会議において年間の行事予定や、サポーターを増やす試みについての取り組みについて協議を行った。

# ■本年度の成果

1 校のみではあるが、その中で美化活動や見守りをはじめ、サポーターの協力を得ながら多くの活動を実施できた。校内の活動だけではなく、育てた作物の販売や、生徒と共に地域の清掃活動に出向くなど、地域においても幅広い教育活動支援を展開している。また、地域の方々とともに学校生活を送ることによって、地域に対する感謝の心が育ってきている。

# ■今後の課題

一番の問題となるのはスタッフの確保である。企業の人材不足により、高齢者の再雇用や女性の社会 進出が進んでいることで、ボランティアとしてスタッフを募集しても、人が集まりにくい。「学校関係 の活動に対する協力」となると構えてしまう人が多いとも考えられる。まず、コーディネーターとなる 人材の安定的な雇用を確立し、常に地域に対して学校支援への協力を呼びかけられるような体制づくり が求められる。しかし、現在はコーディネーターの負担が大きく、今後コーディネーターの安定的な雇 用を確立する為には、コーディネーターの負担を軽減させる取組みが必要となってくる。

さらに、市内小・中学校で実施している学校が1校しかないので、今後他校にどのように広めていくかも課題であり、実施している1校の活動内容や実績を広く広報することにより、他校での実施の気運を盛り上げていきたい。

# 「おらが学校!」地域と学校を結ぶ栗東中学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」

■ 栗東市
■ 活動名
栗東中学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」
■ 関係する学校
栗東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	38 人
開始年度	平成20年度

### ■ 活動の概要

本校の学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」は、平成19年度、生徒指導面を支援する地域住民団体が基盤となり「栗中改革サポーター」として発足された。発足当初は、日々の学校教育活動における生徒指導面での支援を中心に、授業や清掃の見守りなど、生徒の学校生活の中に大人の目を増やす取り組みからスタートした。現在38名の地域住民、保護者から編成されるボランティア「登録栗中サポーター」と43社の学校支援地域本部をサポートする地域事業所「栗中ブースター」が「栗中サポーターズクラブ」として組織し、幅広く学校教育支援活動を実施している。

## ■ 特徴的な活動内容

- ①学習環境支援・・・美化活動や、ドアや窓の点検も兼ねながら、廊下から授業の様子を見守る支援(月2~3回程度)
- ②図書室支援・・・新着図書の蔵書作業や、図書室運営の全体を支援(月1~2回程度)
- ③環境整備支援・・・植栽伐採・砂場の整地、生け花支援など校舎内外の学校環境向上全般における支援(通年)
- ④通学マナーアップ・・・登下校時の危険個所での立番活動(通年)
- ⑤学校行事支援・・・チャレンジウィークや環境整備などの学校行事、校外学習、地域美化活動など生徒会への支援
- ⑥栗中コミュニティガーデン・・・学校と地域との協働運営菜園での野菜栽培

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・「栗中サポーター」の来校を職員や生徒へ周知・・・来校時に専用のユニホームと名札を着 用していただき、サポーターの来校が一目でわかるようにする。来校時には、職員室黒板 に来校サポーターのお名前と活動内容を記し、全職員に周知する。
- ・校内に「栗中サポーター」専用スペースを確保・・・「栗中サポーター」と職員の打合せや 情報交換、「栗中サポーター」同士の交流の場の確保。来校される際、気軽に学校に来てい ただけるよう工夫。校内での「栗中サポーター」の位置づけや理解にもつなげる。
- ・「栗中サポーター」の活動時には、可能な範囲で生徒と一緒に活動できる時間帯に設定。無理のない範囲での生徒との関わりを大切にしてくださっている。コーディネーター、または、管理職、負担のない程度に職員にも関わっていただき、人と人との関係づくりを大切にしている。
- ・目に見える活動計画と実践の報告・・・月報「栗中サポーター通信」を「栗東中サポーターズ」以外にも地域の役員の方、保護者の方あてに毎月約900部配布し、活動の計画や実践をお知らせしている。起業体験店の開店時など、事業所様や公共施設にポスター掲示のご協力もいただいている。校長室前壁面にサポーター専用の掲示板を設け活動写真などの紹介している。幅広く、たくさんの方に理解していただき、本校の教育活動への協力者を増やす工夫をしている。

# ■ 事業の成果

・発足から長年にわたり、たくさんの方々のご努力により活動が定着し、通信でお知らせすれば、その活動に得意な方、あるいは関わりのある方が参加してくださり、地域の方がうまく関わってくださるシステムができている。



【 協働菜園で収穫した 野菜の販売準備 】



【 1年校外学習 出発前の駅での見守り 】

- ・「栗中サポーター」への連絡は、可能な限り生徒が手紙を配達することにより、地域の方との交流を深める機会となっている。
- ・地域の役員を兼ねておられる「栗中サポーター」も多く、頻繁に学校に来てくださることで、地域と学校との距離が近くなった。
- ・廊下からの授業の見守り支援では、ユニホームを着て回られる。窓越しに黄色の服が映るが、違和感なく安心感がただよい、良い刺激にもなっている。また、ゆとりをもって校舎の窓やドアなどの点検や美化活動も兼ねて回ってくださり、日ごろ忙しい教員とは違った観点から観察していただき貴重な存在となっている。(学校・「栗中サポーター」感想)
- ・地域へ広がる活動として、①生徒と協働菜園で栽培した野菜の販売・・・保護者や地域の方に、体育祭や、勤労体験学習(2年生)の一環である起業体験店舗で出荷・販売(収益は福祉協議会に寄付) ②生徒会と部活動、主催の近隣地域のゴミ拾い清掃活動・・・「栗中サポーター」支援のもと実施。地域の人に大きな声であいさつができるようになってきた。「栗中サポーターズクラブ」について認知いただく機会となり、大切にしている。
- ・協働菜園活動は、生徒によい体験となっている。(生徒感想)「初めて、玉ねぎの苗を見た。植え方を教えていただいた。ねぎと変わらないのに来年の夏には、大きな玉ねぎになり、売るそうだ。全部、元気に育ってほしい。」
- ・(栗中サポーター感想)「生徒たちとの関わりを大切にしながら、いろんな活動を続ける中で、生徒たちも恥ずかしがらず「栗中サポーター」を受け入れている。大きな声であいさつができるようになった。」

# ■ 事業実施上の課題

・「栗中サポーター」の献身的なご努力は、なくてはならない貴重なものとなっている。登録数は、昨年に比べ10名増えたが、高齢化が進んでいる。連携を密にする体制を絶えずとるように心がけているが、活動資金の確保が難しく、厳しい状況にある。

# |湖南市における学校支援地域本部の取組

# ■めざす姿

本市においては、「学校支援地域本部事業」の取組を開始して8年が経過し、「小学校はコミュニティ・スクールへ、中学校は学校支援地域本部の設置を」を湖南市ビジョンとして掲げ、地域による学校支援活動を推進している。すでに岩根小学校は平成19年に、新たに本年4月に石部小学校、石部南小学校、菩提寺小学校、菩提寺北小学校がコミュニティ・スクールの指定を受け、地域と学校が一体となって創り上げる学校を推進している。市内他校も、各々の学校、地域、児童・生徒の強み、弱みをもとに学校支援地域本部実行委員会(運営委員会)や、学校運営協議会制度導入に向けた「C・S導入推進委員会」で「将来の地域の担い手を育てるために、どのような児童・生徒を育むのか」等について、地域の力を生かした学校支援活動のあり方や学校と地域とがともに創り上げる学校のあり方等について熟議と協働を進めている。

## ■本年度の活動

学校支援地域本部事業運営委員会 第1回6月9日(火) 第2回11月24日(火)

1)講話「学校支援地域本部から C・Sへの移行に向けて」 「これからの「地域とともにある学校づくりの推進に向けて」

講師 びわこ学院大学准教授 文部科学省 CS マイスター 髙木 和久氏

- 2) 中学校区別分散会 3) 全体交流 総括講話 ・第2回前半に教育長講話 学校評議員・学校運営協議会理事・学校支援地域本部委員等合同研修会 2月23日(火)
  - 1) 感謝状贈呈2年次 2) 実践発表 市内代表校による取組発表
  - 3) 講演「コミュニティ・スクールのこれまでと今後のあり方」(仮題) 講師 びわこ成蹊スポーツ大学助教 武井 哲郎氏

市内地域コーディネーター、コーディネーター会議

第1回 4月27日(月) ・湖南市教育指針、「地域とともにある湖南市ビジョン」の周知

- ・地域コーディネーター委嘱状授与 ・学校支援地域本部事業等の進め方について
- ・中学校区別地域コーディネーター第1回交流会議

中学校区別地域コーディネーター交流研修会議 各学期1回開催 4月、10、11月、2,3月

- ・CSや学校支援地域本部事業の動向について
- ・小中連携、小小連携を意識した各校の事業取組の交流や情報交換 ・その他

# ■本年度の成果

- ・地域コーディネーターを中心に中学校区間の情報交換を行い、学校や地域の特性・実情を生かし 児童・生徒が将来の地域の担い手となる力を育てる取組への工夫・改善が図られつつある。
- ・学校支援地域本部の従来からの「環境整備」「登下校安全指導」「学校行事」「クラブ活動支援」「学習支援」に加え、「土曜の教育支援事業」「放課後子ども教室」により、「学力補充のための学習支援」や「体験教室」の取組が積極的に実施され、地域をあげての子どもの学力向上への気運を高めつつある。

## ■今後の課題

- ・事業の周知と地域人材の育成を図る中で、各学校支援地域本部の経済的自立に向け、地元自治会 や地域まちづくり協議会、企業やNPO法人等との連携を深めていく必要がある。
- ■その他 湖南市 HP http://www.city.konan.shiga.jp/

広報番組「きらめき湖南」平成27年11月放送分『楽しくて 力のつく湖南市教育』

 $\prod$ 

# 石部小学校の宝物は全校の子どもたち(石部小学校)

	湖南市町	
	活動名	
石部小学校応援団		
■ 関係する学校		
7	5部小学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	180 人
開始年度	平成20年度

### ■ 活動の概要

今年度より石部小学校は「学校」と「地域」が恊働して教育を推進する「コミュニティ・スクール」へと生まれ変わりました。コ ミュニティ・スクールでは、「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育成することを目標として、3つの委員会「学習支 援委員会」「体験的活動委員会」「校外生活支援委員会」の中で、「熟議」を重ね、「協働」して取組を推進しています。子どもたちが 『生きる力』を身につけ、「石部の町」の未来を切り開いていってくれることが願いです。コミュニティ・スクール石部小学校を支援 するため、引き続き、学校支援地域本部でも、子どもたちが感謝の心を持ち、笑顔で地域の方と交流できるような活動を目指してい ます。

#### ■ 特徴的な活動内容

# ○「みんなで仲良く元気に環境委員会」の活動

石部小学校の校庭は、花であふれています。環境整備ボランティアが種から育て、 花壇に植えてくださっているからです。環境委員会の子どもたちが、活動の一環とし て一緒に作業しました。芽が出た苗をポットに植え付けたり、大きくなった苗を花壇 に植えたりしました。

# ○「魚を上手に食べよう」から「お箸の持ち方」指導へ

給食の「骨付きの魚」の残菜が多いことから、栄養士の先生の提案から始まった「お 魚を上手に食べよう」の活動が5年目となりました。石部小学校が自校給食から、セ ンター給食へとかわり、魚の献立とボランティアの参加可能な日程を合わせることの 難しさから、「お箸の持ち方」 指導へ変更しました。 子どもたちへの指導は更生保護女 性会の方にお願いしました。「してはいけないお箸の使い方」を絵で説明し、その後、 菜箸を使い「お箸の正しい持ち方」を説明していただきました。

### ○サタデースクール「防災グッズを作ろう!」

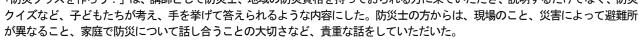
学校では、避難訓練を行っていますが、家庭ではどうなのか?と疑問に思い、PT A親子活動の中で、家庭でも防災について話し合ってもらおうと計画しました。

## ◆当日の内容◆

- 自然災害はどんなものがあるか?
- ・湖南市 防災マップの説明
- 我が家の防災マップを作ろう! 自宅に印をつけて、避難所までのルートを確認しよう
- 防災グッズを作ろう!《ツナ缶ランプ・キッチンペーパーマスク》
- ・非常食を味見しよう!ローリングストック法の説明

## ■ 実施に当たっての工夫

- ・苗のポット植えは、長休み時間を利用し、環境整備ボランティアに教えていただきながら、一緒に作業を行った。普段、ボランテ ィアは授業中に活動してくださっているので、子どもたちと交流はほとんどないが、ポット植えを通じて、会話もでて、交流の機 会を持つことができた。
- 「お箸の持ち方」指導は、対象が1年生ということもあり、担任の先生と打ち合わせをし、わかりやすく、短時間の説明にしていた だいた。ボランティアは、子どもたちの班に入り、一緒に給食を食べながら、お箸の使い方を教え、一方、子どもたちは、牛乳パ ックのたたみ方や、食器の返し方をボランティアに教え、双方がお互い教え合うという交流の時間が持てた。
- ・「防災グッズを作ろう!」は、講師として防災士、地域の防災資格を持っておられる方に来ていただき、説明するだけでなく、防災 が異なること、家庭で防災について話し合うことの大切さなど、貴重な話をしていただいた。



学年に合わせた方法で説明することにより、子どもたちの聞く姿勢ができ、ボランティアのみなさんも子どもたちの反応を見なが



# ■ 事業実施上の課題

ら、楽しく交流できた。

地域の方には、子どもたちと関わり、子どもたちの現状を理解してもらい、石部の子どもたちの「力」になるような活動に取り組 んでもらうことが必要だ。



【 お箸の持ち方指導 】



【 防災士のお話 】

# ■ 「子どもと地域がびびきあう」 みなみっこ応援団(石部南小学校)

■ 湖南市		
■ 活動名		
みなみっこ応援団		
■ 関係する学校		
石部南小学校		

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	175 人
開始年度	平成21年度

### ■ 活動の概要

地域と連携して学校支援する体制

〇学習支援 【森林環境学習】【家庭科】【読み聞かせ】【サークル活動】

〇環境整備 【グラウンド草刈り 整備】【ふれあい農園整備】

〇安全面 【スクールガード】

〇まちづくり協議会との連携 【避難訓練】【防災訓練】【交通安全教室】

### ■ 特徴的な活動内容

〇森林環境ボランティア「みどりのバトンタッチ」設立は平成13年。会員数は22名。平成24年度には緑化功労賞 「しゃくなげ賞」を受賞。「ふれあい夢の森」という山を中心に環境整備や間伐作業など年間を通して、子どもたちと一緒に「シイタケ栽培」「間 伐体験」「木工教室」「植樹」「下草刈り」等、環境学習活動を行っている。

森林環境学習に詳しいボランティアを講師に迎え教職員の研修を行う。ふれあい夢の森に入り、檜、杉、松の特徴と用途や木が育つまでの手入れの仕方等を学ぶ。

- 〇体育大会やマラソン大会等、学校行事に合わせて、環境整備ボランティアが行われる。
- 〇下校時の子どもの安全見守りボランティア「宮の森」が新しく結成された。
- ○まちづくり協議会主催の行事に学校も積極的に参加した。

### ■ 実施に当たっての工夫

○「みなみっこ応援団だより」の発行

毎月一回、地域の方がボランティア活動をしてくださった内容を紹介した広報誌を発行することにより、地域の方に学校ボランティアの内容を知ってもらい、学校と地域とがお互いに深く関わっていることを知ってもらう。

- 〇地域ボランティアとの打ち合わせは、電話ではなく、なるべく顔を見て打ち合わせを行う。顔を見ながら打ち合わせをすることに より、ボランティア以外のことも話す事が出来て新しい発見をすることがある。
- ○学習支援ボランティアが行われる時は、事前に集まっていただき、授業の進め方を説明し共通理解をしてから教室へ行ってもらう。
- 〇ボランティアの顔写真入りの名札が職員室入り口に設置されており、来校時に付けてもらっている。学校に来られたことがわかり やすく、子どもや先生方に顔と名前を覚えてもらいやすい。

## ■ 事業の成果

- 〇森林環境学習では各学年年間を通して同じボランティアから学習を受けることで、計画的に学習が進められボランティアとの関係 も深まった。
- 〇ボランティアからの支援を受けるだけではなく、学んだことや感想を子どもたちが書き、ボランティアのもとへ届けることで、やりがいを感じてもらうことができた。
- 〇環境整備活動をしてくださることで、PTA会員作業がスムーズに行われた。
- ○「宮の森」スクールガード立ち上げまでの打ち合わせを何回も行い、学校も地域に足を運ぶことで地域の信頼を得ることができた。
- 〇石部南学区まちづくり協議会の行事に学校側も積極的に参加することによって、地域の方との交流ができ、学校と地域の連携が進んだ。

# ■ 事業実施上の課題

○ボランティアが活動できる時間と、学校側が求める時間を調整することが難しい。



【まちづくり協議会と合同交通安全教室】



【宮の森区スクールガード発足会】

# ■ みくもっ子だいすき この一年(三雲小学校)

	湖南市
	活動名
ā	みくもっ子支援委員会
	関係する学校
] 3	三雲小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	280 人
開始年度	平成23年度

### ■ 活動の概要

5年目の活動に入り、これまで展開してきた事業を継続し、その活動が定着している。今年度は、先生方と地域の方々との関わりを作る取り組みを行い、地域の強みを生かすことが出来た。

### ■ 特徴的な活動内容

## 年間を通して

- ・図書ボランティアは図書室の整理整頓、絵本の読み語りを続けていただいた。
- ・スクールガードは各区のご協力をいただき、児童の登下校の時間にきめ細かく対応しながら見守りをいただいた。
- ・環境ボランティアは校地内の除草、剪定、花壇の手入れ、修繕など必要に応じて活動していただいた。
- ・掃除時間及び通学道中の見守り(大人の目で今の子どもたちの様子をみてもらう・関わりを持ってもらう)

# 学習の支援として

- ・田んぼの応援団では田植え、稲刈りの指導、田の管理をお願いした。
- ・町たんけん (3年総合学習) では、児童の企画したスケジュールに沿って、地域の 方と一緒に歩き必要に応じて説明をいただいた。(右写真)
- ・水泳ボランティアは高学年の水泳指導を助けていただいた。
- ・昔あそび(3年親子活動)では、紙飛行機、こま、けん玉、羽子板、輪投げ等遊び の講師をしていただいた。
- ・ふれあい食育教室では「おやつのとり方」についてお話していただき、児童の育て たさつまいもを使って一緒におやつ作りをした。



【 町たんけん 地域の方と歩く 】

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・家庭科ミシンと水泳について、ボランティアを確保していくため、保護者ボランティアとして参加された方には他学年でも活動していただけないか声かけをした。
- ・環境整備の花の苗について、地域の方に昨年の花のこぼれ種から育苗していただいたので、たくさんの苗を準備できた。それ以外にもご近所から頂戴した苗があり、大変ありがたかった。
- ・町たんけんでは、校区内をまんべんなく案内していただけるよう、各区長を通して人材を紹介していただいた。

## ■ 事業の成果

- ・5年目ともなり、活動が定着しているので、支援をお願いしやすい関係が築けている。
- ・長年、ボランティアによる読み語りを聞いて育った児童の中から「自分たちも読み語りをしたい。」という動きが現れ、図書委員が低学年の教室で絵本の読み語りを披露した。 (右写真)
- ・花壇の植栽をしていると児童が寄ってきて一緒にできたり、お礼の手紙を書いたりと、 次第にボランティアに対する親近感が強まっていることを感じている。
- ・ボランティアとして参加された地域の方からも、子どもたちとふれ合う時間を楽しんでいるとの声をいただいた。



【 図書委員による絵本読み語り 】

# ■ 事業実施上の課題

- ・小学校から中学校にかけて9年間連携した課題(あいさつ・食事・掃除)に対して、急がず長く続く支援活動をしていきたい。
- ・学校支援事業を上手に活用できている学年に偏りが見られるので、先生方にさらにアピールしていきたい。
- ・委員会活動との関わりを調整することが難しかった。

# ■ その他

ボランティアに来られた方から「今、ここで小学校に出向くこと、子どもたちと関わることが出来るとは思ってもみなかった。」とお礼の手紙を受け取り、心温まることだった。

# ■ 支援の広がりと充実をめざした「東っ子応援団」の取り組み(三雲東小学校)

■ 湖南市	
■ 活動名	
東っ子応援団	
■ 関係する学校	
三雲東小学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	150 人
開始年度	平成23年度

### ■ 活動の概要

昨年同様、学校と家庭そして地域が、子どもの課題を共有し、課題解決に向け、一体となって連携の方向を探るとともに、子どもの安全と学習活動がより充実する取組となるよう、地域の大人との様々なふれあい活動を大切にしている。

農園ボランティア・スクールガード・学習支援ボランティア・図書(朝の読み聞かせ)ボランティアを中心に活動を実施している。

## ■ 特徴的な活動内容

#### 【農園活動】

夏野菜・さつまいも・なたねを育て、収穫している。特になたねの栽培は、3年生の後半から4年生の間、苗の移植・刈取り・脱穀と作業も多く、昔の道具「とうみ」を使っての脱穀体験作業など、年間を通して農園ボランティアが活動のサポートをしている。 【スクールガード】

登下校の立当番のほか、週に一回、1年生だけで下校する日には各地区からスクール ガードが小学校まで迎えに来て、児童に付き添って下校している。

### 【その他】

朝の読み聞かせ・校外へ出る学習の付き添い・裁縫やミシン、調理実習の補助・ゴーヤカーテン作りなどで保護者・地域の方の協力のもと実施している。



【スクールガードの見守り】

## ■ 実施に当たっての工夫

- ・一人でも多くの方が、一回でもボランティアに興味を持って参加していただけるよう、打ち合わせや案内文書の配布は出来るだけ早めに行っている。
- ・授業参観など学校行事で保護者が来校する日には、校内にボランティアの募集や、活動の様子を掲示して、周知を図っている。
- ・学校行事の案内を地域ボランティアの方にも届け、日常の関わり以外の面から学校や子どもの様子を見ていただく機会を作っている。

# ■ 事業の成果

- ・ボランティア活動へ継続的に参加している地域の方々のなかで、安全面や学習面へのサポート強化に向けた話題が増えた。子どもに対する関心が年々高まってきているのを感じる。
- ・ミシン、裁縫、調理の補助などの学習支援は、一度参加した保護者がまだ参加したことのない保護者へ話をして、ボランティアの輪をひろげた。仕事の休みをボランティアの日に合わせてくださる保護者がいることなど、共働きの多い地域のなかで、早めに案内を出すことの効果は徐々に出てきている。
- ・活動後には参加の感想を求めている。初めての参加者からは新鮮な意見、参加経験 のある方からは子どもの変化や工夫・改善できる意見や感想を得た。職員にも伝え、 これからの活動に役立てていきたい。



【学習支援ボランティアとミシン操作】

・学校以外の場所でボランティアの方に挨拶する子どもがいて嬉しかったという話を聞くことがあった。地域に顔見知りが増えて、 みんなが自然に挨拶や感謝の気持ちを伝え合えるよう、活動を続けたい。

# ■ 事業実施上の課題

- ・子どもへのサポートについて関心が深まっているが、地域・学校、それぞれの思いがあり、目標が定まっていない。連携を深めるための意見交流の場を設けること、課題解決に向けた目標も共有できるようにしていくことが必要である。
- ・学校からの案内などの配布物が保護者まで届いていないという声を時々、耳にする。保護者の参加を呼びかけるために、児童も 巻き込んで、募集に協力してもらうよう職員とコーディネーターとの連携や声掛けの方法を工夫し、引き続き、広報活動にも力 を入れていきたい。
- ・コーディネーターがもっと地域とつながることで、地域の人材発掘や学校・児童と地域をつなぐ活動の活性化を図れると考えている。協力者の偏りを少なくし、地域の方の活躍できる場、気持ちよく活動できる場を作りたい。また、児童には、その支援に対して素直に感謝でき、成長を見せることで、共に喜び合える活動になるよう努めていきたい。

# ■ 地域と学校で共有する「子どもをお客さんにしない」教育の実現に向けて(岩根小学校)

	湖南市
	活動名
岩	岩根小学校支援地域本部
	関係する学校
岩	岩根小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	224 人
開始年度	平成20年度

### ■ 活動の概要

生徒指導上の問題、家庭支援の必要性など、様々な課題を抱えていた本校が「学校運営協議会理事会」を設置したのは平成19年4月のことであった。学校の課題を学校の中だけで解決するのではなく、地域とともに解決の方向を見出していこうと、学校教育の現状と課題について「制度的」「物的」「人的」「教育内容的」の4側面から見直しを実施し、「21世紀の岩根の子どもを育てる推進委員会」「ボランティア推進委員会」「岩根の子どもの安全と安心を見守る推進委員会」を設置し、活動を開始した。

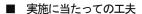
また、平成20年度には「学校支援地域本部事業」を受託し、地域の教育力を生かしながら子どもたちの今日的課題の解決と豊かな学びの実現をめざしている。昨年度、学校に支援してくださったボランティアはのべ3,500人にのぼる。

# ■ 特徴的な活動内容

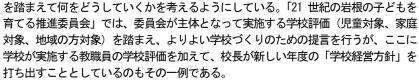
かつて、この地に乱舞していたホタルを蘇らせようと、地域の中で「岩根にホタルを飛ばそう会」が組織されている。ホタルが飛び交う様子を愛でる鑑賞会を、校舎改築を機会に本校で開催することとし、校地内の「ホタル川」にホタルの幼虫を放流(5年、12月) → ホタルに関する学習(4年・6年、5~6月) → ホタルまつり(6年中心、6月)というサイクルを確立、地域の方の協力を得ながら、子どもたちに郷土愛・自然環境保護の思いを育てる活動を展開している(5年の環境学習は「びわ湖フローティング・スクール」を活用)。

「ホタルまつり」当日は地域の方も多数お越しになり、大賑わいの一日となるが、6年生が「お店活動」「ホタル学習の成果発表」に活躍し、自分たちで「やりきった」感を得る一日でもある。

また、今年度新たに取り組んだこととして、まちたんけん(2年)における各地域の 案内、「歴史の部屋」を活用した地域歴史学習(5年)、交通安全教室(全校)などがあ り、いずれも地域の教育力を生かした内容になっている。



本校の学校運営協議会が生徒指導上の問題や家庭支援の多さに端を発して設置したものであることは冒頭に紹介したとおりであるが、それだけに子どもや家庭の抱える課題



- *平成26年度末学校評価に基づく提言
  - ①双方向の情報交流の推進
  - ②家庭学習の充実(学校、家庭での読書活動の充実)
  - ③いじめの早期発見、早期対応の体制
  - ④子どもの「やる気」と「自信」を育てる環境づくり



【「ホタルまつり」は大盛況】



【「歴史の部屋」で地域を学ぶ】

# ■ 事業の成果

今年度は校報「根っこ」を月2回の発行とし、できるかぎり子どもたちの学びや活動をリアルタイムにお知らせすることを心がけてきたこともあって、保護者にも地域にもこれまで以上に学校の様子を理解してもらっている。何らかの問題が発生して学校の姿勢を伝えなければならなくなった時も、保護者に納得していただきやすくなっているのではないかととらえている。それは、地域の方の支えがあればこそという学校の現状に対する認識が進んだことのあかしでもある。

また、様々な支援をいただくことで子どもたちの活動がスムーズになり、子どもたちは自分でやってきたことに対する自信を持ち、新たなことに挑戦してみたいという意欲づけもできてきている。これは大変大きな成果である。

### ■ 事業実施上の課題

すべての保護者、すべての地域の方に、こうした活動や理念を理解してもらっているとはまだ言えない状況がある。今後、新たな 理解者・協力者を作り出していく必要がある。

# ■ 学校・家庭・地域をつなぐ「菩っこを育てる会」(菩提寺小学校)

	湖南市		
	活動名		
į	菩提寺小学校支援地域本部		
	関係する学校		
Ħ	菩提寺小学校		

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	210 人
開始年度	平成22年度

## ■ 活動の概要

本校は、今年度から学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールとして動き出し、「善っこを育てる会」(学校支援ボランティア) の活動も包括しながら、「あいさつ・温もりのある学校づくり」をテーマにして活動を進めてきた。

### ■ 特徴的な活動内容

本校の特色である、異学年交流「きらめき活動」は、春の遠足から始まり年間を通して行っている。縦割りの子どもたちが主体の活動だが、そのつど、安全の確保など必要な支援をボランティアで行っている。例えば『きらめき遠足』では、長い行程を1年生か

ら6年生までが一緒に歩く際、危険箇所に立ち安全を見守る、共に遠足に参加し一日 一緒に過ごし児童を見守る、など多くのボランティアが遠足のサポートをしてくれた。 また、温もりある学校づくりの一環で、子どもたちがほっとできる空間作りに取り かかっている。校舎内の廊下に手作りのベンチを設置するとともに、その周りに行事 や学校での子どもたちの姿を写真やキャプションでまとめたパネルを展示することで 憩いの場、語らいの場づくりをすすめている。

地域にもこうした活動をより知ってもらい、参画の輪を拡げるために、広報発行の際、校区内全戸配布するようにしている。



【~きらめき遠足~自由時間 児童を見守るボランティア 】

#### ■ 実施に当たっての工夫

地域のリーダーとなる人を中心にボランティアを募り、各々活動に対応している。 「菩っこを育てる会」実行委員をはじめCS理事が率先して、子どもたちの居場所 作りをサポートしている。

### ■ 事業の成果

学校の活動に対する支援は何年も続いてきたことで、ボランティアに参加する側もある程度予測しているので、依頼する時点でスムーズに進むことが多い。

地域の人が来校することにより学校内の様子、子どもたちの様子を知ってもらうことができた。

# ■ 事業実施上の課題

ボランティアのリーダーが不在の地域があり、依頼する際、どうしても参加ボランティアの地域が偏った状況になってしまう。今後、すべての地域でリーダー発掘ができればと思っている。

ボランティアグループ同士が交流できる場所作りを増やし、横のつながりを強くできたらと考える。

現在、『菩っこはうす』は、家庭教育支援事業のサロンを中心に利用しているが、地域の人たちや保護者の皆さんが、気軽に利用できるスペースにできたらと思う。

## ■ その他

子どもたちのこと、学校のことを考えて、進んで活動してくれる地元のサポーターはとても心強い存在だ。今後、そういった輪が少しずつでも若い世代にも広がっていけたらと思う。



【手作りベンチに座っておしゃべり中 】

# **■ 楽しくて役に立つ 減災キャンプ あすなろ応援団活動(菩提寺北小学校)**

■ 湖南市	
■ 活動名	
あすなろ応援団	
■ 関係する学校	
菩提寺北小学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成21年度

### ■ 活動の概要

キャンプは6回目を迎える。減災キャンプを昨年に引き続き、災害時には避難場所である菩提寺北小学校で行った。 一昨年までは、希望が丘のキャンプ場で開催されたが、より防災・減災色を濃くし、直接の避難所となる学校での開催となった。 また、親子での参加を促進し家族で減災を考える場とした。

## ■ 特徴的な活動内容



【3つの減災ゲームと消防士体験】

- * 6班に分かれて、3種類の減災ゲーム
- ① 火の中では、ほふく前進で逃げようゲーム
- ② 衣服に火が付いたら転げて消すゲーム
- ③ 竹とTシャツ3枚で担架リレー

# その他に

- *大声で「火事だ~」と叫ぶ大声コンテスト
- *ブルーシートでテントづくり
- *ロープワーク
- *ペットボトルで食器づくり
- *無洗米をポリ袋に入れてごはんを炊く グレーチングかまどでカレー作り
- *夜にはツナ缶に穴をあけて、たこ糸を通した明かりで夕食
- *クイズを解くナイトウォークと天体観測

最新消防自動車がやってきて、実際に消防器具を持ったり、消防服を着てみたりした。かなり重く動きにくいという感想があった。 水消火器で火を消す体験や的あて消火を体験し、はしごで屋上に上る消防士の実演を見学をした。

# ■ 実施に当たっての工夫

1泊2日の減災キャンプが、充実したものになるように、盛りだくさんの防災・減災プログラムを考えた。 すべてのゲームは災害時には実践的なものであり、頭で考えるのではなく、体で覚えるという体験型に工夫した。 また、消防署などにも協力を得て、貴重な経験もできるようにし、来年2016年度の減災キャンプには、地震体験車(起震車)をすで に予約済みであり、より災害を意識的に体験する場を設定する予定である。

### ■ 事業の成果

主としては、参加者は小学生とその保護者だったが、保護者とともに幼児も参加し、より災害が起きた時のリアルな動きが体験できた。ボランティアに中学生・高校生・大学生が参加し、大活躍した。災害時の実践力として大いに期待される。また、実際に保存食を口にし、身を守る様々な減災・防災グッズを使い、試すことができ非常に手応えを感じた。

体験型にしたことにより、実際に役に立つこと、役には立たないことが明確に提案できたと考えている。

# ■ 事業実施上の課題

菩提寺北小学校は学区で唯一の避難所だが、同時に土砂災害区域にあるので、土砂災害の時には避難所としては想定されておらず、 その時はどういう施設へ避難すればよいのか不明で、課題である。

まずは、家族で事前に相談することだが、地域としても、対応できるように、 これから、考えていかなくてはならないと感じた。

夏休みという事で、家族旅行やさまざまなイベントと重なり、年々参加者が減少しているので、参加者が増えるよう来年度は時期等、考えていかなくてはならない。

## ■ その他

# 参考URL 菩提寺北小学校

http://www.edu-konan.jp/bodaijikita-el/



【U字溝とグレーチングの竈で食事作り体験】

# ■ ~おりがみで交流を~"おりがみの日"の取り組み【下田っ子応援隊 なすびぃず】(下田小学校)

■ 湖南市	
■ 活動名	
下田小学校支援地域本部	
■ 関係する学校	
下田小学校	

コーディネーター数	2人
ボランティア登録数	5人
開始年度	平成24年度

# ■ 活動の概要

地域の方々に向けて、下田小学校でのボランティアの募集をしていた際に、ひとりの方から「おりがみを折ることが得意なのですが、小学校で何かお役に立てないでしょうか?」と下田小学校へ連絡があり、地域コーディネーターと下田小学校と相談をし、提案をしてくださった方を、「おりがみの先生」としてボランティアに来ていただき、平日の中休みを利用しておりがみの講習会をおこなうこととなった。子どもたちにわかりやすいように講習会を「おりがみの日」と名付けた。

# ■ 特徴的な活動内容

《活動日・時間》月に1回 ~ 2回(おおむね火曜日)中休みを利用 《活 動 場 所》 下田小学校 3階 なすびいずルーム 《活 動 内 容》

季節に合わせたおりがみの折り方を子どもたちに教える。 (例)



夏休み前…七夕飾りの折り方、夏休みにあそべるおりがみ(わっか飛行機、ピョンピョン蛙 など)の折り方 2学期…季節の行事(ハロウィーン、クリスマス、お正月 など)でつかえる おりがみの折り方

3学期…少し難易度の高いおりがみ(立体的な花 など)の折り方

- ・おりがみで作ったおもちゃ(紙飛行機、輪投げなど)の遊び方を教え、一緒に遊ぶ。
- ・おりがみで、図書室やなすびいずルームの季節飾りを作る。

# ■ 実施に当たっての工夫

- ①事前にコーディネーターとボランティアとで、どのようなおりがみを折るかを打ち合わせするようにし、「おりがみの日」実施の数日前に、ポスターなどで、どのようなおりがみを折るかを子どもたちに告知するようにした。
- ②「おりがみの日」実施日の中休みの始めに、告知アナウンスをするようにした。
- ③「おりがみの日」を実施するにあたっておりがみの先生以外のボランティアにも参加してもらえるよう告知をするようにした。
- ④おりがみの先生以外のボランティアが参加する場合、おりがみの折り方を事前に講習するようにし、子どもたちにしっかり教えることができるようにした。
- ⑤折るものによって、準備するおりがみを変えるなどし、子どもたちに興味を持ってもらえるようにした。
  - (例)「紙飛行機」や「わっか飛行機」などは丈夫でカラフルな紙を用意

クリスマスやお正月の飾りなどを折るときには、「ホイルカラー」や「和柄」などのおりがみを用意 など

⑥「おりがみの日」を実施している間、コーディネーターはその場にいるが、おりがみの先生や、ボランティアが主となって子ども たちへ折り方の指導ができるようにした。

# ■ 事業の成果

- (1)おりがみを通して、子どもたちと地域の方々が交流する機会ができた。
- ②子どもたちが日ごろはなかなか作ることができないようなおりがみの折り方も教えてもらえるので、子どもたちが興味を持っておりがみに取り組み、集中して折ることができるようになった。
- ③図書室やなすびいずルームを季節ごとのおりがみ作品で飾ることにより、子どもた ちが季節の行事などに関心を持つようになった。
- ④地域の方が活動に参加しやすくなったことで、いろいろな方が来てくださり、交流や情報交換の場にもなってきた。
- ⑤子どもたち同士で、教えてもらったおりがみの折り方を教えあうことも増え、他学 年との交流につながっている。



【おりがみを折る様子】

【子どもたちの作品:クリスマスツリー】

# ■ 事業実施上の課題

- ①様々な行事等により、子どもたちが参加できず「おりがみの日」が実施できないことがある。
- ②飛行機などの遊べるおりがみの時は、子どもたちの参加が多く、ゆっくり折り方を説明することができないことがある。
- ③折り方の説明をしても、普段からおりがみに触れていない子どもたちは理解できないことがあり、わかりやすく教えることが難しく、時間も限られているので、ついボランティアが折ってしまうことがある。

 $\prod$ 

# ■ 心のふるさとづくり ~子どもは○○があれば必ず成長する!~(水戸小学校)

■ 湖南市	
■ 活動名	
みとっ子応援団	
■ 関係する学校	
水戸小学校	

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	75 人
開始年度	平成22年度

## ■ 活動の概要

「心のふるさとづくり」を合言葉に、学校を核として大人も子どもも地域の一員であると実感できる場づくりと学校と地域、地域と子ども、たくさんの人が顔見知りになるよう地域とともに子どもを育てる活動、教員が子どもに向かう時間の拡充を図るための活動を推進している。

### ■ 特徴的な活動内容

- ①図書ボランティアによる朝の読み聞かせ
- ②3年生の総合的な学習の時間
- ③11月のマラソン大会の安全見守りボランティア
- ④保護者、ボランティア、地域の方を対象にした「子育ち・親育ち講演会」
- ⑤職員とボランティアの交流会と事業報告会の開催

## ■ 実施に当たっての工夫

①毎月全学年全クラスに朝の読み聞かせを行っている。月に一度のミーティングに は学校の担当職員も参加し、ボランティアが読んだ本の紹介や子どもの反応など を話し合って次回の読み聞かせにつなげている。



【マラソン大会の安全見守りボランティア】

- ②「水戸のすごい人について知ろう!」という授業に地域の方にゲストティーチャーに来ていただいた。読み聞かせ、図書室整備、 登下校見守り、茶釜川の環境活動、プール支援、学習支援などのボランティア活動の他、まちづくり協議会、スポ少サッカークラ ブのコーチ、またコーディネーターも子どもたちにインタビューを受けた。
- ③マラソン大会では試走(2回)と本番3日間に、のべ70人のボランティアに協力してもらった。住宅街を走るため、細い道や車の多い道が多く、子どもがコースを間違えないようにポイントを決めて立っていただいた。長時間になるため、ボランティアー人ひとりの都合や体力なども考慮した上で無理なく参加してもらっている。
- ④心を育む活動として、甲賀市水口町のスポーツクラブ心理カウンセラーの知田 良博さんを講師にお招きし、アンガーマネジメント についての学習を行った。怒ることは決して悪いことではないが、怒りの出し方、伝え方を学び、子どもとの関係や人間関係のよりよい築き方を知った。
- ⑤教師、ボランティアが日頃の活動のふりかえりや学校、子どもについて話し合い、「**子どもは〇〇があれば必ず成長する!**」とそれぞれが思うことばを考えて紹介しあった。ゲームなどを交えて参加者が楽しくリラックスして参加できるよう工夫した。

# ■ 事業の成果

子どもたちが自分の住んでいる地域で、地域のために進んで活動している大人について知ることができた。ボランティアも子どもたちに「なぜこの活動をはじめたか、やっていて嬉しいことは。」と直接尋ねられたことで活動への思いを改めて考えることができたと話してくださった。地域の方と子どもたちが顔見知りになることで、日々の子どもの気になる様子だけでなく、地域での嬉しい子どもの姿もコーディネーターや学校に伝えてくれることが増えた。子どもたちにとっては、評価されることのない大人との関わりがほっとできる時間に思える。親や教師以外の大人との関わり、何気ない話をすることで、いじめの早期発見や対応につながっている。今年度は、どの活動もボランティア自身が楽しんで参加していると感じた。経験を重ねることで取り組む姿勢や参加の意義について各々捉え方が変化してきているように思う。

## ■ 事業実施上の課題

コーディネーターやボランティアが経験を重ねてスムーズに行える活動もあるが、担任が変わると担任の思いがあるので、打ち合わせの時間を意識してつくり、授業のねらいやボランティアの役割などを伝えてもらったり、子どもや学年についての特徴も聞いていたりすると対応する心構えができ、より学習を深めることができるのではと感じる。気持ちのよいあいさつがあると気持ちよく活

動が行える。まずは大人からあいさつすることを保護者、地域と協力して取り組んでいきたい。ボランティアの高齢化も懸念されるので、地域の方へ学校が自己実現の場、生涯学習の場であることの周知にいっそう力をいれる必要がある。

■教師、ボランティアが同じ方向をめざして活動を進める。 今年のテーマ〜子どもは○○があれば成長する!〜

愛・向上心・学校・見守る人・ぎゅう(ハグ)など、たくさんのどれも素敵なことば が入りました。みなさんはどんなことばをいれますか?



【教師とボランティアの意見交流】

# ■「地域は学校(生徒支援)へ」・「学校(生徒)は地域へ」(石部中学校)

	湖南市
	活動名
7	5部中学校支援地域本部
	関係する学校
7	5部中学校

コーディネーター数	2人
ボランティア登録数	55人
開始年度	平成26年度

### ■ 活動の概要

昨年度より支援地域本部の活動を開始して2年目。1年目の活動を着実に継続していくことを念頭におき、何よりも地域コーディネーター2名の連携と、加えて学校長との共通理解を図るための打ち合わせを確実に実施し、取組にもれがないよう、逆に重複しないよう調整を図りながら進めてきた。学校や地域の中におけるコーディネーターの存在も徐々に定着しつつあることを感じている。特に、地域の中においては、学校に来てくださるボランティアとも意思の疎通が出来つつあることで、来てくださる方にとって学校の敷居も徐々に低くなってきた。

また、コーディネーターは、来年度のコミュニティ・スクール正式発足を前にしたCS推進委員会では、事務局の立場で熟議にも参加し、コミュニティ・スクール活動を視野に入れた動きを心がけている。

## ■ 特徴的な活動内容

- ○「地域が学校(生徒支援)へ」・・・地域のボランティアが学校に出向いて生徒の支援をしてくださる活動 本の読み聞かせ・3年生の面接練習・技術科木工学習・家庭科ミシン学習・環境整備など
- ○「学校(生徒)が地域へ」・・・・・生徒が地域に出向き、自分たちのできることで地域づくりに貢献していく活動 夏祭りボランティア・ふれあいまつりボランティア・社会を明るくする運動啓発・ 共同募金啓発・障がい者週間啓発など

### ■ 実施に当たっての工夫

特に「夏祭りボランティア」については、昨年度を皮切りに特に力を注いでいる取組で、生徒の募集にあたっては学校で「各地域 集会」をもち、その場に地域の方も出席して直接生徒に呼びかけていただく方法をとっている。やはり、このスタートからが地域と の協働であり、当日に向けて企画の段階から中学生が参画した地域が、昨年1か所だったのが3か所に増え、催し後の反省会にも中 学生が加わる地域がでてきた。最終の目標は全地域(9か所)が前日までの準備段階から中学生が関わることで、当日も含めて「地 域の一員としての実感」を得ることである。

# ■ 事業の成果

- ・地域の方が生徒を支援してくださる気持ちと支援内容が定着し、協働で育てていく上 での過程も明確になってきた。
- ・夏休み中の夏祭りボランティアに関しては、昨年以上に取組を早めたことと、地域の方にも認識が深まったことで、生徒にも存在感の高揚が芽生え、活動に対する主体的な姿が見られるようになってきた。
- ・各種の地域に出向いてのボランティアを実施したことで、地域の方が中学生に関心を もってくださり、学校への発言、提案等も以前に比べると建設的な内容がみとれるよ うになってきた。



【生徒が夏祭りスタッフ】

## ■ 事業実施上の課題

- ・地域によってボランティアを希望する人数に差が生じ、極端に生徒数の少ない地域は、なかなかボランティアを確保することが困難である。(生徒個々に働きかけている)
- ・地域によっては、中学生が企画段階から参画していくことの意義を理解し、実践していただくことが難しいところもあり、校区全 体が同じスタンスで取り組むことには容易ではない。

# ■ その他

- ・特に「生徒が地域に出向いての参画」は、あまり多くの行事や催しを対象とすると、 消化型になってしまう恐れがあるため、できるだけ絞って取り組むことで、事前と事 後も含めて内容を深めていきたい。
- ・学校と地域の架け橋となるコーディネーターの存在は大きく、これからもPTAはもとより、地域の方々に存在を認識していただけるような努力が必要である。
- ・今後「支援地域本部事業」はコミュニティ・スクールとの両輪で継続し、生徒支援の 分野において、「地域の方が中学生に関心をもってくださること」をねらいとして、あ まり拡張し過ぎず、あくまでも課題に沿った活動を展開していきたい。



【地域の方の学習支援】

# ■ 地域の力を学校へ 中学生の力を地域へ(甲西北中学校)

	湖南市
	活動名
Ħ	西北中学校支援地域本部
	関係する学校
<b>₽</b>	9西北中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	13人
開始年度	平成27年度

### ■ 活動の概要

学校支援地域本部事業の活動を開始し2年目を迎えた。2つの小学校区からそれぞれ1名ずつ、計2名のコーディネーターが絶えず連携を図りながら様々な活動に取り組んできた。学校と様々なボランティア活動をつなぐ役割を担うコーディネーターとは、定期的に打合せ会議をもち、活動そのものの進捗状況の確認やボランティアの新規開拓に努めるよう心がけた。また、今年度は学校の意向のもとに進める活動をベースに、さらに「子どもために」を中心に据えて活動するよう心がけている。来年度は30周年を迎えることもあり、学校と地域をつなぐパイプ役としての、より効果的な動きを探っているところでもあり、学校としての方針やねらいをより明確化させながら継続的な取組につなげていきたい。

### ■ 特徴的な活動内容

### 【本立ての製作における生徒への支援】

1年生の技術科授業において、1枚の板から本立て(6種類の作品中、生徒は1つを選択)を製作する過程を、ボランティアの方に支援していただきながら授業を進めた。具体的な内容としては杉板へのけがき、のこぎりによる切断、釘穴のけがき、および、きりによる穴あけ、釘打ち、やすり、オイルによる仕上げという過程を通して本立てを仕上げるための支援活動である。1回の授業におけるボランティアの人数は4~5名で多いときには7名手伝ってくださる日もあった。10月~12月まで延べ16回と継続して来校していただくことで、はじめはボランティア自身の中学生の頃との違いに驚いておられ、生徒の現状に嘆かれていたが回数を重ねるごとに生徒とのつながりができ、その熱意が生徒へも伝わり、生徒自身もゴール(作品完成)を目指して頑張り通すことができ、本立ての完成につながった。

# ■ 実施に当たっての工夫

担当教師とボランティアによる事前打ち合わせを実施した。具体的には、生徒の現状把握と製作工程の確認をした。担当教師とボランティアの打ち合わせが事前にできない場合はコーディネーターを通して行うようにした。この結果、スムーズに授業を進めることができ、また個別に生徒を支援する際、ボランティアが仕上げていくのではなく、生徒自身の力を引き出し、完成させるような支援をしてくださるようお願いした。





【技術の授業における、木材加工のボランティアの方々による学習支援の様子】

## ■ 事業の成果

生徒にとって初めての木工製作は教師の説明だけでは理解が難しく、実技が上手くできない多くの生徒に対して教師の補助として ボランティアが教え励ましてくれた。そのことにより本立ての製作を一人でも多く完成へと導いてくれたのではないかと思う。その 結果、生徒の達成感や満足感を高めることにつながったと思う。担当教師からも作業そのものが大変スムーズに進んだという感想も あった。のこぎり、きり、釘打ちなど危険を伴う作業ではあったが、1グループに1名の割合でボランティアの方の支援を受けることができ、木工に対する苦手意識を取り除くことができたように思う。

### ■ 事業実施上の課題

当初はボランティアの方を探すのに手間取り、色々な自治会の皆様にも協力をお願いして実際14名のボランティアが支援に応じてくださった。前年度にも課題にあげたが、授業時間の変更が生じた際に学校に来られてから変更を伝えることになったためボランティアの方に迷惑をかけた。

# ■ その他

初めての技術科支援に参加してくださったボランティアは当初自分たちの中学生の頃と違う姿を見て批判されていたが、打ち合わせや確認作業を重ねるという丁寧なコミュニケーションをとることで生徒の立場に立って支援をしてくださることができた。ボランティアの方から「来年も来るから連絡してほしい」という言葉をいただいた。ボランティアの方の中には故障している機械を修理しましょうと言ってくださる方もいた。

# ■ 地域と共に子どもを育てる ~地域の方は学校へ子どもは地域へ~(日枝中学校)

	湖南市
	活動名
F	日枝中学校支援地域本部
	関係する学校
E	日枝中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	20人
開始年度	平成25年度

### ■ 活動の概要

生徒の持つ力を地域に活かし、達成感を感じて自己肯定の気持ちを育むことを目指す活動を行う。また、地域の方々には、生徒の自主性と自発性を尊重しながら生徒が必要とするサポート活動を行って頂けるよう、呼びかけを行う。

### ■ 特徴的な活動内容

○本の帯作り・・・前年度の図書委員会の「世界に一つのオリジナル帯づくり」の活動を発展させ全校に参加を呼びかけた。本を読み、その世界観に触れ、自己表現の手段として本の帯作りにチャレンジする活動を行った。活動当日には本校の読み聞かせ隊の方々や応援団の方に帯の紙を選びカットして頂く作業や、アドバイスが必要な生徒に寄り添って話を聞いて頂くなどのサポートを行って頂いた。 完成した帯はコンテスト形式で優秀作を決定し、地域の書店(2店舗)と公立図書館に本と共に展示して頂くことで地域の方々に広く中学生の活動を知って頂く機会を持った。

〇その他活動・・・1年生への絵本の読み聞かせ活動、2年生へのキャリア教育、3年生のお弁当教室、図書室開館支援、工業団地製品の校内展示、書道授業のサポート、調理実習サポート、広報活動など

### ■ 実施に当たっての工夫

本の帯作りに関しては、事前に生徒たちに好きな作品を読んでキャッチフレーズや概要をまとめておけるように説明を行い、創作活動に際してはじっくりと作成に取り組めるよう作成日を2日間設けた。又、地域で作品展示をして頂く上で、より多くの方々の目にとまり活動の様子を知って頂けるよう、活動中の様子を撮影した写真をDVDのスライドショーで流せるように加工し展示をお願いした店舗にて取り組みの様子の映像を流して頂いた。

### ■ 事業の成果

本の帯を作品として作るという活動を通して、試行錯誤の過程と完成した時の達成感が得られたと感じた。普段書店などで何気なく目にする本の帯を作る事の難しさや、良いデザインや心に訴えかける言葉とは何か?という気付きにもつながったと感じられた。地域書店で作品を展示して頂くことで、生徒たちも自分の作品を地域の方に認めて頂くという貴重な体験が出来た。展示して頂いた書店の方からは「この活動が他校にも広がって多くの生徒が参加するイベントになると良いと思う」との言葉を頂いた。来期には市内の一校との合同企画が予定されている。

## ■ 事業実施上の課題

様々な活動を行う上で、地域の方の協力が不可欠だが、活動内容の周知が十分出来ていないと感じる。活動報告を行っている「応援団新聞」を地域に回覧しているが、仕事をされている方などの目にとまる機会が少ないと感じる。より多くの方に活動を知って頂き、参加を呼びかける為にも学校応援企業や公共施設・病院などに積極的に出向き、掲示をお願いする活動を広げていきたい。

## ■ その他

書店で流して頂いたスライドショーは本校卒業生が手掛けてくれた。 母校の取り組みや後輩の活躍を応援してくれる力は次世代につながる一歩だと感じた。



【 本の帯作りの様子 】



【 本の帯 書店展示の様子 】

# 東近江市における学校支援地域本部の取組

# ■めざす姿

心豊かな児童・生徒の育成を目的として、市内小中学校に学校支援地域本部を設置し、円滑に学校と 地域及び保護者、関係諸団体等がつながり、連携協働による地域全体での継続的な学校教育支援活動の 充実を目指し推進している。

■本年度の活動(研修会・協議会の開催について)

【第1回】 平成27年5月29日(水)19時30分~21時00分

- 学校支援地域本部事業、家庭教育支援事業、地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援 体制等構築事業、東近江市地域教育協議会事業の目的・活動内容についての説明
- 各事業に対する質疑応答と情報・意見交換
- 各事業のあり方と学校、地域の子どもたちの現状ついての交流

【第2回】(研修会) 平成 27 年 11 月 18 日 (水) 19 時 00 分~21 時 00 分

● テーマ「心豊かな子どもを育む地域の連携とは」

## 〔事例発表〕

- ・愛の田園(まち)いきいき通学合宿(愛東地区地域教育協議会)
- 夏休み宿題教室(八日市南小学校支援地域本部)
- ・外国にルーツを持つ子どもの学習教室(東近江市学校支援地域本部)

# [意見交流]

- ・グループ交流 (熟議によるワークショップ)
- ・全体交流(各グループ発表)

【第3回】平成28年2月~3月に開催

・次年度の学校・家庭・地域の連携による教育について

【学校支援地域本部未設置校への啓発活動】

• 東近江市学校支援地域本部報告配布



【研修会の様子】

# ■本年度の成果

地域コーディネーター、小中学校の教職員、地域教育協議会関係者、まちづくり協議会関係者、コミュニティセンター関係者、PTAや子ども会等の青少年団体関係者等、広く参加を募り、各地域での活動をヒントにして、各事業の活動目的や連携方法等、地域で子どもを育てる体制について考えることを目的とした研修会を開催した。

ワークショップ形式の交流会では、それぞれの立場から多様な意見が出るよう工夫し、各学校や地域 での現状や課題が出され、解決に向けての具体的な手立てについて話し合うことができた。

# ■今後の課題

学校支援地域本部事業が各学校で継続し、より充実していくように推進することが重要と考える。

毎年、同じ学年で行われる活動であっても、児童・生徒は同じではない。地域の方はボランティアの 活動を重ねることにより、自身の学びとしたり、生きがいの場と感じたりするようになる。

各本部で展開された心豊かな児童・生徒を育むための取り組みを地域に根づかせ、学校と地域のつながりを深めることを目的として、児童・生徒が地域活動や地域行事に飛び出していき、活躍、貢献する活動の構築を次年度の課題としたい。

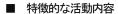
# ■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し蒲生東小学校を支援しよう。

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生地区学校支援地域本部・蒲生東小学校
■ 関係する学校
蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校・朝桜中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	26 人
開始年度	平成20年度

# ■ 活動の概要

- ①定例(毎月1回)ボランティア会議の開催
- ②学習支援・ゲストティーチャー ボランティア
- ③学校行事の支援 ボランティア
- ④読書(読み聞かせ)、図書室・図書整備 ボランティア
- ⑤あかね通学合宿 ボランティア
- ⑥登下校安全パトロール見守り ボランティア



子どもたちの「総合的な学習の時間」や教科等の地域学習をはじめ、地域の特性を生かした体験活動において専門性や地域住民ならではの経験を生かしたゲストティーチャーや引率支援等の活動支援をする学習支援活動を全学年で実施している。



【2年生の生活科「いきものたんけん」】

例えば、1年生活科「さんぽ」・「昔の遊び」、2年生活科「お店探検」・「生きもの探検」、3年総合「町探検」・「農場見学」、4年生総合「福祉(車椅子・シニア・盲導犬)体験、5年生「田んぽの学習」、6年社会科「あかね古墳見学」・理科「地層見学」など。

### ■ 実施に当たっての工夫

蒲生東小学校支援地域本部は、平成13年に発足したボランティア「三弓会」を母体に伝統的な支援活動を継続している。

- ☆できる人が、できるときに、できることを支援する。
- ☆ 人から強制されるのではなく、自発的意思に基づいて行う。
- ☆ 先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動である。
- ☆ ボランティア自身の経験や専門性を生かす活動である。

を基本に、少しずつ支援の輪を広げながら現在まで活動を続けてきた。

# ■ 事業の成果

ボランティアと共に学ぶ学習は、蒲生東小学校の地域の資源や教育力を活かした特色 ある教育活動となっていて、支援するボランティアの誇りでもある。

学校にとっては、

- ・地域の方々の専門性や技能を生かした内容で豊かな学習活動が展開できる。
- ・地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり教育力が向上するとともに郷土愛を培うことにつながっている。 子どもたちにとっては、
- ・ボランティアの専門的な知識や技能に触れたり、多様な体験、経験の機会が増えたりすることによって、学習意欲が喚起され自ら問題を解決しようとする意慾や能力を身に付ける手助けになっていると感じられる。
- ・ボランティアと共に活動することを通して、規範意識やコミュニケーション能力が育っている。

# ■ 事業実施上の課題

長年にわたり子どもたちに伝え続けられている「地域の良さ・人の良さ」と共に創り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継続していくために、ボランティアとしての知識やノウハウを継承できる人材育成や、変化の激しい社会情勢の中で、ボランティアに 求められる「新たなニーズ」への対応が課題である。

# ■ その他

(蒲生東小学校) http://www2.higashiomi.ed.jp/gahigashisho/



【6年生の社会科「古墳見学」】

# 蒲生の子は蒲生で守りそだてよう。(蒲生西小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生地区学校支援地域本部・蒲生西小学校
■ 関係する学校
蒲生西小学校・蒲生東小学校・蒲生北小学校・朝桜中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	83 人
開始年度	平成20年度

## ■活動の概要

- 読み聞かせと図書ボランティア
- ・登校旗の修理や環境整備
- 田んぼの学校
- ・河川を中心とした環境学習
- ・町探検などの地域学習
- あかね通学合宿
- ・登下校時の見守り
- 学習支援



【3年町探検ボランティア】

# ■特徴的な活動内容

- ・「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、学校からの要請を受けて活動している。
- ・「あかね通学合宿」は、校区の6年生を対象に実施している。自治会公民館等で宿泊し、自治会やボランティアの方々の見守りの中、 自立した生活を目指している。地域の特性に応じたゲストティーチャーを招き、地域から学ぶゲストティーチャー授業を行うこと で、「ふるさと蒲生」を意識していく地域学習の場としており、これによって地域の教育力も高められている。
- ・児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。
- ・社会科や理科などの領域の内、地域に関わる様々な事項についてゲストティーチャーとして教えていただいている。

### ■実施に当たっての工夫

- ・支援の内容に適したボランティアをお願いするようにしている。
- ・「あかね通学合宿」は、児童が家庭・学校では体験できないことをこの合宿で経験する場とする。また、地域住民と子どもたち、地域と学校がつながる機会となるように、 ゲストティーチャーをはじめ、自治会の中から広くボランティアをお願いしている。
- ・地域の一員である児童が、地域のイベントや行事に参加できる機会がないか情報収集 を常に行う。
- ・九九の聞き取りなどのように日常的な学習に参加してもらうようにした。



【6年通学合宿ゲストティーチャー】

# ■事業の成果

- ・「あかね通学合宿」は参加後、児童の家庭から「生活に自主性が見られるようになった。」等の意見が多く聞くことが出来ている。 地域の方と児童の、地域を越えた繋がりが見られ、様々な交流が生まれている。
- ・地域の学習を通して、地域理解が深まると共に、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。
- ・地域の大きな行事、イベントに児童が参加することは、地域の一員であることの意識づけになっている。

# ■事業実施上の課題

- ・ボランティアの多くが固定化されつつあると共に、高齢化も見られる。
- ・「あかね通学合宿」については、自治会に大きな負担をお願いすることとなり、自治会の施設に依存する面も多いとともに、事業を 理解していただくのに時間がかかる面がある。
- ・学校やPTA組織内においても、「あかね通学合宿」のあり方については様々な意見がある。
- ・九九の聞き取りにボランティアの活用を進めたが、他の領域でも広げていけるようにしたい。

# ■その他

・(蒲生西小学校URL) http://www2. higashiomi. ed. jp/ganishisho/

# ┃ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう(蒲生北小学校・朝桜中学校)

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生地区学校支援地域本部・蒲生北小学校、朝桜中学校
■ 関係する学校
蒲生北小学校・朝桜中学校・蒲生東小学校・蒲生西小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	40人
開始年度	平成20年度

## ■ 活動の概要

平成 20 年度より、蒲生地区(1中学校、3小学校)での学校支援地域本部事業が、スタートした。一人のコーディネーターが中心になり、各種社会教育団体やボランティアグループと連携し、様々な実践が繰り広げられた。しかし、学校間での意識の違いや、取組の偏りも存在した。そのこともあり、コーディネーターを各学校に一人ずつ配置することをめざして改革を進めている。今年度は、長年4校を担当していたコーディネーターが2校を担当することになり、学校に来て、教職員と交流する時間が格段に増え、学習の支援や担任の事務負担の軽減、環境整備等に地域の支援を受けることができ、地域とのつながりが感じられるようになってきた。

# ■ 特徴的な活動内容

・3年生のまち探検 (蒲生北小学校)

昨年までは、担任が自治会長にトイレの借用などをお願いして、各字の特徴などを 現地で調べる学習をしていた。今年は、地域コーディネーターが自治会長との交渉と ともに、地域の方で、子どもたちに教えてあげられる方を探して、子どもたちが来た ときに、地域の変わったところや自慢できること等を子どもたちに伝えていただいた。 人とのふれあいも加味され、より深く地域を学べた。

田んぼの学校 (蒲生北小学校)

田植えや稲刈り、収穫祭等に参加していただけるボランティアを募るチラシを作成 し、老人会などの組織を通じてお願いした。田植えや稲刈りは、3年・4年・5年が 体験することもあり、多くのボランティアに参加していただき、なれない手つきの子



【 3年生のまち探検 】

どもたちに優しくかかわっていただいた。収穫した米は、関係した学年がそれぞれ工夫して、地域の人とともに楽しめるイベントを 開催して、おはぎやおにぎりなどにした。

・あかね通学合宿 (蒲生北小学校)

6年生の希望者を対象に実施した。自治会の公民館で宿泊し、地域のボランティアの見守りの中、3泊4日の自立した生活を目指して開催した。毎日、夜には地域のなかからゲストティチャーを招き、これまでの体験と知識を伝えて頂く「世界にひとつの授業」を実施し、児童には「ふるさと蒲生」を意識する機会となった。今年は25名(全46名)が参加した。

環境整備 (蒲生北小学校)

自然豊かな土地にあり、敷地が広い。草刈機や耕運機があるが、古くて使えない状態であった。そこで、地域の詳しい人に相談して、使える状態にしていただいた。また、草刈ボランティアを募り、学校周辺の気になるところをきれいにしていただいた。

部活動 (朝桜中学校)

外部コーチの方に来ていただき、剣道部やハンドボール部の指導をしていただいた。休日や放課後または大会当日にも来て、技術だけでなく精神面も含めて熱心に指導され、生徒たちの力も伸びている。

・学校図書館の開館ボランティア (朝桜中学校)

今年度、学校図書館の開館ボランティアの地域のみなさんが図書委員と一緒に昼休みの図書館の開館のお手伝いをしていただいている。館内を掃除したり、図書を整理したりと気持ちよく本が読めるように心を配っていただいた。

・合唱コンクール (朝桜中学校)

9月、文化祭の合唱コンクールに向けて、各学級では合唱の練習に力が入ってくる。 この時期に、音楽の時間に蒲生地区出身でソプラノ歌手の佐川康子さんをお招きして 合唱の指導を行ってもらった。先生の指導に刺激を受け、どんどん歌声が変わっていった。

# ■ 実施に当たっての工夫

- ・教職員に事業の本質と内容を職員会議でしっかり理解してもらうことから始めた。
- 何でもコーディネーターに頼める雰囲気作りを大切にした。

### ■ 事業の成果

- ・地域の方との連携により、子どものためにもなり、教師の事務負担の軽減にもつながった取組を経験することにより、教職員の意識が変容し、事業への理解が高まった。
- ・毎年を楽しみにして、参加させるボランティアが増えてきた。

### ■ 事業実施上の課題

・年間を通じて支援してくださるボランティアの方々が固定化しつつある。また、年齢が高くなってきている。新しい方の掘り出しが大切である。

## ■ その他

(蒲生北小学校) http://www2.higashiomi.ed.jp/gakitasho/ (朝桜中学校) http://www2.higashiomi.ed.jp/chouchu/



【 地元出身で歌手の佐川さん 】

# ■ みんなで支える学校 みんなで育てる子ども(八日市西小学校・船岡中学校)

■ 東近江市	コーディネ
■ 活動名	コーティネ
船岡中学校区学校支援地域本部	ボランティ
■ 関係する学校 八日市西小学校・船岡中学校	開始

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	238人
開始年度	平成24年度

### ■ 活動の概要

- (1) 地域の子どもは地域で守る
  - 「子ども見守り隊」による児童生徒の安全確保と事件・事故の未然防止
- (2) 教育活動への支援

### 〇学校行事

- ・ふるさと文化祭でのゲストティーチャーやボランティア (昔のおやつ・おもちゃ 作り、餅つき・よもぎ餅作り、縄ない体験、戦争体験談など)
- ・校内マラソン大会での交通立ち番や応援垂れ幕の作成
- スキー教室での技術指導や活動支援

### 〇日常の教育活動

- ・1、2年生活科校外学習での見学地までの引率(安全指導)や活動支援
- ・月に一度、学級の子ども達への読み語り
- ・5年総合的な学習の時間(たんぼの学校)での田植えや稲刈り体験の作業指導や活動支援
- クラブ活動の技術指導や活動支援
- ・ 部活動の技術指導や活動支援(中学校)
- ・定期テスト前質問教室での学習支援および補助(中学校)
- (3) 教育環境への支援
  - 校庭の樹木剪定
- (4) 学校図書館の貸出業務
  - 朝休みの本の貸し出し

### ■ 特徴的な活動内容

- ○「子ども見守り隊」の活動
  - ・下校時の子ども達の安全確保のために、11 地区で「子ども見守り隊」を結成して、子ども達に付き添っていただいたり、交通量の多い危険な交差点などに立っていただいたりしている。
  - ・登下校時の中学生にヘルメット着用や挨拶の声かけの場になっている。
  - ・「子ども見守り隊」の方を招待して交流・感謝の集いを開き、感謝の気持ちを表すとともに地区の取組事例報告や情報交換等を した。

# ■ 実施に当たっての工夫

- 学校だより等で取組を地域に発信する。
- ・地域の各種団体との連携を深める。
- 人材データをファイリングする。

## ■ 事業の成果

- ・専門的な知識や技能を修得された方の支援により、学習内容や活動がより豊かになり、質が高く、わかりやすいものになった。
- ・教員以外にも多くの支援者がいることで、人員的にもゆとりが生まれ、一人ひとりの子どもとより関わることができた。
- ・地域や保護者の方々が積極的に教育活動に関わることにより、地域に根ざした開かれた学校づくりに繋げることができた。
- ・子ども達は地域の方々と交わることを楽しみにしており、保護者の方にも好評であった。
- ・本年度の新たな取組として、学校図書館の貸出業務をボランティアの方にしていただいた(朝休みの時間帯)ことで、子ども 達の貸出冊数が増加し、本校の読書活動の充実に繋げることができた。

### ■ 事業実施上の課題

- ・子ども達の学習や生活の充実(現場のニーズ)のため、地域の方々の多方面にわたる知恵や技術、地域の教育力等を有効に活用できるよう、教職員と地域コーディネーターとが連携を密にとり、効果的な支援を図りたい。
- ・教職員はもとより、ボランティアの方々の交流により、船岡校区の子どもを育てる小中連携を深めていく手立てを探り工夫したい。
- ・「子ども見守り隊」活動のなかで、地区の方々により取組への思いが違うため交流会等を開催しているが、その調整が難しい。
- ・(八日市西小学校URL) http://www2. higashiomi.ed. jp/ynishisho/
- (船岡中学校URL) http://www2.higashiomi.ed.jp/funachu/



【質問教室での学習支援】



【朝休みの本の貸し出し支援】

# ■ 地域につくられた学校・子ども応援団(玉緒小学校)

	東近江市
	活動名
E	E緒小学校支援地域本部
	関係する学校
E	E緒小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	42 人
開始年度	平成24年度

### ■活動の概要

この事業は、子どもと地域の方々、学校と地域つながりを深める「地域につくられた学校・子どもの応援団」と言える。玉緒小学校では、以前からから登校下校の見守りや、読み語りのボランティアの方々の活動が行われてきたが、この事業が始まってから生活科や社会科、家庭科の学習や総合的な学習の時間などの支援を行っている。今年度も学習効果が上がることを目指し地域のボランティアが、子どもの学習活動に積極的に関わり応援団の役割を果たせた。

# ■特徴的な活動内容

- ・1年 生活科「あそびのひろば」の支援・「さつまいもを育てよう」のお手伝い
- ・2年 生活科「野菜を育てよう」のアドバイザー 「さつまいもを育てよう」のお手伝い
- ・3年 社会科「校区探検」去年に引き続き、施設の見学や子どもたちへの説明、質問への応答など
- ・4年 社会科「蛇砂川の歴史や役割・生き物」について長年かかわってこられた方に 直接話を聞き、生き物の観察に同行していただいた。
  - 総合的な学習「玉緒の宝!里山探検隊」自分のテーマを決めて問題解決をする 自然体験学習を進めるにあたって学校の中ではできない貴重な体験学習が出 来た。
- ・5年 家庭科「初めてのソーイング」「ミシンを使って」ミシンの点検などもしていた だき、個々の児童にきめ細やかな指導助言ができた。 総合的な学習「田んぽの学習」「感謝祭」の支援
- ・6年 総合的な学習「キャリア教育」ゲストティーチャーの方の想いや仕事に対する 姿勢などの話を実際に聞くことができた。
- ・その他 登下校の見守り・図書室の環境整備や朝の読み聞かせ

# ■実施に当たっての工夫

- ・今年度で4年目となり、ボランティアの方々も増えてきたため、学習活動の支援内容 に適した人材が依頼できるようになった。
- ・ボランティアの方と親交を深めることで信頼関係も生まれ、新しい人を紹介していた だくことも増えた。
- ・ボランティアの方の生きがいになるような活動を依頼するように心がけた。



【1・2年生 お芋掘り】



【5年生 感謝祭】

### ■事業の成果

- ・昨年に引き続いて同じ方をお願いすることにより打ち合わせが短時間で終わり、活動の幅も増えた。
- ・子どもが地域の方と顔見知りになり、親密になることでお互い気軽に声掛けができるようになった。
- ・ボランティアの方も何度か経験されてきて見通しが持て、子どもと接することに慣れてスムーズに活動ができた。

### ■事業実施上の課題

- ・ボランティアの方々が固定化しつつあること
- 新たなボランティアの発掘

# ■その他

玉緒小学校ホームページ http://www2.higashiomi.ed.jp/tamasho/

# ■ みなみっこ地域応援団(八日市南小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
八日市南小学校支援地域本部
■ 関係する学校
八日市南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30 人
開始年度	平成24年度

### ■ 活動の概要

本校では平成24年度より本事業をスタートさせ、学校・家庭・地域の連携協力のもと、子どもたちの学習、活動の補助にたくさんのボランティアのみなさんに協力いただき、事業を進めている。

学習活動を効率よく進めるために、5年生、6年生の家庭科調理実習、ミシン補助、滋賀学園の生徒による市陸上記録会に向けたアドバイスなど、教師の指導の補助をしていただいたり、5年生田植え、稲刈りの補助、なかよし学級のさつまいも植え、3年生の校外学習の引率補助、1年生の秋みつけ引率補助、2年生のポップコーン作り、スイートポテト作りの補助など、安全できめ細かな学習環境を整える支援をしていただいたりした。また、学期ごとの図書室の壁面飾り、はちまき補修などの施設や設備の維持管理の支援も行っていただいた。さらに、読み語りを朝のスキルタイムに実施していただいた。その他、4年生の地域の歴史、3年生の昔

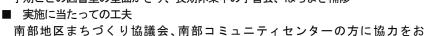


【 陸上競技のアドバイス 】

のくらし、1年生の昔あそびなどで、ゲストティーチャーとして来校いただき、理解を深めるために直接指導もしていただいた。その他、南部コミュニティセンターの畑で3年生のじゃがいも掘り、アフタースクールのさつまいも掘りなど地域と連携した取り組みも進めてきた。

### ■ 特徴的な活動内容

- 5年生田植え、稲刈りの補助
- ・5年生、6年生の家庭科調理実習、ミシン補助
- ・3年生まちたんけん補助、南部コミセンの畑でのじゃがいも掘り
- なかよしさつまいも植え、アフタースクールのさつまいも掘り
- ・3年生校外学習引率補助、3年生昔のくらし
- 6年生滋賀学園の生徒による陸上運動指導
- ・1年生秋みつけ引率補助、昔あそび・4年生地域の歴史
- ・2年生ポップコーン、スイートポテト作り補助
- ・学期ごとの図書室の壁面かざり、長期休業中の学習会、はちまき補修





【 田植えの支援の様子 】

願いし、チラシを掲示していただき、地域の方に広く知ってもらうようにした。ボランティア募集のお知らせも毎回掲示をお願いし、地域の窓口になってもらえるようにした。まずは、活動する学年の保護者ボランティアを募り、その後、登録ボランティア、地域ボランティアを募集するようにした。学期ごとにボランティアだよりの発行を行うようにした。年に1度、地域、保護者ボランティアの交流会をして、ボランティアの必要性や家庭・学校・地域での連携の必要性などを話し合っている。

# ■ 事業の成果

滋賀学園の陸上部指導による市陸上記録会の練習では、回を重ねるごとに高校生もどうすれば伝わるかを考えて指導してくれた。 調理実習、ミシン授業の補助のように、多くの方の協力が必要な授業にも大勢の方に参加いただくことができた。 何よりボランティアの方に「楽しかった」「お手伝いできることがあったら言ってほしい」と言っていただけ、 子ども達からは「次の時間もきてくれるの?」と言ってもらえた。子ども達にとってもボランティアにとって も充実した時間となっていることが大きな成果である。

長期休暇の学習会では、南部まちづくり協議会、南部地区地域教育協議会、南部地区社会福祉協議会と連携し、子どもたちの学習支援、異年齢とのつながりのサポートをしている。学習支援には、ボランティアに大学生、教員免許をもった地域の方などに参加いただいている。子どもたちからも、次の長期休暇にもあるのかと聞いてもらえるようになってきた。

## ■ 事業実施上の課題

ボランティアの不安の解消、スムーズな取り組みができるように、支援に入っていただく授業の前に先生との丁寧な打ち合わせができるようにする必要がある。そして、地域に眠っているボランティアの発掘をし、生涯学習の場として楽しみながら学校に来ていただけるようになればと思う。今後も、この事業を通し、学習効果を高め、教育活動の充実を図るとともに、学校と家庭・地域の連携を深め、地域の活性化にもつなげたいと思う。

# ■ その他

平成26年度の冬休みから地域で学習支援を始めている。将来的には「放課後こども支援」のように、子どもの学習支援、居場所作りを進めていきたいと思っている。それには、ますます地域とのつながりを強くし、支援の輪を広げていきたいと考えている。 (八日市南小学校URL) http://www2.higashiomi.ed.jp/yminamisho/

# ■ふるさとの宝・名人・東押立の文化・豊かな自然に学ぶ「地域の学校」(湖東第一小学校)

	東近江市		
	活動名		
沽	湖東第一小学校支援地域本部		
	関係する学校		
沽	<b>康第一小学校</b>		

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	平成25年度

### ■ 活動の概要

湖東第一小学校は、「やる気をもち やさしく たくましい子ども」を学校目標に掲げて、『三方よし』の学校経営理念で子どもたちのよりよい成長を願って教育活動に取り組んでいる。『三方よし』の一つの『社会よし』は、ふるさとに学ぶ子のことである。地元の方は、年配の方も若い方も「地域の学校」という意識を強く持っておられ、子どもたちに粘り強く丁寧に支援をしてくださり、いつも助けられている。地域と共にある学校・地域コミュニティーの核になる学校を目指している。

## ■ 特徴的な活動内容

田園地帯の広がる自然豊かな地域であるが、古くから愛知郡東押立村として、文化の中心であった名残が地域に多く残っている。そこで、3年生の社会科「町たんけん」では、各町の自慢や名人を見つけている。今年度も、北花沢・南花沢町の「ハナノキ」や小八木町の「春日神社」、また大沢町の「ススム豆腐」さんへ見学に行った。他には、平柳町の「化け灯籠」、読合堂町の「半鐘」「出湯」「経堂」なども地域の文化である。5年生の総合的な学習の時間では、地域の農家に学ぶ野菜作りを行った。読合堂町営農組合のカボチャ栽培や「としちゃんトマト」のトマト農家さんに学んだ。4年生は、音楽会で演奏する和太鼓を地域の方に教えていただいた。6年生は、地元の郷土史研究家さんに話をしていただく。

### ■ 実施に当たっての工夫

子どもたちにとっても、ボランティアの方々にとってもよかったと思える活動にすることである。お互いに過度の負担になると続かないが、連絡を密に取ることで子どもたちのマナーや規範意識が高まり、コミュニケーション能力の向上につながったと思われる。

### ■ 事業の成果

子どもたちが本物に触れ、感動し、人とつながって体験を積み重ねることは、子どもたちのやる気を育てる。いろいろな方から褒めてもらえる場面が増えることは、自尊感情が高まり豊かな人間性の育成につながる。学校に来にくい子が体験活動を楽しみに学校に来たり、知っているけど話したことのないおじちゃん・おばちゃんに声をかけてもらうことで、学習意欲が高まったりしたということもある。子どもたちは、ボランティアに学校に来てもらったり、地域に出て行ってボランティアと一緒に学習したりすることが大好きである。子どもさんやお孫さんが大きくなられて、久しく学校に足を運んでおられなかった方が音楽会をきっかけに来てくださり、「先生は毎日大変やね」と声をかけていただくようになった。多くの方から「また、いつでも声かけて」との応援がとてもうれしい。

# ■ 事業実施上の課題

課題としてではないが、ボランティアは地域のネットワークを持っておられるので、今以上に連絡を取り合って活躍していただきたい。 そうすることで、職員を含めた学校全体が活性化し、地域と学校の絆が深まり学校理解が深まると思われる。

# ■ その他の活動

対象	活 動 内 容
全校	読み聞かせボランティア・絵本の広場「お話ポッケ」・田んぼの学校・環
	境整備・スクールガード・スキーボランティア・地域学習ボランティア「何
	でもおたずね隊」
1年	昔遊び何でもおたずね隊「おじいさん、おばあさんから学ぼう」
2年	ふしぎたんけん「みんなの使う場所」(JAことう・郵便局・給食センタ
	一)・おいしくふれあい「よもぎだんご作り」
3年	町の自慢と名人さん(ハナノキ・春日神社・木工店・豆腐店)・お店見学
	(スーパー)・昔の暮らし (おじいさんおばあさんにインタビュー)・「大
	豆を育てて豆腐ときな粉を作ろう」・アイマスク体験と地域出身目の不自
	由な方の話
4年	愛知消防署見学体験・警察官出前授業・地域の方に和太鼓指導・特別養護
	老人ホーム「菊水園」訪問・車いす体験
5年	地産地消学習「地域の野菜農家さんに学ぶ」・ミシン補助・お米を使った
	収穫祭
6年	戦争中の話・ミシン補助





【5年地産地消・野菜作り】



【3年町たんけん・ハナノキ】

 $\prod$ 

# 育てよう湖二っ子!(学校、家庭、地域が一体となって)(湖東第二小学校)

■ 東近江市		コーディネーター数	
■ 活動名		コーティネーター数	
湖東第二小学校支援地域本部		ボランティア登録数	
■ 関係する学校 湖東第二小学校		開始年度	

# 1 人 29 人 平成23年度

# ■ 活動の概要

①学習支援ボランティア:読み聞かせ・家庭科指導補助・ピアノ伴奏・合奏補助・スキー指導補助など

②ゲストティーチャー:農業見学(菊栽培・トマト、きゅうり栽培)・木工体験(のこぎり、かんな)・地域見学(お寺・石材店・史 跡など)・茶道・華道・わら細工

③環境ボランティア:松などの剪定・校舎周辺の草刈り ④その他:サッカーチーム依頼・交通安全教室依頼

### ■ 特徴的な活動内容

### (1)読み聞かせボランティア(ポンぽんの会)

毎月第4火曜日の朝学習の時間に、絵本の読み聞かせに来ていただいている。自分のお子さんが 卒業されてからも継続して来ていただいている方も多く、子どもたちはたいへん楽しみにしている。 今年初めて、男性の方にも参加していただいた。

### ②音楽ボランティア

音楽会に向け、合奏練習の補助やピアノ演奏に何度も来ていただいた。パートの練習やリコーダ -が苦手な子を支援していただき、楽器の演奏技能を高めることができた。

### ③農業見学

3年生社会科の学習で、農家の方をゲストティーチャーとしてお願いしている。現地へ出かけて いき、栽培の仕方や工夫、苦労どのお話や質問に答えていただいている。「少しでもお役に立てば」 と喜んでくださっている。子どもたちもたいへん親しみを感じている。

### 4)茶道·華道

6年生の総合的な学習で、日本の文化を学ぶ時間として、茶道・華道の先生を招き、指導してい ただいた。作法だけでなく、姿勢を正すことやおもてなしの心も教えていただけてよかった。 ⑤わら細工

5年生「田んぼのこ学習」のまとめとして、地域のご老人を招き、わらのリースづくりをご指導 いただいた。わらで作った干支などの作品を展示していただいたり、昔の農作業の苦労や工夫など の体験談を話していただいたりしたことはたいへんよかった。

# ■ 実施に当たっての工夫

- 学校支援の年間見通しと支援実績記録の活用
- 保護者からの人材情報及び地域コーディネーター交流会での情報活用

# ■ 事業の成果

# ①学習支援ボランティア

- 保護者、地域の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
- ・困り感のある子どもを支援していただき、子どもの学習意欲の高まりにつながっている。
- ・地域のボランティアの方々は、子どもたちの様子が分かったり、つながりが持てたりすることを喜んでくださっている。

# ②ゲストティーチャー

- ・今年度は、新たに「木工」「茶道・華道」「わら細工」の指導に来ていただいた。学習ニーズに合わせて、専門的な知識や技能を持 っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。
- ・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
- ・地域の方からは「子どもたちに分かる説明の仕方が難しい」という声も聞くが、自分の知識や経験を活かせる機会として、やりが いを持っていただいている。

### ③環境ボランティア

・昨年度の課題であった前庭の松などの剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださる環境ボランティアが見つかり、前庭や校舎周辺がた いへんきれいになった。これも長年取り組んできた成果といえる。

### ■ 事業実施上の課題

・地域の方にも学校支援ボランティアをお願いしているが、人材情報が乏しい。

## ■ その他

(湖東第二小学校) http://www2. higashiomi. ed. jp/kot2sho/



【 きゅうり栽培の見学 】



【茶道】

# ■ 民生・児童委員と作る「まち探検」(湖東第三小学校)

■ 東近江市		
■ 活動名		
湖東第三小学校支援地域本部		
■ 関係する学校		
湖東第三小学校		

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	17 人
開始年度	平成25年度

### ■ 活動の概要

本校は、地域教材や地域の人材を生かし、学習内容や行事の充実を図っている。本年度は、本事業が3年目を迎え、家庭や地域との連携をより深め、効果的な取り組みとなるように努めてきた。

### ■ 特徴的な活動内容

- 1 2年生の生活科「まち探検」3年生の社会科「地域学習」において、より広がりと深みを持たせる意図で、コーディネーター自身が民生児童委員であることを活かして、他の委員との連携を試みた。
- 2 本年度も読書ボランティアグループ『あめんぽ』が定期的に図書室に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、次の発表の稽古・ 打合せを実施するなど、熱心な取り組み状況である。昼休みの「ふれあいタイム」には2ヶ月に一度の割合で定期的に発表活動 をしている。
- 3 4年生社会科における地域の環境学習において、初めて「小田苅地区農村下水道処理施設」の見学を実施した。コーディネーターが「湖東地区人権のまちづくり協議会」の理事をしていることで、関係者との調整がつきやすく、市担当者や処理施設の保守会社の担当者から直接説明を受ける機会が持てた。

### ■ 実施に当たっての工夫

- 1 子どもたちが地域のよさに気づき、より愛着を持てるよう、「まち探検」では、担当地区が二町に亘る人が、別にその地域の案内に適当な人材を発掘し依頼する等の工夫をした。
- 2 従来からの地域学習や、総合的な学習の実施において、コーディネーターが関わる中で、『湖東地区まちづくり協議会』や『湖東地区福祉協議会』など関係機関との連携をより密にして学習内容の質的向上を図ろうとした。
- 3 コーディネーター自らが「昔遊びボランティア」や「まち探検」の引率、ゲストティーチャーとなることで、担任や児童とのつながりを深めた。

## ■ 事業の成果

「まち探検」に、地域をよく知る(民生委員) ボランティアが加わることで取り組みが充実し、地域と関わりを深める創造的な取り組みへと質的変化を遂げた。

# ■ 事業実施上の課題

- 1 地域に出て、地域ボランティアを活かしての学習は内容も深まる有意義なものであるが、どうしても時間が必要となる。限られた時間内で、効果的な学習となるような検討がさらに必要である。
- 2 学校便りや地域の広報で、ボランティアを募集しているがさらに登録人数を増やすことが必要である。



【民生委員と作る「2年まち探検」清水中町「山の神」見学】



【4年下水処理施設の見学 小田苅地区農村下水道】

# ■その他

・(湖東第三小学校URL) http://www2.higashiomi.ed.jp/kot3sho/

 $\prod$ 

# ■ 地域とともに歩む学校(箕作小学校)

	東近江市
	活動名
箕	作小学校支援地域本部
	関係する学校
箕	作小学校

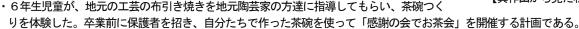
コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	135 人
開始年度	平成26年度

### ■ 活動の概要

箕作小学校支援地域本部は、地域の歴史、自然、文化を活かした教育環境の構築とその充実に努めてきた。小学校区全域で、「清水小脇街づくり委員会」「太郎坊応援団」「中野地区まちづくり協議会」が組織され支援活動が行われている。各学年の様々な教育活動や芝生化されたグランドの保全に箕作小学校応援隊の力強い支援の継続が見られる。

## ■ 特徴的な活動内容

- ・テーマ「地域とともに歩む学校」の実践は全学年を通し、箕作山登山、町探検、大凧製作などの経験をし、地域の自然・文化にふれる機会を大切に取り組んできた。
- ・5年生は、家庭科『ミシンを使ってエプロンを作る』授業に地域の方達の支援を受け、 全ての児童が「僕の私のエプロン」を完成することができた。
- ・なかよし、2年生、4年生、5年生は "野菜のゲストティーチャー、 "田んぼのゲストティーチャー、を招いて、作物づくりを計画的に基礎から学び、野菜や米を収穫することができた。なかよしは、収穫したさつまいもを使って "いもようかんづくり、を経験することができた。
- ・環境調査隊(5年生)が箕作山に登り、清水小脇街づくり委員会のメンバーから山の 歴史、自然の様子、生息する動植物、山の保全について学んだ。
- ・6年生児童が八日市の伝統文化の大凧つくりを東近江市大凧保存会の協力を得て制作した。 大凧に判じもんで子ども達が考えた文字を入れ、大凧保存会の指導を受け、2畳敷大凧を グランドで大空高く揚げることができた。
- ・ボランティアによる読み語りを年間通じて、全学年対象に実施した。今年度も保護者の有 志とともに地域に伝わる民話の紙芝居制作に取り組んだ。子ども達は従来からの名作の本 とともに地域に伝わる昔話に親しんだ。
- ・全校マラソン大会で保護者とともに地域の人達が、力走する全児童に声援を送り子ども達を励ました。



- ・1月には、ボランティアの協力を得て、5年生6年生対象にスキー教室が行われる計画である。
- ・1年生は昔からの遊び(けん玉、はねつき、竹とんぼ、あやとり、お手玉)を箕作小応援隊の方達と一緒に遊びを体験する計画である。3年生は箕作小応援隊に七輪を使って火の起こし方を教えてもらったり、餅を焼いたりする計画である。

# ■ 実施に当たっての工夫

- ・各学年の学習のねらいや学習の取組のテーマ "見て 聞いて やってみる" をモット―にした学習活動の理解のもと、支援活動が 適切になされるよう地域との連携を適時とっている。
- ・支援内容に適したボランティア人材が依頼できるよう、各所、各団体他、個々の方にも幅広く連携を図るように努めている。
- ・これまでの取組を継続し、学校、地域、ボランティア三者がともに安心感、親近感、信頼感が持てるようにできる限り互いの思い、 考えが伝わるように日ごろから連携に努めた。

### ■ 事業の成果

- ・活動団体が組織化されてきたことにより活動内容が整理された形で支援ができるようになった。
- ・広範囲な学区であり、広くボランティアの人材を募ることに難しさが中野コミュニティセンター、八日市コミュニティセンター、 八日市ボランティア協会などと細やかに連携を図ることにより、適材適所のボランティアを依頼することができるようになった。
- ・ 箕作山探検隊、米作り等の体験の積み重ねの継続は、児童、ボランティアとともに成就感や親近感が持て、打ち合わせや実践においても効率的に実施できた。
- ・自分たちの住む町を見て歩き、町の人々に多くのことを教えてもらい地域に対する関心が高まり、子どもたちが地域の一人ひとり としての自覚を持てるようになった。

### ■ 事業実施上の課題

- ・「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆が深まり、子ども、学校、地域にとって各々が充実したものになるには、打ち合わせや相談、必要により計画立案に参画、実践の際の支援、反省、評価、問題提起、課題解決方法の探求など、発展的に循環した取組となるよう、考えていくことが必要である。
- ・子ども達が様々な人々と適時適切に関わりを積み重ね、より確かな人格形成が築けるように学校と地域の連携充実が不可欠である。

# ■その他

• (箕作小学校URL) http://www2. higashiomi.ed. jp/mitsusho/



【脱穀"米つくりの大切さを体験』】



【箕作山から見た私達の町】

# ■「地域とともに、魅力いっぱい、花と本がいっぱいの持続可能な教育環境づくり」(市原小学校)

■ 東近江市	
■ 活動名	
市原小学校支援地域本部	
■ 関係する学校	
市原小学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30 人
開始年度	平成25年度

## ■ 活動の概要

- 1.「いつも身近に本を置こうプロジェクト」(地区集合場所にあるから、登校時の待ち時間もミニ図書館で読書)
- 2. 「花いっぱいの地域にしようプロジェクト」(ともに育てた花で地域がますます明るく、輝きますように)
- 3. 「おとなの学習時間」(地域の方々と共有する時間・空間を設定し相互理解を目指す→学校が地域の活動拠点化)
- 4. 学校支援ボランティアによる授業補助やボランティア・関係機関・民間等との連携事業

### ■ 特徴的な活動内容

- 1. ミニ図書館設置(地域の公民館・集会所等に設置)
- 2. 子どもたちとボランティアの皆さんで育てた花の苗を地域に配布
- 3. e ライブラリ体験会(学力向上)・認知症こどもサポーター養成講座 d e 学ぶ(福祉教育)・講演会・映画会など
- 4. 読み聞かせボランティアによる魅力ある学校図書館づくり (読書環境・読み聞かせ・創作クラフト等のイベントなど)

# ■ 実施に当たっての工夫

- 1. ぬくもり(手づくり感)を大事にする。(心が通い合うコミュニケーションで風通しの良い環境づくりを目指す)
- 2. 児童を中心に据え、教職員と保護者、地域の方々とのつながりを大事にする。(一体感を目指す)
- 3. 持続可能な視点をもって続けることを大事にする。(持続可能な教育環境づくりを目指す)

### ■ 事業の成果

- 1. 保護者や地域の方々の来校者数が倍増した。 11 月末現在で児童数の14 倍以上、1,360 名を超えている。
- 2. 地域の人と児童の絆が深まった。来客者等への挨拶が自然に出てくるようになった。
- 3. 教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験がよりよいOJTとなっている。

### ■ 事業実施上の課題

- 1. 学校や保護者、地域の方々、それぞれが互いにもっと理解し合いたい。 (例えば、「おとなの学習時間」の回数増→情報の共有化→学校と地域の目標を共有化)
- 2. もっと保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらうこと。 (HPや広報誌等うまく組み合わせて周知の徹底をさらに図っていく)

# ■ その他

# 〇特色ある活動

- ・6年認知症こどもサポーター養成講座(市役所、社会福祉協議会、高齢者施設、民生委員児童委員、地域ボランティア等多くの 方々が支えてくださり、年間を通した活動へと発展してきた)
- ・2年農家さんとの交流事業(野菜づくり)
- ・6年モビリティマネジメント教育(国土交通省、市役所等との連携事業)
- 全校マラソン大会の安全な運営のために当該地区の安全委員さんによる見守り活動
- 読み語りボランティアによる創作クラフト活動(秋まつり) など
- 〇 (市原小学校URL) http://www2.higashiomi.ed.jp/ichisho/



【ミニ図書館の本の入れ替え作業をしている学校 司書(学校司書と読書ボランティア、地域コー ディネーターとの連携)】



【認知症こどもサポーター養成講座で、多くの支援者に見守られて、声かけ体験の振り返りをしている授業風景】

 $\prod$ 

# ■ 地域とのつながりを大切にしながら、地域の方々に感謝して…(五個荘小学校)

	東近江市		
	活動名		
3	五個荘小学校支援地域本部		
■ 関係する学校			
3	5.固在小学校		

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	90 人
開始年度	平成25年度

### ■ 活動の概要

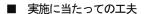
社会の急激な変化とともに、子どもたちを取り巻く環境が複雑多様化し、先行き不透明な今日、学校教育への大きな期待が寄せられている。しかし、学校だけで子どもを育てていくのには限界があり、教育の基盤である家庭や地域での教育と連携をはかっていく必要がある。

このような状況の中で、今まで以上に学校と家庭、地域が手をとり、子どものよりよい成長を願い、「地域の子どもたちは、地域で育てる」という視点に立って連携を深めていく必要がある。

こうしたことから、本地域本部ではコーディネーターを窓口として、学校や各学年で必要な支援要請をコーディネーターに依頼し、 コーディネーターの地域の人脈を足がかりとして、学校に協力していただける方を探していただき、協力をお願いしている。

### ■ 特徴的な活動内容

- 〇茶道、生け花、太鼓などクラブ活動における学習アシスタント型の支援
- ○家庭科でのミシンを使った学習での学習アシスタント型の支援
- ○学校まわりの植木剪定作業など施設メンテナー型の支援
- 〇本の読み聞かせを行う学習アシスタント型の支援
- ○校外学習や全校たてわり遠足の引率補助や交通安全見守りを行う学習アシスタント型の支援
- ○総合的な学習の時間「ふるさと学習」での地域の歴史について専門知識を講義する ゲストティーチャー型の支援
- ○スキー教室における学習アシスタント型の支援
- ○マラソン大会にむけての試走・当日の交通安全見守りを行う学習アシスタント型の 支援



- ○多くの方々が、地域の学校を支えてくださっていることを伝えようと、「学校だより」 やホームページでボランティア活動の紹介を行ったり、昇降口玄関にボランティア 協力者の写真を掲示して来校者に向けた紹介を行ったりしている。
- 〇協力いただいた方々に、地域本部事業会計より学校目標を印刷したプリントをクリアファイルにはさみ、お渡しして次の活動の協力につながるようにしている。

# ■ 事業の成果

- 〇コーディネーターの積極的な働きかけにより、年々より充実した事業となってきている。
- 〇事業が定着し、ボランティアからも「今年はどうですか?」と声をかけていただく 方もおられ、ありがたく思っている。
- ○専門的な知識と技能をもった方に直接、そして具体的に教えていただけるので、子どもたちにとって満足のいく活動となった。 ○子ども一人ひとりに寄り添いながら、細やかな支援ができるようになった。
- 〇子どもが地域の方々と顔見知りになることができ、地域の方々と親密になることができた。
- 〇地域の方が、学校の様子を知ることができるよい機会となり、学校理解につながった。
- ○学校行事がより充実し、個別に支援や指導を要する子どもにより丁寧にかかわることができた。

# ■ 事業実施上の課題

- 〇地域には、「地域の学校のために、何か自分に役立てることはないか。」と感じている方は、まだまだたくさんおられるように感じる。こうした学校をサポートしてくださる方々を、今後も発掘して支援や協力を求めていきたい。
- ○学校のボランティア要望について掘り起こしを進めていき、学習の充実やサポート体制の構築を目指していきたい。
- 〇打合せが不十分で、ボランティアがどのように動けばよいのか戸惑われた場面があった。多忙な学校現場ではあるが、効率よく 打合せを行いボランティアの心強いサポートでより充実した学習活動となっていくようにしたい。
- 〇ボランティアの「生きがいづくり」にまで至ってはいないが、今後はより地域に根ざした活動を展開し、お越しいただくボランティアが、やりがいをもって活動いただけるようサポートしていきたい。
- 〇来ていただいたボランティアの方に出すお茶の費用を、事業費の他に確保する必要がある。
- O (URL) http://www2.higashiomi.ed.jp/gokasho/



【環境整備における学校支援】



【クラブ活動における学習支援】

# ■ 地元地域のよさを生かした「地域と共に歩む学校づくり」をサポートしています(愛東北小学校)

	東近江市	
	活動名	
愛東北小学校支援地域本部		
	関係する学校	
愛	受東北小学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	18 人
開始年度	平成26年度

### ■ 活動の概要

本校は、以前からPTAをはじめ地域の方々との結びつきが強く、各方面に渡って長年学校活動に地域の支援をいただいている。 例えば、環境学習から始まった「ケナフで漉く卒業証書」は、地域の方の指導により20年近く継続されており、今や伝統行事となっている。また、地域の指導者の方を中心に取り組んでいる交通安全活動は、本年度その長年の取り組みを評価していただき、滋賀県知事表彰をいただいた。

このような手厚い地域支援をいただいている環境であるが、もっと力を入れ拡充していきたい取り組みもある。その一つが「読み聞かせ活動」である。子どもたちと本とのふれあい、読書習慣を身につけることの大切さは、いまさら言うまでもない。今までもボランティアや教職員で読み聞かせを実施していたが、もっともっと読書に親しめるよう読み聞かせの機会を増やして行こうという方針を持って臨んでいる。

一方、子どもたちを取り巻く環境は日に日に変化している。これに伴って学習はもちろんのこと、様々な場面で地域の方々の新たな支援をお願いしたいことが発生している。小さなことから大きなことまで、いろいろなことが想定されるが、学校側から要望のあるもの、実現可能なものから進めていこうと思っている。

### ■ 特徴的な活動内容

## ①拡充を目指した活動 - 「全学年対象読み聞かせ」-

これまでは、読み聞かせボランティアのみなさんによる1年生のみを対象にしたものが月2~3回、「担任外読み聞かせ」として普段と異なる先生から読み聞かせをしてもらうものが月1回、学校司書による学年単位の読み聞かせが週1回のペースで行われていた。そこで、1年生以外の子どもたちの読み聞かせの機会を増やそうと、新たにボランティアを募集して全学年対象読み聞かせを月1回実施することを目指した。

これは本年度開始を目指して、昨年度から取り組んできた活動である。昨年度は、ボランティアの募集、図書館での実践研修を行った。新たにボランティアとして加わってくださった方は、11 名にも上った。そして新学年となって、朝の始業前、地域のボランティアによる全学年対象読み聞かせを無事スタートすることができた。これで、担任外読み聞かせと合わせ、全学年月2回の読み聞かせのある環境となった。

②新たな活動 -地元「消防団」の方による出前事業-

今までになかった、地元地域からお招きしたゲストティーチャー誕生である。4年生の社会科授業で、ぜひとも消防活動に関わっておられる方の話を子どもたちに聞かせたい、との担任の先生の思いがあった。しかし、地元消防署では救急車出動の対応などもあって、出前は難しいとのことであった。

そこで、学校の近所に消防車庫のある地元消防団の方に、ゲストティーチャーをお願いしたところ、快く引き受けてくださった。当日は、消防車を前にいろいろと説明をしてくださり、子どもたちも大喜びであった。授業終了後、消防団の方々が、「今度機会があったら、ここを改善して子どもたちに話したいなあ」とおっしゃっていた。来年も、ぜひお願いしたい。



【読み聞かせのようす】



【消防団員の方と子どもたち】

# ■ 実施に当たっての工夫

どんな内容でも、直前の依頼による準備・実施となると、充分な効果が得られないことがある。できるだけ早く学校側の要望とその内容を把握し、充分な準備期間を取れるように関係者間で留意している。

### ■ 事業の成里

普段から慣れ親しんだ先生ではなく、学校の外から地域の方が来てくださり、いろいろと教えてくださったり、協力してくださったりする取組は、子どもたちにとって非常にインパクトのあるものである。いずれもよい成果があがっている。

### ■ 事業事体 Fの課題

今後、この活動を拡大して行くには、現在取り組んでいる内容を、保護者はもちろん、学区内の多くの人々に知っていただくことが大切であると考える。「この内容なら、私も手伝うことができる」「こういう手伝いは必要ないか」こうした積極的な声が、地域から聞こえてくることを目指したい!

# ■ その他

(愛東北小学校URL) http://www2.higashiomi.ed.jp/aikitasho

# ■ 人とのかかわりを通して、共に学び・共に育ち合う地域、学校をめざして(能登川東小学校)

	東近江市	
	活動名	
能登川東小学校支援地域本部		
	関係する学校	
能	·登川東小学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	24 人
開始年度	平成27年度

### ■ 活動の概要

一人ひとりの子どもが自分に合った生き方を見つけるためには、子どもたちの教育は、学校の中だけで行われるものではなく、学校と家庭、そして地域が一体となってなし得るものである。そのためには、地域の人々にふれ、地域の人々から学ぶことの大切さが重要である。子どもたちが地域の人々とかかわることができるよう、いろいろな体験ができるように地域の方々にご協力いただかなくてはならない。そこで、今年度より、東近江市教育委員会生涯学習課の指定を受け、「学校支援地域本部事業」を実施することになり、「学校支援ボランティア」による学習支援をスタートさせた。

何よりも人とのかかわりを通して、子どもたちの体験をより豊かなものにし、将来をたくましく生きるための学びが深まることを 願って実施するものであるが、今年度は学習にかかわる支援のみをお願いし、事業の基盤づくりを行うこととした。

### ■ 特徴的な活動内容 <学習支援>

## ①学習アシスタント型

◎校外学習引率補助…2年生活科町探検、図書館見学

3年社会科地区探検、施設見学、食育農業体験学習、市内巡り 5年総合幼稚園児との交流学習

- ◎家庭科の実習補助…5、6年ミシン学習、調理実習
- ◎1年生活科さつまいも切り
- ◎マラソン大会(試走)の立哨補助
- ◎2年生活科苗植え、いもほり
- ◎学習教材作り

# ②ゲストティーチャー型

◎3年…ハリヨの話(地域のよいところ見つけ)、ものづくり(地域のすてきな人見つけ) ◎5年…家庭科野菜の切り方(元シェフに学ぶ)

# ■ 実施に当たっての工夫

- ・年度当初に「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」文書を、また 1学期終了時に「ボランティアだより」を全戸配付し、学区民に理解と協力が得られる ようにした。(職員にも朝の打ち合わせで発信を行った。)
- ・地域、保護者の方の来校時に、本事業の話をし、少しでも活動が見えるようにした。
- ・コーディネーターのネットワークを活用しながら、支援者を広げるとともにお互いの交流を大事にするようにした。



【3年 地域のすてきな人見つけ】



【5年 ミシンでエプロン作り】

### ■ 事業の成果

- ・1年目であるが、24名の登録者の方々に様々な支援活動をしていただくことができた。
- ・たくさんの大人がいることでの安心感と安全性、たくさんの目で子どもを見ることでの子ども理解、かかわりが増えることでの活動の広がりや深まりにつながった。
- ・学習支援では、個別支援が多くなり、子どもたちの達成感が増した。また、わからないことや困ったことがあれば、気楽にボランティアに聞けるようになり、学習がより進むことを実感できた。さらに、挨拶が自然にできるようになったり、「ありがとうございます」という感謝の気持ちを持ったりすることができた。
- ・支援により、担任がゆとりを持って子どもたちに指導することができた。また、打ち合わせのための資料を用意する等、意識して 授業の準備ができた。
- ・ボランティア自身の学びの場にもなり、またお互いの交流も深まった。その結果、ボランティアを通じて活動の様子を知り合いの 方に伝えていただくことで、興味を持って学校の応援団になってくださる方が増えた。

### ■ 事業実施上の課題

- ・学校がめざす子ども像を明確にし、そのために教育活動にどのように位置づけ、活用、運用していくのかの熟議が必要。
- ・支援内容の打ち合わせは何とかできるが、支援後のふり返りは時間的に無理なため、コーディネーターがパイプ役として担任に伝えるようにしたが、学年や先生方との話し合いや相談の場が持ちにくい。
- ・教師が思いや願いを持って、子どもたちのために学校支援地域本部事業を有効に活用していきたい。
- ・学校をさらにオープンにし、家庭・地域との風通しをよくしたい。

### ■ その他

• (能登川東小学校) www2. higashiomi. ed. jp/nothigashisho/

# ■ 地域に感謝 子ども応援隊(能登川南小学校)

■ 東近江市			
■ 活動名			
能登川南小学校支援地域本部			
■ 関係する学校			
能登川南小学校			

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	150 人
開始年度	平成27年度

### ■ 活動の概要

本校の目指す子ども像は「よく考える子」「感謝する子」「ねばり強い子」である。中でも「感謝する子」は、相手の気持ちを大切にし、進んで人に関わる子どもに育てることを目指している。そのためには、学校だけでなく、地域の方々の力をお借りしたいと考え、本年度より学校支援地域本部事業を立ち上げた。本年度は、初年度ということもあり、手探り状態で進めてきたが、実践をするなかで、地域にある多くの「人・もの・こと」が実感できた。特に、保護者・地域の人と人との繋がりや、地域で活動しておられるボランティアなどから情報を得ることができた。そして、コーディネーターを中心に、地域ボランティアの皆さんに様々な協力をいただき、子どもたちの学習を支援していただいた。

### 具体例として

- ・校庭の芝生化に伴う様々なお世話(芝生応援隊)
- 登下校の見守り
- 学習ボランティア
  - ①校外学習の引率や講師
  - ②環境学習(猪子山活動)の手伝い
  - ③家庭科実習(ミシン学習)の補助
  - ④マラソンの試走及び大会での立哨活動



【芝生植え】

## ■ 特徴的な活動内容

本校は、今年度グラウンドが芝生化された。芝生植え当日は、全校児童、保護者、芝生応援隊、エコスクール支援委員会、市教委の協力により、大変スムーズに植えることができた。その後の手入れについては、芝生応援隊の皆さんを中心に、定期的に、芝生刈りや施肥をしていただいている。

また、環境学習にも力を入れ、学校のすぐ近くにある猪子山で、年間を通して環境学習を展開している。その際のお手伝いとして、保護者ボランティアや、地域のボランティアの方々に引率していただいたり、子どもたちへのアドバイスをしていただいたりすることができた。



【4年 猪子山活動】

# ■ 実施に当たっての工夫

芝生応援隊については、市教委と相談しながら年間の活動計画を立てたが、芝生の生育状態等を観察しながら、本校の芝生担当教師と、芝生応援隊リーダーが連携を図りながら、活動を進めていった。

学習ボランティアでは、コーディネーターを中心に、地域の人材を発掘していただき、学習内容にぴったり合うボランティアをお願いできた。

### ■ 事業の成果

- ・専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習内容が豊かになった。
- ・教師が余裕を持って子どもに接することができ、子どもたちの力を引き出すことができた。

# ■ 事業実施上の課題

・学校の教育活動で求めている支援内容や子どもの発達段階、学習のめあて等についてのボランティアの方との共通理解

# ■ その他

• (能登川南小学校 URL) http://www2.higashiomi.ed.jp/notminamisho/

 $\Pi$ 

# 米原市における学校支援地域本部の取組

### ■めざす姿

近年、児童・生徒数の減少に伴い、米原市の学校はほとんどが小規模校となってきている。しかし、学校に対する保護者や地域の期待は高く、学力向上、社会性の育成など、要望は多岐にわたっている。こうした時代の流れやニーズに対応するため、本市では「地域とともに歩む学校」をテーマに、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていくことを考えている。保護者や地域の人々のもつ豊かで専門的な知識や技能は、学習の内容を深いものにする。また、学校内により多くの地域の方々が入ってこられることで、子どもたちのコミュニケーション力の育成、また、生き方を学ぶ機会を得ることになる。そして、地域の素晴らしい自然や文化遺産に触れることは、地域への誇りを持つことにつながっていくと考える。このような保護者や地域の人々のもつ専門的な力を取り入れ、様々な大人と交流し、様々な自然環境や文化的環境を教材にした学校教育を推進するなど、地域に根ざした特色ある学校づくりを支援するために本事業を実施する。

# ■本年度の活動

①運営委員会:2回

構成委員:8人(市校長会代表、各本部ボランティア代表、各本部代表校長)

事務局(地域コーディネーター7人、学校教育課、生涯学習課、山東図書館)

議 題:地域と学校の連携の在り方について、年間計画等の検討、今年度の事業の検証、次年度事

業の検討

②研修会:講義「学校支援地域本部事業で進める学校づくり」

講師:滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 西脇繁氏

#### ■本年度の成果

米原市の学校支援地域本部は、8年目を迎えた「読書活動」と、今年度からの「柏原学区」「河南学区」の2中学校区、併せて3本部である。「読書活動」が培ってきたノウハウをもとに、他の2本部はスタートを切ることができた。地域コーディネーターが中心となり、学校や地域が子どもの教育について意見交換をする場を各本部に設け、事業の企画・運営について、ボランティアの募集・育成について、議論を重ねることができた。

また、本部ごとに、本事業の内容や活動の様子を地域に発信し、地域住民の学校への関心を高めることができた。

#### ■今後の課題

3本部の活動は、それぞれに地域コーディネーターの工夫と努力によって成り立っている。しかし、 今年度はコーディネーター同士の交流の場が少なかったために、他の本部の状況を共有することがほと んどできなかった。数少ない運営委員会での情報交換だけでなく、コーディネーターに他本部の事業へ の参加を案内したり、各本部の広報紙を互いにシェアしたりするなどの工夫が必要である。

また、今年度スタートした2本部は、1中学校1小学校の学区であり、市内には同じ状況の学区が他にもある。次年度以降も、学校支援地域本部を他学区にも広げ、米原市の教育の軸としていきたいと考えている。

# ■ 全市的な取組による読書支援"みんなで本を読もう"(米原市内全小学校)

	米原市	
	活動名	
米原市読書活動学校支援地域本部		
	関係する学校	
H	<b>ド原市内の全小学校(伊吹、春照、柏原、大原、山東、息長、</b>	
河南	5、坂田、米原)	

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	130 人
開始年度	平成20年度

#### ■ 活動の概要

米原市では、平成20年度から学校・家庭・地域が連携、協働しながら全市的に子どもたちの読書活動を支援しており、今では市内の全ての小学校において、ボランティアによる読書支援が行われている。今年度の主な取組は、①巡回文庫の継続実施、②おはなしの講習会の開催、③ボランティア交流会の開催、④学校図書館の活性化(学校図書館大改造を含む)、⑤講演会の開催による「米原市子ども読書活動推進計画(第2次計画)」のPRとボランティア活動の紹介および募集、⑥成果報告会の開催である。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・巡回文庫・・・市内の全小学校の全クラス(特別支援学級を含む)に実施。学校間の運搬 は各学校担当のボランティアで、本と一緒におはなしを届けていただいている。 (1回/目)
- ・おはなしの講習会および講演会・・・読み聞かせや子どもの読書活動についてのスキルアップ講座を開催。(3回/年)。
- ・ボランティア交流会・・・ボランティアグループによるおはなし会の実演、情報交換、交流による学習会などを実施。(3回/年)
- ・学校図書館の大改造・・・伊吹小学校で、滋賀県教育委員会生涯学習課の「学校図書館活用支援事業」を活用し、6月13日(土)に教員、児童、保護者、ボランティア、地域が力を合わせて学校図書館のリニューアルを行った。また、今年度2校目として、12月24日(木)に河南小学校の学校図書館大改造を行った。
- ・成果報告会…事業の報告会を全市民にPRし、ボランティアの活動を広く紹介した。 (11月22日(日)に開催、参加者60人)

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・巡回文庫・・・子どもたちの手の届く所に本を置き、本に親しむ機会を増やすことを目的とし、毎月各学年に応じた40冊の本を入れた箱を巡回させ、子どもたちが常に新しい本に出会える機会を設けている。継続により子どもたちの地域とのつながりも深まってきている。
- ・学校図書館の大改造・・・伊吹小学校で、教員、児童、ボランティアだけでなく、他校の図書館への大改造につなぐために、周辺の米原市内の他の小学校の教員、ボランティアも参加して行った。また、学校図書館の利活用に向けてのPRに努めた。



【巡回文庫と読み聞かせ】



【伊吹小学校図書館の大改造】

# ■ 事業の成果

- ・巡回文庫のボランティアや学校図書館の本の整理や壁面製作などの環境整備においてボランティアの増加がみられた。(20%増)
- ・学校図書館の大改造によって、学校図書館が「読書センター」、「情報・学習センター」としての機能を兼ね備え、子どもたちの読書環境が整った。改造に当たってボランティアに本の分類、整理などの事前準備を細やかに行っていただいたことや、当日の作業に多くの方が参加していただいたことで、予想より短時間で学校図書館のリニューアルが実現できた。また、保護者も実際に関わることで達成感とともに今後のボランティア活動への意欲につながった。さらに他校の教員やボランティアの参加が実現できたため、次年度以降の本事業実施希望校が生まれ、地域で学校を支援していく活動が広がった。そして、この事後検証としての「学校図書館を活用した授業(6年生の理科の授業)」では、1クラス全員が座れる環境で、学校図書館の使い方・資料の集め方・引用の仕方・まとめ方などを学習でき、学校図書館を活用した授業が出来ることを実感できた。また、伊吹小学校は、本年度、総合学習近畿大会の会場となっており、近畿の他府県の教員にも図書館を利用した授業を御覧いただけた。
- ・おはなしの講習会やボランティア交流会において、読み聞かせの技術向上や情報交換をする中、ボランティア同士のつながりが広がり、かなり深いところまでの話し合いを持つことができ、ボランティアグル―プの枠を超えて、協力し合ってひとつの出し物をするなどできた。成果報告会ではボランティアの活動を広く市民にPRし、活動への呼び掛けが図れた。

#### ■ 事業実施上の課題

- ・巡回文庫は本の傷みが激しいことから、継続実施にあたっては新たな本の購入が必要である。
- ・ボランティアが活動しやすい環境づくりと新しくボランティア活動を始めようという方々のきっかけづくりのために、毎年ボラン ティア交流会やおはなしの講習会を開催しており、この取組も継続して行っていきたい。
- ・今後どのような学校支援が望ましいか、学校や関係各課と更に話し合っていくことが必要である。
- ・学校図書館の環境整備は整備されてきたが、次の段階として子どもたちの一番身近にある学校図書館に学校司書を配置し、魅力ある蔵書の構築やボランティアとの連携を深めるとともに、読書支援だけでなく、授業で活用できる学校図書館にすることで、先生や子どもたちの学習支援も行いながら、子どもと本を繋いでいく活動、公共図書館や学校間の情報共有・連携も望まれる。

# ■柏原学区をもっと楽しく、面白く! 「はびろの里コミュニティ」による学校園支援活動 (柏原小学校・中学校)

■ 米原市
■ 活動名
柏原学区学校支援地域本部
■ 関係する学校
柏原小学校・柏原中学校・(柏原保育園)

コーディネーター数	4 人
ボランティア登録数	15 人
開始年度	平成27年度

#### ■ 活動の概要

柏原学区は柏原小学校、柏原中学校の1小1中からなる学区である。両校とも各学年1学級ずつの小規模校である。また、学区には私立の柏原保育園が1園ある。

柏原学区学校支援地域本部では柏原小学校・柏原中学校だけでなく柏原保育園も支援対象として考え、校区の保護者と地域が一体となり、学校園を地域ぐるみで支援する「はびろの里コミュニティ(はびコミ)」として5月に発足した。「はびコミ」は柏原中学校に事務局を置き、毎月定例会として「井戸端会議」を開催。様々な学校支援活動を展開している。

#### ■ 特徴的な活動内容

# ①「井戸端会議」の開催

「はびコミ」は毎月1回、柏原中学校の図書室を会場にして夜7時から「井戸端会議」を開き、柏原学区における教育のあり方や学校支援活動の展開の仕方について話し合っている。井戸端会議には4人のコーディネーター、柏原小学校、柏原中学校の職員(主に管理職)の他、市教委や地域のボランティアの方が参加。

#### ②小中連携・児童生徒交流の促進

・柏原中学校体育大会に小学生を招待(9月)

柏原小学校の児童に柏原中学校のよいところを知ってもらう目的で5・6年生全員に出場参加を募集。応募した小学生は中学生とともに100m走や生徒会種目に出場した。「はびコミ」は小学生の招集や会場のパトロールを担当し協力した。

・柏原小学校運動会に中学生が参加(9月)

柏原小学校の運動会に陸上部の生徒が参加し、模範リレーを披露した。また、吹奏楽部が 昼休憩の時間に体育館でミニコンサートを開いた。小学生全員と多くの保護者や地域の人々 に演奏を聴いていただくことができた。「はびコミ」は会場のパトロールと楽器の運搬を担当 した。



•「里山体験」

柏原中学校1年生の里山体験(6月)では、「はびコミ」のコーディネーターが「大野木グランドワーク」の人たちをゲストティーチャーとして紹介。竹きりや間伐材の伐採作業などの体験学習を行った。

•「日本文化体験講座」

柏原中学校の文化祭(10月)では、茶道や華道など7つの日本文化体験講座を開いた。各講座の講師は「はびコミ」のメンバーが手分けして柏原学区在住の人に依頼。文化祭当日も各講座に「はびコミ」のメンバーが運営担当者として支援を行った。

#### 4環境整備

• 「みざら」の新調(7月)

同窓会と共同で「はびコミ」のメンバーが老朽化した柏原中学校渡り廊下のみざらを作成 し、中学校へ寄贈した。

・「かまどベンチ」の設置(10月)

「はびコミ」コーディネーターの紹介により滋賀県建設産業団体連合会の「防災かまどベンチ設置事業」に応募。生徒会のメンバーとともに柏原中学校運動場に防災かまどベンチ2基を設置した。



①「井戸端会議」での熟議

学校園支援活動の実施にあたっては「井戸端会議」で様々な議論を重ね、合意形成を行うことを大切にしている。

②広報「ぶうめらん」の全戸配布

「はびコミ」事務局は「井戸端会議」の実施と合わせて毎月1回、広報紙「ぶうめらん」(A4表裏刷)を発行し、「井戸端会議」で話し合った内容や学校園支援活動の様子を柏原学区全戸に発信している。

## ■ 事業の成果

- ①「井戸端会議」で熟議を重ねることにより、「柏原学区の子どもたちは柏原学区の保護者と地域が一体となって育む、柏原の学校園 を柏原学区の住民がひとつのコミュニティとして支援していく」という雰囲気が高まった。
- ②これまで躊躇してきた児童生徒の交流活動などが「はびコミ」の後押しや具体的な支援により実施しやすくなった。

## ■ 事業実施上の課題

- ・学校支援ボランティアの人員を拡充していくこと
- ・学校園支援活動の内容を拡充していくこと



【日本文化体験講座 (茶道)】

# 「子どもは地域の宝」~ふるさとを愛する子どもを地域で育てる学校支援地域本部事業~(河南小学校・中学校)

<b>=</b> :	米原市		
<b>.</b>	活動名		
河	河南学区学校支援地域本部		
■ 関係する学校			
河	南小学校・河南中学校		

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	平成27年度

#### ■ 活動の概要

人口が減少している米原市の中でも、特に児童・生徒数が減少している河南中学校区 全体(1小学校1中学校)として事業指定を受け、従来より両校それぞれで進めている地 域連携の授業の運営を見直し、地域からの講師やボランティアへの依頼を、学校ではな く学校支援地域本部に移行することで、いずれは異動していく教員よりも持続的になり、 児童生徒の地域の歴史・文化・環境の学習が地域との密着度が増すことで充実し、地域 住民が将来の地域を担う子どもの教育に関心を高め、地域の生涯学習としての環境とし て整備されることを目的に進めている。

地域コーディネーターの決定が遅くなったことや、両校にまたがる事業であるため、 事業の進捗が遅れ気味であるが、小規模校の小学校・中学校が一つの本部で事業を進め ているので、地域コーディネーターやボランティアが、子どもの育ちを長期間に亘って



【鎌刃城跡で環境学習をする子どもたち】

見届けられるメリットを生かし、小中一貫教育の在り方を模索することと並行して進めて行きたい。

#### ■ 特徴的な活動内容

中山道の醒井宿と番場宿を含む古い宿場町であった地域を学区とするため、歴史と文化の史跡が多く、地域に残されている言い伝 えや文化に係る話を市の歴史文化財保護課関係者に話していただいていたことを、河南学区を含む米原市の地域の方々に語っていた だいている。

また、名水(居醒の清水)に端を発する地蔵川や霊仙山からの流れる丹生川の恩恵を受けている「梅花藻」や「ハリヨ」が生息す ることから、ハリヨの生態や梅花藻に関わって以前から引き続き環境教育を進めている。

さらに最近では、戦国時代に山城のあった「鎌刃城跡」に実際に登って歴史と環境を合わせて学習する機会を、地域の方の協力で 行っている。

# ■ 実施に当たっての工夫

- ①今年度は、ボランティアスタッフを充実するための活動が中心となった。河南小学校、河南中学校の学校だよりや中学校区全戸配 付の啓発チラシを作成して、この事業への願いと今の活動を保護者を中心に周知する活動を行った。
- ②ふるさとを愛する子どもの育成には、学校教育に地域の方々に関わっていただくことと共に、小中学生が地域の行事に参加、参画 するなど双方向の関わりが重要だと考え、積極的に児童生徒が地域に貢献できる機会を求めて活動している。

#### ■ 事業の成果

①住民に本事業を広く周知する機会が11月11日(水)に、河南小学校で持てたことが 上げられる。この機会は、「第2回まいばら教育フォーラム in 河南」で、昨年度か ら市内各中学校区で行っているものの一つで、目的は、地域に学校の教育活動を知 ってもらい、「子どもを地域で育てる」意識を地域の方々にもってもらうことである。 今年度は河南小学校体育館に、昨年度開園されたかなん認定こども園の園児、一昨 年度統合校となった河南小学校の児童、そして河南中学校の生徒が一堂に会して行 われ、保護者や地域の方々の前で、本事業について地域コーディネーターから説明 し、今後のボランティア募集の基盤とすることができた。



【第22回全国山城サミットオープニング】

②10月24·25日に「第22回全国山城サミット in 米原」が滋賀県立米原文化産業交流 会館を中心に開催され、そのオープニングに河南小中学校の児童・生徒が「竹の笛」で出陣を告げるほら貝のイメージで音を出し、 開会を盛り上げることができた。その舞台の子どもたちの背景には、「鎌刃城跡」へ体験学習した様子や、山の頂上に天守閣を描い た絵に、小中学生が武将やお姫様を描き足した様子などが映し出され、山城を生かした地域の活性化を図ろうと活動される地域の 方々と、児童・生徒が関わっている様子を全国に向けて発信することができ、児童・生徒たちも地域に貢献した実感を得られた。

#### 事業実施上の課題

地域コーディネーターも学校側も、本事業のイメージがまだまだ不十分であり、コーディネーターが具体的にどんな活動をすべき で、学校としてどの部分をお願いして、どこは学校としてすべきなのかの理解が不十分なので、先進地を視察し活動の様子を聞いて 研修をすることが必要だと考えている。

また、成果にも書いた「まいばら教育フォーラム in 河南」は、今後本事業の核となる活動になり得ると考えられ、地域コーディネ ーターと連携しながら進めて行く必要があると思うが、その役割分担についても、またフォーラムの内容についても検討することが 必要だと考えている。そして、何よりボランティアスタッフの充実が必要である。

 $\Pi$ 

# ┃ 竜王町における学校支援地域本部の取組

#### ■めざす姿

町内においても核家族化や価値観の多様化等、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭や 地域の教育力の低下が懸念されている。

このような状況下、これからの子育てや教育は、学校(園)のみが役割と責任を負うのではなく、従来以上に学校・家庭・地域の連携を図りながら進めていくことが必要である。

そこで、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校(園)と地域人材をコーディネートしながら、学校・家庭・地域による総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力向上を図ることとする。

さらに、一人ひとりの人生をより豊かにする公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で子どもたちを中心に生まれる仲間づくりへと発展し、これを窓口に、地域へとその対象を広げ、互いに支え合うことを通して、一層のまちづくり活動の推進へと繋げることで、公民館を拠点とした学校・家庭・地域のネットワークはもとより、元気な地域づくり人づくりをめざす。

# ■運営委員会の設置

委員会名称	竜王町学校応援団			
	氏 名	所属・役職等	氏 名   方	所属・役職等
	武久 雅則	中学校教頭	三嵜 住子 :	コーディネーター
	関谷 典子	小学校教頭	杼木 博子 :	コーディネーター
┃ ┃   委員名簿	新庄 証	西小学校教頭	尾川 源太郎 :	コーディネーター
安貝 <b>石</b> 牌 	寺嶋 恭子	幼稚園教頭	岡山 厚子 :	コーディネーター
	冨田 綾子	西幼稚園教頭	関川 雅之 :	公民館長
	長岡道子	総括マネージャー	松村 知洋 イ	係長
	草崎明	コーディネーター	後藤 麻里奈	主事

# ■本年度の活動

- 4月中旬 学校園情報交換会。
- ・毎月 総括マネージャー・コーディネーター会議定例会
- · H 2 8 3 月中旬 運営委員会開催。
- ・年2回(上半期、下半期)学校応援団だよりの発行。
- ・通年 学校応援団 (ボランティア) 募集。

### ■本年度の成果

コーディネーターを1名増員したことにより、今まで知りえなかった新たなボランティアさんを勧誘でき、支援内容の充実が図れた。

#### ■今後の課題

ボランティアさんの高齢化、また、支援内容によっては、ボランティア登録者が多い支援と少ない支援があるため、より一層新たな人材の確保に努めたい。

# ■ 学校・家庭・地域総ぐるみによる学校支援(竜王町学校支援地域本部)

■ 竜王町		
■ 活動名		
竜王町学校支援地域本部		
■ 関係する学校		
竜王幼稚園、西幼稚園、竜王小学校、西小学校·竜王中学校		

コーディネーター数	5 人
ボランティア登録数 (新規)	24 人
開始年度	平成22年度

#### ■ 活動の概要

核家族化や価値観の多様化等、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、家庭や地域の教育力の低下が懸念される中、これからの子育てや教育は、学校(園)のみが役割と責任を負うのではなく、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校(園)と地域人材をコーディネートしながら、学校・家庭・地域による総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力の向上を図る。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 【託児支援】

〇竜王幼稚園等では、保育参観時や学期末懇談会時、ちびっこ幼稚園時に託児支援を行った。絵本を読んだり、玩具で遊んだり、毎回工夫して託児を行っている。お母さんから「ありがとうございます。本当に助かります。」等の感謝の声が多く聞かれた。

#### 【学習支援】

- 〇竜王小学校『1年生・2年生の交通安全』の指導支援を行いました。小学校の周囲 を安全に歩行できるように道の角々で4名のボランティアが声かけ指導をした。
- 〇竜王西小学校で『町たんけんをしよう』の支援を行った。小学校3年生が徒歩で自分の住んでいる地域を探検し、建物や道、公園などの様子を調べる学習で、各地域の特徴を詳しく説明した。ボランティアのおかげで地域のことがよく理解できたとの言葉をいただいた。
- 〇竜王小学校で『家庭科』の支援を行った。竜王小学校では、5年生が手縫い、6年生がミシンでの授業が行われ、授業の補助支援を行った。5年生は『初めての手縫い』の授業で、玉留め、玉結び、運針やボタン付けの難しいところを支援した。ティッシュカバーや小物入れ、花の形のキーホルダー等色々なアイデアを出して一緒に作り方を考えた。6年生はミシンを使ってのトートバッグ作りをした。ミシンの調整やミシンできれいに作れるコツなども丁寧にアドバイスして、とても素敵なバッグができた。



【 竜王西小学校 『町たんけんをしよう』支援 】

# 【行事支援】

- 〇竜王幼稚園で『流しそうめん』の支援を行った。竹の樋をそうめんが流されてくるのを、一列に並んでおいしくいただいた。とても暑い日だったので、大量のお湯を使っての用意は大変だったが、子どもたちは大喜びで大満足してくれた。
- 〇竜王小学校・西小学校で田植え・稲刈りの支援を行った。田植え時では、一列に並び 掛け声や太鼓の合図で植えていった。稲刈り時では、稲の刈り方や束ね方を熱心に教 わっていた。



【 竜王幼稚園『流しそうめん』支援 】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- 〇統括マネージャーとコーディネーターとが定期的に会議(定例会)を持つことにより、 支援依頼内容を正確に伝えることができている。
- ○支援時には、統括マネージャーやコーディネーターが積極的に学校(園)へ出向き、先生はもちろん、支援いただいたボランティアと話し合いをしながら、今後につながる情報交換を行う。

#### ■ 事業の成果

〇児童たちからは、「とても良くわかった」等、たくさんの感謝の手紙や言葉をいただき、また、ボランティアからは、「子どもたちから元気をもらった。参加してとても満足している。」等、学校園、ボランティア(地域)ともにとても満足できる支援ができた。

#### ■ 事業実施上の課題

〇保護者ボランティアが子どもの卒園・卒業と同時に活動を終了される場合が多いため、今後継続した活動をしていただくため、何か有効な対策をとっていきたい。

# ▋多賀町における学校支援地域本部の取組

### ■ めざす姿

地域の大人と子どもたちがふれあうことにより、お互いが顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるように努めていく。大人と子どもがともに活動することで、大人は自分の持っている知識や経験を子どもたちへ伝え、子どもたちは大人と接することにより、地域の歴史や伝統を学び、次世代に受け継ぐことを目指す。

## ■ 本年度の活動

多賀町地域教育力推進協議会という運営委員会を毎月1回開催し、地域における行事案内や地域の課題などを各自が持ち寄り協議、検討を行っている。特に子どもの体験活動に関する情報交換では、地域と学校が互いに連携できるように取り組みを進めている。



【会議の様子】

# ■ 本年度の成果

学校支援地域ボランティアの参加登録者数が 90 人と昨年と比べて増えた。また、前年度からの課題であった学生ボランティアの登録について、新たな登録があり学校行事への支援に関わってもらえた。地域のボランティアの方も子どもたちと接することにより、社会の役に立てている喜びや生きがいづくりにもつながっている。

### ■ 今後の課題

各校・園により学校支援地域本部事業の認知度に差があるためか、利用が少ない学校・園がある。年度当初に事業説明の時間をしっかりと持ち、事業の周知を徹底していくとともに、学校・園の要望を把握する必要がある。また、運営委員会である地域教育力推進協議会について、現在は情報交換を中心に行っているが、情報交換から学校等が抱える課題を見つけ出し、学校と地域のさらなる連携協力へつながるよう協議会の充実を図っていく。

#### ■ その他

多賀町地域教育力推進協議会 開催数:年11回 委員数:26名

	多賀町PTA連絡協議会		多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		JA東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議	企業	キリンビール株式会社滋賀工場
	近江猿楽多賀座		中日本エクシス株式会社 EXPASA 多賀
	多賀町分館連絡協議会		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育て支援サークル「たんぽぽ」	学校	多賀中学校
団体	子育てサークル「パオパオ」		多賀小学校
	多賀幼稚園保護者サークル「ぶらんこ」		大滝小学校
	Dドラファミリー		教育委員会学校教育課
	サークル「わかくさ」		多賀町中央公民館
	グループ「SKO」	行政	あけぼのパーク多賀
	多賀クラブ		産業環境課
	特定非営利活動法人「多賀やまびこクラブ」		多賀町子ども・家庭応援センター

# **| 「みんなで支える学校」多賀町学校支援地域本部事業の取組**

多賀町
活動名
多賀町学校支援地域本部
関係する学校
多賀小学校・大滝小学校・多賀中学校
多賀幼稚園・大滝幼稚園・多賀ささゆり保育園
たきのみや保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	90 人
開始年度	平成20年度

#### ■ 活動の概要

町内の7つの小中学校・園を対象に、読み聞かせをはじめ環境整備や安全見守りなどを中心に支援している。 また、年に3回程度ボランティアの方々向けの研修会を実施している。

#### ■ 特徴的な活動内容

小学校2校のプール授業時の監視ボランティア(監視台の上からの安全見守りや、プールの虫とりなど)を実施した。小学校2校で朝の読み聞かせを毎週行っているが、本年度お昼休み後の読書タイムにも読み聞かせを試行している。

本年度、大滝小学校では、クマ出現により全校一斉下校のため低学年児童待機時間中の見守りを実施した。子どもも保護者も不安な中、6月から9月と長期に渡ったが、数名のボランティアで曜日を決め見守りしていただいた。待機時間中は、学習支援や読み聞かせ等を中心にし、ボランティアの方と低学年児童が交流を図ることができた。

学生ボランティアの小学校運動会補助を初めて行った。教員免許取得希望の大学生等が集まり、徒競走計時や準備係、組体操補助を通して、保護者から「卒業生が来てくれていた」と喜んでいただき、子どもたちも身近な先輩と楽しく過ごすことができた。来年もやってほしいといった感想が多く寄せられた。

#### ■ 実施に当たっての工夫

実施日までに余裕がある依頼内容の時は、電話連絡でなく登録者へ依頼文を送付のうえ幅広くお願いし、複数の学校・園・日程から選んで参加していただけるように工夫した(例、プール監視、除草など)。また、登録しているだけにならないように、未経験の方にも依頼の声掛けをするようにしている。

学生等にボランティア登録していただくために、募集チラシを見ていない学生が多い ことから口コミによる募集を行った。改めて「青年・学生ボランティア募集のお知らせ」 チラシを作成し、多賀町育英資金受給者・成人式式典等で配付及び町内や近隣大学等で 配布のうえ募集を行うよう準備している。



【全校集団下校までの時間を見守る 学校支援ボランティア】

#### ■ 事業の成果

学校生活の中で日常的に地域の方が関わることで、地域の力が活かされていると感じている。地域の方が学校・園に出向く機会が増え、子どもたちが覚えてくれ話しかけてくれることが増え、学校へ行きやすい環境になりつつある。

町内の学生ボランティアが町内学校・園の活動に参加したことから、口コミで輪を広げ、次年の参加予約に繋げることができた。 また、学生ボランティアにとっても、将来を試すことができ、地域に戻って来られると いう安心感も生まれ、「いい経験が来た」と喜んでいただけた。

	実施回数	のべ人数
図書関係(読み聞かせなど)	60	198
環境整備	13	50
校内・校外安全見守り	48	104
学習支援	2	10
その他(研修会など)	5	17

*11 月末現在



【運動会徒競走計時を行う 学生ボランティア】

#### ■ 事業実施上の課題

学校・園と地域の思いが一つになり、さらに充実した支援となるようコーディネーターの役割を果たしていくことが大切。全ての学校・園の要望を把握しきれていないところがあり、各学校・園のニーズをしっかりつかむことが必要。定期的に学校・園とコーディネーターとの支援に関する打合せを実施していく必要がある。また、学校・園へのアンケートの実施も必要と考える。

# 平成27年度 放課後子ども教室一覧

# 4 市21教室

市町名	教室数	活動名	実施場所	委託	委託団体名	
		葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 コミュニティセンター葉山東			
		はるたっこ広場	治田小学校 コミュニティセンター治田			
		チャレンジはるひがっこ	治田東小学校 コミュニティセンター治田東			
栗東市	7	治西のびのび広場	治田西小学校 コミュニティセンター治田西	0	栗東市地域教育協議会	
		大宝わくわくタイム	大宝小学校			
		さんさん・キッズ	大宝東小学校			
		大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校 コミュニティセンター大宝西			
		野洲学区わくわく子どもクラブ	コミュニティセンターやす			
		三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ			
		祇王子どもクラブ	コミュニティセンターぎおう			
野洲市	市 7 篠原地域子ども教室 コミュニラ		コミュニティセンターしのはら	0	野洲市地域教育協議会	
		北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの			
		中主地域子ども教室(中里学区)	コミュニティセンターなかさと			
		中主地域子ども教室(兵主学区)	コミュニティセンターひょうず			
		石部中 中3生夜の学習会	青少年の家			
湖南市	3	甲西北中放課後学習教室	甲西北中学校			
		日枝中学校放課後事業	市民学習交流センター 日枝中学校			
		放課後キッズin 310	米原市山東生涯学習センター	0	NPO法人 カモンスポーツクラブ	
米原市	4	放課後キッズinジョイ	伊吹薬草の里文化センター 伊吹山文化資料館 伊吹山麓青少年総合体育館	0	伊吹山麓スポーツ文化振興事業団	
		放課後キッズinおうみ	近江地域内の里山・農園・公民館	0	NPO法人 おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会	
		放課後キッズinまいはら	河南小学校、旧息郷小学校 すぱ―<米原	0	NPO法人 MOSスポーツクラブ	
計	21					

# ■ 栗東市における放課後子ども教室の取組

### ■めざす姿

地域の教育力を向上させ、地域で子どもを育てる環境の形成および、子どもたちに様々な体験活動を通じて、地域とのつながりを深め、健全な青少年の育成をめざす。

### ■本年度の活動

7小学校区にて放課後の見守りや体験活動、軽スポーツ、学習(宿題)を行う。その他にも七夕やハロウィンといった季節に応じたイベントや、お誕生会など子ども達が楽しんで参加できるイベントを企画した。

#### ■本年度の成果

週に1回程度ではあるが、放課後の安全な交流の場として、多くの体験活動を実施できた。

### ■今後の課題

スタッフの確保が大きな課題となっている。9小学校区のうち、2小学区がスタッフ不足のため開催できていない。子ども相手になると体力的にも負担を感じられるケースも多く、若い方は仕事を持っておられる場合が多いので、地域でスタッフの呼びかけをしてもなかなか集まらない。開催している学区でも、数十人の児童が軽スポーツをする際に、数名しかスタッフがつけないことがあり、スタッフ不足が問題となっている。

## ■その他

地域のボランティアの方がスタッフとして活動を支えてくださっているため、現状では放課後の見守り活動や、地域の方との交流推進ができているので良いと感じている。



【みんなで宿題】



【活動前の注意事項説明】

 $\blacksquare$ 

# **■ みんなで楽しく仲良く活動!「葉山東ふれあい子ども広場」**

■ 栗東市		
■ 活動名		
葉山東ふれあい子ども広場		
年間開催日数	27日	

コーディネーター数	1人(全教室兼務)
子どもの平均参加人数	42 人
開始年度	1 9年度

#### ■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、 創作活動、将棋などを行う。

#### ■ 特徴的な活動内容

申込みの段階で、「軽スポーツ」「クラフト」「将棋」に分け、1年を通してその活動を行う。長期休暇前にお楽しみ会を行い、3グループ全員が集まって交流できる機会も作っている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

3グループに分かれているが、お楽しみ会を実施することにより、参加者全員の交流を図る機会も作っている。コミュニティセンター事業と連携して、出来るだけ多くの活動を実施できるように工夫している。



【活動の前に宿題をしているところ】



【軽スポーツの活動の最中】

#### ■ 事業の成果

コミュニティセンターの関わりが深いので、地域全体で子どもを見守ろうという取組になってきている。今後も協力者を増やしながら活動を続けて行きたい。軽スポーツ、クラフト、将棋と希望を分けて参加者を募っているため、子ども達は自分の好みに応じた活動ができ、とても楽しそうにしている。

# ■ 事業実施上の課題

スタッフの確保が難しく、特に軽スポーツのスタッフが不足している。昨年度から未就学児を連れた保護者のスタッフに参加していただいているが、未就学児も参加している子ども達と楽しく遊んでおり、小学校入学までに交流が図れるいい機会ではないかと思う。スタッフの高齢化が進んでいるので、このような保護者スタッフが増えてくれればと思う。

# ■ 治田の子どもは元気っ子!いつも元気に「はるたっこ広場」

■ 栗東市		
■ 活動名		
はるたっこ広場		
年間開催日数	27日	

コーディネーター数	1人(全教室兼務)
子どもの平均参加人数	57 人
開始年度	1 9年度

# ■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、 絵本の読み聞かせ、創作活動などを行う。

# ■ 特徴的な活動内容

学年毎に下校時間が違うため、受付から活動開始まで時間があり、その時間に宿題や市内のサークルに協力いただいて絵本の読み聞かせを行っている。小学校の体育館をお借りし、子ども達が自由に遊びまわり、スタッフが見守りや活動の補助をしている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

基本は体育館を使った自由遊びで、スタッフは一緒に遊んだり、見守りをしている。体育館に和机を用意し、運動が苦手な子は折り紙などをして楽しんでいる。

別途参加費を徴収してお楽しみ会を開催し、コミュニティセンターの調理室をお借りして、お菓子作りを行っている。



【みんなが揃うまで宿題】



【体育館での自由遊び】

#### ■ 事業の成果

絵本の読み聞かせサークルに読み聞かせの協力いただいているので、スタッフに少し余裕が出来たと思う。活動の途中から参加する子も、はじめから遊んでいた子の輪の中にすんなりと入れ、学年に関係なくみんな楽しそうに遊んでいる。

## ■ 事業実施上の課題

今年度は参加者に定員を設けたものの、参加希望者が定員を上回り、全員を受け入れることとなった。参加者に対してスタッフの 人数が少なく、スタッフの負担が大きくなっている。スタッフも高齢化しており、若い世代のスタッフ確保が求められる。今年度は 参加者の保護者がスタッフとして参加してくださったので、今後も保護者スタッフを増やしていきたい。

# ■ 色んなことに楽しくチャレンジ!みんなで「チャレンジはるひがっこ」

■ 栗東市		
■ 活動名		
チャレンジはるひがっこ		
年間開催日数	30日	

コーディネーター数	1人(全教室兼務)
子どもの平均参加人数	37 人
開始年度	1 9年度

#### ■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、 創作活動などを行う。

#### ■ 特徴的な活動内容

七夕飾りやハロウィン、お餅つきなど季節のイベントを積極的に活動に取り入れている。お誕生会も2ヶ月に1回行い、スタッフの手作りの品をプレゼントしている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

スタッフの技能を生かした内容を取り入れ、様々な体験が出来るようにしている。活動内容に季節のイベントも取り入れ、子ども 達が季節を感じられるような活動にされている。

夏休み期間中にお楽しみ会を行ない、コミュニティセンターを利用して普段の活動ではできない事を実施している。今年度は流し そうめんを行い、子ども達はとても喜んでいた。



【お楽しみ会での流しそうめん】



【ハロウィンでフェイスペイント】

### ■ 事業の成果

軽スポーツやクラフト作成だけでなく、英語遊びも行う事によって、学習面での活動も行っている。低学年が多いので、英語を勉強するというよりも、英語に慣れ親しむ活動になっている。また、子ども達を縦割りでグループに分け、上級生が下級生の面倒を見ることによって自立心や協調性も芽生えてきている。

#### ■ 事業実施上の課題

スタッフの確保が課題となっている。今年度は昨年度に比べて5人減少し、スタッフの人数が大きく減っている。スタッフが増えれば、活動内容にも幅が出ると思うので、今後も地域の方や、保護者の方に声をかけてスタッフの確保に努めたい。

# **■ 心豊かにのびのび過ごす!色々な経験ができる「治西のびのび広場」**

■ 栗東市		コーディネーター数	1人(全教室兼務)
■ 活動名		- / 1 / 2	· * ( * * * * * * * * * * * * * * * * *
治西	面のびのび広場	子どもの平均参加人数	56 人
年間開催日数	3 1日	開始年度	19年度

# ■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、 創作活動、体験学習などを行う。

#### ■ 特徴的な活動内容

ニュースポーツや学校のプールでの水泳、地域文化祭で展示するための創作活動、人権学習、平和学習、環境学習などを行っている。学校が密接に関わってくれており、学校の先生を中心に、他の学区ではなかなか出来ない学習をメインにした活動も行っている。 また、他団体が主催しているスキー教室や琵琶湖でのボート体験も行っている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

自分達で育てたジャガイモを平和学習の際に収穫し、戦時の食糧難のお話を聞いたあと、当時の食生活を体験し、戦争の悲惨さや平和の大事さを学習した。

帰宅時には、同じ自治会の子どもがスタッフと一緒に集団下校するようにしており、保護者のお迎えが無くても参加できるようになっている。



【地域のイベントで楽器演奏】



【演奏が無事終了し、ほっとしている様子】

#### ■ 事業の成果

学校の畑を借りて、野菜を育てることによって環境学習を行い、その野菜を使って、戦時中の食事を再現し平和学習を行っている。 地域文化祭のステージ発表にも参加し、地域とのふれあいを大切にしている。

他団体が主催するイベントにも参加しているため、子ども達は様々な体験活動を実施することが出来た。

# ■ 事業実施上の課題

参加希望者が年々増加しているが、学校の先生の協力のおかげで、多くの参加者を見守ることが出来ている。現在は学校の先生を中心に活動が行われているので、参加者が多くても活動が出来ているが、現在の参加者数をスタッフだけでは対応しきれない現状である。担当してくださっている先生が異動された後のことも考えて今後は活動していかないといけない。

# **■ 毎回の活動にわくわくどきどき!みんな楽しみ「大宝わくわくタイム」**

■ 栗東市 ■ 活動名		コーディネーター数	1人(全教室兼務)
大宝	わくわくタイム	子どもの平均参加人数	42 人
年間開催日数	2 1日	開始年度	1 9年度

#### ■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

#### ■ 特徴的な活動内容

受付後に宿題をする時間(宿題タイム)を設け、その後ラジオ体操を行い活動開始している。毎回異なる活動を行っている。活動 内容は多岐に渡り、軽スポーツだとペットボトルボウリング、二人三脚リレーなど、創作活動だと紙飛行機、どんぐりのアクセサリーなどを作成した。最後には毎回ドッジボールを行っている。

今年度は最初の活動で避難訓練を行い、活動場所である体育館で地震が起こったときの対応をみんなで学習した。

#### ■ 実施に当たっての工夫

毎回違う活動を企画し、子ども達が飽きずに楽しめる活動にしている。毎回、最初に宿題タイム、ラジオ体操を行い、活動の最後 にはドッジボールを取り入れている。

子ども達を4グループに分け、チーム対抗競技や、ドッジボールを行うことによって、協調性や、リーダーシップの育成に取り組んでいる。

活動の中に避難訓練を入れるなどして、子ども達への安全対策にも気を配っている。



【クラフト製作の様子】



【恒例のドッジボール】

#### ■ 事業の成果

グループを縦割りにすることによって、学年が上の子が下の子の面倒を見るようになり、全体に協調性が現れてきた。ドッジボールなどでもボールをとった子が、下の子に投げるのを譲ってあげたり、ゲームの内容を説明してあげたりと協調性、リーダーシップの育成に効果がでている。

## ■ 事業実施上の課題

スタッフの確保が困難。学校を通じて募集依頼を行っても、募集がほとんど無い。現在はスタッフが知り合いに声をかけ、新しい スタッフを確保しているが、この方法だと限界があるため、新しい募集方法を考えている。

# ■ お日様の様なはじける笑顔!みんなにこにこ「さんさん・キッズ」

■ 栗東市		
■ 活動名		
さんさん・キッズ		
年間開催日数	2 1 日	

コーディネーター数	1人(全教室兼務)
子どもの平均参加人数	33 人
開始年度	1 9年度

#### ■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館を利用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

#### ■ 特徴的な活動内容

宿題タイムを設けて、スタッフも含めて皆で教えあいながら宿題をする。その後、ラジオ体操、自由遊びを行なう。自由遊びでは、ボール遊びやフリスビーなどの軽スポーツから、折り紙やお絵かき、クラフト作成などの創作活動を子ども達が自由に行っている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

活動については、宿題とラジオ体操を行った後、子ども達の自主性に任せて自由遊びにしている。学区のコミュニティセンターが学校から遠く、他の学区のように利用できない為、実施できる内容に限りがあり、主として宿題のサポート、自由遊びと見守りが活動の中心となっている。



【校長先生のお話を聞いているところ】



【小学校のグラウンドでシャボン玉】

#### ■ 事業の成果

自由遊びにすることにより、子ども達が自分の好きなことで遊ぶ事ができ、とても楽しそうに活動している。子ども達から積極的にスタッフに声をかけ、一緒に遊んでいる姿をよく見かける。学校以外の場所でスタッフと出会うと、子ども達のほうからあいさつをするなど、地域の大人との良好な関係が築かれている。

# ■ 事業実施上の課題

今年度当初は、スタッフの人数が少なく開催できるか危ぶまれたが、保護者スタッフや地域の方の協力があり、開催することができた。また、学区のコミュニティセンターが学校から遠く、スタッフが少ないなどの理由から他の教室のようにコミュニティセンターを使った活動ができず学校体育館のみでの活動となっている。

# いろいろな人、経験とふれあう!楽しみがいっぱい「大宝西ふれあい子ども広場」

■ 栗東市		コーディネーター数	1人(全教室兼務)
■ 活動名			
大宝西总	れあい子ども広場	子どもの平均参加人数	31 人
年間開催日数 26日		開始年度	19年度

#### ■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、 創作活動などを行う。

#### ■ 特徴的な活動内容

受付後、宿題タイムを設けて宿題を済ませた後、自由遊び(ボール遊び、縄跳び、フリスビー、紙飛行機、オセロなど)を行う。 七夕やクリスマスといった季節の行事や、平和学習なども取り入れている。毎月、月末にはお誕生会を開き、その月の誕生日の子ど もを、みんなでお祝いしている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

1年生が学校になじむ時間が必要と考えて、活動の開始を6月からにしている。そのため、整列や話を聞く姿勢が出来ている子が 多い印象を受けた。

子ども達が、自分の好きな遊びを好きなだけ出来るようにと、基本は自由遊びとしているが、スタッフから紙飛行機大会や、ドミ ノ倒しなどを提案して、希望者を募って行っている。それに加え、季節の行事やお誕生会を行うことにより、子ども達がとても満足 できる内容になっている。



【活動前の宿題タイム】



【平和学習でビデオを見ているところ】

### ■ 事業の成果

基本は自由遊びを行っているが、グループ遊びや季節の行事などを取り入れることによって、子ども達の自主性や協調性を育んで いる。グループ遊びは参加したい子どもだけで行っているが、ほとんどの子どもが参加し、色々なことを競い合いながら楽しんでい る。

#### ■ 事業実施上の課題

地域の民生委員や参加者の保護者に声をかけて、スタッフになってもらっている為、他の教室に比べるとスタッフの人数は不足し ていない。しかし、毎回全員が参加できるわけではないので、今後もスタッフの確保に努め、子ども達が安心して遊べる場を作れる ように努力していく。

# 野洲市における放課後子ども教室の取組

### ■めざす姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげること。

## ■本年度の活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」(運営委員会)において、事業内容の情報交換などを年2回行っている。

# ①運営委員会の協議内容

回	実 施 日	参加人数	協議内容
1	平成 27 年 6月5日	14 名	(1) 平成 27 年度 野洲市地域子ども教室の予算について (2) 平成 27 年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	平成 28 年 2月 26 日	13 名	(1) 平成 27 年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について (2) 平成 28 年度 野洲市地域子ども教室の概要について

#### ②構成委員 (所属・役職名)

野洲市社会教育委員、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、 祇王学区青少年育成会議副会長、篠原学区子ども教室運営協議会会長、北野小学校区青少年育成会会長、 兵主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、 祇王子どもクラブ事務局、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、北野っ子フレンドリークラブ事務局、 中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会、小学校教頭会

### ■本年度の成果

- ・異年齢の交流や集団で学習をすることにより、子どもに社会性や集中力が身に付いた等の感想があった。
- ・地域の方々が、子ども教室の講師やボランティアとして関わってくださることで、地域での交流を 深めることができた。

## ■今後の課題

- ・ボランティア・指導者の高齢化が進んでおり、今後も教室を続けて行く上で後継者の確保は大きな 課題である。
- ・小学校高学年の子は、スポーツ少年団や塾に通いだす子ども達が増えるので、参加者の確保が難しい。

# ■ 野洲市地域子ども教室【野洲小学校区】

野洲市		
活動名	地域子ども教	<b>数室</b>
野洲学区わくわく子どもクラブ		
年間開催日数 63日		

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	13. 3人
開始年度	平成18年度

#### ■ 活動の概要

学校5日制にともない、土曜日の午前中に子ども居場所づくり事業として実施

- ①わくわくいけ花は、小学生1年生から6年生16名参加
- ②わくわく絵手紙は、小学生1年生から5年生12名参加
- ③わくわく親子クッキングは、小学生1年生とその保護者16名参加
- ④わくわく日本舞踊は、小学生1年生から6年生7名参加
- ⑤わくわくカロム①は、小学生1年生から3年生23名参加
- ⑥わくわくカロム②は、小学生4年生から6年生16名参加
- ⑦わくわく茶道①は、小学生1年生から2年生13名参加
- ⑧わくわく茶道②は、小学生3年生から6年生17名参加

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・子どもの興味を引き付け、参加意欲を高めることをねらい、ネーミングを以下のように工夫している。
- ①花の命を大切に季節に合わせて楽しくお部屋を飾ろう!をテーマ
- ②絵を描くには、ものの形をしっかり見なくてはね。自然観察もだいじですね。 絵手紙をとどけようかな!
- ③朝食を食べない子どもが多く食育をテーマに保護者に朝食の大切さを認識 料理を通じて親子のコミュニケーションをはかる
- ④お琴や三味線の邦楽に合わせて手先指先の動き、足の運び方のけいこ! 美しい体の動かし方が、身についたら最高ですね!
- ⑤お友達と一緒にカロムのチャンピオンになろう! 自分専用のストライカづくりの楽しみもある
- ⑥おいしいお菓子とお茶で楽しいひとときを!日本の四季を感じて! 和菓子作りの体験

#### ■ 実施に当たっての工夫

指導者、サポーターとして、地域の高齢者にお願いし子どもたちとの交流を図る。 わくわくカロムは指導者、サポーターとして、学童保育所の先生にお願いしている。 安全対策として、保護者に送迎をお願いしている。

### ■ 事業の成果

同学年のつながりだけでなくクラブ形式のため、異年齢との交流ができた。

## ■ 事業実施上の課題

指導者、サポーターの後継者問題



【わくわく日本舞踊】



【わくわくカロム②】

# ■ 野洲市地域子ども教室【三上小学校区】

■ 野洲市		
■ 活動名		
Ξ	上楽しいクラブ活動	
年間開催日数 51日		

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	11 人
開始年度	平成14年度

# ■ 活動の概要

### 【三上楽しいクラブ活動】

◆「生け花」・・・月1回年8回(第1土曜日 9:00~10:30) ◆「茶道」・・・月1回年11回(第4土曜日 10:00~12:00) ◆「クッキング」・・月1回年11回(第3土曜日 9:30~12:30) ◆「将棋」・・・・月2回年21回(第2・4土曜日 9:00~11:00)

#### ■ 特徴的な活動内容

平成14年から「学校5日制」が始まる前年より準備をして現在も継続して毎年開催している。

土曜日・日曜日(上記以外に7クラブあります)に年間単位で、毎年クラブ活動の募集をしている。継続して続ける子ども、興味のあるクラブに挑戦する子どもなど自主的に開催日と時間が重ならない様にして、複数のクラブに参加している。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ◆クラブ数が多く地域行事・開催日を年間カレンダーにして、分かりやすくしている。年2回(5月・10月)配布
- ◆コミセンみかみの「悠紀まつり」にて発表(茶道)・展示(生け花)ができるようにプログラムを組んでいただいている。
- ◆年度末、他館のクラブとの交流戦を続けている。(将棋)
- ◆「クッキング」は、縦割り班として異学年の班でサポーターさん4名でご指導いただいている。

#### ■ 事業の成果

コミセンみかみの「悠紀まつり」では、「生け花」・「茶道」の展示・発表に向けて目標を持って頑張っている姿が見られ、成果として地域のみなさんに喜んでいただいた。「将棋」では、毎年他館のクラブとの交流戦が1年間の目標になっている。

「クッキング」では、高学年の子どもさんが下の学年の子どもさんを思いやる姿が見られサポーターさん・保護者間同士の交流が 活動を通じで感じられた。

#### ■ 事業実施上の課題

- ◆サポーターさんの高齢化に伴い、次の方に引き継いでいただける方の体制づくり、依頼方法など。
- ◆スポーツ少年団等の参加で4~6年生の加入が少ない。
- ◆開催日・時間等が重ならない様にしているが、サポーターさんの都合等の変更で難しい。
- ◆居場所づくりになるような活動内容の種類・展開が必要かと思う。



【「茶道クラブ」悠紀まつりの呈茶の練習 】



【「将棋クラブ」指導者が見守っています 】

# ■ 野洲市地域子ども教室【祇王小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	
祇丑	三子どもクラブ
年間開催日数	5 1 日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	9人
開始年度	平成17年度

#### ■ 活動の概要

- ・よさこい妓王は、おどりを通して、子ども達の健全育成活動と地域に「笑顔と元気」を届けたいと活動している。
- ・クッキング教室では、健康推進員さんの指導で男女を問わず料理ができる力や、主食、副食をバランスよく食べる事がで きるように。また「食べ物を選ぶ力」「食べる量」等食育を考え健康な体作りを目的に実施。早寝、早起き、朝ご飯の大切さを指導。

# ■ 特徴的な活動内容

- ・演舞に出場し、人前で踊る事は子どもの自信にもつながり、子ども同士の結束力も強くなっている。
- ・子どもの時から、食事を通して、肥満や生活習慣病の予防等、健康な体づくりについて学習している。

### ■ 実施に当たっての工夫

・土曜日に子どもの事業が重なる場合があり、できるだけ子どもの事業がない日を選んで実施。

#### ■ 事業の成果

- 一人ひとりに声かけをすることで、自信をもって行動ができるようになった。
- ・参加する子ども同士や親同士も、仲良くなり、全体のまとまりが出てきた。

# ■ 事業実施上の課題

- ・中学生になると部活動、塾で忙しくほとんどの子どもが退会するので、惜しいと思う。(よさこい妓王)
- ・子ども教室に参加してくれる子は、いつも同じ子どもで、親も熱心である。スポーツ少年団や、塾等の習いごとで忙しくしている 子どもの参加は難しい。参加者は、小学校低学年の子どもが多い。



【 クッキング教室 】



【 よさこい妓王 】

# ■ 野洲市地域子ども教室【篠原小学校区】

■ 野洲市		
■ 活動名		
篠原地域子ども教室		
年間開催日数	85日	

コーディネーター数	3 人
子どもの平均参加人数	15 人
開始年度	平成17年度

# ■ 活動の概要

演奏練習・しのっこジュニアオーケストラ、さつまいも教室、子ども料理教室、科学実験など。子ども達が興味を持ち、いろんなことを体験させる。

#### ■ 特徴的な活動内容

演奏練習は、毎週1~2回の練習。さつまいも教室は、畑つくりから草引き・収穫・料理までを一貫して。料理教室は、楽しく作って美味しくいただくまでを体験。科学実験は、プランクトンを採集して顕微鏡で観察した。

#### ■ 実施に当たっての工夫

さつまいも教室では、昨年の失敗を繰り返さないように、地域の方々に協力を得て畑づくりから丁寧に取り組んだ。

#### ■ 事業の成果

どの教室も人気であり、楽しい教室となっている。特に料理教室では、次のレシピを希望したり、今度も参加したいとの声があったりで指導者はとてもやりがいを感じている。

#### ■ 事業実施上の課題

指導者の確保。指導者が限られてくる。マンネリ化。

### ■ その他

しのっこジュニアオーケストラは、第9期生として17名が参加、週2回の練習のほか 地域の敬老会や、学区運動会の演奏に行くこともある。

今後もマンネリ化していてもどこかに新鮮味のある教室を続けていきたい。



【料理教室】



【さつまいも収穫】

# ■ 野洲市地域子ども教室【北野小学校区】

野洲市	
活動名	
北野っ子	フレンドリークラブ
年間開催日数	23日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	26人
開始年度	平成17年度

# ■ 活動の概要

北野学区青少年育成会が年間計画を立案し、北野小学校を通して参加者を募集し、主として土曜日の9時30分から11時30分までの約2時間、北野学区青少年育成会役員がコーディネートし、北野学区青少年育成会が委託した土曜教育推進員と北野学区青少年育成会役員が協力して教育及び安全管理を実施している。

平成27年度実施の科目と回数は次のとおりである。

- ・グラウンドゴルフ:2回、絵画:1回、昔遊び:1回、オセロ:3回、囲碁:2回、将棋:3回、料理:4回
- ・お菓子作り:2回、工作:1回、パソコン:4回

#### ■ 特徴的な活動内容

参加者は固定ではなく、各事業実施日毎の自由参加(但し、要予約)としている。 地元、老人クラブの方々による手作りの遊び道具(竹馬、竹とんぼ、パカパカ等)を使って昔の遊びの体験ができる。

#### ■ 実施に当たっての工夫

できるだけ参加者一人ひとりに寄り添い語りかけるよう配慮している。

# ■ 事業の成果

子どもたちの明るく楽しそうな雰囲気をもって、子ども居場所づくりを目的とした地域子ども教室の成果と考えている。

#### ■ 事業実施上の課題

子どもたちに魅力のある活動の掘り起しとその活動を推進するコーディネーターの維持補強が今後の課題である。

# ■ その他

特徴ある活動事例を動画にして、関係者が閲覧できるようにすれば、推進員のスキルアップに有効と考えている。



【 6月27日 絵画教室 】



【 7月19日 昔遊び教室 】

# ■ 野洲市地域子ども教室【中主小学校区(中里)】

■ 野洲市		
■ 活動名		
中主地域子ども教室 中里学区		
年間開催日数	20日(各10日)	

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	9人
開始年度	18年度(茶道) 24年度(手芸)

#### ■ 活動の概要

茶道クラブ:月1回、裏千家の作法を学ぶ

手芸クラブ:月1回、糸の止め方など初歩から学び、刺しゅう等を体験

#### ■ 特徴的な活動内容

茶道クラブは継続的に行っているので、お手前や作法など、細かいところまで習うことができる。 手芸クラブは先生が一人ひとりに丁寧に対応している。また、子どもの個人の能力に合わせて、作る作品を変えている。

# ■ 実施に当たっての工夫

茶道クラブ:子ども達に12月だけクリスマスにちなんで、お茶菓子をケーキにしたりして、ちょっとした楽しみがもてるよう工夫 している。

手芸クラブ:子どもに合わせて、教材を選び、各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。

#### ■ 事業の成果

クラブ活動を通じて、在籍年数が長い子どもが、まだ初めて日の浅い子どもに教えてあげるなど、学年を越えたふれあいなどが生まれつつあり、技能習得以外にも大事な体験をしていると感じることがある。

#### ■ 事業実施上の課題

子ども達の習熟度にバラツキがあるので、教えるのが難しい事と集中力を持続させる事。



【 手芸クラブ 】



【 茶道クラブ 】

# ■ 野洲市地域子ども教室【中主小学校区(兵主)】

	野洲市	
	活動名	
野洲市地域子ども教室 兵主学区		
	年間開催日数	33日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	30人
開始年度	平成18年度

#### ■ 活動の概要

小学生を対象に土曜日や日曜日に次のような教室を開催している。

- 華道クラブ
- 茶道クラブ
- おやつ作り教室
- 陶芸教室
- けん玉教室
- ・夏休みクッキング教室

### ■ 特徴的な活動内容

- ・小学1年~6年生までが1年間を通して毎回違う内容の教室を体験する。
- ・毎回新たな体験ができるので、子ども達も非常に楽しみにしている。
- ・「春を食べようの会」では毎年4月に野山に出かけ、散策しながら指導者のもと食べられる野草を採取し、館に持ち帰った後、 野草を天ぷらや味噌汁などに調理して春を味わっている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

子どもたちが楽しく安全に遊べるように配慮している。

### ■ 事業の成果

- ・異学年の子どもたちが遊ぶことで、互いを思いやり助け合う精神が生まれ、年度の終わりには子どもたちの成長がみられる。
- ・学校でも家庭でもない環境で、子どもたちはのびのびと活動しているように思う。

# ■ 事業実施上の課題

好評を得ている教室はすぐに募集定員に達するが、スタッフが限られているため、館外に出かける事業は40人程度が限界である。 また、地域的にボランティアの方が少ない。



【クッキング教室】



【春を食べよう会】

# ■湖南市における放課後子ども教室の取組

### ■めざす姿

湖南市では、子どもたちが育っている環境や教育の大きな流れから、これからの社会を支える人材である子どもたちには、目の前にある課題から逃げることなく、周りの仲間と相談しながら、力を合わせ困難を切り拓いていける人間を育てることを目指している。そのため、基礎的な力をしっかりと身につける「学力保障」と、「地域との協働による子育て」を基本方針として、子どもたちをきめ細かに守り育む教育を推進している。

そこで、本市の放課後子ども教室事業においては、これまでの取組をベースにしながら、中学校の生徒の進路を実現させるための「学力保障」の取組を重点に行っている。放課後や夜間に学校や地域の施設等で、地域の大人、退職教職員、先輩の高校生や大学生の方々が関わり、学力的に支援が必要な生徒一人一人に寄り添ってサポートいただき、一緒に学ぶ仲間とともに学ぶ意欲を高めながら「学力の底上げ」を図っていきたい。

# ■本年度の活動

実 施 校	開催日数	活動場所	主な内容
石部中学校	23 日	校区内「青少年の家」	進路実現の学力補充
			(夜の学習会)
甲西北中学校	13 日	甲西北中学校	学力補充 (放課後学習)
			英語の初歩的な学習
日枝中学校	18 日	市民学習交流センター	個別学力補充(夜の学習会)
		日枝中学校	美文字教室

# ■本年度の成果

- ・3校ともモデル事業「放課後子ども教室事業」としての開始は本年度からであるが、このモデル事業を受けていない昨年、2年前、古くは17年前から自主的に行ってきた経緯がある。
- ・生徒が週1回決まった時間に集まりやすい校区の公共施設や、ボランティア組織の施設で継続的 に学習を行うことで、生徒自身の学習に対する習慣づくりにつながっている。生徒にとっては、 年齢が近く親しみやすい地域の高校生や大学生に、あるいは地元で支援してくださる方、地元退 職教職員の大人の方に、参加生徒の苦手な学習を一つでも減らせるよう、一人一人に寄り添った サポートをしていただいている。そのため、生徒自らが学習への意欲を高め、前向きな気持ちで 取り組める場面も増えてきた。

### ■今後の課題

- ・サポートをいただく地域の方と、参加する中学生の時間を 合わせていくことが難しい。この取組の魅力や成果を伝え、 声かけを進めていき、サポートいただく地域の方々、高校 生や大学生を確保していきたい。
- ・この事業が進路保障、学力向上の取組であり、学力の底上 げとなっていることをいっそう周知していく必要がある。



【先輩の高校生によるサポート】

■その他 湖南市 HP http://www.city.konan.shiga.jp/

広報番組「きらめき湖南」平成27年11月放送分『楽しくて 力のつく湖南市教育』

# 「しんどい子どもたち」の進路実現に向けた学校と地域の協働

■ 湖南市	
■ 活動名	
石部中	中3生夜の学習会
年間開催日数	23日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	3~5人
開始年度	平成11年度

#### ■ 活動の概要

毎年10月から卒業時までの半年間、学力的にはもちろん、家庭環境的にもしんどく、加えて中学校卒業後も地域の方に関わっていただくことが望ましい生徒(いわゆる「荒れ」に向かう生徒)を対象にした夜の学習会。学校は主に管理職や3年部所属の教員が中心となり、地域の「青少年指導支援の会」(ボランティア組織で以下「支援の会」)との協働で実施している。学習は1対1を基本とし、場合によっては地元大学生なども関わってくれている。この活動をスタートさせたのが平成11年。以後17年間継続されている。

# ■ 特徴的な活動内容

学習の場所は「青少年の家」という、支援の会が活動拠点としている建物で、生徒たちは毎週1回(今年度は水曜日)、午後6時過ぎに集まり8時まで学習。学習指導は中学校の教員や地元退職教員、大学生などが担当し、支援の会の女性メンバーには交替で生徒を迎え、学習を見守り、見送る役目を担っていただいている。こうして、中学校時代に地域の人との関わりをつくっておくと、それ以後の自立に向けての支援につなげていくことが期待できる。

#### ■ 実施に当たっての工夫

毎年、学校の学年、担任団が生徒を抽出し、学習開始前には、生徒本人、保護者の思いを把握することで、家庭と学校、ボランティア組織の共通理解を図っている。また、学校では全体会議の折に学習の様子を伝えることで、この学習のねらいの浸透を図っている。大学生への誘いは、教育実習生や卒業生などに声をかけ、関わる大人自身が成長していくことも大切にしながら、人から人へのつなぎで確保している。

### ■ 事業の成果

毎年人数こそ少ない(そうすることで 1 対 1 の学習が可能)ものの、中学校を卒業してからも関わりを保てることができ、生徒の自立に向けた支援の可能性が広がってくる。今年度で 17 年継続してきた成果として、「夜の学習会メンバー」が中心となった若者グループ「スイーパー」が結成され、これまで 13 年間、月 1 回の地元における清掃活動も自主的に行うなど、地域貢献活動にも取り組んでいる。

#### ■ 事業実施上の課題

最も大きなハードルは、学校と地域の方(支援の会)のねらいの共有である。この活動は生半可な気持ちでは、かえって生徒にとってはマイナスとなり、生徒の自立につながっていかない。これまで17年もの間、年度によっては、この両者の共有が決して一致していたわけではない。その時々の危機を何とか乗り越えながら、ここまで続けていただいている。今後もできうる限り継続していきたい取組である。

#### ■ その他

- ・今年度より「放課後教室」の活動として申請して、コーディネーターを支援の会から2名配置。役割は週に1回の学習会の当番(場合によっては生徒の送迎も担当)を決めたり、消耗品関連の購入計画等の中心となって活動している。また、学習会は教科の学習に加えて、参加者の仲間づくり、生徒と関わる大人の関係づくりにも心をくだいており、その企画等も役目の範囲である。
- ・右写真は「青少年の家」と称している建物で、支援の会の代表が所有される土地に建てていただいたプレハブを使用させていただいている。この建物は、月に一度の支援の会の例会をはじめ、毎週の「学習会」等に使用。
- ・毎回の学習スケジュールの基本は40分間の教科学習が2コマで、間に10分の休憩を入れ、教科の学習を中心としながら、生徒たちと関わる大人とのコミュニケーションを大事にし、生徒たちにとって居心地のよい空間となるよう心がけている。
- ・ただ、生徒に関わる大人の大まかな分担としては、主に学習内容は学校関係者が担当し、支援の会メンバーは母親役、家族役としての受容の気持ちで接している。この学習会の大きな特徴としては、生徒たちが普段学校では見せない姿を見せてくれる、隠された生徒の良さを知ることができるなど、結果的には生徒の自尊感情を育んでいけることである。



【青少年の家】



【週に1回の勉強会】

# Let's Enjoy English

■ 湖南市	
■ 活動名	
甲西北	中放課後学習教室
年間開催日数	13日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	3人
開始年度	平成26年度

### ■ 活動の概要

月曜日の隔週で放課後に約1時間の時間を確保し、「英語に親しむ」というねらいで、英語が苦手な生徒が気軽に英語に慣れ親しむことからスタートさせた。教材についても授業で使っている教科書からはなれて、「学習」や「勉強」と言ったスタイルにこだわらない形でこの事業を展開させた。

# ■ 特徴的な活動内容

発展的な学習よりも英語の初歩的な内容を中心に学習を進める。

#### ■ 実施に当たっての工夫

参加者が増えるように学級担任や部活動顧問からの呼びかけや個人的な勧誘も併せて実施した。また、生徒の通行量が一番多い教室で実施することも考慮し、目に見えるところにポスターを掲示するなど一人でも多くの参加生徒が集まるよう工夫を凝らした。

#### ■ 事業の成果

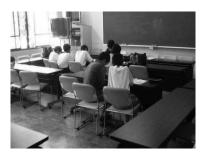
普段の授業と違い、少人数で学習するためきめ細やかな指導をしてもらえた。成果を求めるまでには至っていないところは多々あるが、息の長い継続的な取り組みをしていくことで、この事業の成果と言える活動となるよう努力し続けていきたい。

#### ■ 事業実施上の課題

月曜日は部活動停止日に設定されていることもあり、放課後になると帰宅を急ぐ生徒が大半なため、それにつられるかのように生徒の脚はそちらへ向いてしまう。そのことが、この事業への参加率低下にも繋がっているように感じる。そういったことも含め広く周知を図る目的で全校集会時に呼びかけることはもちろんのこと、設定曜日の変更も視野に入れながら検討してきたい。

# ■ その他





【 放課後学習の様子です。

# 地域とつながり学ぶ力を育てる

<ul><li>■ 湖南市</li><li>■ 活動名</li></ul>		コーディネータ <i>一</i> 数	2 人
	中学校放課後事業	子どもの平均参加人数	15 人
年間開催日数	18日	開始年度	平成25年度

#### ■ 活動の概要

- 1. 地域の方(高校生・大学生・一般)に協力頂き、生徒の個別学力を補充する機会を設ける。(夜の学習会)
- 2. 中学生が小学生の学習活動サポートを行うことで、自分自身の学ぶ力を向上させる。(美文字教室)

#### ■ 特徴的な活動内容

- 1. 夜の学習会・・・学習支援が必要な生徒への個別の学力補充を実施。 地域の高校生、大学生を中心に声掛けを行い協力要請。参加サポーターは平均4名。 参加生徒の学習の苦手を減らせるよう、一人一人に寄り添い丁寧な学習支援をして頂いた。 10月~2月の期間で17回実施。地域の市民学習交流センターを活用。活動時間は19時~21時。
- 2. 美文字教室・・・校区内の2校の小学校と連携し、中学生が小学生をサポートする書初めの練習会を実施。 当日は甲西高等学校の書道部の方に来校頂き、日枝中学校吹奏楽部との共演で書道パフォーマンスを行い その後、参加小学生と中学生がペアになって書初めの練習を行った。 12月に開催。日枝中学校体育館を使用。活動時間は14時~16時。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- 夜の学習会については参加生徒が集まりやすいよう、地域の市民学習交流センターを活用。 生徒たちにとって年齢が近く親しみやすい高校生、大学生にサポートに来て頂くことで学習への意欲と前向きな気持ちを持って 取り組んでもらえるよう配慮した。
- 2. 美文字教室については中学生の参加呼びかけを行う際、昨年参加者や書道経験者の生徒に直接声掛けを行い、校内に参加募集 ポスターを掲示するなどした。書道パフォーマンスについては、参加小学生や中学生に馴染みのある曲を選曲し、より興味を持 って書道に取り組めるよう工夫した。

#### ■ 事業の成果

夜の学習会については、決まった時間に週1回の継続的な活動を行うことで学習に対する習慣づくりにつながったと感じた。 地域の力を借りて生徒が集まり一緒に学ぶことで、自宅で一人では手を出しづらい苦手な学習にも取り組むことが出来た。 美文字教室については、参加した中学生が小学生の活動サポートを行い教える側に立つことで、いろいろな気づきが生まれた。 小・中・高と連携した活動を行うことで、子ども達は自分の将来の姿や活動風景を想像することが出来たのではないかと感じた。 又、数名ではあるが一昨年からの活動の継続により自ら参加希望を申し出てくれる生徒や、こちらからの参加依頼に喜んで応えて くれる生徒も出てきたことは大きな成果だと感じる。参加小学生から感謝のはがきを頂いたことも励みにつながった。

# ■ 事業実施上の課題

どちらの事業に関しても、サポートに回る地域の方や参加中学生の時間のマッチングが難しいと感じた。それぞれの学校生活や部 活動、塾などの時間的な制約の中でどのように活動に参加してもらうか。又、参加呼びかけについてもチラシを作成して配るだけで は参加者が集まらないので、どの様に活動の魅力や成果を伝え、声かけをすることで参加者の開拓を進めていくかを試行錯誤しなけ ればならないと感じた。



【夜の学習会の様子】



【 美文字教室の様子 】

# 米原市における放課後子ども教室の取組

# ■めざす姿

放課後や週末に学校施設やその他公共施設等を利用して、地域に応じた子どもたちの安全・安心な場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの学びと遊びの体験、異年齢交流の機会を提供し、地域で子どもを守り育てる環境づくりをめざす。

### ■本年度の活動

・米原市子ども・子育て審議会において、放課後キッズの活動を報告し、今後の活動などについて、議論を行った。

### 実施回数 2回

委員:15人

(有識者、福祉・教育に関わる機関や団体の代表者、子どもの保護者、公募市民など)





【米原市子ども・子育て審議会】

# ■本年度の成果

・ボランティアで協力していただける地域の方が増え、幅広い体験活動や交流の場を子どもたちに提供 することができた。また、活動を通して子どものたちの成長を支援することができた。

# ■今後の課題

事務局と実施団体との情報交換の場を設け連携を密にしていく。

# **■ 下学年と上学年に分かれて、季節にあったいろんな活動を行います。親子での参加可!**

■ 米原市		
■ 活動名		
放課後キッズ in 310		
年間開催日数	29日	

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	8 人
開始年度	平成26年度

#### ■ 活動の概要

4月から翌年3月にかけて、下学年と上学年に分かれて活動を行った。 活動の日程は、土曜日の午前を基本に約1時間30分とした。

#### ■ 特徴的な活動内容

バドミントン、卓球、カヌー、乗馬、農園(さつま芋の植付と収穫)、ダンス、スケート、ミニしめ縄づくり、書初め、スキー

#### ■ 実施に当たっての工夫

小学1年生と6年生では、運動能力等の格差が大きいため、下学年(1年生から3年生)と上学年(4年生から6年生)に分けて活動した。

また、スキーは安全管理のために、午後1時から4時までの活動とし、スキー客が少なくなる時間帯での活動とした。

#### ■ 事業の成果

土曜日に活動したので、カヌーや乗馬、農園、スケート、ミニしめ縄づくり、スキーなどは、親子で参加する家族もあり、安全管理面でサポートしていただいただきながら、親子の触れ合いも深めていただけた。

#### ■ 事業実施上の課題

カヌーやスケート、スキーは、危険性が高く、安全管理面で不安を感じた。特にスキーは、まったくの初心者の場合はマンツーマン指導が必要となり、指導者が足りず困った。

#### ■ その他

山東地域の柏原小、山東小、大原小の子どもたちを対象としたが、地域外の子どもも数名参加した。



【農園(さつま芋苗の植付)】



【ミニしめ縄づくり】

# ■ 多様な体験、深める交流 いぶきっ子の豊かな心の育成を目指して

■ 米原市					
■ 活動名					
放課後キッズ in ジョイ					
年間開催日数	8日				

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	30 人
開始年度	平成21年度

#### ■ 活動の概要

第1回 (5/27) <u>いろんなスポーツを楽しもう</u> 第2回 (6/24) <u>古代模様のバッグを作ろう</u> 第3回 (7/22) <u>日本の伝統文化 (茶道) を楽しもう</u>・・・お点前と客人の双方を体験した。 第4回 (9/26) <u>名和昆虫博物館 (岐阜) でいろんな昆虫の生態を学ぼう</u>・・・借り上げバスで体験学習に出かけた。 第5回 (11/14) <u>体をリズミカルに動かそう</u>・・・米原市スポーツコーディネーターによりユニークな指導をいただいた。 第6回 (11/4) <u>あまんぼう作りに挑戦しよう</u>・・・一人4連 (8個) の干し柿を作った。 第7回 (1/17) <u>餅つき&かるた・百人一首大会</u>・・・米原市こども未来部子育て支援課・米原市青少年育成市民会議伊吹支 部・(公財) 伊吹山麓スポーツ文化振興事業団との共催。

第8回(2/24) お楽しみ!お菓子作り

#### ■ 特徴的な活動内容

### 【日本の伝統文化(茶道)を楽しもう!】

地元の茶道サークルの方々にお世話になり、お茶を習う心構え(靴下を履き替える)から始まって、座り方などの立ち居振る舞いなど、ひとつひとつ丁寧に教えていただいた。その後、全員でビデオ鑑賞をし、二班に分かれてお茶を点てる組とお茶をいただく組に分かれお茶の作法を体験した。

子どもたちは初めての経験に緊張気味の子もいたが習おうとする気持ちがよく伝わってきた。

今回習ったことが今後の子どもたちの日常生活に良い影響を与え、日々の心豊かな生活につながればと思う。

#### 【あまんぼう作りに挑戦しよう!】

伊吹特産の "平種無柿(ひらたねなしがき)"の柿の木1本を柿農家より購入し、柿を収穫するところから体験した。 柿を吊るすので、柿の実に"小枝"を残しながら収穫しなければならず、少し"技"が必要だった。

その後会館の調理室でピーラーで柿の皮をむき、むき終えた柿をシュロの葉で結ぶ作業は子どもたちにとって大変貴重な経験になったと思われる。

#### ■ 実施に当たっての工夫

①活動内容は、スポーツ、もの作り、見学活動など偏りのないように計画した。

また、第7回(1/17)餅つき&かるた・百人一首大会においては、米原市こども未来部子育て支援課、米原市青少年育成市民会議伊吹支部との共催で実施した。

- ②グループ活動の際は異学年混合とし、高学年児童に役割を持たせ、リーダー意識を育てるようにした。
- ③安全確保・学校から帰宅後、必ず保護者による送迎とし、放課後児童クラブ参加児童はクラブ指導員の引率とした。

・放課後キッズスタッファ人によるサポートを行い、より子ども たちの安全を確保した。

④緊急対応 ・緊急連絡先を児童名札裏面に記載し、緊急連絡に備え、また館外 での活動には救急鞄を携行した。

# ■ 事業の成果

- ①スポーツ、調理、もの作りなど様々な活動を体験させることができた。
- ②高学年児童にリーダーとしての自覚の芽生えが感じられた。
- ③2小学校合同での活動により学校間の交流が図れ、また、グループ活動により異学年交流も進んだ。

#### ■ 事業実施上の課題

- ①子どもの8割が低学年のため、活動内容の工夫が必要と思われる。
- ②教育活動推進員(キッズスタッフ)の年齢を考慮すると今後は新規の推進員が必要になると思われる。



【日本の伝統文化(茶道)を楽しもう!】



【あまんぼう作りに挑戦しよう!】

# **■ 安心できるよ、発見しよう、体験しよう。子どもの新たな居場所づくり**

■ 米原市					
■ 活動名					
放課後キッズ in おうみ					
年間開催日数	5 日				

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	36 人
開始年度	平成22年度

#### ■ 活動の概要

子どもたちにとって安全で快適に学校の休日を利用しながら、地域のおじいちゃんやおばあちゃん、ボランティアの皆さんにご協力をいただき、下記の内容で異世代交流や体験活動を行っている。この事業を通じて、地域のボランティアの特技や技術、生活の知恵を活かし、地域の子どもたちの健やかな成長を見守り、青少年の健全育成と子育て支援事業に取り組んでいる。今年度は年間5回の開催で、普段、学校では体験できない農業体験・自然体験・物作り体験を中心とした内容で実施した。

#### ■ 特徴的な活動内容

地域にある田んぼを活用して、ボランティア団体「どろんこの会」とどろんこ農園を設置し、年間を通して稲作体験ができる環境を整えている。また、公民館に設置しているピザ窯を活用して、窯で焼いたピザ作り体験を行ったり、書道家による自由な書をテーマにしたワークショップを行うなど他には体験活動を実施している。

#### ■ 実施に当たっての工夫

子どもたちの健全育成に取り組んでおられるボランティア団体「どろんこの会」や里山の保全を目的として様々な活動をしている 団体「やまんばの森」などの熱心に活動しておられる地域の団体に協力して頂くことで、地域の子ども達に農業を中心としたさまざ まな体験活動を提供し、子ども達に地域の方々が長年培った経験と知恵を継承している。また、書道家などの作家の方に協力をして 頂き、幅広いジャンルの様々な活動を体験する機会を子ども達に提供している。

### ■ 事業の成果

ボランティア団体「どろんこの会」に継続的に協力して頂くことで、子ども達は顔の知った大人の人に囲まれながら、安心して活動に取り組むことができた。また、豊富な体験活動を実施することで、子ども達の感性を豊かにし、子どもの充実した休日を提供することができた。

## ■ 事業実施上の課題

長年、事業を実施しているため、活動内容がマンネリ化してしまう部分が少なからずある。今年度は実践したことは、これまでの体験内容をいくつか組み合わせることで、これまでにはない体験を提供することを心がけた。

# ■ その他

当事業では地域資源を最大限に活かし、公民館施設をフル活用することで他にはない活動内容を提供している。地域に居住する保護者や子ども達が自分達の住む地域のことを知ることで、自分達の住む地域の魅力に気付いてほしいとの思いを持ちながら、活動をすすめている。今後も活動を通して、地域の子育てに貢献し、子育てのまち「米原市」を実現していきたい。



【どろんこ農園にて田植え体験】



【どろんこ収穫祭】

# ■ 米原市放課後安心プラン「放課後キッズ in まいはら」

	米原市				
	■ 活動名				
	放課後キッズ in まいはら				
年間開催日数		7日			

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	20.4 人
開始年度	平成23年度

#### ■ 活動の概要

米原市では、子ども達にとって安全で快適な放課後の居場所づくりの推進に取り組まれている。そこで米原市米原地域では、総合型地域スポーツクラブ「MOS スポーツクラブ」が、米原市の『放課後安心プラン』の一環として、「放課後キッズ in まいはら」に取り組んでいる。

「放課後キッズ in まいはら」では、子ども達が安全な環境で思う存分遊べる場所、ゆったりと安心して過ごせる居場所として放課後や休日に公共施設等を活用し、いろいろな体験や交流活動が行えるようにしている。年度初めに参加者を募り、6月から12月まで毎月1回の活動を実施している。

#### ■ 特徴的な活動内容

総合型地域スポーツクラブが中心となり活動しているため、バドミントンや卓球、ミニテニスなどのスポーツ体験が中心となっている。指導にはスポーツクラブの会員の方にもご協力頂いている。

米原市では、カヌー体験を通じて米原の豊かな自然を体験してもらいたいと、カヌー・カヤックを導入されているため、生涯学習課の協力を受け、放課後キッズ in まいはらでもカヌー体験を実施している。また、同市伊吹地域ではホッケー活動が盛んであるため、ホッケーの簡易版であるユニホック体験を導入した。

#### ■ 実施に当たっての工夫

遠足や野外活動以外の活動日は、2種目以上のスポーツ体験の準備をし、その場でグループ分けを行って時間帯によって違う体験をすることで、子ども達が飽きないように工夫している。

また、活動内容に直接関係はありませんが、活動ごとの受付では必ず、保護者ではなく参加者自身に名前を言って頂いている。学校以外の場でしっかりと発言できるような機会を作ることを目指しているためである。最終回に「参加者」「保護者」それぞれに向けたアンケートを配布し、現状への意見や来年度に関することを問い、それぞれの立場の意見や希望を集約し、来年度の活動に繋げていけるよう努力している。

#### ■ 事業の成果

体験する機会がなかなかないカヌーやユニホック体験、意外に体験する機会の少ない卓球などの活動の場を提供することができた。 学校や学年が異なっている参加者が、それらを超えて協力して楽しんで頂けたように思う。また、ユニホック体験の練習試合では、 子ども達が自主的に作戦を立てて実践するなど主体性をもって活動する姿を確認できた。

#### ■ 事業実施上の課題

学校行事との兼ね合い。行事と重複しないように土曜日に設定しているが、土曜参観や運動会、愛校作業などと重複した開催日があった。担当している米原地域に小学校は2つあるが、両校との話し合いが必要だと思われる。

#### ■ その他

米原市は4町が合併した自治体であるため、同じ市でも居住していない地域の情報は意外と耳に入らない。地域ではホッケーが盛んでも米原地域では盛んではないということも往々としてあるため、同じ市であることを活かし、各地域の活動に目を向け、積極的に取り入れていきたいと思う。



【 ユニホック体験 】



【 リバーボート体験 】

 $\mathbf{III}$ 

# 放課後児童クラブの現状

平成27年5月1日現在

# 1 放課後児童クラブ数実施状況

(1) 小学校の状況

小学校区数	223 か所 児童数	82,069 人
小学校1~3年生の総数	41,121 人 * 4 ~ 6 年	40,948 人

放課後児童クラブの概況

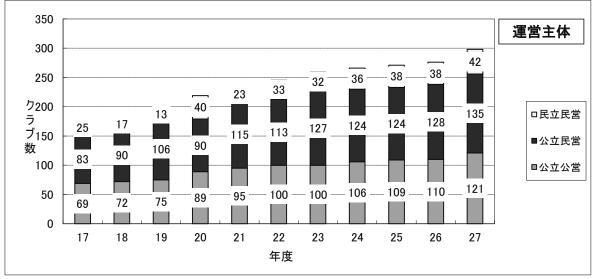
補助対象別クラブ数	公立公営	公立民営	民立民営	合	計
	121	135	42		298

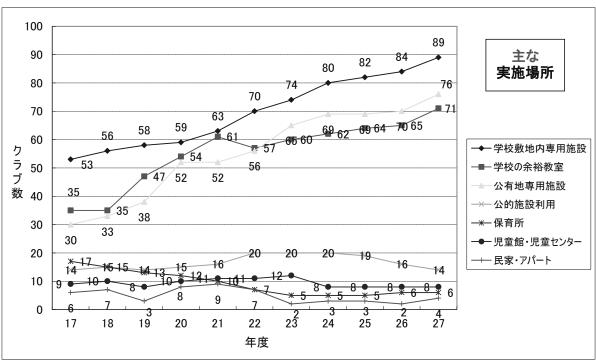
<b>補助</b>	対象別クラブ数	公立公呂	公立氏呂	戊亚戊呂	
冊切	州家加ァララ 数	121	135	42	298
(3) 放課後児	!童クラブの状況				
(3) 双麻饭儿	調査項目	公立公営	公立民営	民立民営	合 計
実 施 場 所 別	児童館・児童センター	1	2	5	8
	学校の余裕教室	55	15	1	71
	学校敷地内専用施設	35	50	4	89
	公有地専用施設	26	49	1	76
	民有地専用施設	2	1	11	14
	民家・アパート	0	2	2	4
	公的施設利用	1	9	4	14
	団地集会室	0	0	0	0
	保育所	0	0	6	6
	幼稚園	1	6	0	7
	認定こども園	0	0	0	0
	空き店舗	0	0	5	5
	その他	0	1	3	4
	合計	121	135	42	298
登 録 児 童 数 別	9人以下	1	2	3	6
	10人~19人	4	10	5	19
ク ラ ブ 数		50	19	14	83
	36人~70人	59	83	15	157
	71人以上	7	21	5	33
	合計	121	135	42	298
障害児受入数別		16	21	19	56
	1人	20	32	9	61
ク ラ ブ 数		32	29	8	69
	3人	25	15	2	42
	4人以上	28	38	4	70
<b>亚日</b>	合計	121	135	42	298
	17:31~18:00	27	1	1	29
	18:01~18:30	56	59	9	124
ク ラ ブ 数	18:31~19:00	38	74	24	136
	19:01~20:00	0	1 0	8	9
	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	0	0	0	0
	<u>21:01~22:00</u> 合計	121	135	42	298
休日の盟館状況別	土曜日(毎週実施以外)	121 (4)	120 (53)	42 (2)	283 (59)
放課後児童		121 (4)	120 (55)	42 (2)	203 (59)
	長期休暇	121	114	42	277
	小学校1年生(障害児)	1, 565 (78)	2,019 (76)	489 (10)	4, 073 (164)
, , ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,,	小学校 2 年生(障害児)	1, 429 (90)	1, 707 (82)	419 (12)	3, 555 (184)
	小学校3年生(障害児)	1, 095 (65)	1, 407 (77)	364 (7)	2, 866 (149)
	小学校4年生(障害児)	486 (41)	842 (58)	245 (8)	1, 573 (107)
	小学校5年生(障害児)	279 (30)	465 (36)	113 (7)	857 (73)
	小学校6年生(障害児)	104 (16)	264 (20)	78 (4)	446 (40)
	その他(障害児)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計 (障害児)	4, 958 (320)	6, 704 (349)	1, 708 (48)	13, 370 (717)
学年別利用 (登録)	小学校1年生(障害児)	8 (0)	11 (0)	0 (0)	19 (0)
できなかった児童数	小学校2年生(障害児)	6 (0)	4 (0)	1 (0)	11 (0)
	小学校3年生(障害児)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	5 (0)
	小学校4年生(障害児)	66 (0)	15 (0)	2 (0)	83 (0)
	小学校5年生(障害児)	10 (0)	14 (0)	6 (0)	30 (0)
	小学校6年生(障害児)	1 (0)	7 (0)	0 (0)	8 (0)
	その他 (障害児)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計 (障害児)	95 (0)	51 (0)	10 (0)	156 (0)
注, ( ) 内の粉け 正					

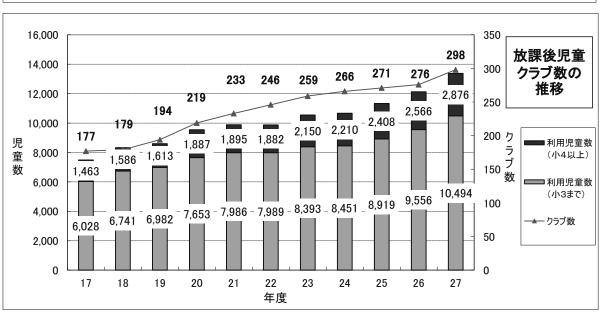
注:()内の数は、再掲である。

市区町村の実施状況 (4)実施率 (B/A) 全市区町村数 実施市区町村 市 (特別区)

# 2 放課後児童クラブ数の推移







# 平成27年度 家庭教育支援活動

# 〇事業実施市町及び取組教育支援活動

# 8市町17活動

	市町名	学習講座・行事等の実施	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動
1	近江八幡市	0	0	0
2	草津市	0		
3	甲賀市	0	0	0
4	湖南市	0	0	0
5	高島市	0	0	0
6	東近江市	0		
7	日野町	0	0	
8	竜王町	0		

# ○教育支援活動の内容

【学習講座·行事等】

	市町名	実施 学校区数	幼児期 講座	学童期 講座	思春期 講座	父親向け 講座・企業出 前講座	親子参加 行事	その他	計
1	近江八幡市	8		8					8
2	草津市	6					12		12
3	甲賀市	4	39	4			6		49
4	湖南市	3		3			2		5
5	高島市	14	15	14	6				35
6	東近江市	22	2	6	2		2		12
7	日野町	5	19	15	1	5			40
8	竜王町	2						11	11

## 【地域人材の養成】

	市町名	講座数	対象者	養成後の活動の場所
1	近江八幡市	3	家庭教育支援コーディネーター	・主に学校においての相談活動や研修会の企画 ・関係機関や家庭に赴き、課題解決に向けた取組の実施
2	甲賀市	2	子育てサポーター	・家庭教育支援チームにおける活動 ・家庭教育に関する学習講座
3	湖南市	2	地域教育活動支援者	・家庭教育支援チームにおける活動
4	高島市	1	地域教育活動支援者・退職シニア層	・家庭教育支援チームにおける活動 ・学校や家庭、地域での子育てボランティア
5	日野町	1	子育て支援員、一般	・子育てサロン等地域での子育て支援活動

## 【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数 年間活動				
	ת נשנוו	八奴	日数	学習機会のコーディネート	相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	8	363 (延べ)	0	0	0
2	甲賀市	19	6	0		
3	湖南市	14	150 (延べ)	0	0	0
4	高島市	17	48	0	0	

「平成27年度事業計画書」より

# 近江八幡市における家庭教育支援の取組

### ■目指す姿

各小学校で、校長の構想と理念に基づき、家庭における教育力の向上を家庭教育支援チームで展開する。家庭教育支援チームは、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、家庭教育コーディネーター等で構成する。家庭教育支援チームは、事業計画に基づき必要な指示を家庭教育支援コーディネーターに与える。家庭教育支援コーディネーターは家庭教育支援チームと密に連携しながら、学校関係者や地域の団体、地域住民等のボランティア、保護者等と協力して子育て学習会、講演会等を実施する。また、地域の家庭に関する情報を学校に伝え、学校は保護者対応等に活用する。

### ■本年度の活動

家庭教育推進協議会:8月31日(月)、11月6日(金)、2月(市全体の家庭教育支援について協議) 家庭教育支援基盤形成事業学校担当者会議:4月28日(火)

家庭教育支援コーディネーター会議:4月30日(木)、10月6日(火)

子育てサポーター養成講座(子ども支援課主催)に参画:6月12日(金)

子育て支援ネットワーク会議(子ども支援課主催)に参画:7月30日(木)、10月1日(木)

桐原東小・家庭教育研修会: 11 月 19 日(木) (講師 岡田さよ子さん(家庭教育推進協議会副会長)) 企業・NPO 等との連携: 7 月 27 日(月) 金田小学校で、学校支援メニューフェア in 近江八幡 2015 を

開催した。NPO 法人ママの働き方応援隊、日本結婚教育カウンセラー協会、NPO 滋賀次世代文化芸術センター等の家庭教育支援に資する団体が出展した。

11月6日(金) 家庭教育推進協議会の中で、NPO 滋賀次世代文化芸術センターが別室登校・不登校児童生徒支援プログラムを紹介。

### ■本年度の成果

各小学校に家庭教育支援チームを作り、校長や家庭教育支援コーディネーターをチームのメンバーと して位置付けたことで、校長の方針のもとで家庭教育支援コーディネーターを中心に子育て支援施策を

行うことができた。家庭教育支援コーディネーターは、チームの一員として 孤立することなく、コーディネーターと管理職、複数の家庭教育支援担当教員が連携することで、幅広く子育て支援ができた。家庭教育支援コーディネーターは、学習会のテーマ設定の時等に、同じチームのメンバーである教育相談や生徒指導担当教員から情報・相談機会を得られたり、コーディネーターが一人で多くを背負うことがなくなり、気分が楽になったようである。



【家庭教育推進協議会】

### ■今後の課題

家庭教育支援コーディネーターの出勤時間が年間 45 時間しかないので十分な活動ができない。家庭教育支援コーディネーターや家庭教育支援事業の学校・保護者・まちづくり協議会等における認知度が低く、十分に事業が活用されていない。市立 12 小学校のうち学校の希望により 8 校が実施してい



るが、拡充のためにはコーディネーターの人材発掘・育成が必要である。 【滋賀次世代文化芸術センターの報告】

## **■ 小学校は家庭教育支援のプラットフォーム**

■ 近江八幡市					
■ 活動名	■ 活動名				
( ○ ) 学習講座・行事	<ul><li>○ ) 学習講座・行事の実施、</li></ul>				
( 〇 ) 地域人材の養原	<b>艾</b>				
( 〇 )家庭教育支援于	チームの設置・活動				
講座数(年間活動日数)	家庭教育推進協議会3回、コーディ ネーター会議3回、研修等実施				

コーディネーター数	8人
家庭教育支援員数	25人
実施開始年度(H 2 3)	実施学校区数(8小学校校区)

#### ■ 活動の概要

市立12小学校のうち家庭教育支援事業実施を希望した8小学校に家庭教育支援コーディネーターを配属している。事業実施校には、校長、教頭、教育相談担当教員、生活指導担当教員、家庭教育支援コーディネーター等を構成員とする家庭教育支援チームを設置している。家庭教育支援コーディネーターは、家庭教育支援チームの一員として密に学校と連携しながら学校の指示や助言を得て、各学校や地域の実情に応じた保護者の交流の場や講演会、料理作りや映画会などの事業や学校への家庭・地域の情報提供などを行っている。市は、家庭教育支援コーディネーターのスキルアップのために会議や情報提供、研修会等を行っている。

○学習講座・行事の実施

家庭教育支援コーディネーターが、家庭教育支援チームの一員として学校と密に連携しながら、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、各種行事などを行っている。市教委は、コーディネーター等対象の研修会や会議等を開催している。

〇地域人材の養成

家庭教育支援コーディネーターの資質向上や情報交換のため、コーディネーター会議を開催している。

市教育委員会は、コーディネーターに家庭教育に資する先進事例等の情報提供を行っている。

コーディネーターの横の連携や情報交換となる機会を持ち、互いにスキルアップや課題解決ができるよう図っている。

○家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校に、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、家庭教育支援コーディネーターを構成員とする家庭教育支援チームを 設置し、コーディネーターが孤立しないようチームを介して学校や管理職の指示や助言、相談を得ながら家庭教育支援活動を行 えるよう努めている。家庭教育相談員が学校の要請に応じて小学校に出向き、保護者相談に応じている。

### ■ 特徴的な活動内容

○家庭教育支援コーディネーターによる学校への情報提供

コーディネーターは、学校では把握できない地域での家庭の評価や各家庭間の関係などを含む児童の家庭や地域の情報を学校に 伝え、学校は児童の行動の背景にある家庭の実態の理解や指導等に活用している。

O企業・NPO等との連携

学校支援メニューフェアには、家庭教育支援に資するプログラムを持つ企業・団体も出展している。家庭教育支援コーディネーターや各小学校の教員もメニューフェアに参画し、これらの企業・団体のプログラムを見学・体験している。(株)ワコール、(株)ナリス化粧品、NPO滋賀次世代文化芸術センター、(株)NTTドコモ等の活用実績がある。

○コーディネーターの各小学校への配属

各小学校にコーディネーターを配属しているので、学校で学校教員とコーディネーターが意思疎通を図れている。コーディネーターは地域の人材なので、学校では知り得ない地域の情報を学校に伝え、学校は保護者対応に活用している。

### ■ 実施に当たっての工夫

○学校行事等の後に事業を行うなどして、参加者の負担軽減・参加者の確保に努めている。

〇コーディネーター間の横の連携や情報交換、市教委からの情報提供をとおして、コーディネーターの資質向上に努めている。

○家庭教育支援チームを作り、校長の理念に基づいてコーディネーターが学校と一体となって家庭教育支援活動に取り組めるようにしている。

#### ■ 事業の成果

- ○軽い悩みの保護者が、少人数の話し合いの場に来ることで心を軽くしている。
- 〇少人数で対象とテーマを絞ることで、保護者の参加意欲が高まり、悩みの軽減につながっている例もみられる。
- 〇コーディネーターが収集する家庭・地域の情報は、学校の児童・家庭への指導・支援 等に活かされている。

### ■ 事業実施上の課題

- ○家庭教育支援コーディネーターの勤務時間数が年間 45 時間なので、十分な活動ができない。
- 〇コーディネーターとして適切な人材がいない等の課題により、全小学校で事業を実施 できていない。



【推進協議会】



【推進協議会】

# ■ 草津市における家庭教育支援の取組

### ■めざす姿

子どもたちにとって家庭は、「やすらぎ」を得る場であり、基本的な生活習慣を育むための大きな役割を担っている場でもある。

本市では、近年、子育て世帯の転入や核家族が増加しており、また家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も少なくない。

そこで、さらなる家庭の教育力の向上を目指し、子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基礎となる能力を身に付けるため、家庭における学習の場、情報の提供・啓発活動等の充実を図っている。

### ■本年度の活動

家庭教育力の向上のため、市立幼稚園、小学校、中学校の各単位PTAと連携し、子育ての手法や保護者同士の繋がり合いの中から生まれる学習等の家庭教育学習事業に対して補助金を交付することで、各単位PTAのニーズにあった家庭教育支援を実施した。

また、家庭で子どもが心豊かに成長し、よりよい生活習慣を確立するため、各単位PTAや地域住民とともに考える場として、市職員が出向いて実施するタブレットPC体験や青少年の現状などをテーマにした「家庭教育出前講座」を開催するとともに、昨年度から家庭読書を中心とした「家庭教育サポート事業」を開始し、参観日やPTA研修会等にあわせ、保護者への学習機会を提供するなどの家庭教育支援を行った。

家庭教育における情報の提供として、市広報紙において、あいさつやスマートフォンの安全な使用などをテーマに、家庭教育の大切さを掲載するとともに、市ホームページに「家庭読書」のリーフレットを掲載し、読書を通じた家族のコミュニケーションについて啓発を行った。



【家庭教育出前授業の様子】



【市広報・家庭読書リーフレット】

### ■本年度の成果

市広報を活用し、家庭でのコミュニケーションやスマートフォンの安全な使用などの現代的課題をトピックとし、家庭で考える啓発活動を行うことができた。

また、各単位PTAへの補助制度による支援や図書館等関係各課と連携することにより、各園・小中校の二一ズに合った家庭教育支援を図ることができた。

### ■今後の課題

講座における家庭教育支援は、比較的、家庭での教育への関心が高い人の参加が多いため、今後、家庭教育力の全体的な底上げを行うため、より効果的な事業展開を実施していく工夫が必要である。

## **■ 本をツールに家族でコミュニケーションを**

■ 草津市		
■ 活動		
( 〇 )学習講座・行	丁事の実施	
( )地域人材の育	育成	
( )家庭教育支持	爰チームの設置・活動	
講座数(年間活動日数)	8講座(年間活動日数	8日)

コーディネーター数	2 人
家庭教育支援員数	0 人
実施開始中度(H26)	実施学校区数( 6小学校区)

### ■ 活動の概要

市内小学生保護者を対象に、家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、「読書大好き草津の子ども」推進事業の一環として、家庭読書の推進による家庭でのコミュニケーション能力の向上や、保護者向けの学習プログラムを提供することにより、家庭の教育力の向上を図る。

### ■ 特徴的な活動内容

家庭の中で子どもと保護者が行動や会話などを共有することは、家庭での絆の深まりや基本的な生活習慣を身につけるきっかけにつながる。

そこで本事業では、小学生の保護者を対象に、図書館司書や読書ボランティア等から、子どもが本を好きになるきっかけづくりについて、家庭での読み聞かせや読書、家庭の中で本を通じて子どもとふれあう時間の大切さを感じていただき、家庭教育の充実につなげている。

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・授業参観や学校行事の前後の時間に実施するなど、保護者が参加しやすい方法を心がけた。
- ・図書館司書と連携を深めることで、家庭での読み聞かせの方法など、保護者の方にも興味深く受講してもらえるよう内容を考慮した。
- ・学校二一ズを考慮しながら事業を展開した。

### ■ 事業の成果

- ・家庭で本を介してのコミュニケーションを育むきっかけづくりを図ることができた。
- ・内容面についても、学校や図書館等と深く調整したため、充実した事業となった。
- ・参加者アンケートにおいても、「子どもと過ごす時間の見直しをしたい」という意見もみられた。

#### ■ 事業実施上の課題

・参加者は比較的、家庭での教育への関心が高い方が多く、多くの保護者が参加しやすい時間設定や手法など、多様な場における学習機会の提供が必要である。





【家庭教育サポート事業の様子】

# 甲賀市における家庭教育支援の取組

### ■めざす姿

親子のふれあいを深め、基本的な生活習慣を家庭で身につけるための継続的な啓発と、保護者自身が気付き、考え、行動するための機会を提供する。また、地域ボランティアとして家庭教育サポーターやブックスタートサポーターなどを養成し、事業に協力いただくことで、地域全体で子育てを見守り、より身近な支援の輪を広げていく。

### ■本年度の活動

- ①学習講座・行事の実施
- ・はじめまして親子講座~赤ちゃんと体ほぐし・心ほぐし~(年6回)
- ・ふれあいベビー講座(年8回)
- ・親子ふれあい音楽広場(年1回)
- ・親子ふれあい運動広場(年9回)
- ・親子ふれあい食育講座(年3回)
- ・親子ふれあい絵本広場(年1回)
- ・ママも0歳・パパも0歳おはなし&ミニコンサート(年3回)
- ・いきいき孫育て講座(3回連続講座)
- ・子育て親育ち講座(保育園・幼稚園・小学校 年 16 回)
- ②地域人材の育成
- ・甲賀市子育でサポーター養成講座(3回連続講座)
- ③家庭教育支援チームの設置・活動
- ・親子ふれあい音楽広場(年1回)
- ・家庭教育サポーター会議(年4回)
- ・はじめまして親子講座~赤ちゃんと遊ぼう~(年6回)

# 年1回) (年4回) また ** / しばで ** (ケロ)

【家庭教育サポーター会議】

# ■本年度の成果

- ①今年度の「子育て親育ち講座(保育園・幼稚園)」では昨年度より実施園が増え、「命の大切さ」「噛むことの大切さ」「絵本」「運動遊び」など多岐にわたるテーマで実施し、多くの保護者に家庭教育の大切さについて啓発できた。また、「いきいき孫育て講座」「親子ふれあい食育講座」では新たな内容を盛り込んだ。講座アンケートでも全体的に満足度は高い。
- ②子育てサポーター養成講座ではブックスタートサポーター10人、家庭教育サポーター5人の新規登録を得た。(全体登録者数:ブックスタートサポーター36人、家庭教育サポーター24人)
- ③家庭教育サポーター活動会議では、事業内容などの討議を行い、参加者ニーズを考慮した事業実施 につながっている。

### ■今後の課題

- ・事業数が多く、他部署の事業との兼ね合いもあるため、関係部署と連携し事業の整理を行っていく ことが必要である。
- ・サポーター登録されても諸事情で活動につながらないサポーターもおり、実働数は登録数より少ない。

#### ■その他

- ・甲賀市ホームページ 家庭教育支援事業の案内 http://www.city.koka.lg.jp/4273.htm
- ・甲賀市広報あいこうか (家庭教育啓発記事 隔月 15 日号) http://www.city.koka.lg.jp/kouhou/



## ■ 孫育てのコツ〜大切なのは祖父母の笑顔〜

■ 甲賀市			
■ 活動			
( 〇 ) 学習講座・行事の実施			
( 〇 ) 地域人材の育成			
( 〇 ) 家庭教育支援チームの設置・活動			
= = = = = = = = = = = = = = = = = = =	9講座(年間活動日数 50日)		
講座数(年間活動日数)	※打ち合わせ・会議等を除く		

コーディネーター数	2 人
家庭教育支援員数	25 人
実施開始年度(H23)	実施学校区数(5小学校区)

#### ■ 活動の概要

○学習講座・行事の実施

### 「いきいき孫育て講座」

時代や社会変化による子育て事情の変遷を知っていただきながら、祖父母世代の意識・ギャップの緩和をはかることを目的に平成 25 年度から実施している。昔話や家でできる遊びなどを通して親や孫とのかかわり方や子育て支援への理解を深める。3 回連続講座で実施。

10月31日(土)第1回「まずは笑顔で孫育て~自信を持って~」講師:山添 真寛さん

11月17日(火)第2回「安全・安心 子育て基礎知識」 講師:中嶋 雅美 主任教諭(こども未来課)

12月 5日(土)第3回「子どもの力、すてきだね」講師:東 紀子 参事(こども未来課)

開催地:甲南図書交流館(第1回、第3回)、甲南庁舎(第2回)

参加者数:第1回21人、第2回16人、第3回17人

#### ■ 特徴的な活動内容

今年度は甲賀市でセーフコミュニティ認証に向けての取り組みをしていることから、新たに子どもの安全について学ぶ回を設けた。講座では子どもの発達段階の変化で起こりうる事故についての講話や、屋内外の危険箇所についてグループワークを行い、危険箇所など共有した。また、人形劇を見て笑ってもらうことで、祖父母がいつも笑顔でいることの大切さや、実際に孫育て中の講師から自身の経験を交えた話や家でできる遊びや絵本の紹介などを通して、親や孫とのかかわり方を学んでもらった。

#### ■ 実施に当たっての工夫

・就労している祖父母世代の方も増えてきており、多くの方に参加していただけるように、一部開催日を土曜日に設定した。

#### ■ 事業の成果

- ・祖父母夫婦での参加や、孫はいないが関心を持って参加された方もおられ、祖父母世代の子育てへのかかわり方について広く啓 発できた。
- ・人形劇、紙芝居やグループワーク、絵本紹介や折り紙などを取り入れた講座は参加者アンケートでも好評であり、参加者の満足 度が高い講座を実施できた。

### (以下参加者アンケート一部抜粋)

- ・一歩引いて余裕を持って接することができるようにしたいと思います。
- ・ 笑顔の大切さ、分かっているけどもう一度考えたい。
- ・事例を自分たちで考え、共有できてよかった。
- ・危険箇所の再認識ができた
- ・孫とのかかわりでは、心の余裕を持って接していきたい。

### ■ 事業実施上の課題

- ・参加者が一部の地域に固まっているため、会場の場所や周知方法等さらに検討していく必要がある。
- ・グループワーク以外に参加者同士の情報交換の場を設けてほしいという声も上がったため、次年度以降検討したい。

### ■ その他 特に無し



【孫へのかかわり~一歩引いて受け止める~】



【折り紙で孫と遊べるグッズ作り】

# 湖南市における家庭教育支援の取組

### ■めざす姿

子どもたちにとって「家庭」は、安らぎのある楽しい場所であり、創造性や自主性、集団規範などの基本的な力を身につけて社会へ巣立っていくための基盤となる大切な場所である。しかし、現代社会の「家庭」は、多忙で孤立した状況の中で保護者が個別の責任において子育てを行っている状況がある。このことから、子育ての悩みを自由に語り合える場や人間関係を求めている保護者は、多く存在する。そのため、家庭教育支援活動では、家庭で子どもを育てることに「しんどさ」を感じている保護者に対して、それぞれの家庭がおかれている状況を踏まえ、共感しつつ相談・支援、学習講座を行っている。

### ■本年度の活動

- (1)支援チームの設置・活動
  - ①菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」…チームによる支援
    - コーディネーター(支援員) 1名 子育てサポーター 3名
    - ・不登校傾向や教室に入れないなどの児童の保護者支援(平成12年〜児童支援から実施)
    - 保護者対象に毎週水曜日 13:00~15:00「苦っこはうす」で「ほっとサロン」を開設
  - ②三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け 広義のチームによる支援

コーディネーター(支援員)1名…家庭への「訪問型支援」を実施

主任児童委員、地域総合センターのスタッフ 2名

- ・不登校傾向や教室に入れないなどの児童の個別対応と保護者支援
- ③石部小学校…チーム名「さんぽ」…チームによる支援

コーディネーター(支援員) 1名 子育てサポーター 2名

- ・保護者の悩みを少しでも取り除けるような交流による支援
- ・保護者対象に毎月10日、20日、30日 子育てサロン「さんぽ」を開設
- (2) 学習講座・行事等の実施

講演会の開催 27年11月18日(水)

講演(茶話会形式)「子育てについて話しましょう」 講師 石原 慶子氏 2月 三雲小学校においてPTA研修会と兼ねて実施

### ■本年度の成果

・支援員やスタッフは孤立している保護者と悩みを共有し、学校とも情報を共有し子どもへの支援 の糸口を見い出すようにし、学校での子どもの様子を保護者に伝え、学校、家庭の連携の有効な コーディネートを進めている。

#### ■今後の課題

- ・市内には、学校支援地域本部事業に家庭教育支援的な活動が位置付いている本部やコミュニティ・スクールがある。子どもへの対応について学校と支援員の共通理解を十分に図っていきたい。
- ・専門的な知識や豊富な実践経験をもつ講師を招聘する等魅力ある講座を企画し、子ども支援について研修できる機会をより多くの人に提供していく必要がある。
- ■その他 湖南市 HP http://www.city.konan.shiga.jp/

広報番組「きらめき湖南」平成27年11月放送分『楽しくて 力のつく湖南市教育』

## 親と子どもに寄り添い、見守り続ける 湖南市の家庭教育支援

# ■ 湖南市■ 活動名

- ( 〇 ) 学習講座・行事の実施
- ( 〇 )地域人材の育成
- ( 〇 )家庭教育支援チームの設置・活動

講座数(年間活動日数) 3講座 (年間活動日数45日)

#### *家庭教育支援チームの設置・活動*

### <菩提寺小学校> 毎週水曜日「ほっとサロン」の開催

### ■ 活動の概要

「ほっとルーム」のメンバーを中心に、子育てや親子間の 悩みや心配事を一緒に考える居場所作りと授業に入れない児童 に寄り添い、見守る活動を行っている。

# ■ 特徴的な活動内容 活動拠点の『菩っこは うす』において、学校課 業日の毎週水曜日の午後、 主に保護者を対象に「ほっとサロン」を開催。

事業開始前から子ども に寄り添う活動を行って ていた「ほっとルーム」 のメンバーが、本事業



【ほっとルームで茶話会形式講演】

の柱となって活動しているので、学校と家庭をつなぐ役目も 担っている。

### ■ 実施に当たっての工夫

今年度も参加の有無にかかわらず、毎週水曜日の午後に 「ほっとサロン」を開催していることにより、参加したい 人が参加したい時に気軽に訪れることができる。

支援員だけでなく以前から「寄り添い支援」で関わりのあったボランティアさんにサロン運営を手伝ってもらい、寄り添う 児童の様子を担任に伝え、家庭へと情報が行くようにしている。

### ■ 事業の成果

「ほっとサロン」を訪れた保護者は、雑談を交えながら日頃の不安や悩みを話すことにより、気持ちをリフレッシュさせて子育てに向かわれている。開催日に、下校途中の児童が『菩っこはうす』に立ち寄る、つかの間の関わりはコーディネーター、支援員と児童とのふれあい交流が生まれている。

### ■ 事業実施上の課題

「ほっとサロン」を今後も続けていくことに変わりはないが、 運営する側として、対応の仕方や事業実施の効果などを振り返 り見直すことも必要である。(参加者の固定化、参加者なしの日 が数回あることなど。)

#### ■ その他

平成12年からスタートした「ほっとルーム」。今後、一緒に活動してくれる人材が増えてくれることを願っている。

### <三雲小学校> 定期的な「訪問型家庭教育支援」の継続

### ■ 活動の概要

「みくもっ子支援委員会」の中に位置づけた家庭教育支援。 不登校傾向児童や教室に入れない児童の個別対応と訪問型による保護者支援を重点を置いて活動している。

### ■ 特徴的な活動内容

学校生活や放課後の時間を低学年児童と共に過ごすようにし

コーディネーター数	3小学校 各1人
家庭教育支援員数	3小学校 各2人
実施開始年度 (H24、26、27)	実施学校区数(3小学校区)

課題のある児童との関わりを深め、学校と家庭との連携を図っている。不登校傾向の児童においては、家庭訪問を含めた個別の支援を継続している。

#### ■ 実施に当たっての工夫

児童の支援にあたっては、常に学校、地域総合センター、主 任児童委員と情報を共有し、共通理解を図っている。

### ■ 事業の成果

校内外で児童の見守りを続けていることで、保護者から相談 を受ける件数が確実に増えている。また、定期的な訪問の継続 により不登校傾向児童の保護者との信頼関係も深まっている。

#### ■ 事業実施上の課題

家庭教育支援を充実させるため、未就園児からの関わり、関係機関との繋がりを広げ、さまざまな支援方法を検討していき たい。

### ■ その他

地域で育つ子どもたちを義務教育終了まで見守る家庭教育支援の体制を徐々に作っていきたい。

### 〈石部小学校〉 子育てサロン部屋「さんぽ」の開設

### ■ 活動の概要

学校・家庭・地域が連携して子どもたちの環境づくりを考え、 家庭でできる簡単な取組の提案や保護者の悩みを少しでも取り 除けるような交流の場、子育てサロン部屋「さんぽ」を設置。

(石部小学校学校応援団室)

## ■ 特徴的な活動内容

- ・子育てサロン部屋「さんぽ」の設置 毎月10日、20日、30日(休日と重なれば前後の日)。
- ・コミュニティだより「さんぽ」内で発信。 家庭で簡単に出来る取組紹介「challenge」のコーナー ・家庭教育支援アンケートの実施。
- 実施に当たっての工夫

子育てサロン部屋「さんぽ」は、子育てに悩む人だけの部屋ではなく、保護者同士が趣味を広げたり雑談をしながら交流を深めていけるような温かい雰囲気づくりを心がけている。

### * 学習講座・行事等の実施*

### *地域人材の養成*

#### ■ 活動の概要

参加者が自らの子育てについて研修する機会や、家庭教育を 支援する人材の育成のため、PTA等と連携して学習講座・行 事等を開催。

### ■ 特徴的な活動内容

- · 開催日 平成 27 年 11 月 18 日(水) 13:00~15:00
- 場所 菩提寺小学校「菩っこはうす」
- ·参加者 15名
- ・講師 石原 慶子氏(前 菩提寺小学校長) 「子育てについて話しましょう」

# 高島市における家庭教育支援の取組

### ■めざす姿

近年、少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹の数が減少し、保護者が子育てのスキルトレーニングがなされないまま親になることが多く、また、三世代同居や祖父母との関係性の低下、地域における人間関係の希薄化により、近所に気軽に子育ての悩みを相談できる相手がいなくなったために、地域で孤立する親が増えてきた。

このような状況を踏まえ、親子の絆づくり、祖父母や高齢者の子育てや地域の家庭教育支援を促進 し、教育の原点である家庭が、子どもの「生きる力」を育む場として機能することをめざす。

### ■本年度の活動

- ①高島市家庭教育支援チーム「パラソル」
- ・子どもの育ちを地域で見守っていくため、組織化した 家庭教育支援チームの支援活動を推進。月2回、子育 てひろばを開催し、子育てや家庭教育に関する相談対 応や学習機会の提供など、定期的な活動を実施。



【パラソルにおける座談会の様子】

- ②地域教育力向上講座「にこにこすくすく孫育て講座」
- ・退職シニア世代がゆとりの時間を生かし、孫育てや地域参画に対する関心を高め、地域で子育て支援や青少年育成に取り組む人材を育成するため、祖父母の役割や孫への関わりの持ち方を学ぶ講義など全5回の講座を開催。

### ③共育研修会

・地域ぐるみで子どもたちを健やかに育てる環境づくりを整え、様々な団体が連携・団結し、地域で子どもを育てる機運を高め、充実・促進させるため、社会教育団体関係者や学校関係者、PTA等を対象に研修会を開催。

### ④子どもにどうかかわりあうか講座

・市内の園・学校と連携し、公民館の出前講座として、 保護者を対象にその時期に大切にしたいことなど子ども の発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会 を提供し、家庭での教育力の向上をはかる。



### ■本年度の成果

【祖父母参観後「~学校・家庭・地域教育が共働することの意義」】

- ・講座や研修会では、親、祖父母、地域住民等、それぞれの立場で子どもとのかかわりを振り返る機会となった。
- ・子どもにどうかかわりあうか講座では地域の公民館と学校とが連携を図り、各学校が課題としている内容の講座を実施し、広く保護者に子どもとのかかわり合い方について提供した。

### ■今後の課題

- ・家庭教育支援チームの本来の存在意義についての意識改革
- ・共存する関係団体との協働体制

# 家庭と地域が、子どもの「生きる力」を育む場に

■ 高島市	
■ 活動	
( 〇 )学習詞	講座・行事の実施
( 〇 )地域。	人材の育成
( 〇 )家庭	教育支援チームの設置・活動
講座数(年間活動日数)	26講座(年間活動日数24日)

コーディネーター数	1 人
家庭教育支援員数	17 人
実施聯結束度(H26)	実施学校区数(14小学校区)

#### 【学習講座・行事等の実施】

### 共育研修会

#### ■ 活動の概要

- ・より良い家庭教育のあり方を考える研修会を開催。
- 特徴的な活動内容
  - ①日 時: 平成27年7月2日(木)10時~12時30分
  - ②内容:『一人でできる子が育つ「テキト一母さん」のすすめ』より
    - 講師 子育て本著者 立石 美津子 氏
  - ③参加者:保護者、一般市民
- 実施に当たっての工夫
  - ・子育て支援所管課との協働研修会として、広く子育て世代の保護者や子育て支援者の参加を図った。
- 【立石美津子氏 講演会】

・子どもの自己肯定感を育てることの重要性を学び、子どもの成長を他の子と比べることなく認めてあげることの重要性を再認識 してもらうよいきっかけとなった。また、市内図書館での講師出版本の貸出が伸び、家庭での学びを促す機会となった。

### 子どもにどうかかわりあうか講座

#### ■ 活動の概要

- 市内小中学校および幼稚園・保育園の保護者を対象に子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供。
- 特徴的な活動内容
  - ①実施期間:平成27年4月~平成28年3月
- ②対象:市内小中学校および保育園・幼稚園(私立を含む。)の保護者
- ③内容:各学校、保育園ごとにその課題に対し協議して実施
- 実施に当たっての工夫
  - PTA事業との共催や、授業参観に引き続いて行うなど、参加しやすい開催方法を心がけた。
- 事業の成果
  - ・普段は講演会等に参加されない方も参加ができ、その年代の子どもにどう関わっていくかの大切さを再確認する機会となった。

### 【地域人材の育成】

### 地域教育力向上講座「にこにこすくすく孫育て講座」

- - ・退職シニア世代を対象に孫育てや地域の子育てについて学ぶ講座を開催。
- 特徴的な活動内容
  - ・孫と過ごすために知っておきたい内容を全5回により実施。
- - ・受講者からは「子育てをしていた時代を振り返れた」「孫とともに成長していきたい」 などの感想が寄せられ、今後の孫育てや地域の子育てに役立ててもらえるものとなった。
    - 【孫育て講座

「孫育ては自分育て」】

- 事業実施上の課題
  - ・参加者が少なく、連続講座ではなく単発講座に切り替えて学びたい内容に参加していただく必要がある。

### 【支援チームの設置・活動】

#### 高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

- 活動の概要
  - ・家庭教育に関する相談対応や親子で参加する取組や講座などの学習機会の提供や相談会など家庭教育支援の拠点活動を行う。
- 特徴的な活動内容
  - ・毎月第2水曜日と第4土曜日に、「ひろばパラソル」と称し、子育てひろばを開催。相談対応については、話を聴くことを基本と して、チーム員自身の子育て経験等から対応し、困難ケースについては、専門機関に繋ぐこととしている。
- 実施に当たっての工夫
  - 毎月平日に1日、土曜日に1日活動を行い、幅広く支援ができるように努めている。
- - ・ひろば利用者のリピーターもおられ、保護者が子どものために来ていただく場となっていただいている方もいる。
- 事業実施上の課題
  - ・今後、子育て支援センターとの違いを出していく必要がある。



# 東近江市における家庭教育支援活動の取組

### ■めざす姿

【子育て中のすべての親への学習機会の提供をめざして】

東近江市では、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指している。

そこで、本事業では家庭で親子が共に学ぶことができるよう、親自身が家庭教育の意義や役割を学習 するための親の学び・家庭教育支援事業を実施し、家庭の教育力向上をめざし取り組んでいる。

特に、学校やPTA、コミュニティセンターの子育て支援講座などでは親の学びを支援する研修会が数多く開催されていることから、より多くの人を学びの場に取り込めるような工夫がなされた活動に対して支援している。

### ■本年度の活動

各幼稚園・保育園・子ども園、学校、コミュニティセンターと連携協力し、学習会や研修会、サロン型の学習交流会等の活動を実施している。

【平成 27 年度 家庭教育支援活動実施幼稚園、小中学校、コミュニティセンター一覧】

- 10月 八日市北小学校、市辺コミュニティセンター(平田コミュニティセンターと共催)
- 11月 船岡中学校、永源寺中学校
- 12月 愛東コミュニティセンター、永源寺中学校
- 1月 中野コミュニティセンター

(開催実施時期は、協力意向申出時のもの)

### ■本年度の成果

- ・小中学校から地域の拠点であるコミュニティセンターまで、幅広い支援ができている。
- 特にコミュニティセンターが主催の場合、保護者だけでなく地域の人たちも参加しやすくなるため、 市の目指す姿である地域全体で子どもたちを育む体制づくりへの基盤づくりができていると言える。

### ■今後の課題

- ・周知活動を、各施設に送るだけにしているためか、幼稚園・保育園からの意向が例年少ない。園長 会等を通じて周知を行い、幼稚園・保育園への支援も強めていきたい。
- ・参加している保護者の多くは家庭教育に熱心、あるいは関心のある人であり、忙しく、家庭教育にかける時間がない保護者の参加が見込めない。そのため、共働きの家庭などでも参加のしやすいよう創意工夫を凝らす必要がある。





【小西達也さんのトーク&ライブ(船岡中学校)】

# ■ 親子の共育ち活動の支援

■ 東近江市							
■ 活 動							
( )学習講座・1	<b>〒事の実施</b>						
( )地域人材の剤	( )地域人材の育成						
( 〇 )家庭教育支持	( 〇 ) 家庭教育支援チームの設置・活動						
講座数(年間活動日数)							

コーディネーター数	1 人
家庭教育支援員数	о Д
実施開始年度(H27)	実施学区数(2小学校区・2中学校区)、3施設

#### ■ 活動の概要

〇 学校、園、家庭、地域と連携協力し、保護者への学習の機会の提供や子育ての相談等を通して「親育ち」を応援し、子どもが 豊かな人間性を育みつつ、保護者自らも成長し、ともに安心して暮らせる環境づくりを目標に活動。

### ■ 特徴的な活動内容

〇 保護者や地域の人々を対象にした親子参加型の学習会やサロン型の学習交流会、講師を招いた研修会などの実施を呼びかけ、 意向のあった学校、園、施設への支援を行った。

### ■ 実施に当たっての工夫

- 各施設に案内を送り、年度初めの早い段階から呼びかけを行った。
- 〇 補助の対象を講師謝礼、消耗品費、託児保育料としたことで、研修会や学習会を行ううえでのネックとなりうる資金運用の面での不安を取り除いた。
- O 申請書の作成などにおいて、担当者と連絡を取り合い、開催にあたっての助言を行うことで、担当者の事務的負担を減らし、 事業に集中していただいた。

### ■ 事業の成果

- 職員会議等で周知を行った結果、コミュニティセンターからの申請が増えた。
- 事務的負担を減らし、事業の開催に集中していただいた結果、質や満足度の高い研修会や学習会を開催していただくことができた。

#### ■ 事業実施上の課題

○ 参加する保護者や地域住民の多くは家庭教育に対して熱意、あるいは関心のある人で、忙しく、家庭教育に関心を向ける時間 のない保護者や地域住民の参加が見込めないため、より多様な人の参加を促すような工夫が必要である。

### ■ その他

〇 当事業の推進により、親子共々生きる力・学ぶ力を育み、生涯教育へと発展していくように今後も学校、家庭、地域の連携協働をコーディネートしていけるよう努めたい。



【カラーセラピストの講演】 (愛東コミュニティセンター)



【ジェリービーンズの演奏】 (愛東コミュニティセンター)

# 日野町における"地域で子育て"青少年健全育成の取組

### ■めざす姿

子どもは地域の宝であり、地域で優しく見守られながら育っていくことが望まれている。しかし、近年は子どもや地域を取り巻く生活環境の変化等により、個々の関係性が希薄化し、昔のような地域の人・モノ・資源との関わりが少ないまま成長している子どもが少なくない。

そこで当町では「地域で子育て」という誰にでも分かりやすい メッセージを発信し、次代を担う子どもたちを地域全体で関わり 育てるという意識を浸透させるとともに、学校・家庭・地域・行



【地域子育てフォーラム】

政の連携のもと多くの方が関わるなかで、子どもたちが地域の愛情を感じながら心豊かに成長すること を目指している。

### ■本年度の活動

小学・中学・高校生らの思いの発表の場である青少年意見発表大会の開催に合わせ、「日野町地域子育てフォーラム」を開催した。フォーラムでは『地域で子育て』をテーマに町内で積極的に子どもたちの支援活動をされている地域団体の先進事例の発表とパネルディスカッションを行い、地域子育ての機運を高めてきた。

### ■本年度の成果

「日野町地域子育てフォーラム」は、行政のほかに学校やPTA、地域団体など青少年に関わる諸団体が連携して取り組むことができ、参加した地域の大人に地域でできる関わりや役割についての議論を深めることができた。また、「家庭で大切にしたいわが家の1か条」や青少年健全育成啓発標語の取り組みにより「地域で子育て」の意識向上が広く地域住民に広がってきた。

### ■今後の課題

子どもが健全で心豊かに育っていくには、大人が子どもに寄り添い、表情や言葉に耳を傾け、子ども の心を読み取る心掛けが必要である。そして、子どもを気づかい、それぞれの家庭で親子のふれあいを



【地域の先進事例の発表】

大切にし、社会のルールやマナーなどの基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、地域でも家庭教育の補完的要素を教えるなど、地域とのふれあい体験活動など実践していくことが望まれている。

また各種の事業実施とともに、地域全体での子育て環境のあり方 を見直すことの重要性について、今後も継続的に議論していく必要 がある。

## ■ "日野のたから"を未来につなぐ 心豊かでたくましい人づくり

■ 日野町								
■ 活動								
( 〇 )学習講座・1	( 〇 ) 学習講座・行事の実施							
( 〇 ) 地域人材の剤	( 〇 ) 地域人材の育成							
( )家庭教育支援チームの設置・活動								
講座数(年間活動日数)								

コーディネーター数	1 人
家庭教育支援員数	8 人
実施開始年度(H22)	実施学校区数(5小学校区)

#### ■ 活動の概要

就学前学習講座 (5講座)、PTA等子育て学習会 (10講座)、子育てサロン学習会 (5講座) を実施している。

また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議(6回)、子育てサポーター会議(5回)を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座(3回)を平成28年2~3月に予定している。

### ■ 特徴的な活動内容

学習講座は、家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校などに保護者が集まる機会(授業参観、1日入学など)に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。



【 就学前学習講座 】

#### ■ 実施に当たっての工夫

子育て応援通信(広報紙)「ゆっくりおおきくなあれ」(毎月1日発行)を庁内の子育て関係課(日野町子育て支援チーム)が連携して発行している。内容は町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士が子育てで気をつけたいことの紹介などであるが、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、家に閉じこもりがちな親子が外出し、地域とふれあうことで少しでも育児の悩みや不安を軽減できるよう、昨年に引き続き 地域で活動されている子育てサロンと連携し「子育てサロンスタンプラリー」を開催している。このことが子育てサロン同士の連携 や参加者の増加、各種の学習会への参加機運が高まりにつながっており、効果を上げている。

### ■ 事業の成果

### 〇就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、1日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの気持ちを理解することや子どもへの寄り添い方が勉強になった」など概ね高評価を得ている。

### OPTA等子育て学習会

実施単位をPTAにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護 者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

#### 〇子育てサロン学習会

対象はサロンに通っている主に在宅で子育てをされている保護者であるが、幼稚園(保育所)に通わせている保護者と比べ、保育士などの子育てについて相談できる子育て支援者が少ないことから、日頃の育児不安や悩みの解消に向け貴重な学習機会となっている。

#### ■ 事業実施上の課題

#### 〇各種学習会

保護者の参加しやすいよう学校事業に合わせて実施しているが、地域によって参加率に差がある。

在宅子育て中の保護者の中で子育てサロンに参加していない保護者に対する学習機会の提供方法や参加してもらうまでの誘導策については検討が必要。

### ○子育てサポーターの育成

ここ数年子育てサポーターの人員増が進まず、固定化されたメンバーとなっている。 養成講座は受講されるもののサポーターとして登録・活動されるに至らない場合もあ り、より多くの方に受講してもらうことはもちろん、受講後のサポーター育成にも力 を注いでいく必要がある。



【 子育てサロン学習会 】

# ■ 竜王町における取組(家庭教育支援事業)

### ■目指す姿

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を 自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、幼小中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努め、子どもの夢と希望を育む。

### ■運営委員会の設置

委員会名称	竜王町家庭教育支援運営協議会		開催数		2	17,19	<b>長員数</b>	10	
	氏 名 所属·役職等				氏 名		所属・役職等		
	寺嶋 恭子	幼稚園教頭 西幼稚園教頭 小学校教頭			市岡 知樹		幼稚園PTA会長		
<b>表</b> 吕夕答	冨田 綾子				西畑 徿	t .		西幼稚園PTA会長	
委員名簿 	関谷 典子				西村 実			小学校PTA会長	
	新庄 証	西小学校教頭			谷口 智	洋		西小学校PT	A会長
	武久 雅則	中学校教頭			畑 信好		中学校PTA会長		

### ■本年度の活動

講師等との事前打合せ(意見交換) 参加のためのチラシ作成と啓発活動 3月中旬 次年度事業内容の検討会

### ■本年度の成果

「楽しもう!夢と希望を育む子育てを。語り合おう!親育ちのために」をスローガンに開催した町全域を対象とした教育フォーラムでは、学区や学年を超えた互いの情報交換等を行い、地域や関係団体との連携を深めることができた。

また、各学校園単位で学習講座・行事を開催することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりやこれからの子育てに生かしていただくための支援をすることができた。

### ■今後の課題

学習講座等の参加者がまだまだ少ないので、周知方法など参加者を増やすための対策を検討していく必要がある。

# **■ 子どもたちの夢や希望を育もう!**

	竜王町			
	活動名			
	(	0	)学習記	<b>講座・行事の実施</b>
	(		)地域,	人材の育成
	(		)家庭	教育支援チームの設置・活動
講座	<b>座数(年</b> 間	<b>『活動</b>	動日数)	フ講座

コーディネーター数	3 人
家庭教育支援員数	10 人
実施開始年度(H22)	実施学校区数(2小学校区)

#### ■ 活動の概要

〇子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

〇町内のPTAが一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深める中で地域の教育力を醸成させる。

### ■ 特徴的な活動内容

#### 【竜王幼稚園】

### 〇お弁当作り講習会

9月3日(木)、10日(木) 開催。対象は3歳児保護者。3歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちへの「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもの喜ぶお弁当」「簡単に作れておいしいおかず」「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供すると共に、子どもへの食を通しての子育てに生かす。



【竜王幼稚園『お弁当作り講習会』】

#### 【竜王小学校】

〇子育て講演会『スマホやネットに潜む危険~仕組みを知って被害を防ごう~』

10月17日(土)開催。対象は4年生~6年生児童、教職員、保護者。昨年度に引き続き、子どもから大人までが知らないうちに被害者にも加害者にもなり得るインターネット上での様々な問題について話を聞き、今後の子育てに生かすため、今年度も開催した。

#### 【竜王西小学校】

#### 〇子育て教育講演会

10月26日(月)開催。対象は小学生、保護者、教職員。「夢をもって学ぶ子」「相手のことを思いやれる子」「いじめを許さない子」に育つにはどうすればよいか、人権ライブを通し学習した。

### 〇竜西フェスティバル

11月7日(土)開催。対象は小学生、保護者。地域を題材にした大型の紙芝居の朗読を通して、地域の文化や歴史を学び、郷土を愛する心情を育てる。また、ダンスや科学実験などを親子で参加体験し地域の人との交流を深める。



【竜王西小学校『竜西フェスティバル】

### 【竜王町教育フォーラム 2015】

11月21日(土)開催。対象は保護者、教職員。平成27年度竜王町PTA連絡協議会がかかげる「楽しもう!夢と希望を育む子育てを。語り合おう!親育ちのために。」のスローガンに基づき、子どもたちの夢や希望を育み、親が育つための研修会を実施。

### ■ 参加者の主な感想

- O10 月 17 日竜王小学校で開催した子育て教育講演会では、保護者も実際にスマートフォンの正しい設定をしながら聞くことができ、我が子のことは勿論、自分自身の問題と捉えられた方が多かった。感想には「とても参考になりました。今後、親としての教育の参考とさせていただきます。」「スマホは必要ないと思っていましたが、親も実際に持ってみて、スマホのことをもっと知らなければと思いました。大変良かったです。」等たくさんあり、講演を聞きながら驚きの声や、親より色々知っている子どもの声を聞き、危機感を持たれた保護者がたくさんおられました。
- 〇10月26日竜王西小学校で開催した教育講演会では、「色んな話しが聞けて、心の底にストレートに感じることが出来ました。心に入ってきすぎて、途中涙が出そうになるくらいでした。これから先、自分の子どもが心に傷を負い、何かあったときにも、親として自分の子どもを守っていけるよう強くなりたいと思いました。」等の感想をいただきました。

### ■ 事業の成果と今後の課題

〇子どもだけでなく大人も被害にあわないために、保護者自身に今一度考え直し、今後の子育てに活かしてもらえるとてもよい講演会だった。保護者の参加が少なかったのは残念だが、今後もこうした子育て教育講演会を繰り返し続けて行きたい。

○親子で一緒に話を聞く機会を持ったので、家庭でも学んだことを生かしてほしい。

# 平成27年度 土曜日の教育支援事業一覧

「学ぶ力」学習支援型:2市1町3教室 体制構築型:3市1町35教室

市町名	教室数	活動名	実施場所	「学ぶ力」 学習支援型	体制構築型	委託	委託団体名
彦根市	1	土曜教室「てみる」	中央中学校	0		0	NPO法人 Links
		水口中央公民館親子ふれあい講座	水口中央公民館		0		
		水口中央公民館子ども公民館講座	水口中央公民館		0		
		土山中央公民館親子ふれあい講座	土山中央公民館		0		
		土山中央公民館子ども公民館講座	土山中央公民館		0		
甲賀市	10	かふか生涯学習館親子ふれあい講座	かふか生涯学習館		0		
中具川	10	KOKA楽こども公民館	かふか生涯学習館		0		
		甲南公民館親子・家族のわくわく講座	甲南公民館		0		
		甲南公民館子ども体験講座	甲南公民館		0		
		信楽中央公民館親子食育講座	信楽中央公民館		0		
		信楽中央公民館子ども講座	信楽中央公民館		0		
		いしべっ子学習教室	石部小学校・石部まちづくりセンター	0			
		さんさん教室	夏見公民館•柑子袋公民館		0		
		ひがしっ子教室	三雲児童館・三雲まちづくりセンター		0		
		岩根小土曜教室	岩根小学校		0		
<b>***</b>	10	菩提寺学区 土曜日教室	菩提寺まちづくりセンター		0		
湖南市	10	菩提寺学区 土曜日事業	菩提寺まちづくりセンター		0		
		しもしょう サマースクール 2015	下田小学校		0		
		みとっこ宿題応援隊	市民学習交流センター		0		
		甲西北中学習教室	甲西北中学校		0		
		日枝中学校土曜日事業	下田小学校・市民学習交流センター		0		
		そろばんクラブ	蒲生コミュニティセンター		0		
	9	蒲生野太鼓わらべ組	蒲生コミュニティセンター		0		蒲生地区 地域教育協議会
		マックスダンス (初級)	蒲生コミュニティセンター		0		
		マックスダンス (中級)	蒲生コミュニティセンター		0		
東近江市		マックスダンス (上級)	蒲生コミュニティセンター		0	0	
		ITキッズクラブ	蒲生コミュニティセンター		0		
		KIDS FLOWER	蒲生コミュニティセンター		0		
		陶芸クラブ	蒲生コミュニティセンター		0		
		囲碁・将棋クラブ	蒲生コミュニティセンター		0		
		和太鼓クラブ	竜王町公民館		0		
		絵画クラブ	竜王町公民館		0		
		宇宙科学クラブ	竜王町公民館		0		
竜王町	7	チャレンジクラブ	竜王町公民館		0		
		料理クラブ	竜王町公民館		0		
		書道クラブ	竜王町公民館		0		
		吹奏楽教室	竜王町公民館		0		
多賀町	1	土曜講座(サタスタ)	あけぼのパーク多賀	0		0	株式会社ケイ・エム・ ジーコーポレーション
計	38			3	35		

# ■ 彦根市における土曜日の教育支援の取組 (「学ぶカ」学習支援型)

### 持続発展教育(ESD)持続可能な社会・時代を担う彦根の子どもを地域のみんなで守り育てます。

### ■めざす姿

〇地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の参画により、土曜日に体系的・継続的なプログラムを計画・実施する取組を支援し、教育支援体制の構築を図ることにより、子どもたちにとってより 豊かで有意義な土曜日を実現する。

### ■本年度の活動 彦根市学校支援地域本部事業 [学ぶ力を育てる土曜学習支援]

土曜学習支援:中央中学校で実施する。学び育ち教室 Learning Links の発展としての位置付け。

〇「土曜教室 てみる」― 子どもの「〇〇てみる」を応援する。

彦根市立中央中学校における土曜教室を開講。大学生や地域社会人らによる学習補助やコミュニケーションを通じて、子どもたちの学びへの動機づけ(来てみる・やってみる・失敗してみる)や将来のロールモデルを見つけることをねらいとする。

### 〇活動内容

- ・開講日 第1および第3土曜日の月2回(プログラムを施行しながら内容の充実を図る。) 9月5日(土)よりスタートする。20名1クラスで、子ども2人に推進員1名配置。授業の 最初にはプリント学習で気持ちの準備を図る。プリントの後、各自の宿題・課題・ワークブ ック(学校支給のものが良い)を行う。
- ・時間割の例 ①プリント学習(漢字検定/数学検定)と答え合わせ(20分) ②学習時間(40分)③休憩(10分)④学習時間(40分)⑤サポーターとの交流活動(10分) ※クラス終了後、サポーター間の振り返り(30分)
- 〇実行委員会の開催(年3回) 構成委員:16名(各中学校長、地域コーディネーター、土曜学習コーディネーター、彦根市PTA連絡協議会会長)

事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)

8月4日(火)事業説明・実践交流 11月30日(月)研修会・実践交流 3月 実践報告会

- ○学校訪問 11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ■本年度の成果
- 〇個別指導をベースとしたきめ細やかな指導ができた。それぞれの生徒のニーズ、スピードに応じた 学習活動が展開できた。
- 〇学習支援者の真摯な指導姿勢により、充実した学習支援活動が継続できた。
- ○土曜学習コーディネーターの連絡・調整により計画的な取組が展開できた。
- ■今後の課題

〇事業を支える支援ボランティアの確保(学習支援に係る学生ボランティア等)人材バンクの整備

### ■その他

〇彦根市ではESD(持続発展教育)教育、持続可能な社会を担う 人づくりを進めている。さらに「地域とともにある学校」の創造 にも力を入れている。今後、コミュニティ・スクールとの一体化 を視野に入れた取組・地域で学校を支える仕組みづくりについて、 さらに整備・検討していきたい。



【土曜教室てみる】

# ■ 土曜学習支援「土曜教室 てみる」 (中央中学校)

■ 彦根市							
■ 活動名							
土曜教室「てみる」(「学ぶ力」学習支援型)							
年間開催日数	13日						

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	9 人
子どもの平均参加人数	8 人

#### ■ 活動の概要

生徒の土曜日の教育環境の充実に取り組む「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」として、彦根市内中学校に先駆けて今年9月から土曜学習支援「土曜教室 てみる」をスタートした。この教室は、学校の教員ではなく、土曜教室コーディネーターと地域の大学生や社会人による教育推進員が運営している。生徒たちへの学習補助や推進員との対話を通じて、学びへの動機付け(来てみる・やってみる・失敗してみる)や将来になりたい姿を見つけることをねらいとしている。

#### ■ 特徴的な活動内容

学習補助による基礎学力の定着と対話によるコミュニケーション能力・社会性の向上を目的に、授業教材・ワーク、プリントを使った自主学習をベースにわからない箇所の指導をしている。生徒の状況を見ながら、国際理解に役立つ学習活動やワークショップ等の生徒間交流も予定している。

### ■ 実施に当たっての工夫

多くの生徒に参加機会を与えるために、前期8回(9~12月)、後期5回(1~3月)に分けて参加生徒を募集している。 学習面では、教室の最初に100マス計算や漢字検定プリントを行い、学びへのウォームアップをしている。また生徒の個別ファイルをつくり、教室で使ったプリントなどをその場でファイルさせ、自身の学習記録として保存している。1日の学習計画として、プリント→宿題・ワーク40分→休憩10分→宿題・ワーク40分→対話としているが、生徒のコンディションに合わせて時間配分・学習内容を決定している。

学校での教員と生徒の関係ではない、いわゆるナナメの関係で接することが大切である。生徒と推進員との人間関係を築くために 双方が名札を着用する。名札には「好きなこと、はまっていること」などを記載し互いを知るツールとして使っている。関係性が浅い時点では、生徒のことを質問するのではなく、先に推進員が自己開示するなど安心感を与えることが大切である。学習指導ではあるが、「~しなさい。」という強制はせず、「~してみる?」という声かけで子どもの自主性を促すことに努めている。

#### ■ 事業の成果

前期講座の定員を20名としていたが、実際は10名の参加であったため、推進員とマンツーマンでの学習指導となり、生徒にとって充実した学習の場になった。腰のヘルニアのため、長時間学校で学習できない生徒の学力補充をする機会にもなった。

#### ■ 事業実施上の課題

土曜日午前中の教室で、部活動があるため参加したくてもできない生徒がいる。また、地域人材を活用して推進員を集めるのは大変であり、コーディネーターのつながりで集めた。後期の参加生徒が増加すると、推進員を増員する必要があるので、その人員確保が大変である。生徒への学習指導を考えると、推進員の人数も大切であるが、あわせて指導力を充実させることも必要である。



【感想・意見】

前期参加者アンケートの結果(%)

1よくあてはまる 2ややあてはまる 3あまりあてはまらない 4全くあてはまらない

【質問内容】	生 徒				保護者			
	1	2	3	4	1	2	3	4
開催日時はよかったですか。	43	43	14	0	71	29	0	0
学習内容はよかったですか。	57	43	0	0	33	67	0	0
参加してよかったですか。	57	29	14	0	86	14	0	0





【土曜教室てみる・学習の様子】

〈生 徒〉・家だとなかなか勉強しないので、土曜教室に参加してわからない所を教えてもらって少しずつできるようになった。

・土曜教室のおかげで、学校で話す人や自分なりの行動が増えました。これから人との関わりを増やしていきたい。

〈保護者〉・大学生の方と関わることで、将来のイメージにもつながる機会となり、家でも話をしてくれています。

・土曜日に制服を着て学校へ行って勉強をする習慣は良いと思います。また塾に行かせられる経済的な余裕はなく、夜遅く女の子1人行かせなくてもよいので、家庭にとってはありがたい教室だと感謝しています。

# ■ 甲賀市における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型)

### ■めざす姿

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。子どもと地域との交流、連携、学習意欲の向上、仲間づくりを図り、学習を生かす機会を提供することによって、社会還元を促す。

### ■本年度の活動

地域の多様な経験や技能を持つ人材・高等学校・企業等の協力を得ながら、土曜日、休日に各地域の 公民館において、親子教室や子ども教室を開催した。

担当職員を対象に企画から事業評価まで、事業実施に向けて研修を行った。

### ■本年度の成果

子どもたちの安全・安心な居場所づくりができた。地域の方々の参画を得て、地域交流が図れた。

### ■今後の課題

広報紙や学校を通じてチラシを配付しているが、参加者が少ない教室もあり、チラシ作成の工夫、啓 発活動の工夫が必要である。

また、子どもたちにとってより豊かな魅力ある事業の展開が必要である。

さらに、地域の人材発掘、人材育成にも力を入れたい。

### ■その他

市内公民館合同で、毎年、「夏休み工場見学」を実施している。子どもたちが市内の工場や施設を見学し、企業を知ることで将来への幅を少しでも広げてもらうことができ、また、地域を学ぶことで郷土愛を育む機会となるよう企画した。

また、毎年 10 月の土曜日に企業や高等学校、シルバー人材センター等の協力を得て、いろいろな体験コーナーを設け「まなびの体験広場」を開催している。

甲賀市URL: http://www.city.koka.lg.jp/





【まなびの体験広場 2015 (平成 27年 10月 10日開催)】

## ■ 親子でさまざまな人、ものとふれあうよい機会となりました!

	甲賀市		
	活動名		
	水口中央公民館	親	子ふれあい講座(体制構築型)
	年間開催日数		7 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	10 人

#### ■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

### 【主な活動内容】

ポーセラーツ(自由な発想で楽しむ磁器上絵付け)

天体観測

図書館を探検

ニュースポーツ体験

指で描くクリスマスカード

親子でクッキング

#### ■ 特徴的な活動内容

甲賀市内の小学1年生から3年生の子どもとその保護者(親子)を対象としている。

### ■ 実施に当たっての工夫

講師は、できるだけ甲賀市教育人材バンク登録者や自主学習登録団体、または地元の方にお願いするようにしている。

#### ■ 事業の成果

各講座とも、親子で楽しく活動できている。

保護者の方にとっては、普段の生活ではなかなか見られない子どもの様子や、自分が思ったより成長している我が子の姿を実感できる場ともなっているようである。

講師の方も、ご自身が学習する機会ともなっているようで、たくさんの子どもたちとふれあえる貴重な体験であったとお聞きしている。

### ■ 事業実施上の課題

参加対象となる子どもたちも、いろいろな学校行事や地域の行事、その他さまざまな活動がある。それらとの兼ね合いをどうしていくか、また、より魅力のある講座をどのように開催していくかが課題である。



【親子で相談しながら・・・(ポーセラーツ)】



【実際見る前にプラネタリウムで予習! (天体観測)】

# ■ 子ども自身も「成長」を実感できる講座に!

甲賀市		
活動名		
水口中央公民館	子ども公民館講座(体制構築型)	
年間開催日数	8日	

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	10 人

### ■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育む。

#### 【主な活動内容】

さつまいもを植えて、育てて、収穫して、料理する講座

夏休み・冬休み宿題お助け講座(統計、粘土工芸、コラージュ、書き初め)

### ■ 特徴的な活動内容

甲賀市内の小学4年生から6年生の子どもを対象としている。

### ■ 実施に当たっての工夫

「さつまいも」に関する講座は、一貫性のあるものとすることで、「いろいろなことがつながっている」ということを、身をもって体験してもらうことができた。また、多種多様なことが体験できた。

講師は、できるだけ甲賀市教育人材バンク登録者や自主学習登録団体、または地元の方にお願いするようにしている。 滋賀県が実施している出前講座も取り入れた。(滋賀県統計課・しが統計キッズクイズ、県立近代美術館・コラージュ)

### ■ 事業の成果

各講座とも、子どもたちは楽しみながらもしっかりと学ぶことができた。 子どもたちも実際にいろいろ体験する中で、良い感性を磨くことができた。

### ■ 事業実施上の課題

参加対象となる子どもたちも、いろいろな学校行事や地域の行事、その他さまざまな活動がある。 それらとの兼ね合いをどうしていくか、また、より魅力のある講座をどのように開催していくかが、課題である。



【まずは畑の草引きから!(さつまいも)】



【何を貼り付けようかな? (コラージュ)】

# ■ 親子の「知りたい」「学びたい」をお手伝い

甲賀市土山町	
活動名	
土山中央公民館 親	子ふれあい講座(体制構築型)
年間開催日数	4日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	8 人
子どもの平均参加人数	15 人

### ■ 活動の概要

親子で、力を合わせて「ものづくり」通して絆を深める。

### ■ 特徴的な活動内容

作品制作 (陶芸体験) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5月 17日 (12名) 作品制作 (竹細工つくり)・・・・・・・・・・・・・ 7月 11日 (9名)

作品制作(木工クラフト)イスつくり ・・・・・・10月24日 (中止)

おかしづくり (クリスマスケーキのデコレーション)・・・11月21日(24名)

作品制作(エコクリスマス飾り)・・・・・・・12月12日(10名)

#### ■ 実施に当たっての工夫

ものづくりを通して環境学習やリサイクルの学習をしている。特に人気があったおかしづくりでは、子どもたちも大変興味をもち定員オーバーでキャンセル待ちの盛況であった。参加した親子に何がしたいか聞き取り次回の講座の参考にしている。

#### ■ 事業の成果

参加者はどの事業についても大変楽しんでいた。特に作品制作やおかしづくりは、少し難易度をあげ親子で協力し、絆を深められた。また、一度参加された親子は継続して次回の事業にも参加していただく傾向もあった。

### ■ 事業実施上の課題

一度参加されると講座の雰囲気にも慣れ次の講座にも参加しやすくなるが、まずは第一歩を踏み出していただけるように周知の方法 を考える必要がある。また近年の少子化やスポーツクラブへの参加等で参加される子どもが減少傾向にある。



【竹細工つくり】



【ケーキのデコレーション】

# ■ あいの土っこ"きらねっ人"いきいき活動

甲賀市土山町		
活動名		
土山中央公民館	- ども公民館講座(体制構築型)	
年間開催日数	10日	

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	32 人
子どもの平均参加人数	14 人

### ■ 活動の概要

地域の大人が指導者・スタッフとなり、さまざまな体験活動を行っている。

#### ■ 特徴的な活動内容

特産品や季節に応じたおやつづくり(いばらだんご、イチゴ大福、クレープ)

作品制作(折り紙、紙ブーメラン、スライム、ストロ一飛行機、絵手紙)

ふれあいあそび(おじゃみ、輪投げ、けん玉、カロム、布製オセロ、坊主めくり)

### ■ 実施に当たっての工夫

ボランティアバンクに 32 人の登録があり事業への参加はその都度登録者に案内し、協力を求めている。 また、保護者に送迎をしていただいている。子どもが参加しやすいように4つの公民館や町内の公共施設を巡回して開催実施している。文化祭や宿場まつりなど地域での事業にも協力して参加者が増えるようにしている。

## ■ 事業の成果

特に夏休みのあそびのひろばでは、長期休暇中に友達と出会えて楽しく過ごしておられた。参加児童も多く休日の受け入れとしてまだまだ必要であると考える。

### ■ 事業実施上の課題

年々、参加者が減少傾向にあり、内容のマンネリ化も課題のひとつである。地域のヒト・モノを活かしながら、新しい体験活動(メニュー)を取り入れるなどの工夫が必要である。また、ボランティアが高齢化しており人数も減少傾向にあり、新しいボランティアの育成が必要である。



【折り紙(区民祭)】



【おじゃみ (あそびのひろば)】

# ■ めざせ! 天文はかせ(こども天文クラブ)

■ 甲賀市		
■ 活動名		
KOKA楽こども公民館「こども天文クラブ」(体制構築型)		
年間開催日数	8日	

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	25 人

#### ■ 活動の概要

天文知識の向上と仲間づくりを目的とし、子どもたちの交流を図りながら併せて環境問題についても考える機会とする。

#### ■ 特徴的な活動内容

天体観望・・・・・西日本最大級の屈折型天体望遠鏡を使い、太陽系内外の惑星・恒星の観望や季節の星座について学ぶ。

流星群観察・・・・8月のペルセウス座流星群を親子や友達などと一緒に観察する。

市外研修・・・・大津市科学館、名古屋市科学館のプラネタリウムや館内展示などを見学する。

クラフト工作・・・太陽系の惑星や月、人工衛星、星座早見盤などのペーパークラフトを作る。

#### ■ 実施に当たっての工夫

当館で定期的(月1回)に開催している天体観望会にも将来スタッフとして協力いただけるよう、新たな人材育成の場としても位置付けている。また、市外研修など当施設外での活動を実施する場合は、2~3人一組でバディを組んだうえでグループ行動をさせるなどし、事故の未然防止を図るよう注意している。さらに、毎回天体に関するミニ知識を記載したものや黄道十二星座を記載したものを出席カードとして参加者に配付、すべて参加した受講者にはささやかなプレゼントと表彰状を渡すなど、子どもたちの学習意欲を喚起するような工夫もしている。

### ■ 事業の成果

毎年50名前後の受講申込みがあり、当館では最も人気の高い講座である。当講座は市内では当館のみで開催しており、受講者は 学区内にとどまらず市内の広範囲に渡るため、多くの小中学校の児童・生徒が交流できる貴重な機会ともなっている。

### ■ 事業実施上の課題

天文現象は深夜から未明にかけて出現することが多いが、小中学生を対象とした事業であることから、観測に適した時間に開催することは困難である。また、内容的に比較的高度な専門知識を必要とするが、今後も安定的に事業を実施していくには、新たな指導者・スタッフなどの人材育成を図る必要がある。市内や近隣の高校の科学部(天文同好会)などに呼びかけ、生徒にスタッフとして参画いただくような方法も模索している。



【大型天体望遠鏡での月の観察】



【クラフト工作(地球儀づくり)】

## ■ 親子・家族のわくわく講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	
甲南公民館 親子・家	族のわくわく講座(体制構築型)
年間開催日数	1日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	12 人

### ■ 活動の概要

親子・家族で生活・自然体験を通じ、親子・家族の絆を深め、さらに参加者同士の交流を促し地域の絆を深める。また、公民館が実施する家庭教育支援に位置づける。

### ■ 特徴的な活動内容

料理づくり

### ■ 実施に当たっての工夫

子どもの自主性、自立心を向上させるため、子どもが主体的に活動し、大人はサポート役で参加できるよう事業展開している。例えば、包丁を使う作業のように、危険だから親が全てをするのではなく、子どもができること親がしなければならないことを講師と事前に打ち合わせている。

### ■ 事業の成果

アンケート結果から、「いつもとは違う子どもの姿が見られた」や「親子で参加してよかった」などの声が聞かれ、また、事業継続を 希望する意見が多数あった。子どもは自立と自信を高め、子どもができないことを親がするとき尊敬の感情が見られたことから、親子 の絆を深めるよい機会であった。

### ■ 事業実施上の課題

親子関係がある程度成熟していると思われる親子・家庭の参加が大半であり、参加しづらい親子・家庭に対する家庭教育支援をどのように実施していくべきかが課題である。





【料理づくり】

## ■ 子ども体験講座

	甲賀市				
	活動名				
	甲南公民館 子と	ごも体験講座(体制構築型)			
年間開催日数		8日			

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	16 人

#### ■ 活動の概要

生活・社会体験を通じ、子どもが心身ともに健やかに成長していく上で大切なコミュニケーション能力や協調性を育む。また、公民館が実施する子ども教育支援に位置づける。

### ■ 特徴的な活動内容

科学 ものづくり 料理 音楽祭

### ■ 実施に当たっての工夫

町内児童・生徒の手に行き渡るよう、学校と連携しチラシを配布している。講座内容について、夏休みの宿題に参考となるようなクラフト等を実施し、また、講師は当公民館の自主活動団体に依頼し、地域づくりに向けた人材育成の一面も持ち合わせている。

#### ■ 事業の成果

中高生対象事業に取り組めていなかったことから、音楽活動(社会体験活動)を通じた社会教育という位置づけで「クリスマス音楽祭」を実施した。参加者による実行委員会方式で企画運営し、「誰かにしてもらう」ではなく、「自分でする」ことを重要視し、主体性や協調性を育むことができた。また、出演だけでなく、音響照明のスタッフとしての参加があり、職業体験を通じた「生きる力」を身につける貴重な機会でもあった。

#### ■ 事業実施上の課題

限られた財源の中から事業化していく必要があることから、事業に携わっていただける市民を育成するのが急務である。生涯学習を通じたまちづくりという理念のもと、そのための政策として市民大学や講座があるという体系を、行政だけでなく市民に浸透させることが課題である。



【親子料理】



【イスつくり】

### ■ 遊陶里カレッジ

甲賀市		
活動名		
信楽中央公民館	親子食育講座	(体制構築型)
年間開催日数		1日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	9 人

#### ■ 活動の概要

- ・食に対する適切な判断を養うことで健全な食生活を送り心身の健康と豊かな人間性を育む。
- ・食生活が自然の恩恵の上に成り立っており、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることに感謝し理解を深める。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### • 収穫体験

自分たちが食べる学校給食の材料 (にんじん) を収穫 収穫から出荷までの工程を見学

#### ・料理実習と試食

収穫体験で採れた野菜を使って親子料理実習

#### ・ミニ食育講座

「噛んで育てる元気な子」と題し管理栄養士さんのお話

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・地元営農組合と管理栄養士、公民館が3者が得意分野を生かし実施することで、収穫から料理、食べるという一連 の流れを体験できるようにした。
- ・学校給食で使用される野菜を収穫し、普段どんな野菜が給食で食べているのか知る機会とした。
- ・その日に収穫した野菜を使った献立とした。

### ■ 事業の成果

- ・学校給食に使用される900kgものにんじんをみんなで楽しく収穫し、出荷するための洗浄やそれをそのまま試食させてもらうことで農業や食について楽しく学ぶことができた。
- ・料理教室では、包丁の扱い方や切り方、茹で加減、味付けなどを体験、メインからデザートすべてにその日収穫した野菜を使い料理し、何度もおかわりする子や野菜をあまり食べない子もキレイに残すことなく頂けた。

### ■ 事業実施上の課題

- ・当初の企画では、植付けから食事までの計画であったが、定員に達しなかったため企画を変更し再募集した。
- ・なかなか人が集まりにくく、要因としては、スポ少や習い事、塾などで空いている日が少なく日程が合わないこと にある。
- ・小学生を対象にした講座は日程の設定に苦慮している。

### ■ その他



【採れたての野菜をみんなで調理】



【立派なにんじんの畑で】

# 湖南市における土曜日の教育支援の取組(「学ぶカ」学習支援型・体制構築型)

### ■めざす姿

子どもが日頃の学校での学習をさらに深めたり、もっと知りたい、学びたいという意欲を高めたり、 実社会で役立つ力として定着させたりすることは重要である。そこで、土曜日や長期休業中に、地域 の大人や卒業生(中高連携、小中連携)の支援を受けて学習や体験活動ができるプログラムを設定し 学ぶ意欲を高め、学ぶ力を高める機会を提供している。子どもの教育活動に複数以上の地域の人が関 わることにより、教員とは違った視点から子どもを多面的に見ることができ、その情報を教員と共有 することで学校教育に生かしていきたい。

■本年度の活動「学ぶカ」学習支援型…1校 石部小学校

体制構築型…9校 下記のその他の小・中学校

実 施 校	開催日数	活動場所	主な内容
石部小学校	20 日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
三雲小学校	10 日	公民館、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
三雲東小学校	10 日	児童館、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
菩提寺小学校	10 日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
菩提寺北小学校	10 日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
岩根小学校	25 日	まちづくりセンター	学力補充(基礎・基本定着)
下田小学校	10 日	学校	学力補充 (課題学習)
水戸小学校	10 日	学校、まちづくりセンター	学力補充 (課題学習)
甲西北中学校	11 日	学校	学力補充
日枝中学校	12 日	学校、校区小学校	学力補充、学習の発展

### ■本年度の成果

- ・子どもの状況や地域の実情に合わせて、「学ぶ力」学習支援型1教室、体制構築型9教室をそれぞれ特色あるプログラムで実施。特に、多世代の交流(地元の大人や中学生、高校生、大学生との交流)は地域コーディネーター、コーディネーター間、中学校区の連携の取組の中で高めてきた経緯がある。子どもたちの学習や体験活動を豊かにし、学ぶ力を高める事業となっている。
- ・地域が学習の発展として体験活動や学習の場を提供したり協働して取り組むことが徐々に定着に してきたことは、地域における子ども育ての意識が高まりつつあると捉えている。
- ・この事業の推進にあたり、地域まちづくり協議会等の協力や支援を得ることにより、子ども同士 の人間関係を支えていただく場ともなっている。
- ・土曜教育推進員(教育支援ボランティア)の力は、学校教育にとっても得がたい強みである。

### ■今後の課題

- ・プログラムの内容は、子どもが何を求めているのか(必要としているのか)を見極めることが大切であるため、計画立案、事前準備に多くの時間を要する。
- ・土曜教育推進員の人材確保が難しい。中学校は部活動との関係があり、実施日の調整が難しい。
- ・子ども対象の保険料や教材費等への財政的な裏付けが弱く、保護者の負担にならざるを得ない。
- ・学力向上の取組であり、学力の底上げになっていることをいっそう周知していく必要がある。
- ■その他 湖南市 HP http://www.city.konan.shiga.jp/

広報番組「きらめき湖南」平成27年11月放送分『楽しくて 力のつく湖南市教育』

### ■ 子どもたちと一緒にいろいろな活動に取り組み、ふるさと石部の未来を拓く力を身につけさせる

湖南市			
活動名			
いしべっ子 学習教	室	(「学ぶ力」学習支援型)	
年間開催日数		20日	

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	1 1人
子どもの平均参加人数	16人

### ■ 活動の概要

・長期休業期間や土曜日を利用して、地域の大人と触れ合いながら学習や体験活動をすることにより、学ぶ楽しさを体感させ学ぶ 意欲を育てる場とする。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ①いしべっ子夏休み宿題教室 7月18日(土) 7月31日(金) 8月7日(金) 8月19日(水) 8月26日 (水) 夏季休業中5日間(午前中に2回・計10回)を設定し、夏休みの宿題や自主学習をする場を設け、地域のボランティアが学習の支援をする。
- ②郷土資料博士になろうパート2 8月3日 (月) 8月10日 (月) 8月18日 (火) 夏期休業中3日間を設定し、「昔の道具を使ってみよう」をテーマに、郷土資料を学習したり実際に昔の道具を使って体験活動をする。「ガチャポンプと手洗い」「せいろでジャガイモを蒸す」「石うす」「天秤(さおばかり)」「計算機」
- ③わくわく科学実験教室 9月19日(土)10月3日(土)10月17日(土)10月31日(土) 土曜日の4日間を設定し、「電池を作ってみよう」「色の化学変化を楽しもう」「電磁石を作ってみよう」「電流・電圧を測って みよう」をテーマに、実験をする。
- ④いしべっ子ロボット教室 11月28日(土)12月12日(土)12月26日(土) 土曜日の3日間を設定し、レゴブロックを組み立ててロボットを作り、パソコンからの簡単なプログラミングでロボットを動かす。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ①事前に緻密な計画を立て、会議で十分に協議し、準備に時間をかけた。校区のまちづくり協議会にも協力をお願いし、会場をまちづくりセンターに設定し、子どもたちが安全に楽しく学習ができるよう配慮した。学習支援ボランティアも地域の方々に協力いただいた。校区のまちづくり協議会には受付や駐輪場の管理などの協力もいただいた。
- ②昨年に引き続き、講師を地域の団体にお願いし、活動を指導していただいた。事前に子どもたちがする体験活動を試す時間を持ち、活動がスムーズに進むようにしてくださった。
- ③講師は昨年同様、地域のボランティアにお願いし、指導していただいた。実験は子どもたちが安全にできるもので、また、子ど もたちが興味を持ちそうなものを計画してくださった。
- ④講師は NPO 法人のスタッフの方々にお願いし、子どもたちが興味を持って取り組めるよう、3回シリーズで内容を考えてくださり、活動しやすい計画を立ててくださった。

### ■ 事業の成果

- ①校区のまちづくり協議会や地域の学習支援ボランティアの協力に支えられ、のべ 166 名の子どもたちが参加し、安全に楽しく学習ができ、帰り際には達成感や満足感の感じられる姿が見られた。また来年もして欲しいという声が多く寄せられている。
- ②実際に昔の道具を使う体験活動をすることにより、昔の生活の様子や大変さが理解できた。子どもたちは自分の目で見て、実際に道具に触れて使う活動に大変興味深く取り組んでいた。
- ③実験がしやすいように、事前に実験セットを作って用意してくださったことにより、子どもたちがスムーズに実験に取りかかれた。また実験セットを家に持ち帰ることができたので、自分の納得のできるまで何度も実験ができることを喜んでいた。講師の説明の中には難しい内容も含まれてはいたが、自分の生活と関連づけて考えることができていた。
- ④ 3回シリーズでのロボット教室は子どもたちが興味を持って取り組む内容であった。

#### ■ 事業実施上の課題

- ・「わくわく科学実験教室」や「いしべっ子ロボット教室」では、実験用具や材料および講師謝礼に経費が高額となり、今年度は校 区のまちづくり協議会より援助が得られたが、今後活動を進めて行くに当たっては一考を要する。
- ・「いしべっ子夏休み宿題教室」は適切な場所で活動できたが、参加人数によっては下学年と上学年、あるいは低学年・中学年・高学年に部屋を分けて実施する方法を考えなくてはならない。また、その場合、今年以上に学習支援ボランティアの確保が必要となる。

### ■ その他

・土曜日事業の取組には、地域の関わりが大事であり、校区のまちづくり協議会との連携が必要不可欠であると思われる。



【いしべっ子夏休み宿題教室】



【わくわく科学実験教室】

# ■ 夏休みの宿題をみんなで一緒にがんばろう ~ さんさん教室 ~

	湖南市				
	活動名				
		さんさん教	室	(体制構築型)	
年間開催日数			10日		

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	35 人

#### ■ 活動の概要

夏休み中の10日間を使い、2か所の会場で学習会を開いた。

内容は ①夏休みの宿題に取り組むこと、②地域の方を迎えて調理や実験など様々な体験をすることの2本立てとした。

#### ■ 特徴的な活動内容

各日、前半1時間を学習の時間に、後半1時間程度を体験の時間とした。 学習の内容は夏休みの宿題を主にし、宿題を終えた児童は自主学習をした。 体験活動の内容は ①シャボン玉ミニ実験 ②腹話術と銭太鼓 ③大型紙芝居と昔あそび ④音楽 ⑤パン作り教室

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・校区が東海道に沿って東西に長いため、児童が参加しやすいよう東西2ヶ所の会場 (公民館)で開くこととした。そのため、同じ内容の企画を2回ずつ実施した。
- ・会場への行き帰りは安全が第一であるが、保護者の送迎を必須とすると参加が制限 される場合もあるので、徒歩、自転車、車での送迎と手段は問わずに保護者了承と してもらった。
- ・学習の支援をする推進員には日頃より子どもに関わった活動をしている方に依頼、 体験活動の講師には主として湖南市ボランティアセンターに登録の方に依頼した。
- ・自主学習の準備ができない児童のために、適当なプリント類を準備しておいた。



【夏休みの宿題に取り組む】

#### ■ 事業の成果

会場では子どもたち同志で教え合う姿が見られたり、パン作り教室では高学年が低 学年の面倒をみるなど、異年齢の関わりを持つことができた。

### ■ 事業実施上の課題

- ・事前の予想を超える参加申込があり、推進員の数に不足がないか心配があった。 特にパン作り教室には参加希望が殺到したため、急きょ1日2クールに増やし、 会場と時間を個別に指定して連絡するなど、事前準備に時間がかかった。
- ・夏休みの宿題をと想定していたので、夏季休業に入ってすぐの日程としたが、高学年には水泳教室と日時が重なってしまう。そこで高学年にも参加できるよう、お盆明けにも4日間をあてたが、前半が良い人、後半が良い人それぞれから見直しを求められた。



【パン作り教室】

### ■ その他

事後アンケートの声から

- 体験タイムが良かった。
- 友達と一緒なので宿題がはかどった。
- ・家で留守番をしているので、教室があって良かった。(以上、保護者)
- おかしづくり、手品がしたい。
- 友達ができた。
- ・来年も行きたい(以上、参加児童)
- ・学校や家庭がかかえているいろんな問題がある事に驚きました。子どもたちはとっても元気なのでこの「力」を上手にひきだせればなと思いました。
- ・集団の中に入りにくい子どもの参加もあり、その対応については事前に検討する必要もあるように思います。
- ・送迎の親とも接点が持てたのは良い機会になりました。(以上、推進員)

## ■ 学びの場・体験の場の提供~ひがしっこ教室~

湖南市		
活動名		
- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・ひがしっこパン教室 がしっ子 (体制構	_
年間開催日数	10	日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	7 人
子どもの平均参加人数	16人

#### ■ 活動の概要

長期休業中の学習支援と場を提供する「ひがしっこ教室」は、昨年度に引き続き夏休みを使って、地域の児童館に協力のもと実施した。今年度は三雲まちづくりセンターの協力で、児童館の休館日にも開催することができた。

新たに、まちづくり協議会との連携で「ひがしっこ パン教室」も三雲まちづくりセンター・調理室を使用して開催した。保護者の同意により申し込みのあった児童の参加で活動を実施している。また、三雲東青少年育成学区民会議との連携で12月23日に、「あつまれ!!ひがしっこ」というコラボイベントを企画している。地域の方の協力を得て、一緒に経験することで学習以外の面においても地域の活性化につながるよう活動している。

### ■ 特徴的な活動内容

「ひがしっこ教室」は、児童館の和室を利用。長机の準備・片付け・掃除機を使っての掃除など、学習以外の作業も全員で協力して行うため、異学年の交流も図れている。毎回、自分で学習のめあてを設定し、帰る前に全員の前でめあてと反省を発表することで、自主的な学びの場作りになっている。

「ひがしっこ パン教室」は、食べるものを自分で作る楽しさを味わい、何を使って、 どのように作るのかに関心を持ち、いつもごはんを作ってもらっていることへ感謝する ことができた。最後は、自分で作ったパンをおいしく食べることで満足できる楽しい活 動となった。材料費は参加費で賄った。

「あつまれ!!ひがしっこ」は防災時に役立つ経験となるよう、ポリ袋を使ってご飯を炊く体験と、小学校のスクールガードで一番お世話になっている世代の方と仲良くなれるように校庭でグラウンドゴルフの体験を企画している。



【ひがしっこ パン教室】

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・学習の推進員にはじっくり根気よく子どもと付き合える方にお願いしている。ゆっくりでも「自分でできた」という気持ちを実感し、「明日も行くのが楽しみな場」となるよう心がけた。
- ・パン教室は、参加申込みが殺到したため、1日に2回、開催できるように交渉し、変更して実施した。講師の方の協力と、参加者の時間変更の協力により、申し込んだ全員が参加できる活動となった。開催までに余裕をもって締切を設定していたことで、変更の交渉・時間変更の協力についての案内配布・調整などに時間をとることができた。
- ・子どもと一緒に活動できる団体に土曜事業の活動を説明し、協力をお願いした。
- ・自分で目標設定をすることで、やらされているという感覚から、自分でやるという気持ちで取り組めるようにした。
- ・開催は夏休みが始まってすぐに連続して参加できる日程にした。(持ってくることができる宿題が多い期間で設定。)

### ■ 事業の成果

「ひがしっこ教室」参加者・保護者の声

- いつも家では、集中できず、宿題がはかどらず、全然できなかったが、ひがしっこ教室で勉強すると集中できて、どんどん宿題を終わらせられたので嬉しかったです。
- ・2時間も家でしようと思わないけれど、「ひがしっこ教室」に来て、家でするより進んだのでよかったです。
- ・家でするより、集中できてよかったと思いました。(保護者)
- ・夏休みの宿題がずいぶんできたようで、よかったです。お世話してくださった方々、ありがとうございました。
- ※静かとは言えない異年齢の集団の中でも目標を持って取り組むことで成果が出ているということに子どもの成長を感じる。 子ども同士が集中して取り組む姿がお互いの良い見本になっているかもしれない。

「ひがしっこ パン教室」参加者・保護者の声

- 自分でパンが作ることができて楽しかったです。・焼きたてのパンはホカホカでとてもおいしかったです。
- ・お菓子作りやパン教室をまた、やってほしい。
- ※作る、食べるという活動は本当に子どもが生き生きする活動なんだと実感した。全体のバランスを考えながら、楽しめる活動も 取り入れていきたい。

### ■ 事業実施上の課題

- ・開催日程と推進員の予定の調整に苦労した。次年度は学年を決めて日程を組むなど工夫したい。年々、謝礼が減っていくのが 心苦しい。
- ・卒業生など学生の協力者がまだいないので、発掘できるよう声掛けを続けていきたい。

# ■ 土曜の学びを自信のもとに ~一人ひとりの課題に寄り添って~

	湖南市活動名				
		岩根小土曜	教室	(体制構築型)	
年間開催日数			25日		

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	15 人
子どもの平均参加人数	5 人

#### ■ 活動の概要

本校の学校運営協議会は「21世紀の岩根の子どもを育てる推進委員会」「ボランティア推進委員会」「岩根の子どもの安全と安心を見守る推進委員会」の3組織を中心に活動している。その中の「ボランティア推進委員会」においては、子どもたちの学習や活動を支えることをねらいとして、クラブ活動の指導、放課後教室の運営、学校図書館支援(登録・整備・読み聞かせ等)、1年清掃ボランティアなど、様々な活動や支援を展開しているが、「土曜教室」もその一環である。

「土曜教室」の目的は授業以外の場で子どもたちの学習を支援することであり、本校の場合、「気になっていても、なかなか仕事等の関係で子どもの学習を見てやれない、学校の休日も家にいるのは子どもだけなので、なかなか家庭学習の習慣を身につけることができない」3・4年生を対象に実施している(今年度は例外的に5年生1名の参加を認めている)。また、指導にあたっているのは、学区内に居住する教員OBや学生ボランティアを中心に、「岩根の子どもたちの力になりたい」という熱い思いを持ってくださっている方々である。

*今年度の「土曜教室」参加者は、当初7名でスタートしたが、転出などで12月現在は5名で進めている。

### ■ 特徴的な活動内容

当該学年の内容だけでなく、子ども一人ひとりのつまずきによっては 1 ~ 2 学年前から学習をスタートし、しだいに積み上げていくよう工夫している。その内容は国語や算数の基礎的な学習が主で、音読練習を課して、期末には音読発表の機会を設けている。

*1日の流れ 9:20までに、まちづくりセンターに「登校」する。

9:30~9:50 はじまりの会(あいさつ。アイスブレーキング、頭の体操、など)

9:50~10:30 1時間目(教科は、子どもと指導者が相談して決める) 10:30~10:40 休憩(「ことわざカルタ」のようなカードケームを楽しむ)

10:40~11:20 2時間目(1時間目とは異なる教科。国語を学習した子は算数、算数の子は国語)

11:20~11:30 あとかたづけ、あいさつ

11:20~12:00 指導者による打ち合わせ(今回の学習の様子を報告し、次回の計画を練る)

#### ■ 実施に当たっての工夫

教室の運営を担う指導者(ボランティア)が、対象となる子ども一人ひとりの学習状況を細かく把握し、1回ごとに「この子の今日の学習は・・・・」と、プログラムを立てている。そのうえで、指導者1名が子ども1名について指導するという体制をとり、わからないところ、困っているところを克服できるように支援している。それだけに、事後の「打ち合わせ」の時間を大切にし、単なる情報交換にとどまらず、どのように支援していくことが有効かをそれぞれの視点から意見を述べ合う時間を持っている。

### ■ 事業の成果

学校の授業に向かう気持ちが参加する以前とは異なり、ずいぶん前向きな子どもたちの姿勢が感じられる。これは、土曜教室で「できた」「わかった」を実感した成果であり、子どもたちが自信を持って授業に臨むようになったということである。

現在は3年生も含めて「ごんぎつね」の音読練習をしているが、ちょっとしたアドバイスで子どもの読みがぐっと変わってくることもしばしばで、それが賞賛の対象となって、自信につながる。このような繰り返しを積み重ねることで成果が生まれる。 教員をめざす学生指導者自身にも、指導の楽しさと難しさを体感するよい機会となっている。

### ■ 事業実施上の課題

家庭学習との連携(学習の定着)をどう図るか。土曜教室に通っていない子どもの学力保障をどうするか。



【できるかな? まずは、頭の体操から】



【一人ひとりの課題を一人ひとりの指導者が】

## ■ 学べる場所は学校だけじゃない。地域で学ぶ子どもたち。

湖南市			
活動名			
菩提寺学区 土	曜日教室	(体制構築型)	
年間開催日数		10日	

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	5 人
子どもの平均参加人数	22 人

#### ■ 活動の概要

まちづくり協議会を主軸に、兄弟校でもある菩提寺北小学校と合同で実施した。活動場所もまちづくりセンターに移し、子どもたちの活動を地域にも知ってもらう機会とした。

#### ■ 特徴的な活動内容

2校の交流活動として夏の勉強会だけではなく、地元の歴史や郷土の様子を共に学ぶ活動も実施した。

- 1. 公園整備と自然体験学習(郷土を知る)
- 2. 夏休み勉強会
- 3. 夏休み勉強会
- 4. 夏休み勉強会 (キッズアート教室)
- 5. 歴史散策路案内板制作(郷土を知る)
- 6. ペットボトルロケット制作(理科)
- 7. 年賀状を書こう(図工)
- 8. 菩提寺山防災ハイキング(郷土を知る)
- 9. 書き初め(書写)
- 10. 案内板設置(郷土を知る)

### ■ 実施に当たっての工夫

地域のボランティアを募るだけでなく、地元の中学生が参加してくれ大きな力になっている。限られた予算では難しい活動も、まちづくり協議会の基金申請で予算が取れ実施することができた。

### ■ 事業の成果

コーディネーターの立場では、2校合同で行うことにより、講師やボランティアを募る作業が単独で行うよりスムーズにできた。 お互いにサポートし合い活動を補い合うことができた。

子どもたちも他校との交流をしながら、勉強はもちろん、いろいろな活動をしながら郷土の事を知る機会を持つことができた。 学校での活動ではなく、地域(まちづくりセンター)で活動することにより、地域の人たちが事業を少しでも知るきっかけになったと思う。

#### ■ 事業実施上の課題

2校合同の良さもあるが、まちづくりセンターを拠点としての活動は、校区外になる子どもたちにとっては会場までの移動が大変で、参加しづらいと言う声があった。

活動と活動の間隔が短いと準備から実施までの作業が重なることがあるので、活動計画を考えるときに気をつけないといけないと感じた。(但し、夏休みの勉強会は活動日が近くても同時に募ることができる。)

### ■ その他

まちづくり協議会を中心に行うことで、今年度は予算も十分にあったけれど、毎年あるとは限らない。活動内容を十分に考えて支障のないように行わなければいけないと思う。地元の中学校との連携をこれからもうまくとっていけたらと思う。



【 夏休み勉強会 】



【 年賀状作り 】

# ■ ~地域の子どもが繋がる~菩提寺学区土曜日事業 菩提寺小学校・菩提寺北小学校・(甲西北中学校)

■ 湖南市	
■ 活動名	
菩提寺学区 土田	醒日事業 (体制構築型)
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	5人
子どもの平均参加人数	25人

#### ■ 活動の概要

菩提寺学区には、菩提寺小学校と菩提寺北小学校の2校がある。その2校で協力して土曜日事業をすることとし、菩提寺まちづくり協議会にその支援をお願いした。また、今年度より新しくできた菩提寺まちづくりセンターに活動場所を移し、両校の子どもたちが一緒に活動する機会とした。

#### ■ 特徴的な活動内容

活動は6月から翌年2月までに10回にわたって行った。

第 1回 6月28日(土) 公園整備と自然体験学習(郷土を知る)

第 2回 7月28日(火) わくわく学習教室(宿題)

第 3回 8月 7日(金) 夏休み絵画教室(図工)

第 4回 8月25日(火) アートキッズワーク 壁画制作(図工)

第 5回 9月26日(土) 歴史散策路案内板制作(郷土を知る)

第 6回 10月17日(土) ペットボトル飛行機教室(理科)

第 7回 11月28日(土) 年賀状作り教室(図工)

第 8回 12月12日(土) 菩提寺山防災ハイキング(郷土を知る)

第 9回 1月 5日(火) 書きぞめ 書道教室(書写)

第10回 2月13日(土) 案内板設置(郷土を知る)

### ■ 実施に当たっての工夫

すべての活動で応援スタッフとして中学生のボランティアを中学校コーディネーターに要請した。その結果、中学生が参加してくれ大きな力となり、アート関係の時には美術部の生徒というようにテーマに即した学生が来てくれるように配慮もあり最大限中学生の良さもひき出すこともできたと感じる。



【アートキッズワーク 壁画制作】

また、限られた予算では難しい活動も、財源を生み出すために菩提寺まちづくり協議会が「子どもゆめ基金」に申請し、補助金を活用し、充実した活動を実施することができた。

外部講師も依頼ができ、少しではあるがスタッフとして動いてくださった方への謝礼金も出せた。





【ペットボトルロケット教室】

### ■ 事業の成果

菩提寺まちづくり協議会の支援で菩提寺学区の小学校2校で始めた土曜日事業だが、甲西北中学校の協力も得て、地域の小小連携から小中連携へと、活動が広がってきた。

また、今年度はすべての活動を2校で行ったので、講師やボランティアを募る作業が単独で 行うよりスムーズにでき、お互いに活動を相互補完することができた。

さらに、土曜日や、学校の長期休業時に、子どもたちに有意義な時間と場所を与えることが でき、楽しみながら学習意欲を引き出させ、満足感を味わう効果も出たと感じている。

#### ■ 事業実施上の課題

今年度は、すべて、菩提寺まちづくりセンターで開催し、良い面も多くあった。しかし、菩提寺北小学校からは、学区外になり、少し遠いので、今まで単独で学校で行っていた時に比べると、参加者がかなり減ってしまったことが残念である。このあたり、重大な課題であり土曜日事業の2校でやる意義と参加者が望む開催場所とを再考しなければならないと思う。

### ■ その他

菩提寺まちづくり協議会ホームページ https://www.bodaiji.org/

# ■ 『地域の力で下田っ子を育てよう!!』 ~ しもしょう サマースクール 2015~

■ 湖南市	
■ 活動名	
しもしょう サマースクール 2015 (体制構築型)	
年間開催日数	10日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	23 人

#### ■ 活動の概要

『しもしょうサマースクール』は今年度で3度目となり過去2度の反省をうけて、『夏休みの宿題会』ではなく子どもたちが学びたいことを学べるものにしようということになった。そこで、日枝中学校の協力を得て、「中学生による先生ボランティアが、自分たちの得意とする事柄を小学生に教え、わからないところは一緒に調べ学習をする」という会にした。

#### ■ 特徴的な活動内容

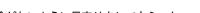
『しもしょう サマースクール』では、日枝中学校に協力をあおぎ、15名の生徒に先生ボランティア(以下、中学生先生)として、4名の生徒に運営ボランティアとして参加してもらった。他にも、参加児童が安全に通えるように地域の方に立ち番をしていただく、中学生先生の補助など、様々な方にかかわっていただいた。

- ≪実施日時≫平成27年8月18日(火)~20日(木) 計3日間
- ≪実施場所≫下田小学校 会議室・ふれあいルーム・図書室 など各所
- ≪学習内容≫ 各中学生先生のテーマ

1	滋賀県にゆかりのある歴史上の人物	6	料理の基本をマスターしよう	11	マンガやアニメを科学で考えてみよう
2	漢字のいろいろ	7	似顔絵の描き方をマスターしよう	12	自分だけのあみものポーチを作ろう
3	各地のお城の歴史	8	くらしのなかにある理科	13	いろいろな石の結晶を調べよう
4	フェルトで描く「はらぺこあおむし」	9	音楽と仲良くなろう	14	世界の神話を調べよう
5	百人一首の攻略法	10	野球をもっと調べてみよう		

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ① 今回、サマースクールの運営の多くを中学生に任せた。学習の間は運営ボランティアの手が あくので、各グループを見て回り、気が付いたことをレポートに書いてもらった。
- ② 中学生先生には、自分の得意な事柄を小学生に教えるということで、日枝中学校の図書協力員の方の協力のもと夏休み前から事前準備として、本を使っての調べ学習をしてもらった。
- ③ 各グループ、中学生先生1~2人に対して小学生は2人までと、小学生参加者の定員を設け、 学習に集中できるようにした。
- ④ 小学生の参加募集の際に、各中学生先生のテーマを提示し、「面白そう」や「やってみたい」 と思ったテーマに参加申し込みできるようにした。



- ⑤ 教室を移動するときには地域のボランティアに付き添いをしてもらい、危険がないように見守りをしてもらった。
- ⑥ 最終日には各グループで学習したことを発表してもらい、参加者みんながどんなことを学んだかを共有できるようにした。

## ■ 事業の成果

- ① 地域の中学生に学習指導をしてもらうことで、交流の機会が生まれ、地域の中学校に興味を持つようになった。
- ② 「中学生先生にはなれないけれど、参加したい」という中学生に運営ボランティアとして活躍してもらうことができた。
- ③ 運営ボランティアにレポートを書いてもらったことで、運営ボランティア自身も各グループの学習について興味を持つことができ、中学生先生はそのレポートの内容を聞き、翌日の学習に活かすことができた。



【 学習の様子 】

【運営ボランティアによる受付】

- ④ 小さなグループでの学習にしたことで小学生も質問をしやすくなり、集中して学習を進めることができた。
- ⑤ 小学生の参加募集の際にテーマごとに募集したことで、小学生、中学生ともに興味のある事柄について学習を進めることができ、『調べ学習』の楽しさを実感できたのではないかと思う。
- ⑥ 学習したことを発表する時間を設けたことで、そのために学習したことをまとめることができた。
- ⑦ 発表をしたことで、他のグループが学習したことを知ることができ、興味を持つことができた。

### ■ 事業実施上の課題

- ① 開始前にミーティングを行うようにしたが、時間を多くとることができなかったため、細かい打ち合わせができなかった。
- ② 小学生の募集時にテーマによっては定員を超えることがあり、抽選になってしまった一方で定員割れになったテーマもあり、抽選でもれた小学生に定員割れのところに回ってもらうなど、希望に添えないことがあった。
- ③ 中学生先生の事前準備が大変だったので、もう少し負担が軽減できるように考えたい。
- ④ 今回は運営ボランティアに受付業務やレポートの記入などを任せたが、今後は司会進行なども任せてみたい。

# 土曜事業 ~みとっこ宿題応援隊☆2015 の取組~

■ 湖南市		
■ 活動名		
みとっこ宿題応援隊(体制構築型)		
年間開催日数	10日	

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	18人
子どもの平均参加人数	20人

#### ■ 活動の概要

日々の学習を深め、より充実したものにするため夏休み、冬休みを利用した宿題応援隊の活動を学校と家庭、地域が一緒に取り組 んでいる。子どもの課題を共有し課題解決に向けた活動で、小中連携として本校出身の中学生、中学校のコーディネーター、まちづ くり協議会と協力しサマースクール、絵画教室、書道教室のほか、外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会を行っている。

## ■ 特徴的な活動内容

地域の中学生と小学生との交流を図るため、中学生に先生役をお願いし夏休みの宿題、絵画の宿題を教えてもらった。冬休みには、 中学生に書道教室の先生として参加してもらい、書き初めの宿題に取り組むことができた。また水戸小学校には外国にルーツをもつ 子どもが現在75人在籍している。この子どもたちを対象にした勉強会を夏休みの4日間、冬休みの3日間に実施した。

#### ■ 実施に当たっての工夫

サマースクールでは、地域の学習センターを会場に2日間、9時から12時まで実施した。はじめの1時間はドリルなどの宿題を、 低学年・高学年と二つに部屋を分けて行い、先生役の中学生にもスムーズに教えてもらえるよう担当する学年の希望を聞いた。

休憩のあとには一つの部屋に集合し、絵画の宿題に取り組んだ。当日受付で何の絵を書くか、また1日だけの参加か2日間の参加 かを聞きとり、先生役の中学生に伝えることで大体のグループに分けて会場をセッティングしてもらったり、進度に合わせて教えて もらうことができた。冬休みの書道教室では、書道の学習がある3年生から6年生の参加としている。同じ中学校区の下田小学校の 子どもたちとの交流や開催場所である地域の中学校へ行くことも参加する子どもたちには楽しみの一つとなっている。

外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会には、土曜教育推進員が9時から11時の2時間、国語と算数を中心に教えてくれていた。 毎日30名ほどの参加があったが、個々の学習の進度が異なるため5グループに分かれて取り組んだ。一人ひとりに寄り添いながら丁 寧に言葉がけをしてくれていた。

#### ■ 事業の成果

先生とは違う大人や中学生に教えてもらうことで小学生が「できる、できない」ではなく「やってみる、考える」→「わかった」 ことを体感できたように思える。一緒にやろうというスタンスが小学生にとって安心できたのではないかと思う。

絵画の宿題、書き初めは家庭で保護者が教えるのもなかなか大変なようで、短い時間の中で完成できたことに子どもだけでなく保 護者からも喜ぶ声を聞くことができた。中学生も、小学生に教える前に地域の講師の方からレクチャーを受けていて、本番で先生と して活躍できたことで自信を持てていたし、子どもたちは夏休みや冬休み中に友達と会えることや中学生のお兄さん、お姉さんと交 流できることを楽しみにしていた。まちづくり協議会の方々もそんな小学生、中学生のそれぞれの頑張る姿を見て、「いいことやなあ」 とコーディネーターに言葉をかけてくださった。

#### ■ 事業実施上の課題

小中連携では、それぞれの事業に対する思い、目的、役割分担など、密な打ち合わせやコミュニケーションの時間をつくることが 難しかった。良いものを長く続けるためには事業のスリム化も必要で、そのため今年度は内容を一部見直すこととなった。

外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会では、やはり「言葉の壁」を感じることもあった。言葉を線でつなぐ、何秒で計算できる かカウントする、などゲーム感覚で学べるものは喜んで取り組んでいたが漢字の書き取り、文章問題などは時間がかかっていた。

初日にやってみて勉強に集中できる時間が学校の授業時間(45分)だったので2日目からはその時間に設定し、休憩は体育館で体 を動かしたり図書室で本を読めるようにして発散できたのはよいが、その後集中しにくい子どももいた。

事前に先生から子どもたちの学習進度や日本語の理解についての情報を土曜教育推進員に伝えることができていたら、より学習を 深めることができたのではないかと思う。

むずかしい けどがんば るわ!



【外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会】



めっちゃ楽しかった~!!

【サマースクール☆小・中学生と地域の方と一緒に!】

宿題できた! 中学生の お兄さんお姉さ ん、ありがとう』

# ■ 教え学びあう学習支援(小中高連携)

湖南市				
活動名				
	甲西北中学習	<b>数室</b>	(体制構築型)	
年間開催日数			11日	

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	5 人
子どもの平均参加人数	20 人

#### ■ 活動の概要

今年度も、地域大学生による定期テスト前の補充学習および、地域の高校生による学習支援を夏休みに集中させて実施した。1.2年生を対象とした地域の高校生による学習支援は計3回で、1回の学習会への参加生徒数は平均6名。高校生は1回あたり平均5名で、多い時には10名の高校生が学習支援に来校してくれた。高校生による学習支援では、夏休みの宿題や課題を持ち寄り学習会を実施することができた。

定期テスト前に実施した大学生による学習会では、対象生徒を1~3年として計8回実施した。多いときで50名近いの生徒が参加し、大学生の参加数は1回の学習会につき平均4名だった。

### ■ 特徴的な活動内容

高校生による学習支援については、本校出身者(卒業生)が学習支援に来てくれた。しかも、地元の高等学校とあって自分自身の 進路を身近なものとして捉えることができた。一方、地域の大学生による学習支援については、より専門的な支援を受ける機会が確 保でき、生徒たちの学習意欲にもつながった。

#### ■ 実施に当たっての工夫

対象生徒の参加数を増やすために各部活動単位での参加も認め、より多くの生徒が参加できる環境を整備した。また、支援をいただく高校生や大学生にも男女のバランスを考慮してもらい、参加生徒数の確保に努めた。

学習内容については、高校生および大学生に事前に対象生徒の学年とテスト範囲を伝え、お互いが良い準備をした上で実施できるように配慮した。

学習会の場所は、基本的には対象学年の教室を使用した。参加人数によっては1カ所で実施したり、少人数で実施したりと弾力的な学習形態を取り入れることによって、より効果的、効率的な学習会の実施につなげることができた。

#### ■ 事業の成果

普段、家では一人で学習することが定着していない生徒も、お互いに声をかけあって参加することで継続的な参加が実現できた。 また、参加生徒数を増やすために、部活動単位での参加についても可能とした結果、顧問の先生も巻き込みながら学習会を実施することができた。このことは、学校内において横のつながりが増し、他の部活動への波及効果を得ることにもつながった。その結果、限られた時間の中で、効果的な学習会を実施することができた。

## ■ 事業実施上の課題

- ・特に大学生の学校生活とのバランスや他のアルバイトとの関係で時間的に難しいケースもあり、参加生徒数に見合った推進員の 確保は容易ではなかった。
- ・推進員が大学生ということもあり、生徒のニーズにどこまで応じた学習支援ができていたかというと今後の検討課題でもある。
- ・生徒が持参する学習内容への支援もさることながら、定期テストに向けた本来の学習支援に至っていない部分もあり、学習内容 そのものの事前研修会が開催できると、さらに質の高い学習会が期待できると思う。また、そのことが生徒の参加を増やす糸口 になればと思う。

## ■ その他

地域の大学生や本校出身の地元高校生が学習支援をしてくれる中で、教師と生徒という関係で学習を進めていくのとは違い、より 親近感をもって学習会を進めることができた。その結果、教えてもらうことを通して、教える側に立ってみるというこころみにもつ ながった。





【地元大学生による定期テスト前の学習支援の様子です。】

# ■ 教え学びあうことでレベルアップする子どもたち

■ 湖南市		
■ 活動名		
日枝中学校土曜日事業(体制構築型)		
年間開催日数	12日	

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	30 人

#### ■ 活動の概要

校区内の小学校と連携し小学生の夏学習のサポートを行う。中学生が教える立場に立つことで自身の学ぶ力を伸ばす。 それぞれの小学校(地域)へ活動に行く生徒達向けに校内で学習会を実施。(美術室・図書室を利用) 開催日には地域の方に活動をサポート頂き、地域の教育に対する関心を高める。

#### ■ 特徴的な活動内容

#### 1. 水戸夏休み☆宿題応援隊参加

小学生の夏休みの学習支援に加え、絵の宿題サポートを行う活動。

小学生の絵の宿題をサポートする試みに対して、地域で絵画教室をされている先生を お招きし、中学生から小学生に向けての声掛けの仕方やテクニックをレクチャーして 頂いた。実際に絵を描きながら直接指導頂くという形の事前勉強会を実施。

活動当日は地域の方と共にドリルやプリント学習のサポートを会議室で行った後、 大ホールに移動して絵のサポート活動を行った。

8月3日、4日に開催。市民学習交流センターを活用。活動時間は9時~12時。

## 2. しもしょうサマースクール参加

小学生の夏学習のサポート企画。参加中学生の得意分野の知識を教える教室を開催。 中学生も自分の教えたい分野について図書室を利用して事前学習し、インターネット に頼らない、図書を使った「調べ学習」を実践。小学生に教える時の段取りや必要な 道具など、様々な事を生徒自身で考えて取り組んだ。

活動当日は地域の方のサポートも頂き、各分野の調べ学習に取り組んだ。最終日には学習した内容の成果報告を行った。

8月18日、19日、20日に開催。下田小学校を使用。活動時間は9時~12時。



【水戸夏休み☆宿題応援隊の様子】



【しもしょうサマースクールの様子】

### ■ 実施に当たっての工夫

- 1. 水戸夏休み☆宿題応援についてはドリル学習と絵のサポートという2つの活動を同日に行う為、それぞれの活動場所を分けて活動出来る地域の市民学習交流センターを活用。小学生2人に中学生1人がつき丁寧にサポート出来るように活動を行った。絵を描く為の資料図書も用意。地域自治体組織との連携も行い活動がスムーズに行えるようサポートをして頂いた。
- 2. しもしょうサマースクールについては事前学習において多くの資料が必要だった為、日枝中学校図書室の図書だけでなく、他校図書室や甲西図書館の図書をお借りし調べ学習に活用した。小学生に向けた学習の為「目に見える」「手で触れる」資料や実験道具などを使って分かりやすい学習になるように考え取り組みを行った。

### ■ 事業の成果

どちらの活動においても、最初は受け身だった中学生が活動を通して自発的に考え行動に移せる場面が増えていったことに今の活動の成果を感じた。普段の生活では教えられる側に立つことが多い中学生達だが、自分が教える側に立つことで様々な事を考えて取り組まなければならない状況が生じ、自分の持つ力を精一杯に使う努力が出来た。最終日には一段と成長した笑顔で活動を終えられた事も生徒にとりとても貴重な体験になったと感じた。今回は支援学級の生徒の参加もあり、事前準備では本人も自信を失ったり動揺する場面が見られたものの3日間の活動を頑張って乗り切った。生徒担任からは「2学期になり、いきいきとした活動が出来ている」との声が聞かれ、この取り組みの意義を感じた。

## ■ 事業実施上の課題

今回の活動は夏休み期間中に行ったが、部活動や塾などの事情により全日参加できない生徒もおり、活動日の設定に難しさを感じた。実際に活動を行う為の準備をスタートさせて参加小中学生の募集をかける時点では生徒側も夏休みの予定が立っていない為に途中で参加出来なくなったり、事前学習の準備が充分に出来なかった生徒もいた。事前学習会については予備日に追加で学習会を開くなどの対策をとったが、参加生徒の予定と学校の施設利用可能時間帯の調節などの問題もあった。

# ■ 東近江市における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型)

## ■めざす姿

蒲生マックスクラブでは、M(みる)A(あじわう)K(きく)K(かぐ)S(さわる)の五感を使って子どもたちが最大限[MAX=MAKKS]の力を導き出し、豊かな心や生きる力を育むことを目的とした活動を実施している。

## ■本年度の活動

○蒲生地区地域教育協議会により蒲生コミュニティセンターを拠点として活動を展開している。

· そ ろ ば ん ク ラ ブ: そろばんを基礎から学びます。

・**囲碁・将棋クラブ**: 囲碁や将棋に親しみます。初心者大歓迎!基本の方から学習します。

3月にはトーナメント大会を行います。

・**ITキッズクラブ**:パソコンをみんなで楽しみながら学びます。

・陶 芸 ク ラ ブ: 粘土で自分の好きな作品を作ったり、絵付けをしたりします。

・KIDS FLOWER:生花・ブリザードフラワー・押し花等を使って、母の日やクリスマスなどの

イベントのアレンジメントをします。

・蒲生野太鼓わらべ隊:楽しく太鼓を学び、地域や市内各地のイベントに参加します。

·マックスダンス(初級):ダンス経験のない小学生を対象とし、基礎的なステップやダンスの練習をし

ます。

・マックスダンス(中級):応用的なステップや少し難度の高いダンスの練習をします。

マックスダンス(上級):経験者を対象にフリースタイルダンスです。

(蒲生マックスクラブ会員募集ちらしより抜粋)

## ■本年度の成果

- ・蒲生マックスクラブは従来から休日の児童・生徒の教育活動支援を行ってきた。蒲生地区において、 長年継続的に活動してきたことで、地域が主体となって取り組む活動として根付き、毎年多くの児童 生徒が参加する事業となっている。
- ・地域のイベントにおいて、子どもたちの学びの成果を発表する場を設け、広く地域の方々に当事業の目的や内容、成果を発信できた。これらのことを通じて、子どもの体験活動や居場所作りの他に、地域教育の活性化にも貢献できたと考える。

# ■今後の課題

・今後も下校後や休日等に子どもが自分で行ける身近な居場所や学びの場としてコミュニティセンター 等を利用し、さらに活動を充実させるとともに放課後や休日に必ずしも有意義に過ごせていない子ど もたちも巻き込んだ新たな視点に立った活動も考えていきたい。

■ 東近江市		
■ 活動名 蒲生マッ	<b>ッ</b> クスクラブ	
そろばんクラブ (体制構築型)		
年間開催日数	11日	

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	8 人

#### ■ 活動の概要

- ・そろばんの基本的な使い方を学習する。
- ・そろばんを使って計算能力の向上を図り、算数の仕組みを理解する。
- ・そろばんの技能と算数の仕組みを理解することを通して、子どもの学ぶ意欲を高める。

### ■ 特徴的な活動内容

- ・コミュニティセンターを利用してそろばん教室を実施している。
- ・クラブ員によって理解度が違うので個々に対応した学習を行っている。
- ・「できる」「わかる」ことを大切にし、子どもたちの学習に対する意欲全般を高めるようにしている。

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・気分転換を図るため、途中でゲームなどを取り入れ、子どもたちの意欲が持続するように工夫している。
- ・お茶の時間等の休憩時間もつくり、クラブの仲間づくりにも努めている。
- ・そろばんの学習については、子どもたちが集中して取り組める学習の展開にも工夫している。
- ・子どもたちにとって身近なところにあるコミュニティセンターを利用することで、地域の子どもたちが教室に参加しやすくしている。

# ■ 事業の成果

- ・毎年、継続して教室に参加する子がいる。
- ・そろばんの技能が高まり、算数の理解が深まるほど、学習に集中して取り組む子どもたちの様子が見られたことから学習に対する意欲の高まりが感じられた。
- ・初めてそろばんを学習した子どもも継続して1~2年続けると、掛け算や割り算も出来るようになり、よりそろばんに対する 興味が高まった。

#### ■ 事業実施上の課題

- ・月1回の活動なので、前回の内容を忘れる子どもがいる。
- ・自宅でおさらいをするように言っているが、徹底させるのは難しい。
- ・集中を切らさないようにするのが難しい。個人によって集中の度合いが様々であり、その対応の手立ての工夫が必要である。

# ■ その他

・蒲生マックスクラブ発表会では、そろばん体験教室を開催し、活動の内容を広く地域の子どもたちにPRした。

	東近江市		
	活動名 蒲生マック	フスクラブ	
蒲生野太鼓わらべ組(体制構築型)			
年間開催日数		36日	

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	17 人

### ■ 活動の概要

- ・基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
- ・和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- ・地域の行事やイベント等に参加し発表している。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・通常の練習は地域の蒲生コミュニティセンターにおいて行っている。
- ・マックスクラブ発表会の他に、地域での様々なイベントや行事において、積極的に演奏活動を行っている。

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・習熟度別に、初心者向きと中級者向きとに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
- ・積極的に発表の機会を設け、クラブ員として活動に対する意欲が高まるようにしている。
- ・先輩が後輩を指導する等の縦のつながりも大切にしながら活動している。

### ■ 事業の成果

- ・年度初め(5月)から始めた子どもらが3月の発表会では一人でたたけるようになった。
- ・当教室和太鼓は継続的に取り組む子どもがたいへん多い。
- ・マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩(わらべ組)の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。

### ■ 事業実施上の課題

- ・新規の指導者の育成は必要である。
- ・和太鼓は、数年続けないと一人前にならないので、継続的に活動する子どもが多い。そのため、欠員がなく新規の子どもたち の募集が少なくなり、希望者の意向に添えないことがある。

# ■ その他





【 和太鼓の練習風景 】

■ 東近江市		
■ 活動名 蒲	生マックスクラブ	
キッズダンス(初級)(体制構築型)		
年間開催日数	女 11日	

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	14 人

### ■ 活動の概要

- ・基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。
- ・積極的に地区や市の大会に出場し活動している。
- ・地域の行事やイベントに参加し発表している。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・キッズダンスでは、初級・中級・上級のクラスを設けており、子どものレベルに合った教室が選択できるように工夫している。
- ・初めて取り組む児童も多く、楽しく活動することに重点を置いている。

## ■ 実施に当たっての工夫

- ・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気を大切にしている。楽しい雰囲気をつくることを通じて、初心者 の子どもたちの意欲が継続し、高まるように工夫している。
- ・地区や市の大会にも出場することで、子どもたちの発表に対する意欲が高まるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけ、子どもたちが活動の見通しが持ちやすいように工夫している。

### ■ 事業の成果

- ・子どもたちは意欲的に教室に参加している。年度の途中から加入した子も発表会に参加できるほど上達した。
- ・例年、次のレベルの教室に参加する子が多く、今まで継続的に行われてきた教室である。
- ・市内でも十分に周知され、さまざまな地域の行事などから多くの出演依頼がある。

# ■ 事業実施上の課題

・練習時間が短いために全体の動きを合せるのが難しいことがある。

# ■ その他





【 練習の風景 】

■ 東近江市		
■ 活動名 蒲生マック	<b>ル</b> スクラブ	
キッズダンス(中級)(体制構築型)		
年間開催日数	11日	

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	10 人

# ■ 活動の概要

- ・応用的なステップを中心に、少し難度の高いダンスの練習を行っている。
- ・積極的に地区や市の大会に出場している。
- ・地域の行事やイベントを盛り上げるため、積極的に参加している。

### ■ 特徴的な活動内容

- ・地区や市の大会、発表会等への出場や参加に向けて、常に目標を持って練習している。
- ・初級クラスから継続的に取り組む子どもたちが、より高度なダンス技能の習得に目的をおいて取り組んでいる。

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・中級クラスでは、常に明るく声をかけ合う等チームの輪を高める雰囲気づくりに努め、より高度な演技に意欲的に取り組める ように工夫している。
- ・発表や大会に出場することを通して、子どもたちのステージに対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。

## ■ 事業の成果

- ・なにより活動を楽しみにしてくれている。
- ・次第にダンスのレベルが上がるが、子どもたちは、さらに難しい内容を希望し、積極的な取り組みの様子が感じられるように なった。

### ■ 事業実施上の課題

- ・ダンスの習得には、個人差があり、揃えるのが難しい。
- ・納得がいくまで、子どもたちは演技を揃えたいと求めてくるために時間が足りない。

## ■ その他





【 練習風景 】

■ 東近江市		
■ 活動名 蒲生マック	ウスクラブ	
キッズダンス(上級)(体制構築型)		
年間開催日数	11日	

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	7 人

### ■ 活動の概要

- ・中級クラスより難度の高いステップを中心にフリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・ステージでの発表を活動の中心として、積極的に各大会に出場している。
- ・地域の行事やイベントにも参加し、会場を盛り上げている

## ■ 特徴的な活動内容

- ・大会に向けて目標を持ちながら練習している。
- ・今年度より上級コースが設けられ、子どもたちの教室の選択枠が増え、より子どもたちの思いや目標に合わせた活動を行っている。
- ・初級、中級とダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、地区や市の大会等に出場したり、地域のイベントや行事に参加したりすること等、目標が明確であり、それに向けて子どもたちが意欲的に練習を積んでいることが特徴的である。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・ダンスの技能もさらに高度となり、その習得のための練習は大変であるが、その困難に負けないようにお互いに明るく声をかける等楽しい雰囲気をつくっていくよう努めている。
- ・発表会や大会に出場する中で、みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。目標を持たせ、子どもたちもメリ ハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

# ■ 事業の成果

- ・今までの積み重ねもあり、練習を重ねるごとに子どもたちは、どんどんレベルアップしていき、より練習に集中する様子が感じられた。
- ・大会出場を重ねることで、子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取り組みの姿勢が見られた。

#### ■ 事業実施上の課題

・子どもたちの思いや目標に応えたいが、ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで子どもたちに納得させるのか、また、どのような目標設定をするのが適当なのか指導者として難しい。

	東近江市		
	活動名	蒲生マック	ウスクラブ
IT キッズクラブ(体制構築型)			
	年間開催日数		10日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	7 人

### ■ 活動の概要

- ・パソコンの基礎的な操作の習得を目的にするとともに仲間と楽しみながら学習している。
- ・パソコンを使用して名刺や年賀状作りに取り組み、具体的な操作の方法を学習する。

### ■ 特徴的な活動内容

- ・パソコンを上手に活用するといろんな楽しみ方が出来ることが理解できるように活動している。
- ・パソコンについての学習だけでなく、はがきでブーメランやプロペラをつくり飛ばす等、身近なものを利用して、子どもが興味を持って取り組める体験的な活動も取り入れている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・途中でゲームをしたり、ティータイムをとったりと気分転換を図りながら、子どもたちの集中力が持続するように工夫している。
- ・パソコンの操作だけでなく、ものづくり等の体験的な活動を通じて、クラブ員同士の交流を図り、仲間づくりも大切にしている。
- ・具体的に名刺や年賀状をつくることで、できる喜びや製作の楽しさを味わえるようにしている。
- ・マックスクラブ発表会など地域の行事等で作品を発表し、活動に対する意欲を高めている。

### ■ 事業の成果

- ・5月より始めた初心者の子どもたちも2月にはゆとりを持って操作できるように上達した。
- ・最初はパソコンの操作に戸惑っていた子どもが、回を重ねるごとに操作に慣れ、意欲的にパソコンの操作に取り組む様子が見られるようになった。
- ・名刺や年賀状作りでは、各自熱心に取り組み、それぞれに満足のいく作品ができた。

## ■ 事業実施上の課題

- ・備え付けのパソコンのバージョンや機器が古く、新しいソフトなどの利用が出来ない。
- ・リラックスタイム等、子どもたちの集中力が途切れないように工夫しているが、集中力を持続させるための他の手立てを考えていく必要である。
- ・パソコン以外にも子どもたちが興味を持って取り組める簡単なものづくり活動等の構築も必要である。

## ■ その他

・蒲生マックスクラブ発表会の子ども体験コーナーでは、パソコン体験やペーパークラフトを行い、活動内容を紹介しPRした。

	東近江市		
	活動名	蒲生マッ	クスクラブ
		KIDS FLO	WER(体制構築型)
年間開催日数		日数	7日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	5 人
子どもの平均参加人数	5 人

#### ■ 活動の概要

- ・フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得することとともに、仲間と共通の趣味を楽しむことを目的 に開催している。
- ・フラワーアレンジメントを作成する活動を通して、子どもたちの創造性を高めることも目的としている。

# ■ 特徴的な活動内容

- ・生花・ブリザードフラワー・押し花等を使って、母の日やクリスマス等のイベントのアレンジメントを中心に作成している。
- ・じっくりと落ち着いてフラワーアレンジメントに取り組むことで、創造することの楽しさを味わうとともに子どもたちの活動 に対する持続性も養っている。

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・作品作りには時間がかかるため、時間内に終わるように、下準備には時間と手間をかけている。
- ・仲間と和気あいあいとフラワーアレンジを楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
- ・お互いの作品を鑑賞し合うとともにその作品を地域の行事などに展示する等して、多くの方に観てもらうことで創作意欲を高めるようにしている。

## ■ 事業の成果

- ・フラワーアレンジメントに積極的に取り組み、作品作りを楽しむ姿が見られた。
- ・地域で周知され、毎年教室が開催される継続的な活動ができている。
- 熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養えたと考える。
- ・フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。

# ■ 事業実施上の課題

- ・十分に事前の準備には取り組んでいるが、いざ活動となると子どもたちは一生懸命となるので、決められた時間内に活動を終了するのが難しい。
- ・フラワーアレンジメントは材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。

#### ■ その他

・マックスクラブ発表会等の展示コーナーで作品を発表したり、アレンジフラワー体験教室を実施したりして活動内容を紹介し PRしている。

■ 東近江市		
■ 活動名 蒲生マッ	クスクラブ	
陶芸クラブ(体制構築型)		
年間開催日数	11日	

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	7 人
子どもの平均参加人数	11 人

### ■ 活動の概要

- 土からの焼き物作りを実施している。
- ・陶芸を通じて、自分の好きな作品を作ったり、絵付けをしたり子どもたちが作品の完成を楽しみ、また、お互いの作品を鑑賞 することを通じて交流し、意欲的に取り組む活動を展開している。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・年間で一人が4~5作品を制作する。
- ・マックスクラブ発表会で作品を発表し、自身の学習の成果を披露している。
- ・マックスクラブ発表会では、広く地域の子どもたちに対しても陶芸体験教室を実施している。

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・作品作りでは、子どもの自主性を尊重、出来るだけ指導者は、直接手を出さないように心がけている。
- ・マックスクラブ発表会等で子どもたちの作品を発表し、次の作品への創作意欲を高められるようにしている。
- ・陶芸体験教室を実施することで、その面白さや楽しさをよりたくさんの子どもたちに体験してもらうよう工夫している。

### ■ 事業の成果

- ・陶芸に関心のある子が着実に増えてきている。毎年、コンスタントにクラブ員が集まる教室である。
- ・子どもたちは、作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
- ・作陶に親しみ、マックスクラブの目指す姿である様々な感覚を高めることができた。
- ・クラブ活動や体験教室を通じて、陶芸に関心を持ってもらうことができた。

## ■ 事業実施上の課題

- ・制作時間に個人差があり、早く終わった子や遅い子への対応が難しい。
- ・活動は作陶作業が中心であるが、その活動に変化をつけることによって、より子どもたちの制作意欲が持続すると考えている が、その手立てについて工夫が必要である。

#### ■ その他

・蒲生マックスクラブ発表会では、陶芸教室を開催し活動の内容を広く地域の 子どもたちにPRした。



【 土からの作品作り】

	東近江市	
	活動名 蒲生	マックスクラブ
囲碁・将棋クラブ(体制構築型)		
年間開催日数 11日		

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	4 人

#### ■ 活動の概要

- ・囲碁や将棋に親しむことを目的とし、初心者でも大歓迎の小中学生を対象とした囲碁・将棋を実施している。
- ・囲碁・将棋の基礎基本を学ぶことを中心に活動している。
- ・3月にはトーナメント大会を行い、クラブ員の学習の成果を確認している。

#### ■ 特徴的な活動内容

- ・地域に住む囲碁・将棋愛好会を指導者として、小中学生を対象とした初心者向きの教室を開催している。
- ・共通の趣味を通じて、世代間の交流も図っている。
- ・囲碁・将棋を通して、子どもたちにじっくり考える習慣を身につけることも目的としている。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・集中力が持続するように、休憩を入れたり、活動時間を短めにしたりする等、工夫をしている。
- ・レベルに応じて指導者対クラブ員、クラブ員同士の対局を行う等、活動に変化を取り入れ、子どもたちの囲碁・将棋に対する 意欲が持続するように工夫している。3月にはトーナメント大会を行い学習の成果を確かめられるようにしている。
- ・対局において、教えたり、教えてもらったりする等のコミュニケーションを大切にし、世代間の交流が活発になるように工夫 している。

#### ■ 事業の成果

- ・囲碁・将棋に、さらに深く興味を持ってくれる子どもが出てきている。
- ・クラブ員が友だちを誘って連れてくるなど、その面白さを他の人にも広げている。
- ・囲碁・将棋を通じて子どもたちに落ち着いて考える様子が見られた。
- ・活動や対局を通じて世代間を越えて、楽しむ様子が感じられた。

## ■ 事業実施上の課題

- ・活動時間(2時間程度)の間、子どもたちに集中してもらうことは難しい。
- ・活動に変化をつけ、集中を持続させる手立てが必要である。
- ・囲碁に興味を持つ子どもが少ないため、さらに囲碁のおもしろさや楽しさを啓発する必要がある。

# 竜王町における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型)

## ■めざす姿

町内の小学校に通う子どもたちが、様々な遊びや文化芸術の体験活動や異なった年齢の子ども同士および指導者をはじめとした地域の人々との交流を深めることにより、楽しみながら生きる力と豊かな創造力を培う。さらには、仲間づくりやそれぞれのクラブに応じた技能を伸ばすことを通して、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

## ■運営委員会の設置

委員会名称	公民館子ども教室運営委員会		開催	参		2	耋	<b>長員数</b>	11
	氏 名	所属・役職等			氏 名			所属•役職等	Į.
	飯村 悟	元小学校長			石崎 非	『江		元中学校教師	i
	松田 俊二	地域住民			山口	11年		元小学校長	
┃ ┃   委員名簿	前田 郷司	地域住民			藏口	きよ江		地域住民	
安貝 <b>石</b> 牌 	関目 昭彦	地域住民			井堀	多美子		地域住民	
	加藤 正隆	元小学校長							
	久保井 美喜子	地域住民							
	西村 淳子	地域住民							·

# ■本年度の活動

H275月 9日(土) 今年度の取組について ①活動内容の確認 ②親子で参加できる活動の検討

H28 1 月 20 日 (水) 今年度の反省および次年度に向けての課題と対策の検討

3月12日(土) キッズフェスティバル

### ■本年度の成果

子どもたちが様々な遊びや文化芸術の体験活動、また、異なった年齢の子ども同士の交流を通して、 楽しみながら生きる力と豊かな創造力を培い、仲間づくりや各クラブに応じた技能を身につけることが できた。

# ■今後の課題

- **〇開講しているクラブによって、参加人数に大きく差がある。**
- ○開講しているクラブを複数受講される方もおり、開催日程の調整が非常に困難である。
- 〇スポーツ活動に参加される方も多くあり、開催日時も同じになりがちなため、どうしても参加者が 限られてくる。

# **■ こころに響く演奏を!**

■ 竜王町		
■ 活動名		
和太鼓クラブ(体制構築型)		
年間開催日数	22日	

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	12 人

#### ■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、和太鼓を通し、技述の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

#### ■ 特徴的な活動内容

町イベント等に積極的に参加し、演奏を成功させることにより、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「きっかけ」作りを行う。



【練習】



【竜王町文化祭での発表】

## ■ 実施に当たっての工夫

初心者・中級者で練習内容を分けることで、それぞれのレベルにあった練習ができ、早く上達できるようになる。 月2回ペースで開講することにより、前回習った内容を忘れることなく次の練習に生かすことができる。 和太鼓指導を生業とした指導者に指導してもらうことにより、技術の向上が図れる。 日々の練習を通して子もたち同士が教え合うことにより、異なった年齢の子どもたちの交流ができる。

### ■ 事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。 発表会に出演し、成功を重ねることによって何事にも挑戦していく力を養うことができた。

### ■ 事業実施上の課題

子どもたちの地域行事等により、参加者が極端に少なくなる日がある。和太鼓は練習するにもある程度人数がいないと困難である。

#### ■ その他

### 〇子どもの声

発表会に出るためにがんばって練習した。みんなとタイミングを合わせるのが難しかった。 初めて舞台で発表するときはとても緊張したけれど、発表会に出るたびに自信がつき、うまく演奏できた。

#### 〇保護者の声

発表会を見るたびに、わが子の上達を実感できてよかった。 初めて和太鼓クラブを受講させたのですが、上達が早くびっくりしました。

## ○スタッフの声

このクラブを通して、みんなと協力し合いながらひとつの事(曲)に取り組むことの大切さを学んでもらえたと思います。 また、発表会を重ねることにより、自信がつき何事にも挑戦し、成し遂げる力を身につけることができたと思います。

# いろんな技法を身につけよう!

■ 竜王町		
■ 活動名		
絵画クラブ(体制構築型)		
年間開催日数	11日	

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	13 人

#### ■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、絵画を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

#### ■ 特徴的な活動内容

メッセージボードの作成や焼き物体験、秋の風景画など、毎回異なった内容に取り組むことにより、美術・絵画に対する様々な技 法を習得することができる。



【写生会】



【「びわこにラブレターを!」メッセージボード作成】

## ■ 実施に当たっての工夫

秋には秋の風景画を作成したり、クリスマス前にはリースを作成するなど、楽しく学習できるようは工夫をした。 元美術教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れる。 竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子もたち同士の交流ができる。

### ■ 事業の成果

技能の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。 毎回異なった内容・技法を習い、習得することにより、何事にも挑戦していく力を養うことができた。

#### ■ 事業実施上の課題

1回ずつの講座で完結するようにしているため、休んでしまうと、その時の講座内容が学習できない。 学校行事や地域行事などと重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

## ■ その他

### 〇子どもの声

絵を描く技法をたくさん学べて良かった。 初めて焼き物体験をしたが、思い通りに焼き上がって良かった。 メッセージボードの作成や焼き物など、毎回新しいことにチャレンジできて良かった。

# 〇保護者の声

クラブに参加してたくさんの絵画の技法を学び、すごく絵が上達したように思います。 毎回、美術・絵画に関するいろいろ事を教えてもらえるので、楽しくクラブに通っています。

# 〇スタッフの声

クラブを通して、友だち作りや技能の向上、絵を描くことのすばらしさを学んでいただけて本当に良かったと思います。 写生会に出かけたり、土を練って焼き物をしたり、自然と触れ合いながら楽しく学習してもらえてとても良かったと思います。

# ■ 家族みんなで取り組もう!

■ 竜王町	
■ 活動名	
宇宙科学ク	ラブ(体制構築型)
年間開催日数	10日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	15 人

#### ■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、宇宙科学クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

#### ■ 特徴的な活動内容

天体観望や自然観察、食育・エコ体験ツアーなど、毎回、宇宙科学に関する異なった内容に取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。



【科学工作】



【化石採集】

# ■ 実施に当たっての工夫

季節毎に天体観望会を行い、知識を深めてもらった。

元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れた。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子もたち同士の交流ができる。

### ■ 事業の成果

技能の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。

天体観望や化石採集、自然観察や野鳥観察など様々な体験を通し、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができた。

#### ■ 事業実施上の課題

化石採集や自然観察、天体観望など毎回講座の内容が異なるため、欠席するとその時の講座内容が学習できない。 学校行事や地域行事などが重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

#### ■ その他

### 〇子どもの声

自然観察会をしたとき、いろいろな植物や昆虫の種類を教えてもらって、とても勉強になった。観察した後、野草をてんぷらにして食べました。とてもおいしかったです。

友だちがたくさんできた。化石採集や天体観望、科学工作など、たくさんの事が体験できてとてもよかった。

# 〇保護者の声

天体観望会や自然観察会、野鳥観察会では親子で参加でき、親子共々楽しく学習できとても良かったです。 子どもがいろいろなことに興味を持つようになり、とてもうれしく思います。

# 〇スタッフの声

家族で参加いただける観察会などをたくさん開催し、家族で学習していただけたことは勿論、地域での交流(家族同士の交流)も生まれ、開催して良かったと実感しています。

また、子どもたちにとっては、宇宙科学クラブで学んだ体験や経験が、これから生きていく上での糧となり力となればと思います。

# ■ 生きる力を身につけよう!

	竜王町	
	活動名	
	チャレン	ジクラブ (体制構築型)
年間開催日数		9日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	10 人

#### ■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、チャレンジクラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

#### ■ 特徴的な活動内容

竜王町で収穫したそばを使ったそば打ち体験や町内宿泊施設での宿泊体験、町内歴史ハイキング、等を通して、竜王町の自然とふれあい、自然の厳しさを学び、何事にも挑戦していく力を養った。



【宿泊体験】



【そば打ち体験】

# ■ 実施に当たっての工夫

元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れた。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子もたち同士の交流ができる。 町内で収穫した食材の使用や、町内の歴史ハイキング等へ参加することにより、郷土愛が生まれる。

#### ■ 事業の成果

技能の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。

宿泊体験や歴史ハイキング、スキー体験等、様々な体験をすることにより、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができ た。

### ■ 事業実施上の課題

宿泊体験など事業内容によっては事前研修が必要であったり、講師意外に指導員をお願いする等、準備がかなり大変である。 学校行事や地域行事等と重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。 チャレンジクラブは野外での活動が中心であり安全管理を十分にする必要があるため、内容にとっては活動を制限するときもある。

# ■ その他

#### 〇子どもの声

竜王町内で収穫したそばを使ってそば打ち体験ができてとても良かった。

宿泊体験でロープワークや水鉄砲作り、BBQ など、いろんな体験が出来てよかった。特に、カヌ一体験が楽しかった。 自然の厳しさが知れて良かった。

友だちがたくさんできた。

#### 〇保護者の声

家庭では体験できない事を体験させていただいて、とても感謝しています。 参加後、体験したことを笑顔で話してくれる姿に参加させてよかったと思っています。

#### 〇スタッフの声

そば打ち体験や宿泊体験、スキー体験など様々な体験を通し、自然の中での生きる知恵や勇気、互いの違いを認め励まし合う大切さを学んでくれたものと思います。チャレンジクラブの体験で得られたものは、これから社会に出た時に、生きていく糧となるものと確信しています。

# **■ みんなで協力して完成させよう!**

■ 竜王町	
■ 活動名	
料理クラブ(体制構築型)	
年間開催日数	9日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	10 人

#### ■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、料理クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった 年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」 を身につける。

#### ■ 特徴的な活動内容

家族で参加できるようにしている。

初心者からでも作れるように簡単なレシピを考えている。

栄養のバランスも考え、栄養士さんにレシピを作成していただいている。



【調理説明】



【調 理】

## ■ 実施に当たっての工夫

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、練習を通して学区を越えた子もたち同士の交流ができる。また、家族で参加できることによって、地域間(家族間)の交流も出来る。

班単位で協力して料理を完成させることにより、技能の向上はもとより、班での自分の役割をしっかり把握し、完成させる責任感 を養うことができる。

### ■ 事業の成果

料理の腕が上達することに加え、協力して完成させる喜びを実感することができた。 異なった年齢同士の交流もできた。

### ■ 事業実施上の課題

学校行事や地域行事などと重なる場合には参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。 参加者が20名前後いるため、食材をそろえることがとても大変である。

## ■ その他

# 〇子どもの声

たくさんの料理を覚えられて良かった。
みんなで協力して料理を作ることができたのでよかった。

# 〇保護者の声

家族と一緒に参加できてとても良かった。

夏野菜を使った料理やクリスマスケーキ、おせち料理など季節に合った料理を教えてもらい、また、一見すると手の込んでいる料理に見えて、簡単に作れる料理も教えていただいたので非常に良かったです。加えて、栄養士さんがレシピを作成されているので、栄養のバランスも考えられており、とても良かったです。

子どもが教えてもらった料理を家で作ってくれたのでとても感動した。

# 〇スタッフの声

どの回も欠席される方の少なく、また、家族参加できる形で開催させていただいているため、地域間や世代間の交流もできてよかったと感じています。

# ■ 基礎から学ぼう!

	竜王町	
	活動名	
書道クラブ(体制構築型)		
	年間開催日数	2 1日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	12 人

#### ■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、書道クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった 年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」 を身につける。

#### ■ 特徴的な活動内容

硬筆・毛筆両方とも基礎から取り組むことにより、初心者でも参加できるようにしている。 展覧会に作品を出展することにより、自信がつき、また、何事にも挑戦する力を養う。



【硬筆の練習】



【硬筆・毛筆の練習】

# ■ 実施に当たっての工夫

硬筆・毛筆両方とも基礎から学習している。

受講生のレベルに応じた学習を行っている。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、練習を通して学区を越えた子もたち同士の交流ができる。

### ■ 事業の成果

書道の上達が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。

何度も練習し、教えてもらうことにより、思い通りにできた時の達成感を味わうことができ、何事にもあきらめない力を養うことができた。

### ■ 事業実施上の課題

学校行事や地域行事などと重なる場合には参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

## ■ その他

## ○子どもの声

はじめから教えてもらえてよかった。すごく上達できたのでよかった。

展覧会で入賞できてうれしかった。

## 〇保護者の声

上達してよかった。

何事にも集中して取り組めるようになった。このクラブに参加させてよかったと思う。

# 〇スタッフの声

基礎から楽しみながら学習してもらえてよかった。

このクラブから展覧会などで入賞する子どももいて、本人の努力はもちろん、しっかり練習できる環境が整っていることを改めて実感した。

# ■ 何事にも挑戦しよう!

	竜王町	
	活動名	
吹奏楽教室(体制構築型)		
	年間開催日数 40日	

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	22 人

#### ■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、吹奏楽を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

#### ■ 特徴的な活動内容

県の大会や町イベント等に積極的に参加し、演奏を成功させることにより、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「きっかけ」作りを行う。



【練習】



【滋賀県ジュニアミュージックフェスティバル】

## ■ 実施に当たっての工夫

毎週土曜日の夜にすることにより、受講生の地域行事などと比較的重なることなく開講することができる。 指導者を3名にすることにより、分からないところはじっくりと教えてもらうことができる。 初心者・中級者と分けて練習することにより、それぞれのレベルにあった練習ができる。 日々の練習を通して、異なった年齢の子どもたち同士の交流ができる。

### ■ 事業の成果

技能の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。 団体行動の厳しさや何事にも挑戦する心を学ぶことができた。 県の大会や町イベントに出演し、演奏を重ねることによって自らの可能性を切り拓く力を養うことができた。

## ■ 事業実施上の課題

受講生はそれぞれ担当する楽器が決まっており、欠席者があると練習に支障が出ることがある。 練習の時間帯が夜間であるため、防犯対策を十分に講じる必要がある。

# ■ その他

#### 〇子どもの声

始めは、音を出すことすら難しかったけど、一生懸命練習して、今では大会で演奏できるほど上達しました。 友だちがたくさんできた。たくさんの曲が演奏できるようになった。 去年と違う楽器の担当になった。色んな楽器が演奏できてよかった。

#### 〇保護者の声

家でも練習している姿をみて、とてもうれしく思いました。 発表会でわが子の演奏を聴き、うまく演奏していたことに驚かされました。 吹奏楽に一生懸命に取り組んでいる子どもの姿を見て、うれしい気持ちとクラブに参加させてよかったと本当に思いました。

# ○スタッフの声

演奏会や発表会に参加することにより、日頃の練習の成果を確認することができ、また、子どもたちの達成感で満ち溢れた笑顔を見るたびに、子どもたちの成長を実感でき、この経験が将来、壁にぶつかった時に乗り切るための糧となれば幸いです。

# 多賀町における土曜日の教育支援の取組 (「学ぶカ」学習支援型)

# ■めざす姿

本町が目指す将来像を実現するために、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。今日的課題である少子高齢化・人口減少は、本町においては重点課題となっている。現在の住民が安心して住み続けられる地域にするとともに、町外よりの転入や定住化を促進するための重要施策として、教育が大きな役割を果たすものと考えている。そのために「安心して子育てができる多賀町」としなければならない。保護者にとっては「通わせたい園・学校」、子どもにとっては「通いたい園・学校」つくりを進めることが肝要である。

## ■本年度の活動

昨年度までに比べて、中学生を対象とする土曜講座への参加者が 増加し、予定していた講師を増やすなどの対応を行ってきた。地域 教育力推進協議会でも本町の特筆すべき取組のひとつであり、今後 の継続を望むとの意見をいただいている。

中学生を対象とする土曜講座に加えて、幼児、児童、高校生を対象とした新たな教育支援の取組を検討している。このことについては、少子高齢化、人口減少の傾向が著しい地区において、その活性化を検討するための組織を立ち上げ、その方策のひとつとして検討を行っているところである。



【土曜講座(サタスタ)】

# ■本年度の成果

土曜講座の成果については後頁に記載しているが、上述の活性化に関する組織については、教育委員会内だけでなく各課を横断した委員会組織となっており、有効的な施策の具現化を目指した有益な話し合いが進められている。また、この組織は近隣や県外の大学関係者、教育関連企業、情報関連企業、通信関連企業とも協働しながら、他市町の保護者世代から見ても魅力的であり、ニュースバリューのある新たな取組の構築を図っている。

#### ■今後の課題

「コミュニティスクール」「地域を担う人材育成」「地域提案型の学校を核とした地域魅力化」など 文科省関連事業は種々あり、それぞれの事業は本町の実情に照らし合わせて、取り組みたい、取り組む べき事業とも考えられるが、規模の小さな教委にあっては、自力で事業に取り組む余力がないというの が現実の姿でもある。このような実態から本年度、各課を横断した組織をつくり、種々の課題に応じた 施策を講じていくという取組方は、実現化、実効性が大いに期待できる新たな形である。

# ■その他

多賀町地域教育力推進協議会について

〇開催年数:年11回

〇委員数:26名

〇構成内訳 各種団体 13 団体、企業等5企業、学校関係3校 行政5機関

# ■ みなさんのやる気を応援します! 土曜講座(サタスタ)

	多賀町	
	活動名	
土曜講座(サタスタ)(「学ぶ力」学習支援型)		
	年間開催日数	20日(3年生は17日)

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	48 人

#### ■ 活動の概要

目 的:・「学ぶことの楽しさ」「分かることの喜び」「確かな学力」の向上を図る。

・学習への自信をつけ、目標に向かって頑張る気持ちを育てる。

開講日:平成27年9月5日(土)~平成28年3月の間の土曜日に20回

時 間:午前9時~12時 会 場:あけぼのパーク多賀 対 象:多賀中学校生徒 1~3年 定 員:10~40名(会場によって異なる) 費 用:3,705円(教材費として)

#### ■ 特徴的な活動内容

民間の塾との提携により、講師の派遣を受け、国語・数学・英語の3教科の学習を学年別に復習を中心に50分間ずつ行う。

#### ■ 実施に当たっての工夫

- ・多くの生徒が参加できるように本年度は1学期中盤に案内を配布し、募集を開始した。
- ・多賀中学校の年間指導計画に基づき、講座を実施した。そのため定期テスト前の振り返り学習を充実させるようにした。
- ・計画・調整、実施については、教育委員会が窓口となって行うことで、中学校教職員へ負担をかけないように配慮した。
- ・確かな学力の定着を図るため、受講生が継続して参加できるように中学校との日程調整を行ってきた。

# ■ 事業の成果

本年度、多賀中学校の全生徒の1/4にあたる55名が土曜講座へ参加した。町内には中学生を対象とする塾がなく、この土曜講座が貴重な学習の機会となっている。また、町予算と県の事業補助により、保護者へは教材費のみの低負担となっていることも参加者が多くなっていることの要因のひとつと考えられる。

# 【生徒の声より】

- ・自分のわからなかったところがわかるようにり、受験にむけて、どのようにしてい けばいいかなどいろいろ参考になりました。
- ・今まで分からなかったところの詳しい解説をしてくれたところがとても良く、自分 の自信につながっていったと思います。
- ・学校で習ったことから、習っていないことまで教えてくださったし、とてもわかりやすくて、テストの点数ものびました。サタスタを受講して、本当に良かったです。

# 【保護者の声より】

- ・近くで英・数・国の3教科を教えてくださり、また低価格なので1年生の時から サタスタにはお世話になっています。先生方とも気さくに話せて楽しく行ってい たようなので、3年生になってもサタスタに通わせようと思っています。多賀町 には感謝です!!
- ・土曜の朝からという時間帯は、生活の習慣が崩れずありがたかったです。
- ・普通の塾よりは安い金額で長期に渡り教えて頂いてとても助かりました。今後も 続けて頂けると有難いと思います。近いので保護者の送迎もしなくていいので、 その点でも助かりました。

#### ■ 事業実施上の課題

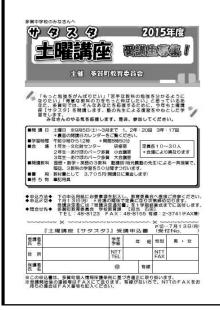
土曜日の午前中は部活動に参加する生徒も多く、午後からの開催とすれば、さらに 受講生も増えるものと思われる。しかし、午後からは塾側として講師確保ができない という事情があり実現は難しい。

# ■ その他

各土曜日の講座終了後には、役場庁舎より次回までの課題を FAX にて、受講生の家庭へ送信している。



2年生の学習の様子



# 平成 27 年度 滋賀県「学校・家庭・地域連携協力推進事業」アンケート調査

# < 目 的 >

学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることや生涯 学習社会の実現、地域の教育力の向上をねらいとして、「学校支援地域本部」「放課後子ど も教室」「家庭教育支援」「土曜日の教育支援」といった各事業を推進している。

上記事業について、本年度の達成状況やこれまでの成果と課題を把握し、今後の施策に 生かす必要があるため、各事業を実施している学校およびコーディネーター、市町教育委 員会にアンケート調査を行った。

# < 対象および回収率 >

平成 27 年 11 月 1 日現在、「学校・家庭・地域連携協力推進事業」を実施している以下 を対象に、調査票を送付(11/5 付)し、回答(12/9 締切)いただいた。

# 【 学校支援地域本部 】

- ①学校 113 校園 (小73、中20、幼20)
- ②コーディネーター 104 名 ※回収率 94.2% (98 名)
- ③市町教育委員会 9市町
- 【 放課後子ども教室 】
  - ①コーディネーター 12名 (市町行政職員3名) ※回収率92%
  - ②市町教育委員会 4市町

# 【 家庭教育支援 】

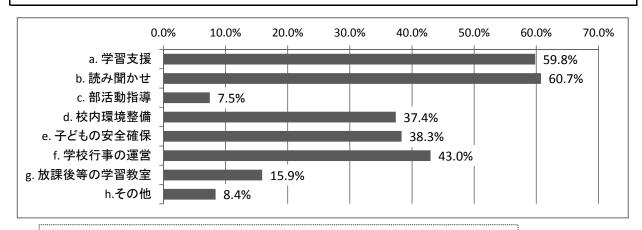
- ①学校 19 校園 (小 18、幼 1)
- ②コーディネーター 20名 (市町行政職員8名) ※回収率90% (18名)
- ③市町教育委員会 8市町
- 【 土曜日の教育支援 】
  - ①コーディネーター 29 名 (市町行政職員 6 名) ※回収率 90% (26 名)
  - ②市町教育委員会 6市町

# < 調査結果の活用 >

- ・事業評価に使用
- 実践事例集および当課ホームページ「におねっと」にて公表
- ・各市町にフィードバック

# 【学校支援地域本部】

# 問1 貴校・園で、本部事業として、特に重視している活動はどれですか。[学校・園]



「h. その他」における主な意見

・お年寄りとの交流

・地域行事への参加

・幼稚園での生活支援

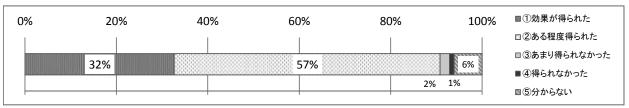
•補助教材作成

•託児

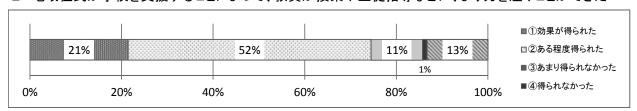
・クラブ活動支援

# 問2-① 貴本部では、本部事業はどの程度効果があったと考えていますか。[地域コーディネーター]

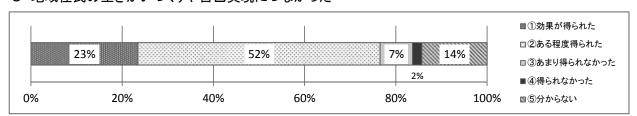
A 子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力や規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった



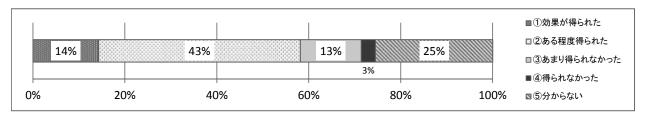
## B 地域住民が学校を支援することによって、教員が授業や生徒指導などに、より力を注ぐことができた



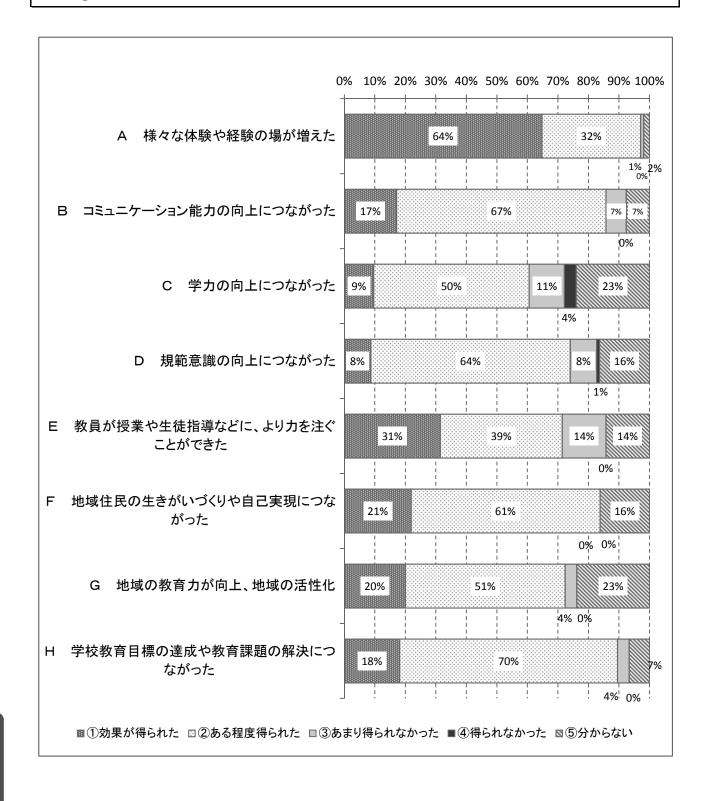
# C 地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった

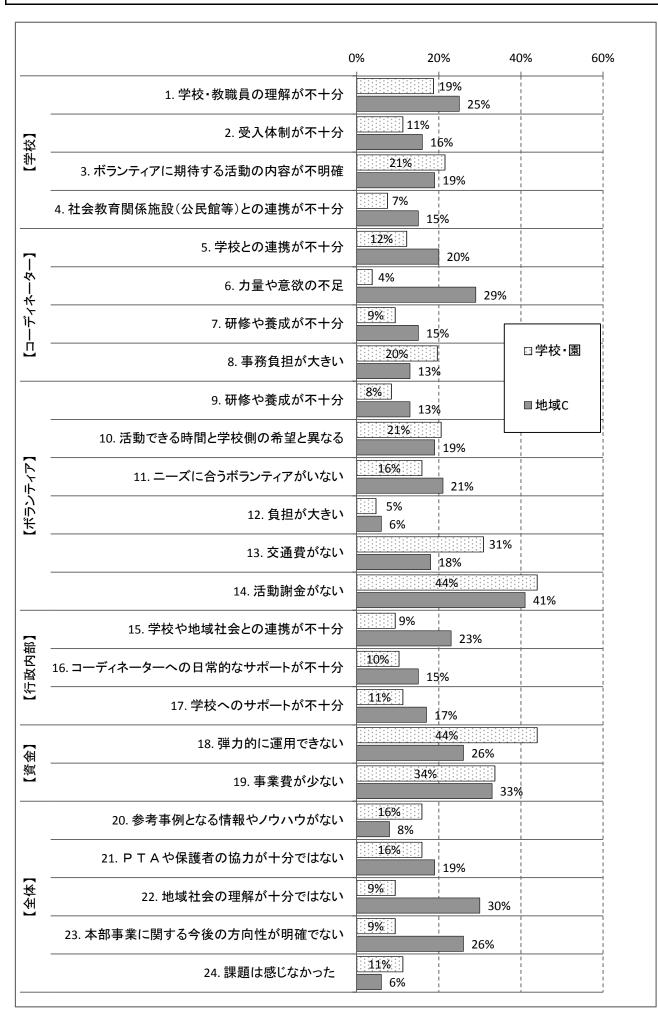


## D 地域住民が支援することにより、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった

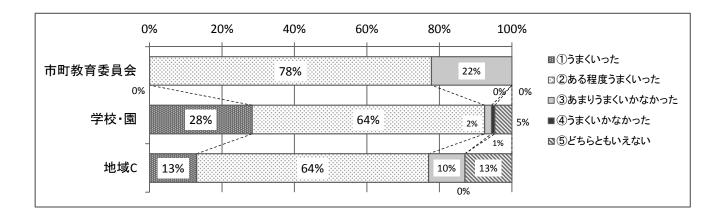


# 問2-② 貴校・園では、本部事業はどの程度効果があったと考えていますか。[学校・園]





# 問4 本部事業は、順調に進みましたか。[市町教委、学校・園、地域コーディネーター]



# 自由記述(抜粋) [市町教委]

### ②ある程度うまくいった

- ・各本部の主体的な取組みにより、創意工夫ある活動が続けられている。市教委として、予算、人材バンクの整備な ど、さらに活動が広がる支援をしていきたいと考える。
- ・従来より、学校と地域が直接的に行事支援を中心として連携が図られていたが、新たな地域連携の姿を展開するために地域Cが配置された。「学校支援のための地域連携が拡充された」と実感する職員や「地域人材が学校に入りやすくなった」、「支援のつながりを広げていきたい」という地域の方も増え始めている。

### ③あまりうまくいかなかった

- ・地域コーディネーターが重要な役割を担っているが、このことを市民だけでなく、もっと行政や学校にも理解を得る 客発が足りなかった。
- ・学校からのニーズが出てこない学区については、活動が活発化されない。教職員に本事業の意義等を管理職から十分に説明した上で、ニーズを引き出していく必要がある。

# 自由記述(抜粋) [学校・園]

## ①うまくいった

- ・地域Cを始め、地域の皆さんが「何かできることは?」「子どもたちのためにできることを」という高い意識を もって支援してくださり、温かい地域性に助けられている。
- ・実施年を重ねるごとに、学校Cや本事業に対する意識が高揚し、地域Cをつなぎ役として、学校が地域の教育力を効果的に活用することができている。
- ・地域Cの高い関係調整力と人脈、さらに使命感により、多くの地域の皆様の善意に支えられ、子どもが育っていることと、学校教育が円滑に進められているチーム力が地域の皆様の善意で成り立っている。

## ③あまりうまくいかなかった

・学校としてどのような支援やボランティアを必要としているのか、まずは職員で話し合う必要があった。

# 自由記述(抜粋) [地域コーディネーター]

#### ①うまくいった

・地域Cが間に入って、しんどい思いをすることも多いが、一つの取組が無事に終わると、支援したやりがい、学んだ喜び、双方の笑顔を感じ、人をつなぐ役割の意義を感じる。

# ②ある程度うまくいった

・地域Cとして依頼された際は不安があった。しかし、勤務校に窓口となる担当教員がおられたのは心強かった。

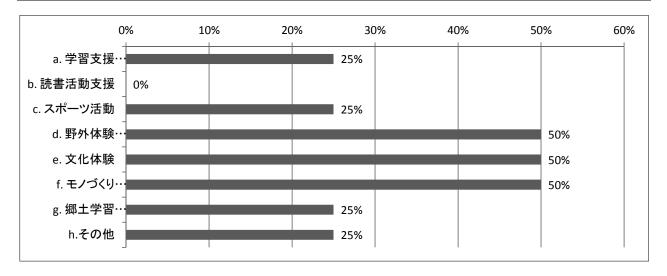
# ③あまりうまくいかなかった

・この事業に対する住民、市教委、教員の思いが異なっている現状がある。今後、熟議を重ねて、この学区らしい活動を目指したい。

VI

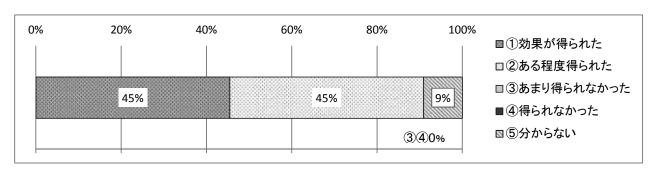
# 【放課後子ども教室】

# 問1 放課後子ども教室事業で、特に重視している活動はどれですか。 [放課後コーディネーター]

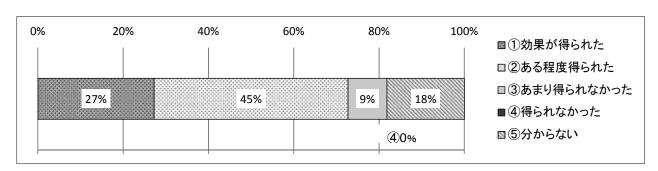


# 問2 放課後子ども教室事業はどの程度効果があったと考えていますか [放課後コーディネーター]

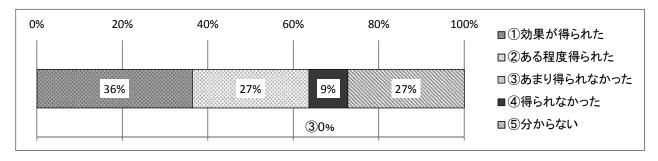
A 子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力や規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった



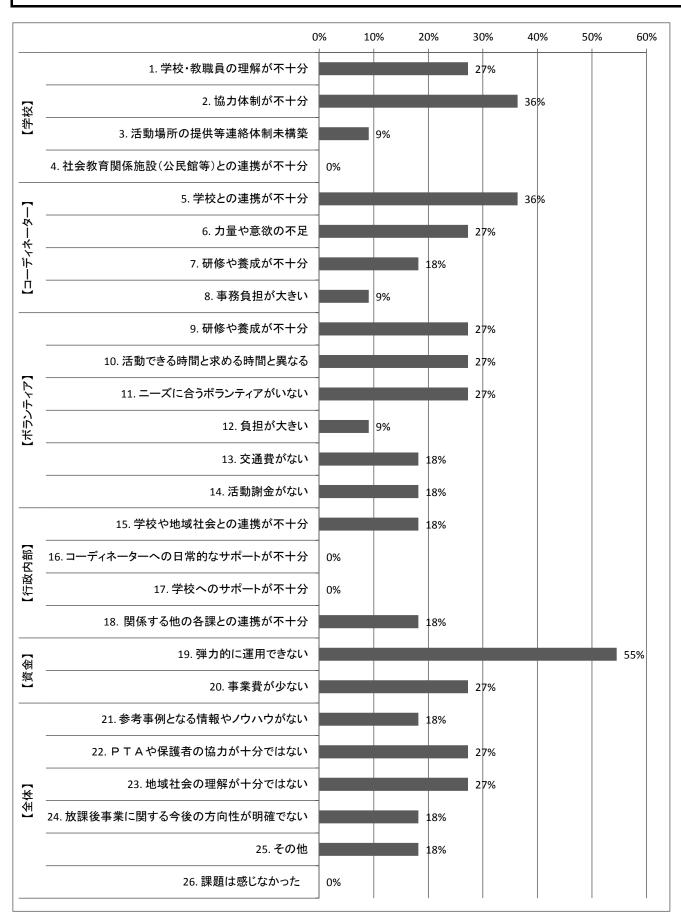
# B 地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった



# C 地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった



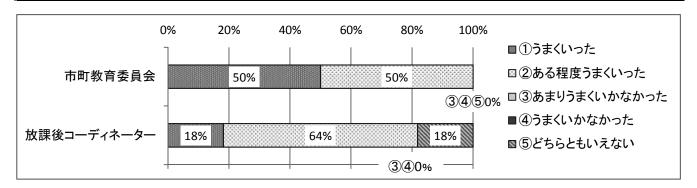
# 問3 放課後子ども教室事業を実施する上での課題は何ですか。(複数回答有) [放課後コーディネーター]



VI

# 問4 放課後子ども教室事業は、順調に進みましたか。

# [市町教委・放課後コーディネーター]



## 自由記述(抜粋)【市町教育委員会】

# ①うまくいった

・各地域から様々な意見をいただくことができ、子ども教室が子どもたちにとって、素晴らしい経験になっているということを 実感できた。

# ②ある程度うまくいった

- 大きな問題なく、地域のボランティアの人たちとの連携もうまくいった。
- ・課業時間内で取り組んでいる学校においては、地域の英語の学習ボランティアの方は、熱意をもって取り組んでいてくださるが、放課後事業に対する学校・教職員の理解が不十分で、学校としての体制づくりが整っていない。まだ、新しい事業であることから、今後の工夫・改善に期待したい。
- ・時間外や夜間に地域で学力向上に特化した取組を進めている中学校は、ある程度機能した。

# 自由記述(抜粋)【放課後コーディネーター】

# ①うまくいった

- ・各地域から様々な意見をいただくことができ、子ども教室が子どもたちにとって素晴らしい経験になっているという事を実感できる。
- ・年々、放課後事業へのボランティアは増えてきた。
- ・地域内・外の高齢者の方が支援していただくことにより、ロコミで事業の内容が広がり、「私にでも協力できる」と放課後事業への関心も高まり、事業に関わることによって、子どもたちと接する時間が楽しいと、率先して参加してもらっている。

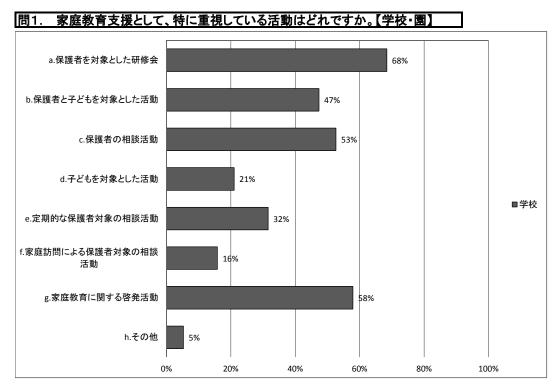
# ②ある程度うまくいった

- ・母体がしっかりしているので、これまで17年間継続してこられた。特に女性メンバーの力が必要だと感じている。
- ・昨年度の活動のベースがあるため活動自体に問題はなかったが、「美文字教室」については、小中連携事業として活動する上で、協働体制がしっかりと出来ておらずスタートが遅れた。協力校での話合いをしっかり行う必要性を感じた。
- ・夜の学習会については、地域の方(大人・大学生・高校生)の参加を得、活動につなげられた。
- ・ほぼ計画どおりの活動ができたが、参加者数が少ない点が残念だった。
- ・地域の方々が取組に対してすごく協力的で、熱心に取り組んでいただくことができ、ありがたく思う。

## ⑤どちらともいえない

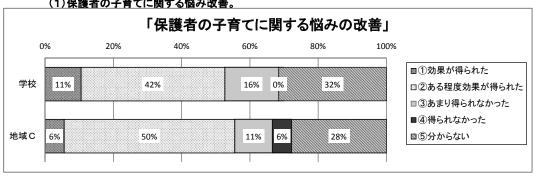
- ・夜の学習会ということで、時間帯が遅いため指導にあたっていただく高校生・大学生が自ずと男子学生になってしまう。送 迎の対応までできないため、広く応援していただく方に声をかけられない。
- ・現在の悩みは、生徒が参加してこないということ。ボランティアは英語を勉強する機会ができて、ある程度満足している。

# 【家庭教育支援活動】

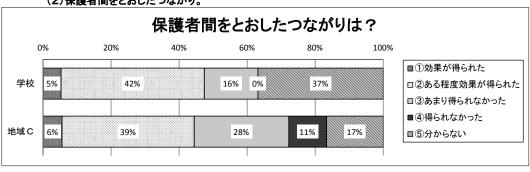


# 問2. 家庭教育支援を実施しての効果は?【市町・地域コーディネーター】

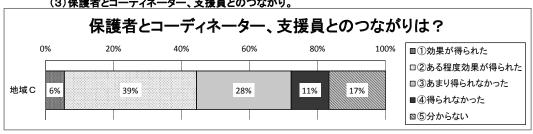
(1)保護者の子育てに関する悩み改善。



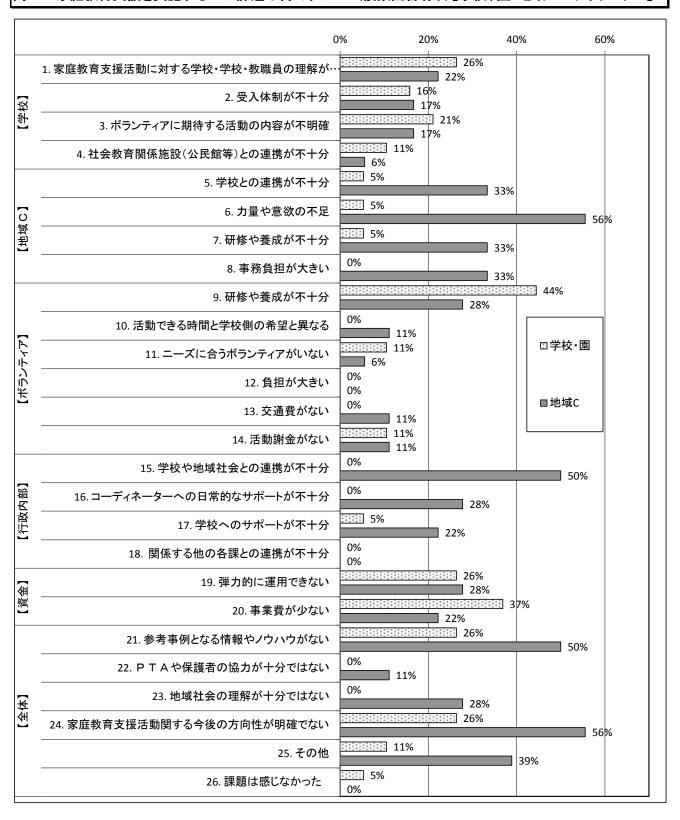
(2)保護者間をとおしたつながり。



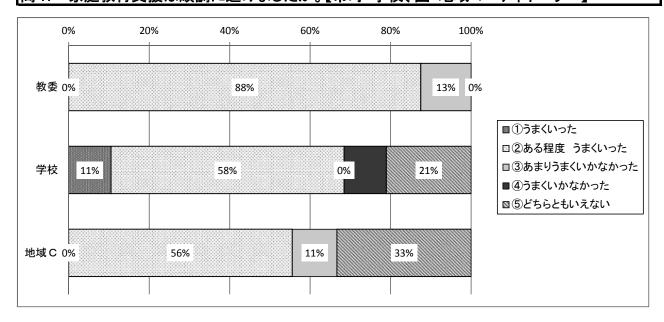
(3)保護者とコーディネーター、支援員とのつながり。



# 問3. 家庭教育支援を実施する上の課題は何ですか? (複数回答有り)【学校、園・地域コーディネーター】



# 問4. 家庭教育支援は順調に進みましたか。【市町・学校、園・地域コーディネーター】



# 自由記述抜粋 (抜粋) 【市町教育委員会】

### (成果)

- ・家庭教育支援員(コーディネーター)など、子育てサポーターが、幼少期より学童保育指導員、低学年の学習支援員を歴任されていれば保護者は子育ての悩みを打ち明けてくださる。役割というより、学校と子どもを見守ってくれる人といった感覚から、保護者には安心感が生まれ、関係性を保ち、深めることが出来た。
- ・他の関係部署の連携などで問題はあるが、参加者アンケートでは好評を得ており、参加者の満足度は高い。 (課題)
- ・現状では、支援に必要な家庭に行き届く事業とはなっていない。本事業は家庭教育支援であり、学校支援ではないので教育委員会と学校との意識のずれがある。

# 自由記述抜粋 (抜粋) 【学校】

#### (成果)

- ・子育ての不安や悩みを気軽に相談できる場を提供することをねらいとして、「親子はなまる広場」を年3回開催し、子育て支援を行うことで、保護者の子育てに対する課題が深刻にならないうちに解決できた。
- ・チームを編成することで、コーディネーターの意識的な負担感が軽くなり、様々な意味でアンテナ役に回ってもらうことができた。 つかんでもらった情報をチームで共有することにより、関係機関につないだり、ケース検討会を経て支援体制を組んでいくこともできた。
- ・直接保護者と教育相談する前に、経過などを相談員に伝え、今後の方向性について、いくつか案を持って臨むことが出来た。(子ども支援課や障がい福祉課、などとつながる窓口や手順を示す準備をしておく)相談内容から、相談者の了解のもと、関係機関と連絡をとり、スムーズにつながれるよう段取りをつけることができた。

#### (課題)

・活動は、年2回の「子育てサロン」の開催が中心となるが、参加者からは好評である。しかし、深刻な悩みに関しては、時間数も少なく、十分な対応が出来ていない。本事業において、どの程度まで家庭教育支援を目指すのかを明示していきたい。

# 自由記述抜粋 (抜粋) 【地域C】

### (成果)

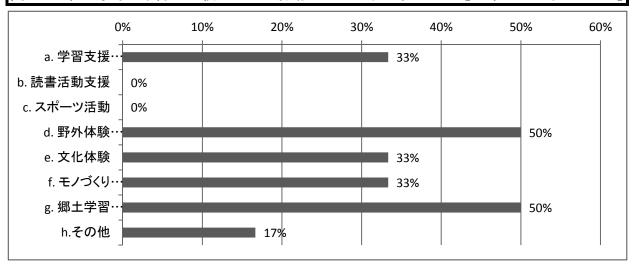
- ・毎週同じ曜日にサロンを開いているので、母親同志の接点の場となり、子どもの寄り添い支援で子どもの様子を親に伝えることができたのは良かった。自分たちの活動は、親にアドバイスというより寄り添い、一緒に考えることを主にしている。
- ・家庭教育支援員が、1年間学校に毎日通う事で、子ども達の様子や変化に気づきやすい。また教員との連携が取りやすい。家庭教育支援活動を訪問型へステップアップさせていきたい。不登校児童とのつながりも継続していきたい。
- ・情報共有することで、保護者への様々な働きかけができた。

#### (課題)

・深刻な悩みを持つ保護者の支援は、コーディネーターとして活動不十分である。深刻な問題に携わる時間数も少なく、 そこまで要求されると思っていなかったので、今後もその対応が要求されれば、自分が対応する力量や意欲があるかを再 考する必要がある。

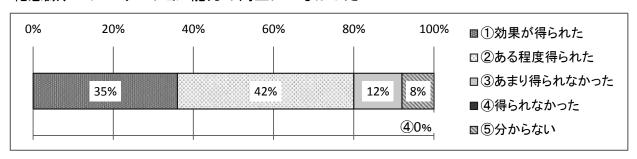
# 【土曜日の教育支援事業】

# 問1 土曜日事業で、特に重視している活動はどれですか。 [土曜コーディネーター]

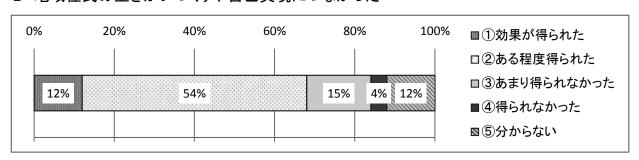


# 問2 土曜日事業はどの程度効果があったと考えていますか。 [土曜コーディネーター]

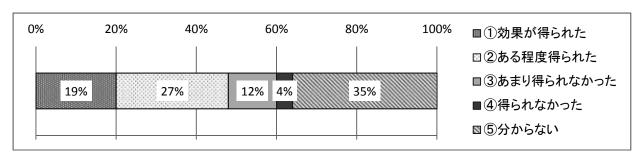
A 子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力や規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった



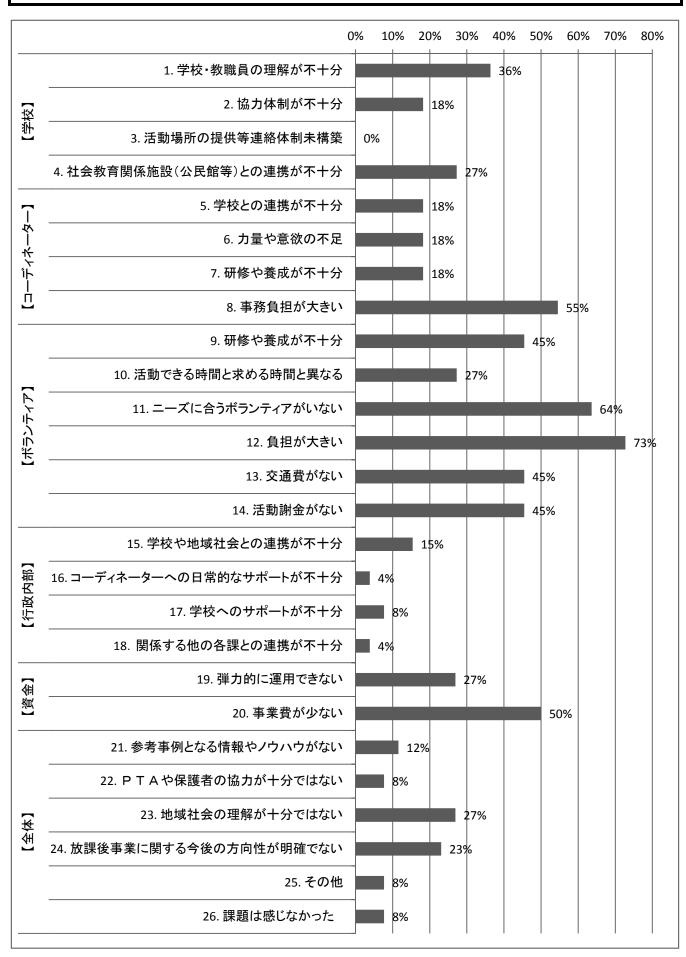
# B 地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった



# C 地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった



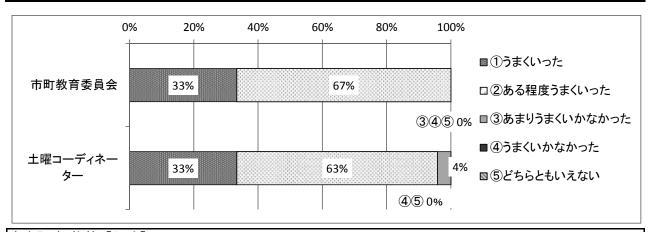
# 問3 土曜日事業を実施する上での課題は何ですか。(複数回答有) [土曜コーディネーター]



VI

# 問4 土曜日事業は、順調に進みましたか。

## [市町教委・土曜コーディネーター]



# 自由記述(抜粋)【行政】

## ①うまくいった

・小学校段階で保護者が中学校での土曜講座の取組について、話題としている姿も見かけ、「中学生になったら是非、参加させたい」との声を聞くことがある。生徒自身が学習が分かるようになったとの実感を持てる内容であったことが、中学校生徒の1/4にあたる参加率となっていると思われる。

### ②ある程度うまくいった

- ・土曜学習コーディネーターの連絡、調整により、学生ボランティア等がうまく参画できている。
- ・比較的少人数を対象にしているが、宿題教室、ドリル等を活用して学習の基礎・基本の定着を図る学習、ロボット教室等で、学校の授業では力が発揮できなかった子どもが、教室で挙手して発表したり、音読、朗読を自信を持って行ったりする場面が見られる。学力が低位の子どもの学ぶ力の底上げの一つになっている。

## 自由記述(抜粋)【土曜コーディネーター】

### ①うまくいった

- ・月曜日の夜に運営している学び育ち教室のノウハウ(子どもとの接し方、教材など)を活用した。しかしながら、子どもの数が増えると、推進員の数も増員する必要がある。子どもの成長を考えると、数ではなく、質をとることが大切だと思う。
- ・地元の営農組合や管理栄養士と連携を図り、それぞれの得意とする分野を担当することで、子どもたちが楽しく学べる環境や題材を提供でき、参加者だけでなく講師や行政それぞれが得るものがあった。
- ・アンケートへの回答に、参加の親子で新たな一面を発見することが多くあり、感動をしてもらっている等、事業をすることに よる満足感を感じさせてもらっている。
- ・事前に学校の要望をきちんと聞き取り、計画をしっかり立て、十分な協議を行った。

# ②ある程度うまくいった

- ・これまでの実績を見ると、参加者は学区内にとどまることなく市内の広範囲に渡っており、多くの小中学校の児童・生徒の 交流が図れる貴重な機会ともなっている。
- ・毎年度、事業終了後に実施するアンケートの回答を見ても、参加者・保護者ともに高い評価を得られており、当事業に対する期待の大きさが伺える。少ないスタッフでありながらも、参加者にとっては満足のいく内容の濃い講座運営ができているものと評価できる。
- ・親子・家族のわくわく講座では、公民館で活動している団体を講師に迎え、親子と地域住民をつなぐ活動とした。
- ・企画は新しいものを取り入れ、また昨年まで好評だったものを継続して、一定評価いただいている。以下の点で②と回答。1. 少子化に伴う参加児童数の減少
- 2. 土曜日の過ごし方が多様化してイベントも多く、全体的な対象者の減少
- ・夏休みに行った土曜教室は参加者が多く盛況であった。その数の多さに学習の機会(居場所とも)の需要を感じた。
- ・また参加した児童は、学習面でも情緒面でも(家庭環境も)課題をもっている場合も見受けられ、そのあたりを受け止められるボランティアを、必要な数だけそろえたいが、謝金が十分でないのが心苦しい。
- ・新たに協力いただける施設(まちづくりセンター)も増え、まち協の方とのつながりもでき、少しずつですが内容にも変化があり、参加児童・協力者も増えつつあります。
- ・まちづくり協議会を中心に、地域の小学校2校が共同で土曜日事業を行うことができ、前進した。
- ・ボランティアとして中学生に活動に参加・協力してもらったことで、小学生とのつながりが今まで以上に強いものになった。
- ・外国にルーツを持つ子どもたちの勉強会にも、地域住民に参加してもらうことで、学力向上ならびに外国にルーツを持つ子どもたちへの理解を深めてもらうことができた。
- ・中学校区内の2校の小学校との連携で企画・運営にあたったが、どちらの企画も、参加小中学生の成長と成果が感じられ、有意義な活動となったと感じた。

# 平成27年度

# 学校・家庭・地域連携協力推進事業 実践事例集

平成28年(2016年)3月

発 行:滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1-1

TEL: 077-528-4654
FAX: 077-528-4962
MAIL: ma06@pref. shiga. lg. jp

ホームページ:「におねっと」http://www.nionet.jp/